

和仏法律学校講義録

杉本, 貞治郎 / 金井, 延

(出版者 / Publisher)

和佛法律學校

(巻 / Volume)

2-1

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

153

(発行年 / Year)

1901-03-23

明治三十四年三月二十三日發行

(第貳部)

三十四年度乙種講習科用

和佛法律學校講義錄

第壹號

商法總則

法學士 杉本貞治郎

經濟學總論

法學博士 金井 延



0135

稟告

三十四年度講習生用講義録ハ規則所定ノ通二月ヨリ十一月マテノ間ニ於テ悉皆完了致スヘキハ勿論ニ候ヘトモ印刷上其他ノ都合ニ因リ毎月期日ヲ定メ又ハ定數ノ發行ヲ爲スコト得ス且第一部第二部第三部ノ順ニ依リテ發行シ難キ場合有之候故全部ヲ講習スル人ニハ毎月必ス一冊以上ノ配布ヲ爲スヘキモ一部門ヲ講習スル人ニハ場合ニ因リ配布スルコトヲ得サル月モ有之又全部ヲ講習スル人ニ對シテモ第一部第二部第三部ノ順ヲ逐ヒテ配布スルコトヲ得サル場合有之候ニ付此旨豫メ御承知相成度唯豫定期限十一月三十日マテニハ必ス完了スルコトハ斷シテ間違無之候故毎月ノ配布ニ多少アルモ決シテ懸念セラレサル様希望致候也

明治三十四年三月

和佛法律學校

法學士 杉本貞治郎講述

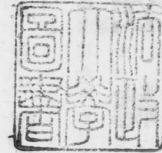
商法總則

和佛法律學校發行

A56
25
B1

商法總則目

緒言	一
本論	一七
第一章 法例	一八
第二章 商人	三〇
第一節 商人トハ何ンヤ	三一
第二節 商業權能	三五
第三節 商事能力	三八
第四節 小商人	四一
第三章 商業登記	四二
第一節 登記ノ手續	四三
第二節 登記ノ效力	四四
第四章 營業、營業所、商號及ヒ商標	五一



174394

第五章 商業帳簿	六六
第六章 商業使用人	八〇
第一節 代理權アル商業使用人	八一
第二節 代理權ナキ商業使用人	九〇
第七章 代理商	九一

商法總則 目次終

商法總則

法學士 杉本貞治 耶 講述

緒言

第一 商法ナル語ノ意義

商法ナル語ニ二様ノ用法アリ一ハ法典ノ名稱ニシテ一ハ法學上ノ術語ナリ法學上ノ術語タル商法ノ定義ハ學者ニ依リテ一様ナラスト雖モ大體商事ニ固有ナル法規ト謂フ意味ナリ而シテ商事トハ何ナルヤノ問題ハ後ニ第一編第一章ヲ講スル際ニ詳述スヘシ商事ニ固有ナル法規ト謂フハ本來特ニ商事ノ爲メニ設定セラレシ法規ノ義ナリ商事ニ關係アル法規中ニハ私法規定モアルヘシ又純粹ナル公法規定モアルヘシ然レトモ本來商事ノ爲メニ設定セラレタル法規

ニ非サレハ商法ノ範圍ニ入ラサルナリ
夫レ法ハ人格ト人格トノ關係ヲ規定スルモノナリ現今ノ法ノ觀念ニ於テハ公
法上ノ人格アリ私法上ノ人格アリ此等人格ノ間ニ各商事關係ヲ生スルヲ以テ
商法ニモ亦公商法私商法國際商法ノ種別アリ商事ニシテ國際關係ニ屬スルモ
ノヲ規定スル法規ハ之ヲ國際商法ト謂ヒ商事ニシテ公法關係ニ屬スルモノヲ
規定スル法規ハ之ヲ公商法ト謂ヒ又商事ニシテ私法關係ニ屬スルモノヲ規定
スル法規ハ之ヲ私商法ト謂フ此等皆廣義ニ於テ商法ト稱スヘキモノナリト雖
モ余カ諸君ト共ニ攻究セント欲スル所ハ寧ロ狹義ノ商法ニシテ所謂私商法ニ
屬スヘキモノナリ

私商法ハ私人間ノ商事ニ固有ナル法規ナリ而シテ此法規ハ必スシモ盡ク一法
典中ニ網羅セラルルモノニ非ス國ニ由リテハ全ク商法典ヲ制定セサルモノア
リ然レトモ現今歐洲諸國ハ大抵皆商法典アリ此ノ如キ商法典アル國ト雖モ猶
ホ一法典ヲ以テ萬般ノ商事ヲ網羅シ盡スヘキニ非ス乃チ必スヤ幾多ノ特別法
令ノ制定アリ學問上ノ用語トシテ商法ト稱スルハ此等萬般ノ商事規定ヲ抽象

的ニ唱フルナリ又各國商法典ノ規定スル所ヲ見ルニ必スシモ常ニ私法規定ノ
ミニ非ス商事行政ノ規定アリ刑罰ノ規定アリ又國際商事ニ關スル規定アリ故
ニ商法典ノ規定カ盡ク私商法ナリト謂フコト能ハス
法ニ制定法アリ慣習法アリ故ニ商法ニモ又制定商法アリ慣習商法アリ慣習法
ノ存在及ヒ效力ニ關シテハ學者間ニ議論アル所ナリト雖モ商法ノ沿革及ヒ立
法例ニ於テハ慣習法ハ特ニ重要視セラルルナリ故ニ商法ヲ攻究セント欲スル
者ハ商慣習法ニ注意スルコトヲ要ス

商法ハ私法ノ一部ニシテ民法ト相並ヒテ私人ノ法律關係ヲ規定スルモノナリ
私人ノ法律關係ヲ民事ト商事トニ區別シ商事ニ關シテハ商法ヲ適用シ民事ニ
關シテハ民法ヲ適用ス二法本來其適用區域ヲ異ニスルヲ以テ兩兩各獨立セル
法規ニシテ其間主從關係アルニ非ス又一ハ本則ニシテ他ハ例外規定ナリト云
フコトナシ唯商事ヲ普通民事關係ヨリ分別シテ特ニ之カ爲メニ法規ヲ設定シ
タルカ故ニ民法ニ對シテ之ヲ特別法ナリト云フ然レトモ其例外法ニ非サルカ
故ニ其解釋モ亦例外法ニ於ケルカ如ク嚴正解釋法ニ從フコトヲ要セス必要ナ

ル場合ニ於テハ類推解釋ヲ用フルモ亦妨ケナシ
 商法ハ商事ニ特別ナル法規ナリト雖モ其性質ニ至リテハ民法ノ規定ト甚シ
 ク異ナルモノニ非ス蓋シ往時ニ在リテハ民事商事ノ區別ナク共ニ同一法規
 ノ適用ヲ受ケタリシカ商取引ノ發達スルニ隨ヒ次第ニ特別ナル慣習ヲ作リ此
 慣習ハ遂ニ法ト爲リテ近世ニ至リテハ終ニ商事ニ法ノ獨立ヲ認許スルニ至レ
 リ即チ商事ニ關シテ特別ナル法規ヲ要スルニ至リシハ商事關係カ普通民事關
 係ニ比シテ特殊ノ發達ヲ爲シタルカ爲メナリ商事ニ適用スヘキ法規ハ必スシモ
 盡ク民法ノ規定ト異ナルコトヲ要セス且夫社會ノ進步ハ獨リ商事ニ私セス民
 事關係モ亦日ニ月ニ進歩シ發達ス唯商事ニ比スレハ遲緩ナリト云フノミ夫レ
 遲緩ナリト雖モ亦漸次ニ進歩シ發達スルカ故ニ會テ商事ニ關シテ設定セラレ
 シ法規モ終ニハ普通民事ニモ亦適用セララルニ至ルヘシ是ヲ以テ古來民法規
 定ノ商法規規定ニ由リテ改廢セラレシモノ尠カラス之ヲ要スルニ商事ニ關シテ
 適用スヘキ法規ハ必スシモ盡ク民法規定ト異ナルモノニ非サルカ故ニ現今ノ
 立法例ハ多クハ商法典ニハ商事ニ特別ナル法規ヲノミ掲ケ民法規定ヲ補充的

ニ適用スル主義ヲ探ルナリ(第一條)

第二 商法ノ由來

夫レ法ハ人ト人トノ關係ヲ規定スルモノナルカ故ニ數多ノ人ノ互ニ相交際ス
 ルモノアルニ非スシハ法ノ存在スルコトナシ數多ノ人ノ互ニ相交際スルヤ必
 スヤ相互間ニ種種ノ關係ヲ生ス則チ又必ス一定ノ法則ノ此關係ヲ規定スルモ
 ノナカルヘカラス

人類ノ交際ニシテ最モ普通ニシテ又最モ必須ナルハ財産關係ニ如クモノナシ
 即チ有無相通スルノ道ナリ即チ交易ナリ交易ノ道ハ社會ノ進歩ト共ニ著シク
 發達シテ交換ヨリ賣買ト爲リ直接交易ヨリ商取引ト爲リ商業ト爲ルナリ而シ
 テ社會ノ法モ亦先ツ財産關係ニ發シテ遂ニ特ニ商法ナル法規ヲ分科スルニ至
 レリ

人類ノ其慾ヲ滿タスニ急ナルヤ甚矣彼等カ其家族關係ノ外ニ同類ヲ求メテ或
 ハ群棲シ或ハ交通スル所以ノモノハ皆此有無相通スルノ觀念ニ基カサルハナシ
 此觀念ハ世代ト共ニ駁駁トシテ增長シ到處ニ其同類ヲ求メテ相交交通ス山陵湖

海を亦能ク之ヲ防遏スルコト能ハサルナリ故ニ其商事ニ關スルノ法ハ亦山陵
 湖海ヲ距テサルノ傾アリ換言セハ商業ノ世界的性質アルニ因リ商法モ亦世界
 的ナリ故ニ商法ノ沿革ヲ討スルトキハ何國ノ商法ト雖モ必ス多少外國法ノ繼
 受ヲ見サルハナシ而シテ文明諸國ニ行ハルル商法ハ現今ノ商業界ニ關係アル
 諸國民ノ共同シテ作成セシ所ニシテ現今ノ商業カ各國國內商業ニ非サルカ如
 ク其商法モ亦決シテ其國ノ特產物ニ非サルナリ

賣買交換等ノ普通ノ取引行爲ヨリ商取引ナル觀念ヲ分別スルニ至リシ時代ハ
 已ニ幾多ノ進化ヲ經歷セル時代ナリ之ト同シク取引關係ヲ規定スル法則モ其
 初ハ普通民事法中ニ混同セラレシカ後漸ク商法ナル一種ノ特別法トシテ獨立
 ナル領地ヲ占ムルニ至リシナリ

今歐洲ニ於ケル商法發達ノ順序ヲ考フルニ大體左ノ如シ

一 民事法中ニ混同セラレシ時代

二 特別法時代

イ 商團體法時代

ロ 商事法時代

第一時代ハ則チ上古及ヒ中世ノ前半ニ行ハレシ所ニシテ羅馬法時代ハ尙ホ之
 ニ屬ス羅馬法ハ實ニ世界ヲ征服セリト稱ス而シテ羅馬法ヲシテ此勢力ヲ成サ
 シメタルハ一ニユスゲンチウムノ效ナリユスゲンチウムハ當時ノ世界法ナリ
 羅馬人ト交通セル各國民ノ交通ニ依リテ產出セラレシ所ナリ羅馬固有法ハ羅
 馬ノ以外ニ適用セラレス而シテ又實際當時ノ世界的關係ヲ支配スルニ足ラサ
 リシヲ以テ各外國ニ發達セル取引交通ノ法ハ各國民ノ交際ニ因リテ自ラ相融
 和シ以テ此ニ一ノ優勢ナル法規ヲ形成スルニ至レリユスチニアン帝ニ至リテ
 此不文世界法ヲ編纂シテ遂ニ有名ナル世界的法典ヲ完成セリ羅馬法ハ此ノ如
 キ歴史ヲ以テ發達セルヲ以テ恰モ當時各民族ノ商取引ヲ支配スルニ適シタリ
 故ニ特ニ商事ニ關スル法規ヲ制定スルノ必要ヲ見サリシナリ
 然レトモ此有名ナル法律モ人類交通ノ日進ヲ追フニ由ナク且ツ商取引ト最モ
 相容レサル寺院法ノ行ハレタルニ因リ西曆十一世紀ノ頃ニ至レハ各地商團體
 ニ於テ各自ノ取引ニ關シテ種種ナル慣習法ノ發生ヲ見ルニ至レリ是レ商法カ

民事法中ヨリ分離スルノ導火タリシナリ此種ノ商慣習法ハ先ツ以太利ノ各市府ニ於テ發生シ遂ニ漸次市法又ハ商人組合ノ定款トシテ十二世紀半頃ヨリ漸ク成文ノ形態ヲ備フルモノアリ而シテ商品ノ輸出入ト共ニ當時以太利ノ諸市府ト交通セル中部歐洲ニ傳播セリ

以太利ニ於テ發生シタル商法ハ各市府隨意ニ其法規ヲ定メタルヲ以テ實際ニ於テハ實ニ區區タルモノアリシナリ況ヤ之ヲ繼受セル歐洲諸國ニ於テヤ是ニ於テ各國ニ商法統一ノ必要起レリ而シテ商法カ國法ノ一トシテ制定セラレシハ千六百七十三年ニ發布セラレシ佛國ノ「コード・ド・コンマルス」ヲ始トス以來十八世紀ヨリ十九世紀ニ至リ歐洲列國ニ法典編纂ノ氣運勃興シ各國相踵テ商法ヲ制定スルニ至レリ

我國商業ノ發達ハ之ヲ歐米諸邦ニ比スレハ甚タ遲緩ナリシヲ以テ王朝以來武家政治ニ至ルマテ法規ノ民事ト商事トヲ區別セルナク商業者間ニ於テモ亦特別ノ慣習ノ法トシテ見ルヘキモノナシ維新以來歐洲諸國トノ交通漸ク頻繁ナルニ隨ヒ大ニ法制革新ノ必要ヲ感シ乃チ明治十四年四月太政官法制局主任參議

山田顯義始メテ獨逸人ヘルマン・ロエスレル氏ニ商法草案ノ起草ヲ命ス同時ニ又太政官中ニ商法編纂委員ヲ置キ之ヲ廢シテ會社條例編纂委員ヲ置キ又破産法編纂委員ヲ置キ尋テ又之ヲ廢シテ再ヒ商法編纂委員ヲ置ク二十年十月二十一日司法大臣山田顯義ヲ法律調取委員長ニ任シ司法次官大審院長東京控訴院長兩院評定官若干名及ヒ元老院議員若干名ヲ以テ法律調取委員ト爲シ別ニ又法律調取報告委員ヲ置キ以テ法律調取委員會ヲ組織シ諸法典ノ編纂修正ニ從事セシム斯クテ始メテ元老院ノ議ニ付セラレシハ商法ナリ二十一年十月ヨリ二十二年六月七日ニ至ルマテ同院ノ審議ヲ經テ二十三年三月二十七日ニ至リ裁可ヲ經テ公布セラレ然ルニ同年十二月帝國議會ハ遂ニ商法民法施行期限延期法案ヲ可決シ二十六年一月一日ヨリ實施スルコトト爲レリ然ルニ明治二十五年法律第八號ハ更ニ明治二十九年十二月三十一日マテ延期シ二十九年ニ至リテ更ニ三十一年六月三十日マテ延期シタリ此間政府ハ帝國大學法科大學諸教授及ヒ朝野ノ學識經驗アル者ヲ選任セテ法典調查委員ト爲シ以テ法典調查會ヲ組織シ大ニ法律ノ修正ヲ企テ明治三十二年二月帝國議會ノ協賛ヲ經テ

ル商法修正案ハ遂ニ裁可ヲ得テ公布セラレ同年六月十六日ヨリ實施セララル
ニ至レリ余カ諸君ト講究セントスル所ハ是ナリ而シテ本講義中舊商法ト稱ス
ルハ三十一年七月一日ヨリ三十二年六月十五日マテ施行セラレシ商法ヲ指ス
ナリ

第三 商法ノ編次

商法ノ編次ハ一樣ナラス立法者各其見ル所ニ依リテ次第編章ヲ作ルナリ是ヲ
以テ各商法ノ編次ノ異同ヲ比較對照スルトキハ其立法主義ノ異同ニ付テ發明
スル所尠カラス今我商法ノ編次ト舊商法ノ編次トヲ對比シ更ニ我商法ト親密
ナル關係アル獨逸商法ト獨逸舊商法トノ編次ヲ對照シテ諸君ノ參考ニ供セン
トス

商法ノ編次

第一編 總則

第一章 法例

舊商法ノ編次對照

總則二個條

第一編 商ノ通則

第一章 商事及ヒ商人

第三章 商業登記簿

第三章 商號

第四章 商業帳簿

第五章 代務人及ヒ商業使用人

第六章 商事會社及ヒ共算商業組合

商事會社總則

第一節 合名會社

第一款 會社ノ設立

第二款 會社契約ノ變更

第三款 社員間ノ權利義務

第四款 第三者ニ對スル社員

第二章 商人

第三章 商業登記

第四章 商號

第五章 商業帳簿

第六章 商業使用人

第七章 代理商

第二編 會社

第一章 總則

第二章 合名會社

第一節 設立

第二節 會社ノ内部ノ關係

第三節 會社ノ外部ノ關係

商法總則緒言

ノ權利義務

第四節 社員ノ退社

第五款 社員ノ退社

第五節 解散

第六節 清算

第六款 會社ノ解散

第三章 合資會社

第二節 合資會社

第四章 株式會社

第三節 株式會社

第一節 設立

第一款 總則

第二節 株式

第二款 會社ノ發起及ヒ設立

第四款 株式

第八款 株金ノ拂込

第九款中第二六條第二七條

第三節 會社ノ機關

第一款 株主總會

第六款 株主總會

第二款 取締役

第三款 會社ノ社名及ヒ株主名簿

第三款 監查役

第五款 取締役及ヒ監查役

第十一款 取締役及ヒ監查役

ニ對スル訴訟

第四節 會社ノ計算

第九款 會社ノ義務

第十款 會社ノ檢査

第五節 社債

第七款中第二〇六條第二項

第六節 定款ノ變更

第七款 定款ノ變更

第七節 解散

第十二款 會社ノ解散

第八節 清算

第十三款 會社ノ清算

第五章 株式合資會社

第六章 外國會社

第七章 罰則

第四節 罰則

第五節 共算組合

第七章 商事契約

第八章 「代辦人」仲立人、仲買人、運送人、取扱人及ヒ運送人

第三編 商行爲
(以下章節略ス)

第九章 賣買

第十章 信用

第十一章 保險

第十二章 手形及ヒ小切手

第四編 手形
第五編 海商

第二編 海商
第三編 破産

(破産ハ特別法ト爲ルヘシ)

獨逸商法ノ編次

獨逸舊商法ノ編次

總則三ヶ條

(舊商法總則第一條ハ)
施行條例ニ譲ル
第一編 商

第一編 商

第一章 商人

第二章 商業登記簿

第三章 商號

第四章 商業帳簿

第五章 代務權及ヒ代理權

第六章 商業使用人及ヒ見習人

第七章 代理商

第八章 仲立人

第一章 商人

第二章 商業登記簿

第三章 商號

第四章 商業帳簿

第五章 代務人及ヒ商業代理人

第六章 商業使用人

(舊法ニハ規定ナシ)

第七章 仲立人

第二編 商事會社及ヒ匿名組合

第二編 商事會社

第一章 合名會社

第一章 合名會社

第一節 會社ノ設立

第一節 會社ノ設立

第二節 社員間ノ關係

第二節 社員間ノ關係

第三節 社員ノ第三者ニ對ス

第三節 社員ノ第三者ニ對ス

ル關係

ル關係

第四節 會社ノ解散及ヒ社員

第四節 會社ノ解散及ヒ社員ノ

ノ退社

退社

第五節 會社ノ清算

第五節 會社ノ清算

第六節 時效(社員又ハ會社ニ對スル求權ニ關スル)

第六節 社員ニ對スル訴權ノ時效

第二章 合資會社

第二章 合資會社

第一節 普通合資會社

第三章 株式會社

第三章 株式會社

第一節 總則

第一節 總則

第二節 株主ト會社トノ關係

第二節 株主間ノ關係

第三節 組織及ヒ業務施行

第三節 取締役ノ權利義務

第四節 定款ノ變更

(定款ノ變更ハ總則中ニ規定セリ)

第五節 會社ノ解散及ヒ不成立

第四節 會社ノ解散

第六節 罰則

第四章 罰則

第四章 株式合資會社

(第二章第二節株式合資會社)

第五章 匿名組合

第三編 共算組合

第一節 匿名組合

第二節 共算組合新法ニハ削除

第三編 商行爲

第四編 商行爲

以下章節略ス

第四編 海商(新設)

(獨逸ニテハ手形法破産法ハ已ニ特別法トシテ發布セラレタリ)

本 論

總則ナル名稱ハ種種ナル意義ニ用井ラル舊商法ニ於テ總則ト稱スルハ商事ニ適用セラルヘキ法令ニ關スル規定ヲ謂フナリ是レ獨逸舊法ノ編纂體ニ倣ヘルナリ新商法ニ於テハ之ニ反シテ總則編中ニ舊商法ニ所謂總則ヲ第一章トシテ規定シ第二章以下ニ於テハ商事ノ主體即チ商人ニ關スル規定ヲ設ケタリ蓋シ商法ハ商事ニ關スル法規ナルヲ以テ先ツ商事ニ關シテ適用セラルヘキ法令及

ヒ商法ノ適用區域ヲ定メサルヘカラス又法令ノ適用ヲ受クル者ハ商事其物ニ非スシテ寧ロ商事ノ主體タル人ナリ而シテ通常商事ノ主體タル者ハ商人ニシテ又商人ニ關シテ特ニ一定ノ規定ヲ必要トスルカ故ニ第二章ニ商人ヲ規定シ又商業上一定ノ事項ハ商人ヲシテ登記セシムル必要アルカ故ニ第三章ニ商業登記ヲ規定シ第四章ニハ商人ノ商業上ノ稱呼即チ商號第五章ニハ商人ノ備ヘ置クヘキ帳簿即チ商業帳簿ヲ規定シ第六章第七章ニ於テハ商人ノ商業機關タルヘキ使用人及ヒ代理人ニ關スル規定ヲ設ケタリ

第一章 法例

法例ニ於テ規定スル所ハ第一商事ニ關シテ適用セラルヘキ法令第二商法ノ適用セラルヘキ區域ナリ

第一 商法ノ適用セラルヘキ區域

已ニ緒言ニ於テ述ヘタル如ク商法ハ商事ニ固有ナル法ナリ故ニ商法ノ適用區域ヲ知ラント欲セハ先ツ商事ノ範圍ヲ論定セサルヘカラス舊商法第三條ハ商事

ノ定義ヲ下シテ曰ク「商事トハ商人又ハ其他ノ人ノ爲シタルニ拘ハラズ總テノ商取引及ヒ其他本法ニ規定シタル事項ヲ謂フ」ト是レ商事ノ範圍ヲ客觀的ニ定メタルモノナリ然レトモ事項ノ性質ニ就テ商事ト非商事トヲ區別スルコトハ頗ル難シ夫レ商法ヲ講究スルニ當リテ先ツ商事ノ何物タルヲ知ラサルヘカラサルハ商法ノ適用區域ヲ知ランカ爲メナリトセハ商事ハ商法ニ規定セラレタル事項ナリト謂フハ恰モ一ハ一ナリト云フカ如ク定義トシテ掲クルノ要ナキノミナラス會マ商法典ニ規定セラレサル事項ニシテ其性質商事ニ屬スヘキ事項アルモ之ニ商法ヲ適用スルコト能ハサルヘシ新商法ニ於テハ商事ノ定義ヲ下スコトヲ避ケタリ蓋シ之ヲ學說ニ讓レルナリ學者ノ商事ヲ解說スル者其說亦一定セズ例ヘハ「ガライス氏曰ク「商事トハ第一商人ニ固有ナル法律關係ナリ第二商行爲ニ因リテ設立セラレタル又ハ之ト同視スヘキ法律關係ナリ」ト「ペーレン氏曰ク「商事トハ商人ニ屬スル法律關係ナリ商人ニ屬スル事項ニシテ法規ニ由リ定メラル民法ノ規定ニ從ハサルモノハ商事ナリ」ト「コサック氏曰ク「商事トハ商人ノ營業ニ屬スル總テノ私法事項ヲ謂フ故ニ同一事項ニシテ商人カ之ニ關係

スルト否トニ由リテ或ハ商事ト爲リ或ハ非商事タルコトアリト又普魯西ノ帝國商法施行法第二條ハ商法第一條ノ商事ヲ解釋シテ曰ク「商事トハ下ノ如キ私權關係ヲ目的トスル所ノ法律事項ナリ」(一)商行爲ニ因リテ當事者間ニ起ル所ノ法律關係(二)商事會社社員相互間ノ法律關係共算組合員間ノ法律關係組合又ハ會社ノ成立中ト解散後トヲ問ハズ及ヒ組合又ハ會社ノ清算人又ハ業務擔當人(取締役)組合又ハ會社若クハ組合員又ハ社員トノ法律關係(三)商號使用權ニ關スル法律關係四存立スル商行爲ノ讓渡ニ因リ當事者間ニ生スル法律關係(五)商業使用人ト商業主人トノ法律關係及ヒ第三者ニ對シテ或法律行爲ニ關シテ商業使用人トシテ責任ヲ負フヘキ者(獨逸商法第五條ト第三者トノ法律關係(六)仲立人ノ業務ヨリ生スル仲立人ト契約當事者トノ關係(七)海商法上ノ法律關係ナリト蓋シ列舉主義ヲ採レルナリ

已ニ述ヘタル如ク商法ニ於テ商事ト云フハ商法ノ適用區域ナリ商法ノ適用區域ハ各其商法ノ立法主義ニ因リテ異ナルヘキヲ以テ抽象的ニ商事ノ定義ヲ下スコト能ハス而シテ商法ノ適用區域ニ關スル立法主義ハ大別シテ三種アリ第

一ハ客觀主義ナリ第二ハ主觀主義ナリ第三ニハ折衷主義ナリ蓋シ商ナル意義ヲ定ムルニ種種ナル觀察點アルノミ(一)經濟上ヨリ商ノ意義ヲ攻究スルトキハ商トハ原形ヲ變セスシテ營業的ニ貨物ヲ運轉スルコトヲ謂フ而シテ此狹義ノ商ヲ補助シ又ハ容易ナラシムル行爲ニシテ營業タルモノモ亦商タリ例ヘハ運送業銀行業等ノ如シ是レ其性質狹義ノ商ト離ルヘカラサルモノアルカ爲メナリ此ノ如ク其性質ヲ推シテ其行爲ヲ判別スル結果ハ遂ニ或行爲ハ營業上ノ行爲ニ非サル場合ト雖モ一定ノ性質例ヘハ營利的アルカ爲メニ商行爲ト看做サルハモノアルニ至ル是レ客觀主義ノ商ナリ(二)之ニ反シテ商ノ意義ヲ商人ナル觀念ヨリ觀察スル者アリ商人ノ營業上ノ行爲ハ其營業者ノ身分關係ヨリ商法規定ノ適用ヲ受クヘシト爲シ而シテ商人ノ行爲ナルトキハ會マ其商人ノ營業ニ屬セサル行爲ト雖モ他ノ商人ノ營業行爲ニ屬スルモノナルトキハ亦商行爲トシテ商法ノ支配ヲ受クヘシト謂フ是レ即チ主觀主義ナリ(三)更ニ此兩主義ヲ折衷シタル主義アリ即チ原則トシテ商ナル意義ヲ客觀的ニ定ムルト同時ニ或種類ノ事項ニ在リテハ商人ノ營業ニ屬スルカ爲メニ商事中ニ含有セラルルナ

ヲ獨逸舊商法及ヒ我新商法ノ主義是ナリ此ノ如ク立法主義ニ從テ商法ニ所謂
商事ナル觀念ハ一定セサルナリ蓋シ經濟上商ナル觀念ハ一ナリト雖モ商法ニ
於ケル商事ノ意義ハ其商法ノ適用區域ヲ定ムルモノナルカ故ニ一ニ立法ノ便
宜ニ從テ定マルナリ

備考 主觀主義ノ立法ハ曾テ歐洲中世ニ於テ行ハレタル所ナリ當時各國市

府ニ於テ商事ノ發達スルニ從ヒ商人ハ自ラ一團體ヲ組織シテ別種ノ階級
ヲ成シ各自ラ法律ヲ作リテ支配セリ是レ所謂商團體法時代ナリ即チ當時
ハ商法ト商人法トハ同一物ニシテ商人法外ニ商法ナカリシナリ近世ニ至
リ制定法主義盛ニ行ハルルニ至リタルヲ以テ此團體法ハ盡ク消滅シタリ
シカ獨逸帝國ニ於テハ更ニ現行法ノ折衷主義ヲ排斥シテ商人法主義ニ
復歸シタリ乃チ其第三百四十三條ニ於テ商行爲ヲ規定シテ曰ク「商行爲ト
ハ商人ノ營業ニ屬スル行爲ヲ謂フ」是レ所謂絕對的商行爲ヲ認メス總
テ商人ノ爲シタル行爲ニ非サレハ商行爲ニ非スト云フナリ之ニ反シ獨逸
舊商法第二百七十一條我舊商法第四條新商法第二百六十三條ニハ何人カ

之ヲ爲ストモ商行爲タルヘキ行爲即チ絕對的商行爲ヲ規定セリ

商法ハ商事ヲ規定スルモノナリ故ニ商法ノ適用區域ハ商事ナリ然レトモ本來
商事ニ非スシテ實際上商法規定ヲ適用セサルヘカラサルモノアリ何ソヤ當事
者ノ一方ニ商行爲ニシテ他ノ一方ニハ商行爲ニ非サル場合ニ於テ其一方ニノ
ミ商法ヲ適用スルハ甚タ不便タルヲ免レス故ニ此場合ニ於テハ雙方ニ商法ヲ
適用ス是レ新商法第三條ニ規定スル所ナリ舊商法ニ於テハ第一章ニ商事及ヒ
商人ナル標題ヲ掲ケテ第十六條ニ之ト同様ノ規定ヲ設ケタリシカ新商法ニ於テ
ハ商事ナル標題ヲ削リシヲ以テ之ヲ法例中ノ一條トセリ
商法ハ私法ナリ私法關係ヲ定ムルモノナリ故ニ商事ニシテ私法關係ニ屬スル
モノハ商法ノ適用ヲ受クヘシ會マ公法人ニシテ商行爲ヲ爲ス場合ニ於テ之ニ
商法ノ適用アルヘキハ論ヲ待タス但シ特別ノ法律ヲ以テ別段ノ規定ヲ設ケタ
ル場合ハ此限ニ在ラス然レトモ公法人ノ行爲ハ私法行爲ト雖モ國家ノ行政上
通常私法ノ規定ヲ適用シ難キ場合尠カラサルヲ以テ往往行政命令ヲ以テ便宜特
別ノ規定ヲ設クルノ必要アルヘシ故ニ新商法第二條ニ於テハ公法人ノ商行爲

ニ對スル商法ノ適用ヲ法令ニ別段ノ定メナキ場合ニ限レリ是レ現行法令ノミナ
 ラス將來發布サルヘキ法令ニモ商法ノ適用ヲ免除スル權限ヲ與ヘタルナリ又
 法令ト云フハ法律ノミナラス勅令其他行政命令ヲモ包含スヘシ蓋シ商法ハ法
 律ナルヲ以テ此第二條ノ規定アルニ非スンハ命令ヲ以テ商法ノ適用ヲ拒ムコ
 トヲ得サルナリ

第二 商事ニ適用セラルヘキ法規

商法第一條ニ曰ク「商事ニ關シ本法ニ規定ナキモノニ付テハ商慣習法ヲ適用シ
 商慣習法ナキトキハ民法ヲ適用ス」此條文ハ一面ニハ商事ニ適用セラルヘキ
 法令ヲ示シ他ノ一面ニハ商事ニ適用セラルヘキ法令ノ順位ヲ定メタルナリ
 一 商事ニ適用セラルヘキ法令ハ商法、商慣習法及ヒ民法ナリ緒言ニ於テ述ヘ
 タル如ク民法ト商法トハ普通法ト特別法ト關係ニ立ツモノニシテ本來其適用
 區域ヲ異ニスルヲ以テ一方ニ規定ヲ缺キタル場合ニ一方カ當然適用セラルヘ
 キモノニ非ス然レトモ商事ト民事トハ其事項ノ性質カ全然相異ナルニ非サル
 ヲ以テ往往兩者同一ノ規定ニ從ハシムヘキ場合ナキニ非ス此場合ニ於テハ必

スシモ民法ト商法ト各別ニ同様ノ規定ヲ設ケル煩ヲ避ケテ一方ノ規定ヲ一方
 ニ適用スルコトトスレハ簡ニシテ盡スコトヲ得ルナリ故ニ例ヘハ民法第三十
 五條ニ於テハ營利ヲ目的トスル社團ハ商會社設立ノ條件ニ從ヒ之ヲ法人ト
 爲スコトヲ得ト規定シ以テ民法ニ營利法人設立ノ規定ヲ省略セリ之ト同シタ
 商法ニ於テモ例ヘハ商行爲ノ如キ本來民事上ノ法律行爲ト同一法理ニ基クモ
 ノニシテ大體民法ノ規定ト同一規定ニ從ハシムヘキモノニ在リテハ更ニ商法
 ニ於テ同様ナル法文ヲ設ケサルモ民法ノ規定ヲ適用シテ妨ケナシ

慣習法ノ存在ニ關シテハ學者ノ議論甚タ喧シ然ルニ本條ハ商慣習法ノ商事ニ
 適用セラルヘキコトヲ規定シ其存在ヲ確認セリ已ニ商慣習法ノ存在ヲ確認セ
 ル以上ハ其商事ニ適用セラルヘキハ勿論ナリ我民法ニ於テモ慣習法ノ存在ヲ
 認メタル處間ニ之アリ例ヘハ第二百十七條、第二百十九條、第二百二十八條ノ如
 キ是ナリ

民法第九十二條ノ慣習ナル文字ハ單ニ當事者ノ意思ヲ推測スヘキ事實タ
 ル慣習ヲ指シタルモノナレトモ第二百十七條、第二百十九條、第二百二十八條

等ニ於テ慣習ト稱スルハ法力アル慣習ヲ指シタルモノナルコト多數ノ學者ノ是認スル所ナルカ如シ
而シテ商事ニ在リテハ商業交通日ニ月ニ發達スルヲ以テ從テ其取引關係モ亦日ニ月ニ新ナリ故ニ到底膠柱刻舟ノ法文ノ善ク實際ノ便宜ニ伴フコト能ハサルヤ明カナリ故ニ慣習法ノ存在ヲ認ムル必要アリトスレハ商事ニ關シテ最モ其必要アルナリ

二 商事ニ關シテハ先ツ第一ニ適用セラルヘキ法令ハ商法ナルコト論ヲ待タス商法ニ次テ適用セラルヘキモノハ商法慣習法ナリ蓋シ商慣習法ハ商慣習ヨリ生ヅタル法規ニシテ商事ニ特別ナルモノナリ唯其慣習法ナルカ故ニ制定法ト同等以上ノ效力ヲ與フルコト穩ナラスト云フカ爲メニ商法ニ規定ナキモノニ付テノミ適用スルコトヲ定メタリト雖モ民法ノ規定ニ對シテ優先ノ效力ヲ認メタルヲ得ス舊商法第一條ニ於テハ「商事ニ於テ本法ニ規定ナキモノニ付テハ商慣習及ヒ民法ノ成規ヲ適用ス」ト定メタレトモ商慣習ト民法トハ孰レカ先ツ適用セラルヘキヤヲ明カニセス又商慣習ト稱スルハ商慣習法ナルヤ將タ單ニ商

慣習ナル事實ナルヤ明カナラス新法ハ明カニ商慣習法ヲ認メテ而シテ其民法ニ先チテ適用セラル可キコトヲ定メタリ

備考 慣習法ノ存在スルヤ否ヤハ學者ノ極メテ論争スル所ナリ舊商法第一條ニハ單ニ商慣習ト稱シテ商慣習法ト言ハス是ニ於テ此商慣習ハ法ナルヤ否ヤハ解釋者ノ論議スル所ナリキ然ルニ新商法ニ於テハ明カニ商慣習法ト稱シテ舊來ノ疑義ヲ一掃セリ然レトモ新商法第一條ハ商慣習法ノ存在ヲ前提トシテ其適用順次ヲ定メタルノミ商慣習ナル事實ニ法律の效力ヲ付與セルニ非ス換言スレハ商慣習法ハ新商法第一條ニ依リテ生スルニ非ス新商法第一條ハ唯商慣習法ノ適用ヲ拒否セスシテ之ニ一定ノ適用順位ヲ規定セルノミ然ラハ則チ商慣習法ハ如何ニシテ發生スルヤ如何ニシテ法律の效力ヲ獲得スルヤ

此點ニ關シテハ學說種種アリト雖モ其最モ著名ナルハ三アリ(一)主權制定說ノ要旨ニ曰ク慣習法ハ主權者カ慣習ニ由リテ制定セシ法ナリト而シテ主權者ノ制定ハ何ノ時期ニ在ルヤト問ヘハ裁判所カ慣習法ヲ適用シテ判

決ヲ下セル時ナリト云フ然レトモ裁判所ハ法ヲ適用スルモ法ヲ制定スル
コトナシ法ノ存在アリテ始メテ其適用アルナリ裁判即チ法ノ適用ニ因リ
テ法ヲ制定スト云フハ意味ヲ爲ササルナリ(二)民意說ノ要旨ニ曰ク法ハ民
意ナリ民意ニ法觀念ナル者存ス法觀念カ行爲ニ發現シテ慣習ヲ作スナリ
慣習ハ法ナリト雖モ慣習カ法ト爲ルニ非スシテ法ナルカ故ニ慣習ヲ作ス
ナリ立法者ノ法ヲ制定スルハ民意ニ基キテ制定スルナリ民意即チ法ヲ間接
ニ代表セルモノナリ慣習法ハ民意即チ法觀念カ直接ニ行爲ニ發現セルモ
ノナリ故ニ真正ノ法ハ寧ロ慣習法ニ在リト是レ獨逸歷史派ニ依リテ主唱
セラレシ所ナリ歷史上法律ノ沿革ヲ致フルトキハ此說ノ甚タ妙味アルヲ
覺ユルト雖モ其近世國家主權說ト相容レサルハ明カナリ(三)法覺說ヲ主張
スル者ハ曰ク慣習カ人民ニ法覺ヲ起サシムルニ因リテ慣習法ヲ作ルナリ
ト乃チ慣習法ノ發生ニハ第一慣行ナカルヘカラス第二此慣行ハ久シク
繼續シテ行ハレサルヘカラス第三此慣行ハ終ニ人民ニ法覺(opinus necessities)
ヲ生セシメサルヘカラス(法覺トハ此慣行ニ服從セサルヘカラスト信スル

コトヲ謂フト此說ニ對スル非難ハ人民ノ法覺ハ人民ノ心理作用ニ過キス
人民ノ心理作用ニ因リテ法ヲ作ルト云フハ何ソヤ法ハ主權者ノ命令ナリ
トハ近世國家主義ニ於テハ動スヘカラサル觀念ナリ若シ果シテ慣習法ハ
人民ノ法覺ニ因リテ生スルモノナリトセハ所謂慣習法ナルモノハ是レ法
ニ非スト云フナリ然レトモ主權者ノ命令ハ主權者ノ意思表示ナリ意思
表示ハ必スシモ明示スルコトヲ要セス暗黙ノ意思表示モ亦有效ノ意思表
示ナリ故ニ主權者ノ意思表示ト雖モ明示セサルカ故ニ命令ニ非スト云フ
コト能ハス而シテ慣習法ニ在リテハ主權者ノ明示ノ意思表示ヲ認ムル
コト能ハサルヲ以テ慣習法カ主權者ノ命令ナルヤ否ヤハ默示ノ意思アル
ヤ否ヤニ由リテ決セラルヘシ惟フニ慣行カ久シク繼續シテ行ハレ而シテ
遼ニ人民ニ法覺ヲ爲サシムルニ至ルモ之ヲ放任シテ禁止セサルハ是レ國
家ノ默認ナリト云フコトヲ得ヘシ人民ハ國家ノ意思ニ反シテ法覺ヲ成ス
コト能ハス法覺ヲ成スハ國家ノ暗黙ノ意思表示アルニ因ルナリ故ニ慣
習法ハ國家ノ暗黙ノ命令ナリ此暗黙ノ命令ハ人民ニ法覺ヲ生スルト同時期

ニ在リ之ヲ客觀的ニ觀察スレハ慣習法ハ國家ノ默示ノ命令ナリ之ヲ主觀的ニ觀察スルトキハ慣習法ハ法覺ヲ生スルニ因リテ成ルナリ
前述ノ如ク慣習法ハ國家ノ默示ノ命令ナリ故ニ成文法ト慣習法トハ其效力ニ於テ本來區別アルコトナシ成文法ヲ以テ慣習法ノ效力ヲ制限スルコトヲ得ルト同シク慣習法モ亦成文法ヲ廢止スルコトヲ得サルノ理ナシ但シ憲法ノ規定ニ依リ法律ハ法律ニ依ルニ非サレハ改廢スルコトヲ得サルヲ以テ慣習法ハ法律ヲ改廢スルノ效力ヲ有セサルナリ故ニ若シ法律ニ於テ慣習法ノ效力ヲ全然否認スルカ又ハ之ヲ制限スルトキハ慣習法ハ此法律ノ規定ヲ排斥スルノ力ナキノミナラス法律ニ此ノ如キ制限ナキ場合ト雖モ法律ノ規定ト異ナル慣習法ハ成立スルコトヲ得ス但シ法律ノ規定ナキ場合ニ於テ補充的效力ヲ有スルノミ是ヲ以テ立法者若シ法律ノ規定ヲ或場合ニ於テ慣習法ニ讓ラント欲スルトキハ特ニ之ヲ明言スルナリ

第二章 商人

本章ハ舊商法第一編第一章商事及ヒ商人ノ規定ノ一半ニ該當ス舊商法ハ此章ニ於テ商事ノ定義ヲ揭ケタリト雖モ其規定甚タ不完全ナルノミナラス商事ノ定義ハ必スシモ之ヲ商法ニ規定スル必要ナキカ故ニ新法ニ於テハ之ヲ削除セルコト已ニ前章ニ於テ説明セリ又舊商法第四條乃至第八條ノ規定ハ商行爲ニ關スル規定ナルヲ以テ新法ハ之ヲ第三編商行爲ノ總則ニ讓リテ本章ニハ單ニ商人ニ關スル規定ヲ擧ケタリ此他舊商法ノ商人ニ關スル規定ニシテ民法ニ讓ルヘキモノ又ハ穩當ナラサルモノハ之ヲ削除セリ

第一節 商人トハ何ソヤ

新商法第四條 本法ニ於テ商人トハ自己ノ名ヲ以テ商行爲ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ

商人ナル名稱ハ種種ナル意義ニ用非ラル例ヘハ商業會議所條例第一條ニ所謂商人ハ商法上ノ商人ト自ラ其意味ヲ異ニス而シテ商法ニ於テハ單ニ商法上ノ商人ハ何ナルヤヲ定ムルコトヲ要スルノミ故ニ「本法ニ於テ商人トハ」ト謂フ

ナリ

商人トハ自己ノ名ヲ以テ商行爲ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ此定義ヲ分析スレハ(一)商行爲ヲ爲スコト(二)商行爲ヲ爲スヲ業トスルコト(三)自己ノ名ヲ以テスルコトノ三點ナリ

第一 商行爲ヲ爲スコト

商行爲ノ説明ハ第三編商行爲ノ總則ニ於テ規定スル所ナルヲ以テ此ニハ詳論セサルヘシ學者ノ説明ニ從ヘハ商行爲ニ種種アリ(一)絕對的商行爲又ハ客觀的商行爲(二)相關的商行爲又ハ主觀的商行爲(三)附屬的商行爲(四)推定的商行爲(五)一方の雙方的商行爲是ナリ絕對的又ハ客觀的商行爲ト稱スルハ新商法第二百六十三條ニ規定スル所ニシテ如何ナル人カ之ヲ爲シ又唯一度之ヲ爲スモ商行爲タルヘキ行爲ナリ蓋シ其行爲ノ性質ニ因リ商事タルヘキモノナルカ故ニ或ハ之ヲ性質上ノ商行爲トモ云フ相關的又ハ主觀的商行爲トハ新商法第二百六十四條ニ規定スル商行爲ニシテ此種類ニ屬スル商行爲ハ單一ナル行爲トシテハ商行爲ト云フヲ得スト雖モ之ヲ營業トシテ爲ストキハ商行爲ト爲ルナリ又同

第二百六十五條ニハ商人カ其營業ノ爲メニスル行爲ハ縱令上述ノ二種ノ商行爲ニ屬セサル行爲ト雖モ商行爲タルコトヲ規定セリ是レ所謂附屬的商行爲ナリ又同第二項ニ於テ商人ノ行爲ハ總テ其營業ノ爲メニスルモノト推定セリ已ニ營業ノ爲メニスルモノト推定スルトキハ前項ニ依リ商行爲タルヲ以テ此種ノ行爲ヲ推定的行爲ト云フ又新商法第三條ノ規定ニ依リ當事者ノ一方ノ爲メニ商行爲タル行爲ハ他ノ一方ノ爲メニ商行爲ニ非スト雖モ商法ノ規定ヲ雙方ニ適用スルヲ以テ學者ハ之ヲ一方の雙方的商行爲ト稱スルナリ以上五種ノ商行爲ノ中後ノ三種ハ商人アリテ而シテ後始メテ存在スル商行爲ナルヲ以テ商人ノ意義ヲ定ムル商行爲ニ非サルコト明カナリ之ニ反シテ前ノ二種ノ商行爲ハ何人カ之ヲ營業トシテ爲スモ商行爲タルモノニシテ又商人トハ商行爲ヲ爲スヲ業トスル者ナルカ故ニ此二種ニ屬スル商行爲ヲ爲スヲ業トスル者ハ商人タルナリ即チ商人ノ意義ヲ定ムル商行爲ハ絕對的商行爲及ヒ相對的商行爲ニ限ルナリ故ニ或ハ此二種ノ商行爲ヲ根原的商行爲ト稱ス

商行爲ヲ爲スヲ業トスルトハ之ヲ以テ平常我所得ノ淵源トスルコトヲ謂フ故ニ繼續シテ同種ノ商行爲ヲ爲スコトヲ要ス而シテ此商行爲ヲ爲スハ利益ヲ得ルヲ目的トセサルヘカラス即チ我收入ノ淵源ト爲ササルヘカラス無論此收入ヲ以テ唯一又ハ主要ナル收入ト爲ササルヘカラサルニ非ス又必スシモ現實ニ利益アルコトヲ要セス唯其目的カ營利ニ在ルコトヲ要スルノミ

第三 自己ノ名ヲ以テスルコト

商行爲ヲ爲スヲ業トスルモ自己ノ名ヲ以テセサル者ハ商人ニ非ス例ヘハ商家ノ手代番頭ノ如キ其主人ノ名ヲ以テ商行爲ヲ爲ス者ハ此勞務ニ因ル報酬ヲ以テ我收入ノ淵源ト爲スヘシト雖モ以テ商人ト謂フヘカラス商人ハ寧ロ其商家ノ主人ナリ又自己ノ名ヲ以テ商業ヲ爲ス者ハ必スシモ自ラ働カサルヘカラサルニ非ス其名義カ自己ノ名義ナルコト即チ自己カ其營業ノ主體トシテ直接ニ權利ヲ得義務ヲ負フヲ謂フナリ故ニ法人ノ如キ又ハ無能力者ノ如キ自ラ行爲ヲ爲スコト能ハサル者ト雖モ其法定代理人ニ依リテ商業ヲ營ムトキハ亦商人タルナリ又自己ノ名義ニ於テ商行爲ヲ爲スハ必スシモ自己ノ計算ニ於テスル

モノニ非ス即チ實際ノ損益ハ他人ニ歸スルモ第三者ニ對シテハ自己カ其行爲ノ當事者トシテ權利ヲ得義務ヲ負フ地位ニ在レハ商人タルニ妨ケナキナリ以上ノ要件ヲ備フルトキハ則チ商人タリ商人タルニ自然人ナルト法人ナルトハ問フ所ニ非ス故ニ商事會社ハ當然ニ商人タルナリ舊商法第十七條ニ於テ商人ニ關スル規定ヲ商事會社ニモ適用スヘキコトヲ定メタルハ冗文ナリトシテ新商法ニ於テハ此規定ハ削除セラレタリ

第二節 商業權能

凡ソ人ハ私權ヲ享有スルハ國法上ノ原則ナリト雖モ或ハ人ノ身分ニ因リテ商業ヲ爲スコトヲ得サルアリ或ハ行爲ノ性質ニ因リテ一般ニ又ハ特定ノ人ニ其營業ヲ制限スルコトアリ

一 身分ニ關スル制限

身分ニ因リ商業ヲ制限セラルル第一ハ外國人ナリ舊條約ニ依レハ外國人ハ居留地以外ニ於テ商業ニ從事スルコトヲ得サリシカ新條約ニ於テハ此制限ハ削

除セラレタリ然レトモ或營業ハ今日ト雖モ仍ホ外國人ニ許ササルモノアリ例
ヘハ鎖業取引所仲買業ノ如キ是ナリ

第二ハ官吏並ニ其家族ナリ官吏並ニ其家族ハ官吏服務紀律第十一條及ヒ第七條ニ依リ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ商業ヲ營ムコトヲ得ス此禁制ヲ犯シタル者ハ刑法第二百七十五條ニ依リテ處分セラル

第三ハ支配人第三二條代理商第三八條合名會社ノ社員第六〇條合資會社ノ社員第百五條ニ依リ第六〇條ノ規定ノ準用アリ株式會社ノ取締役第一七五條等ノ如キ法律上一定ノ代理權アル者ニシテ其本人ノ許諾アルニ非サレハ一定ノ商行爲ヲ爲スコトヲ得サルナリ

以上身分ニ因ル商業禁止ヲ犯シタル場合ニ於テハ法律上一定ノ制裁アリト雖モ其行爲ハ有效ニシテ商行爲ニ關スル規定ノ適用ヲ受クヘシ是レ能力ノ欠缺ヲ理由トセル規定ニ非ス又必スシモ其行爲ノ性質カ社會ノ公安ニ害アルニ非サルカ爲メナリ

二 行爲ニ關スル制限

或營業ヲ營ムニハ其行爲ノ性質ニ因リ法律上ノ制限アルモノアリ法律ノ制限ニハ或ハ絕對ニ之ヲ禁スルモノアリ特定ノ人ニ之ヲ禁スルモノアリ又或ハ一定ノ條件ノ下ニ制限スルモノアリ

此種ニ屬スル第一ハ政府ノ認可又ハ免許ヲ得テ始メテ營ムコトヲ得ヘキ營業ナリ此種ノ營業ハ極メテ多シ認可又ハ免許ヲ得ハ何人モ之ヲ營ムコトヲ得ヘシ第二ハ專業ナリ或ハ政府ノ專業アリ或ハ私人ノ專業アリ專業者以外ノ者ハ之ヲ爲スコトヲ得サルナリ

第三ハ特定ノ資格ヲ備フル者ニ非サレハ營ムコトヲ得サル營業ナリ此種ノ營業ヲ營ムニハ特定ノ資格ヲ備ヘテ更ニ政府ノ免許ヲ受クルヲ通例トス例ヘハ取引所仲買人ノ如キ是ナリ

第四ハ所謂禁制行爲ニシテ富籤賣買(刑法第二六二條阿片烟輸入製造販賣)同第二三七條人身賣買明治五年十月二日布告五百石以上ノ船舶ノ製造明治十八年七月八日布告)等ノ如キ是ナリ

以上第一ヨリ第三ニ屬スル營業ハ法律上一定ノ手續ヲ經ルカ又ハ資格ヲ備フ

ルニ非サレハ之ヲ營ムヲ得スト雖モ此法令ニ違反シテ爲シタル行爲ハ必スシモ常ニ無効ニ非ス之ニ反シテ第四ノ屬スル行爲ハ行爲自身ノ性質カ公安ヲ害スルト認メテ之ヲ禁シタルモノナルヲ以テ其行爲ハ常ニ無効ナリ

備考 舊商法第十五條ニハ法律上禁セラレタル總テノ商取引又ハ法律上特ニ規定セラレタル別段ノ資格ヲ有セサル者ノ爲シタル總テノ商取引ハ無効タルコト及ヒ公務ヲ帶フル者商業ヲ營ムコトヲ禁セラレタル場合ト雖モ其者ノ爲シタル取引ハ此理由ノ爲メ無効ト爲ルコト無キコトヲ規定セリ然ルニ新商法カ全然此規定ヲ削除シタルハ敢テ之ヲ不當ト云フニ非ス唯此等ノ事項ハ各其法令ノ規定ニ依リテ定マルヘキモノニシテ商法ノ規定スヘキ所ニ非サルカ爲メナリ

第三節 商事能力

商業權能ノ制限ヲ受ケサル者ハ皆商業ヲ營ムコトヲ得ヘシト雖モ所謂行爲能力ヲ有セサル者ハ法定代理人ニ依リニ非サレハ自ラ商行爲ヲ爲スコトヲ得サ

ルナリ行爲能力ニ關スル規定ハ民法第一編第一章第二節ニ於テ詳ニ規定セルヲ以テ更ニ商法ニ規定スルコトヲ要セサルモノ多シ故ニ新商法ニ於テハ單ニ商事ニ關シテ特別ナル規定ノミヲ掲ケタリ
民法第六條及ヒ第十五條ノ規定ニ從ヘハ一種又ハ數種ノ營業ヲ許サレタル未成年者又ハ妻ハ其營業ニ關シテハ獨立人ト同一ノ能力ヲ有スヘシ然レトモ商事ニ於テハ此規定ハ猶ホ十分ナリト云フヘカラス未成年者又ハ妻ト雖モ法定代理人又ハ夫ノ許可ヲ得テ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得ヘシ而シテ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ許可セルハ必スシモ會社營業ヲ許可セタルモノニ非スト雖モ會社ノ無限責任社員ハ其全財産ヲ以テ會社ノ義務ヲ負擔スルモノニシテ會社ノ業務ノ執行權アリ又會社ノ代表權アルモノナリ法定代理人又ハ夫ニシテ已ニ未成年者又ハ妻ノ會社ノ無限責任社員トコトヲ許可セル以上ハ其會社ノ營業ニ關シテハ能力アリト認メタルモノト看ルモ不當ニ非ス故ニ新商法第六條ハ之ヲ明カニ規定セリ
未成年者ハ親權ヲ行フ父又ハ母ノ許可ヲ得ルニ非サレハ商業ヲ營ムコトヲ得

ス(民法第八八三條親權ヲ行フ父又ハ母在ラサル場合ニハ親族會ノ認許ヲ經タル後見人ノ同意アルニ非サレハ商業ヲ營ムコトヲ得ス同第九二一條又妻ハ夫ノ許可ヲ得ルニ非サレハ商業ヲ爲スコトヲ得ス同第一四條而シテ此等ノ許可又ハ同意ヲ得スシテ未成年者又ハ妻ノ爲シタル行爲ハ之ヲ取消スコトヲ得ヘシ即チ許可又ハ同意ノ有無ハ第三者ノ利害ニ關スルコト極メテ大ナルヲ以テ未成年者又ハ妻カ此等ノ條件ヲ備ヘテ商業ヲ爲サントスルトキハ之ヲ登記セシメテ第三者ヲシテ其能力ヲ疑ハサラシムルコトヲ要ス是レ商法第五條ノ規定アル所以ナリ

又後見人カ未成年者ニ代リテ營業ヲ爲スニハ親族會ノ認許アルコトヲ要ス民法第九二九條後見人ノ未成年者ニ代リテ爲ス所ノ行爲ハ代理行爲ナリ然ルニ若シ後見人カ民法第九百二十九條ノ規定ニ違反シテ親族會ノ認許ヲ得ステ未成年者ニ代リテ商業ヲ爲シタル場合ニハ代理權ノ踰越ナリ故ニ此行爲ヨリ生スル義務ニ關シテハ第三者カ代理權アリト信スヘキ正當ノ理由アルニ非サレハ未成年者ハ其責ニ任セス民法第一一〇條第一〇九條第三者ハ唯後見人ノ

ニ履行又ハ損害ノ賠償ヲ請求シ得ルノミ(同第一一七條故ニ後見人カ未成年者ニ代リテ商業ヲ營ム場合ニモ亦登記セシムル必要アリ商法第七條又親族會ハ後見人ノ商業上ノ代理權ヲ制限スルコトヲ得ヘシト雖モ後見人カ一旦親族會ノ認許ヲ得テ未成年者ニ代リテ商業ヲ爲ストキハ其商業上一切ノ事項ニ關シテ代理權アリトセサレハ商事ノ敏活ヲ缺クノ恐アルヲ以テ商法第七條第二項ハ其代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得スト規定セリ

第四節 小商人

自己ノ名ヲ以テ商行爲ヲ爲スヲ業トスル者ハ商人ナリ故ニ苟モ此定義ニ適フ者ハ大商業家ナルト小商業者ナルトヲ問ハス總テ商人ニシテ商人ニ關スル規定ノ適用ヲ受クヘキモノナリ然レトモ戸口ニ就キ又ハ道路ニ於テ物ヲ賣買スル者其他之ニ等シキ小商人ニハ商業登記商號商業帳簿等ノ規定ハ之ヲ適用スル必要ナシ故ニ第八條ノ規定アリ而シテ小商人ノ範圍ハ明治三十二年勅令第二

百七十一號ヲ以テ之ヲ定ム施行法第七條即チ營業資本金五百圓ニ滿タサル者ハ之ヲ小商人トス

備考 舊商法第七條ニ於テハ此等ノ小商人ノ取引行爲ハ之ヲ商行爲ト視スト規定セリ故ニ小商人ハ商人ニ非ス隨テ一モ商法規定ノ適用ヲ受クルコトナシ

第三章 商業登記

前章ニ於テ商法ニ謂フ所ノ商人ヲ規定セリ我商法ノ主義ニ從ヘハ商法ノ適用ヲ受クヘキ者ハ必スシモ商人ニ非ス然レトモ普通人ニシテ商行爲ヲ爲ス者ト商行爲ヲ營業トスル者トハ同一規定ニ依ラシムルコトヲ得サルモノアリ本章以下五章ハ則チ特ニ商人ノ爲ノニ必要ナル事項ヲ規定セリ
本章ハ商業登記ヲ規定ス商業登記ハ商人ノ商業上ノ事項ニシテ世間ニ公示スルコトヲ要スルモノヲ裁判所ニ備フル所ノ帳簿ニ登錄セシムルナリ蓋シ商人ハ繼續シテ一般人ト取引スルヲ目的トスル者ナルヲ以テ一般ノ信用ヲ保證スルニ非スハ善ク商取引ノ圓滑ヲ圖ルコト能ハス是ニ於テ商業登記ノ制アリ然

レトモ商人ニハ商業上ノ秘密ハ各商人ノ商賈ノ存スル所ナルヲ以テ登記ノ制ヲ設クルモ可成此秘密ヲ破ラサルコトヲ要ス故ニ商事會社ノ登記事項ニ比スレハ一箇商人ノ登記事項ハ甚タ少ナシ是レ一箇商人ニ在リテハ概シテ商事會社ニ於クル如ク信用上ノ危險多カラサレハナリ
舊商法第十八條ニハ登記事項ヲ列記シテ商號後見人未成年者婚姻契約代務及ヒ會社トセリ然レトモ登記事項ハ商法中各其關係條文ニ於テ規定スヘキモノナルヲ以テ本章ニ於テハ單ニ登記ノ手續及ヒ效力ニ關スル規定ヲ設ケタリ

第一節 登記ノ手續

登記事務ハ非訟事件トシテ地方裁判所ニ於テ之ヲ行フ地方裁判所ハ商業登記簿ヲ備ヘ當事者ノ請求ニ因リテ登記ヲ行フ舊商法ニテハ商業登記簿ハ區裁判所ノ主管ニシテ八種アリ商號登記簿、後見人登記簿、未成年者登記簿、婚姻契約登記簿、代務登記簿、合名會社登記簿、合資會社登記簿、株式會社登記簿是ナリ明治二十三年十月二十九日司法省令第八號新商法ニ於テハ商事會社ニ株式合資組織

ヲ認メタルヲ以テ株式合資會社ノ登記簿モ設備セサルヘカラス明治三十二年司法省令第十三號ヲ以テ商業登記取扱手續ヲ定メタリ此手續ニ依リ代務登記簿及ヒ婚姻契約登記簿ヲ改メテ支配人登記簿及ヒ妻登記簿トセリ

登記ハ總テ商人ノ營業所所在ノ裁判所ニ於テ之ヲ行フ本店ノ所在地ニ於テ登記スヘキ事項ハ法律ニ別段ノ定ナキトキハ支店ノ所在地ニ於テモ亦之ヲ登記セサルヘカラス(第九條第一〇條)

登記ノ目的ハ公示ニ在リ故ニ登記簿ハ公衆ニ閱覽ヲ許シ又其謄本抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得セシムルノミナラス登記シタル事項ハ其裁判所ニ於テ運滞ナク之ヲ公告セシム(第一一條)

第二節 登記ノ效力

登記ノ效力ニ關シテ二主義アリ(一)ハ登記ニ因リ法律關係ヲ設定シ又ハ消滅セシムル主義ニシテ獨逸ノ不動産登記我舊商法第二百十條株式會社定款變更ノ登記ノ如キ是ナリ(二)ハ登記ヲ以テ公示方法ト爲ス主義ナリ第一主義ハ第三

者ヲ保護スル點ニ於テ甚タ便利ナルカ如シト雖モ其事理ニ戻リ又實際第三者ノ利害關係ヲ有スル者ナキ場合ニ於テモ常ニ登記ニ因リテノミ法律關係ヲ確定セントスルモノナリ第二主義ニ從ヘハ登記ハ單ニ公示方法ニ過キサザルヲ以テ法律關係ハ登記以前ニ確定シ登記ハ唯此確定セル法律關係ヲ公示スルノミ本邦登記法ノ主義ハ是ナリ特ニ商業登記ニ付テハ各國此主義ヲ採用セリ此法律關係ヲ公示スル所以ハ第三者ヲ保護センカ爲メナリ已ニ法律カ一定ノ事項ノ第三者ニ公示セラレル必要ヲ認メ登記ノ義務ヲ負ハシメタル以上ハ登記前ニ在リテハ善意ノ第三者ニ對シテ其法律關係ヲ以テ對抗スルコトヲ得スト規定スル必要アリ

第一 登記ノ效力ハ何時發生スルヤ 登記ヲ以テ公示方法トスル主義ヲ採ルモ法律關係ヲ設定セシムル主義ヲ採ルモ皆第三者ヲ保護セント欲スル主義ニ外ナラス故ニ登記ノ目的ハ公告ニ由リテ始メテ完全ニ達セラルルナリ是ニ於テ法律關係ノ第三者ニ對スル效力ハ登記ノ時期ヨリ發生スルカ又ハ公告ノ日時ヨリ發生スルト定ムルヲ適當ナリトスルカ舊商法第二十二條ハ登記事項ハ

之ヲ登記シタルトキハ公ニシテ且裁判所ノ認知セタルモノトス。規定セリ。乃チ登記シタルトキハ公告前ト雖モ其法律關係ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ルナリ。然レトモ已ニ第三者ヲ保護スルノ目的ヲ以テ登記ノ制ヲ定メ又登記簿ニ登錄スルノミニテハ不十分ナリトシ更ニ裁判所ヲシテ之ヲ公告セシムル以上ハ寧ロ公告ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗シ得ル時期ヲ定ムルヲ穩當ナリト謂ハサルヘカラス又登記及ヒ公告ノ後ト雖モ正當ノ事由ニ因リ即チ過失ナクシテ之ヲ知ラザリシ第三者ニ對シテハ此法律關係ヲ以テ對抗スルコトヲ得スト云フハ亦已ムヲ得サル規定ナルヘシ(第一二條)

第二 登記ト事實トノ關係 (一)登記事項ハ法律ノ規定スル所ナリ。此事項ハ必ス之ヲ登記セサルヘカラス而シテ之ヲ登記スルトキハ公ニ認知セラレタルモノト推定セラル。今若シ登記事項ニ非サル事項ヲ登記シタルトキハ如何ノ效力アルヤ登記ハ法律ノ規定ニ依リ登記スヘキ事項ヲ登記簿ニ登錄スルニ由リテ其事項ノ爲メニ一定ノ效力ヲ生スルノミ法律ノ登記ヲ命セサル事項ハ本來登記ヲ爲スコトヲ得サル事項ナリ假ニ登記官吏誤リテ之ヲ登記スルモ是レ法律ノ

所謂登記ニ非ス隨テ些ノ效力ヲ生スルコトナシ

(二)登記事項ヲ登記セル場合ニ於テモ(一)或ハ特ニ私法關係ヲ起ササルコトアリ例ヘハ支配人選任ノ如キハ登記ニ因リテ支配人ノ代理權ニ消長アルニ非ス之ヲ登記セサルモ本人ハ第三者ニ對シテ甲ハ我支配人ナリト稱シテ取引セシムルニ於テ妨ケナシ第三者モ亦其登記ナキカ爲メニ支配人トシテ取引スルコトヲ拒ムコトナカルヘシ。縱令之ヲ登記スルモ第三者ヲ強テ之ト取引セシムルコト能ハス又第三者カ支配人タルコトヲ知ラスシテ甲ト取引セタルトセハ本人ハ其登記ヲ以テ第三者ニ對抗シテ之ヲシテ直接ニ自己ニ對シテ契約ヲ履行セシムルコト能ハス何トナレハ第三者ノ意思ハ本人ト取引スルニ在ラスシテ甲ト取引セント欲セルモノナレハナリ若シ支配人カ本人ノ爲メニスル意思ナリシトスレハ此取引ハ意思ノ合致ヲ缺クニ因リ本來不成立ナルヘキモノナリト雖モ支配人カ本人ノ爲メニスルコトヲ示サザリシトスレハ民法第百條ノ規定ニ依リ支配人カ自己ノ爲メニ爲シタル意思表示ト看做サルヘク若シ又支配人カ眞實自己ノ爲メニスル意思ヲ以テ取引セルモノトスレハ此取引ハ無論第三

者ト甲トノ間ノ取引ナリト雖モ商法第三十二條ノ規定ニ依リ主人ハ甲ニ對シ
テ其取引ヨリ生スル利益ヲ自己ニ移サシムルコトヲ得ヘシ之ヲ要スルニ此種
ノ登記事項ハ登記ノ爲メニ故ラニ法律關係ヲ生スルコトナシ法律ハ唯本人及
ヒ第三者ノ便益ノ爲メ其事項ノ公示ヲ希望スルノミ
(ろ)最モ多クノ場合ニ在リテハ登記ハ登記事項ニ第三者ニ對抗スル力ヲ與フル
ナリ法律關係ノ成立ハ登記以前ニ在リト雖モ之ヲ登記スルニ非サレハ善意ノ
第三者ニ對シテ其效力ヲ主張スルコトヲ得ス前段ニ述ヘタル支配人ノ登記ヲ
變更シ又ハ抹消スル登記ハ却テ此種ニ屬スルナリ何トナレハ此登記ノ變更ハ
一面ニ於テハ舊支配人ノ解任ヲ意味スルヲ以テ抹消登記ト等シク本人ヘ之ニ
依リテ代理ノ消滅ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ルナリ故ニ爾後舊支配人
ヲ支配人ト信シテ取引セル第三者ニ對シテハ第三者ニ正當ノ事由アルニ非サ
レハ契約ノ責ニ任スルコトナシ
(は)或場合ニハ登記ニ因リテ始メテ法律關係ヲ生スルコトアリ或ハ法律關係ヲ
消滅セシム舊商法第二十二條末段ニ於テハ但權利關係ヲ登記ニ因リ始メテ生

ス可キ例外ノ場合ハ其場所ニ於テ之ヲ定ムト規定シ第二百十條ハ株式會社定
款ノ變更ハ登記ヲ經ルニ非サレハ效力ヲ生セサルコトヲ規定セリ
(二)錯誤ノ登記ハ效力ヲ生セサルヲ原則トス登記ハ公示方法ナルヲ以テ或法定
關係ノ存在アルヲ要件トス登記ニ由リテ存在セサル法律關係ヲ存在セシムル
コト能ハサルト同時ニ又存在スル法律關係ヲ消滅セシムルコト能ハス故ニ錯
誤ノ登記ハ其錯誤ノ部分ニ付テハ法律ニ別段ノ定ナキトキハ何等ノ效力ヲモ
生スルコトナシ獨逸ノ不動産登記法ニ於テハ登記簿ノ登錄ハ絕對ニ法律關係
ヲ定ムル效力アリト爲スヲ以テ錯誤ノ登記モ之ヲ訂正セサル限りハ效力アリ
然レトモ商業登記ニ關シテハ亦公示主義ヲ採用セリ
錯誤ニ因ル登記ハ效力ヲ生スルコト無シト雖モ錯誤ノ登記ニ因リテ第三者ニ
損害ヲ與フルコトナキニ非ス此場合ニ於テハ錯誤ヲ爲シタル者ハ損害賠償ノ
責ニ任セサルヘカラス但シ登記官吏ノ錯誤ニ付テハ法令ノ規定アルニ非サレ
ハ損害賠償ヲ請求スルノ途ナシ獨逸不動産登記法ニ於テハ登記官吏ノ過失ニ
付テハ國家力其責ニ任スルコトヲ規定セリ

(三)登記ト公告トノ關係 登記シタル事項ハ裁判所ニ於テ遲滞ナク之ヲ公告セサルヘカラス而シテ登記事項ハ之ヲ公告スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス是ニ於テ若シ登記ト公告ト矛盾セル場合ニハ如何ナル關係ヲ生スヘキヤ(一)登記ニ錯誤アリテ公告カ却テ真正ナル場合ニ於テハ登記ハ效力ナキヲ以テ公告ヲ以テ第三者ニ對抗スルコト能ハサルハ無論ナリ但シ第三者ニシテ公告ヲ眞實ナリト信シテ取引セルトキハ其善意ニ非サルカ爲メニ事實ヲ以テ之ニ對抗スルコトヲ得ルノミ(二)公告ニ錯誤アル場合ニ於テハ之ニ反シテ其登記ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ヘシ(第一四條夫レ公告ハ公示方法ノ終局ニシテ公告ニ由リテ第三者ニ對抗スル效力ヲ生スルナリト雖モ登記ヲ爲ス者ヨリ觀ルトキハ已ニ相當ノ手續ヲ盡シテ登記ヲ申請セルモノナリ然ルニ裁判所ノ爲シタル公告ニ錯誤アリタルカ爲メ登記ノ效力ヲ失フニ至リテハ是レ登記官吏ノ責任ヲモ負擔スルモノト謂フヘシ由來登記公告ノ制ハ第三者ヲ保護スル主意ニ出ツルト雖モ第三者ノ爲メニ登記義務者ヲ犧牲ニスルハ甚タ酷ナルヲ以テ此規定アルナリ是レ舊商法ニハ缺クル所ナリ

第四章 營業、營業所、商號及ヒ商標

第一 營業

營業ハ主觀的ニ之ヲ言ヘハ商人ノ商業上ノ働キナリ客觀的ニ之ヲ觀レハ商人ノ商業上ノ設備ヲ包括シタル名稱ナリ商業上ノ設備ニハ有體物件アリ債權アリ債務アリ其他種種ナル商業上ノ關係ヲ包含スヘシ營業ニ屬スル財産ハ營業主人ノ財産ノ一部ニシテ營業上ノ權利義務ハ勿論主人ノ權利義務ナリト雖モ通常營業資本ハ主人ノ財産中ヨリ分別セラレ營業上ノ收入支出ハ他ノ收支計算ヨリ分別シテ計算セラレ破産ノ場合ニ於テハ一營業ノ債權者ハ其營業ニ屬スル財産ニ對シテ優先權ヲ有シ又營業ハ特別ノ住所營業所ヲ有シ此住所ニ依リテ裁判管轄ヲ定メ義務ノ履行地ヲ定メ又特別ノ名商號ヲ有シ其名ニ於テ權利ヲ有シ義務ヲ負フヲ以テ恰モ獨立セル一財團人格ナルカ如キ觀アリ

第二 營業所

商人ノ營業ノ本據ヲ營業所ト謂フ營業所ハ必スシモ商人ノ住所ト一致スルモ

ノニ非ス商人ノ商業ヲ營ム場所ニシテ通常店舗金庫倉庫工場等ノ在所ナリ
 一營業ニシテ數多ノ營業所アルモノアリ數多ノ營業所ノ相互間ノ關係ニシテ
 或ハ主從ノ關係アルモノアリ主タルモノヲ本店ト謂ヒ從タルモノヲ支店ト謂
 フ支店ニ似テ非ナルモノアリ出張所代理店等ト稱スルモノ是ナリ支店ト出張
 所又ハ代理店トノ區別ハ支店ハ其本店トノ關係ニ於テハ全然獨立シタル營業
 所ニ非スト雖モ外部ニ對シテハ本店ト等シク自己ノ名ヲ以テ獨立シテ營業取
 引ヲ爲スコトヲ得出張所又ハ代理店ニ於テハ之ニ反シテ單ニ本店ノ名ニ於テ
 其委任セラレタル行爲ヲ爲スコトヲ得ルノミ故ニ支店ハ法律上一箇ノ營業所
 ナリト雖モ出張所又ハ代理店ハ事實上營業ノ場所タルニ止マリ法律上營業所
 ハ本店アルノミ支店ハ本店ト異ナル商號ヲ有スルコトヲ得ヘシト雖モ出張所
 又ハ代理店ハ特別ニ商號ヲ有スルコトナシ支店ハ訴訟ノ當事者ト爲ルコトヲ
 得ト雖モ出張所又ハ代理店ハ訴訟ノ當事者ト爲ルコトナシ又本店ノ所在地ニ
 於テ登記スヘキ事項ハ支店所在地ニ於テモ亦登記スヘキヲ原則トス(第一〇條)
 之ニ反シテ代理店又ハ出張所所在地ニ於テハ登記スルコトヲ要セサルナリ

第三 商號

商號ハ商人ノ營業上ノ名ナリ商人ハ商業取引上ニ於テ常ニ其本名ヲ稱スルハ
 往往不便ナルカ故ニ自ラ一種ノ俗稱ヲ用フルニ至ル是レ古今東西ニ通スル商
 習慣ナルカ如シ此俗稱ヲ商號ト云フ從來屋號ト稱セル所ナリ

商人ハ各其商業上ニ於テ一定ノ信用ヲ有ス此信用ノ目標ハ通常其商號ニ在リ
 故ニ商人ノ信用ヲ保護センカ爲メニハ此商號ヲ保護セサルヘカラス是ニ於テ
 各國商法ニ商號ニ關スル規定アルナリ商號ニ關スル規定ハ第一、商號選擇ノ自
 由第二、商號ノ真誠第三、商號ノ專用第四、商號ノ登記第五、商號ノ讓渡ニ關スル規
 定等是ナリ

一 商號選擇ノ自由 商號ハ商人ノ商取引上ノ稱呼ナルカ故ニ苟モ以テ他人
 ノ稱呼ト區別スルコトヲ得ルニ於テハ如何ナル名稱ヲ用フルモ自由ナルヲ原
 則トス商法第十六條ニ「商人ハ其氏氏名其他ノ名稱ヲ以テ商號ト爲スコトヲ得」
 ト規定セリ

二 商號ノ真誠 商號ハ商人ノ商業上ノ符號ニ過キササルヲ以テ如何ナル名稱

ヲ選擇スルモ自由ナルヲ原則トスト雖モ商號ハ又信用ノ目標タルモノナルヲ以テ世人ヲ誤ラシムル如キ名稱ヲ用フルハ甚タ弊害アリ是ニ於テ一定ノ範圍ニ於テハ商號ノ真誠ヲ必要トスルナリ商法第十七條ニ曰ク「會社ノ商號中ニハ其種類ニ從ヒ合名會社合資會社株式會社又ハ株式合資會社ナル文字ヲ用ユルコトヲ要ス」ト是レ商社會社ハ各其組織ニ隨テ信用ヲ異ニスルモノナルヲ以テ其商號ニハ必ス其組織ヲ明示スルコトヲ要スト規定セルナリ又各商社會社カ其組織ヲ明示スルコトヲ要スルト同シク會社ニ非サル商人ニシテ會社組織ナルコトヲ表示スル商號ヲ選フコトヲ得ス是レ商法第十八條ニ「會社ニ非スシタル商號中ニ會社タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ユルコトヲ得ス會社ノ營業ヲ讓受ケタルトキト雖モ亦同シ」ト規定シ此規定ニ違反シタル者ヲ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處スル所以ナリ(第一八條第二項)獨逸商法ニ於テハ此他尙ホ會社ニ非サル商人ハ其商號ニ必ス其氏名ヲ用フルコトヲ命ジ又營業ノ種類若クハ範圍又ハ營業主人ノ關係ヲ誤ラシムヘキ文字ヲ附加スルコトヲ禁シ且ツ此禁制ノ趣意ヲ貫徹センカ爲メニ營業ト分離シテ商號ノミヲ讓渡スコトヲ禁シタリ(獨

商第一八條第二三條

三 商號ノ專用 商號ハ信用ノ目標ナルカ故ニ同業者タル各商人ノ商號ハ識別セラルルコトヲ要スト他人ノ信用ヲ盜用センカ爲メニ他ノ商號ト同様ナル商號ヲ擇ミ又ハ他ノ商號ト類似ノ商號ヲ用フルカ如キハ所謂不正ノ競爭ノ目的ヲ以テ同一又ハ類似ノ商號ヲ使用スルモノナルヲ以テ之ヲ禁セサルヘカラス即チ不正ナル商號ノ使用ヲ止ムヘキコトヲ請求スル權利ヲ認メタリ(第二

〇條

然レトモ實際ニ於テハ果シテ不正ノ目的ヲ以テ他ト同一又ハ類似ノ商號ヲ使用スルモノナルヤ否ヤハ事實ヲ證明スルコト甚タ難シ故ニ法律ハ之ニ一種ノ推定ヲ下セリ即チ同市町村內ニ於テ同一ノ營業ノ爲メニ他人ノ登記シタル商號ヲ使用スル者ハ不正ノ競爭ノ目的ヲ以テ之ヲ使用スルモノト推定スト(同條第二項)此推定ハ反對ノ證據ヲ以テ對抗スルコトヲ得ルハ無論ナリ此推定ハ同一ノ營業ノ爲メニ同一ノ市町村內ニ於テ商號ヲ使用スル場合ニ限ルモ不正ノ競爭ノ目的ヲ以テ使用スル場合ニハ其區域ヲ限ラサルナリ故ニ苟モ商法ノ施

行區域内ニ在ルトキハ商法第二十條第一項ノ請求權ヲ行使スルコトヲ得ルナ
リ或立法主義ニテハ商號ハ同一ノ營業ニ關シテハ一定ノ區域内ニ於テハ全然
他人ノ使用ヲ禁スルモノアリト雖モ我商法ニ於テハ此主義ヲ採ラス不正ノ競
争ノ目的ヲ以テ使用スルニ非サレハ同一ノ商號ヲ使用スルコトヲ得ルヲ原則
トス但シ同市町村内ニ在リテハ不正ノ競争ノ目的ニ出ルモノト推定セラレル
ノミ故ニ我商法ニ於テハ商號ニハ眞誠ナル專用權ヲ認メス唯第十九條ノ規定
ニ依リ他人ノ登記シタル商號ハ同市町村内ニ於テ同一營業ノ爲メニ登記スル
コトヲ得サラシムルノミナリ之ニ反シテ不正ノ競争ノ目的ヲ以テ他人ノ登記
シタル商號ヲ使用スルトキハ何處ニ於テ之ヲ使用スルモ登記シタル商號所有
者ヨリ其使用ノ禁止ヲ請求スルコトヲ得ルナリ
四 商號ノ登記 商法ハ商人ノ信用ヲ保護スルカ爲メ商號ノ使用ニ關シテ一
定ノ制限ヲ設ケテ正當ナル商號使用ヲ保護ス此保護ヲ受クントスル者ハ其商
號ヲ一般ニ公知セシムルコトヲ要ス即チ商號登記ノ制アリ
商號專用權ハ此登記ニ因リテ始メテ發生スルナリ他人ノ同一商號ノ登記ヲ排

斥スル權利不正ノ競争ノ目的ヲ以テスル商號ノ使用禁止ヲ請求スルノ權利等
皆此登記ニ因リテ發生スルナリ

商號ハ之ヲ專用セントスル場合ニ登記ヲ要スルノミナラス其讓渡ノ場合ニ於
テモ亦之ヲ登記スルコトヲ要ス之ヲ登記セザレハ讓渡ヲ以テ第三者ニ對抗ス
ルコトヲ得ス(第二一條又登記シタル商號ヲ廢止シ又ハ變更シタル場合ニハ抹
消登記ヲ爲ササルヘカラス若シ本人カ抹消登記ヲ爲ササルトキハ利害關係人
ハ裁判所ニ其登記ヲ抹消スルコトヲ請求スルコトヲ得ヘシ此請求アリタルト
キハ裁判所ハ登記ヲ爲セタル者ニ對シ相當ノ期間ヲ定メ異議ノ申立ヲ催告シ
若シ其期間内ニ異議ノ申立ナキトキハ直チニ其登記ヲ抹消スルナリ(第二四條
五 商號ノ讓渡 商號ハ信用ノ目標ナリ之カ使用ニ關シテ特ニ法律ノ保護ア
ルヲ以テ其權利タルコト疑ナシ而シテ此權利ハ私人間ニ對抗力アル權利ナル
ヲ以テ其私權ノ一種タルコト亦疑ナシ然ラハ商號ハ之ヲ讓渡スコトヲ得ヘキ
カ我商法ハ明カニ商號ノ讓渡ヲ認メタリ(第二一條)
商號ハ單獨ニ即チ商號ノミヲ讓渡スコトヲ得ヘキヤ我商法第二十一條及ヒ第

二十二條ノ規定ヲ對照スルトキハ單獨ニ之ヲ讓渡スコトヲ得ト云ハサルヘカ
 ラス獨逸商法及ヒ我舊商法ニ於テハ之ニ反シテ商號ハ營業ト共ニスルニ非サ
 レハ之ヲ讓渡スコトヲ得サルナリ是レ理由ナキニ非ス夫レ商號ハ營業ニ對ス
 ル信用ノ目標ナリ故ニ商號ハ營業ニ從屬スルモノニシテ世人カ或商號ニ對シ
 テ信用ヲ與フルハ某商人ノ營業ニ信用ヲ置ケハナリ故ニ商號ノ使用カ權利ヲ
 成スト云フモ獨立シテ處分セ得ヘキ性質ノモノニ非ス故ニ其營業ト共ニスル
 ニ非サレハ商號ヲ讓渡スコトヲ得スト云フナリ是レ世人ノ商號ニ對スル信用
 ヲ基礎トシテ立法セルモノニシテ一理ナキニ非ス然レトモ商號ノ使用ヲ權利
 トシ保護スルハ商號使用者ヲ他ノ商號使用者ニ對シテ保護セルモノニシテ若
 シ商號使用者ニシテ此權利ヲ拋棄スルニ於テハ何人カ同商號ヲ使用スルモ法
 律ハ之ヲ禁セサルナリ即チ法律カ商號使用權ヲ認メタルハ一般世人ヲ保護ス
 ルヲ目的トスルモノニ非ス商號使用者ヲ保護セントスルナリ故ニ商號使用者ニ
 於テ商號ノミヲ讓渡スト云フハ恰モ其商號使用權ヲ拋棄スルト同シク法律ハ
 強テ之ヲ禁止セサルナリ

商號ノ讓渡アリタルトキハ讓受人ハ讓渡人ノ權利ヲ全然承繼スヘシ故ニ讓渡
 人ハ其商號ヲ使用スルコトヲ得サルハ無論ナリ但シ讓渡ヲ以テ第三者ニ對抗
 スルニハ讓渡登記ヲ爲ササルヘカラス
 商號ハ單獨ニ讓渡スコトヲ得ヘシト雖モ其商人ノ營業上ノ名ナルカ故ニ營業ト
 共ニ讓渡スルヲ以テ通常トス商號ヲ營業ト共ニ讓渡シタル場合ニ於テ讓渡人カ
 其商號ヲ使用スルコトヲ得サルハ無論ナルモ更ニ同一ノ營業ヲ開始スルコト
 ヲ得ルヤ當事者間ニ於テ特約アル場合ニハ無論其特約ノ趣旨ニ從ハサルヘカ
 ラス唯當事者カ特ニ此點ニ關シテ契約セサルトキハ如何法律ハ此場合ニ於テ
 ハ當事者ノ意思ヲ推測シテ同市町村內ニ於テハ讓渡人ハ二十年間同一ノ營業
 ヲ爲スコトヲ得スト規定セリ蓋シ當事者ニシテ商號ト共ニ營業ノ全部ヲ讓渡
 シ他ニ別段ノ意思ヲ表示セサルトキハ其營業ニ屬スル權利義務ハ勿論其營業
 ニ關スル信用其他一切ノ關係ヲ包括シテ俗ニ謂フカハラ讓渡シタル意思ナル
 ヘキヲ以テ讓渡人ハ競爭ト爲ルヘキ營業ヲ爲ササルヘキ趣旨ナリト解釋スル
 ハ當然ノ事理ナルヘシ(第二二條第一項然レトモ各人ハ營業ノ自由ヲ有シ又普

通ノ營業ハ競業者アルニ因リテ發達スルモノナルヲ以テ營業ノ自由ヲ永年拋棄セシムルハ公益ヲ害スル恐ナシトセス故ニ特ニ競業禁止ノ約束アルトキハ其約束ニ從フコトヲ許スト雖モ其年限ヲ制限セサルヘカラス之ト同一ノ理由ニ基キ競業ヲ爲ササルヘキ地區モ亦制限セサルヘカラス是レ第二十二條第二項ニ讓渡人カ同一ノ營業ヲ爲ササル特約ヲ爲シタルトキハ其特約ハ同府縣内且三十年ヲ超エサル範圍内ニ於テノミ其效力ヲ有スト規定セル所以ナリ前述ノ如ク法律ハ當事者ニ特約ナキトキハ二十年間ハ同市町村内ニ於テ同一ノ營業ヲ爲スコトヲ得スト規定シタルヲ以テ他ノ市町村内ニ於テ營業スル場合又ハ同市町村内ト雖モ二十年ヲ過キタルトキハ讓渡人ハ自由ニ同一ノ營業ヲ爲スコトヲ得ヘシト雖モ不正ノ競争ノ目的ヲ以テ同一ノ營業ヲ爲スハ契約ノ意思ニ反スルモノト看做ササルヘカラス又第二十二條第二項ノ制限ハ公益ノ爲メニ設ケタル制限ナリト雖モ此制限ヲ以テ不正ノ競争ヲ目的トスル者ヲモ保護スルノ必要ナシ故ニ第二十二條第三項ノ規定アリ

以上陳述セル商號ト營業トヲ共ニ讓渡シタル場合ノ規定ハ營業ノミヲ讓渡シ

タル場合ニ準用セラル(第二三條)

備考一 營業ハ權利義務ヲ包括スルヲ以テ營業ノ讓渡ハ所謂包括承繼ナリ此包括承繼ハ一箇ノ契約ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ルヤ商法ハ營業讓渡ノ手續ヲ規定セルモノナキヲ以テ商慣習法ニ依ラサルヘカラス而シテ我國ノ商界ニ果シテ此點ニ關スル慣習法アルヤ否ヤ余ハ未タ判知セス若シ商慣習法ナクシテ民法ノ規定ニ依ラサルヘカラス然ルニ民法ニ於テハ各權利各義務ヲ移轉スルニハ各一定ノ規定ニ依ラサルヘカラス(例ヘハ債權ハ讓渡ノ方法更改ノ方法故ニ一箇ノ行爲ヲ以テ營業ヲ讓渡スコトヲ得ス)

備考二 商法施行法第十一條乃至第十三條ヲ參照スヘシ

第四 商標

商號ノ説明ヲ終ルニ臨ミ商標ノ事ヲ一言スヘシ我商法ハ商標ニ付テハ何等ノ規定ナク全ク之ヲ商標法ナル特別法ニ讓レリ而シテ商標法ニ規定セル商標專用權ハ商號專用權ト酷似セル權利ナリ

商標ハ商品ノ製作者又ハ販賣者ヲ表彰スルモノナリ余ハ曩ニ商號ハ商人ノ

信用ノ目標ナルコトヲ述ヘタリ然ラハ商標モ亦信用ノ目標ナリ故ニ商標ヲ犯サルハ即チ信用ヲ犯サルコトト爲ルヲ以テ商號ヲ保護スル必要アリトスレハ商標モ亦之ヲ保護スル必要アルナリ商人カ商標ヲ用ヒテ自己ノ商品ヲ表彰セントスル思想ハ古今東西皆之アリ例ヘハ我邦ニテ古來行ハレタル刀劍ノ銘ノ如シ但シ往時法令ノ之ヲ規定セルモノナカリシヲ以テ之ヲ權利トシテ主張スルコトヲ得ナリシカ近世社會ノ經濟狀態ハ商業ノ發達ヲ圖ルニ急ナルカ故ニ商業上ノ信用ヲ保護スルニ必要ナル手段トシテ文明諸國ハ概テ法令ヲ以テ商標ノ使用ヲ保護シ遂ニ商標專用權ヲ認ムルニ至レルナリ

商標ハ文字圖形又ハ記號ヲ用フルコトヲ得又其選擇ハ自由ナルヲ原則トス然レトモ唯左ノ制限ニ從ハサルヘカラス(商標法第二條)

- 一 菊花御紋章ト同一若クハ類似ノ圖形ヲ有スルモノ
- 二 國旗軍旗勳章又ハ外國ノ國旗ト同一若クハ類似ノモノ
- 三 秩序又ハ風俗ヲ紊リ若クハ世人ヲ欺瞞スルノ虞アルモノ
- 四 他人ノ登錄商標又ハ其登錄失效後一年ヲ經過セサルモノト同一若クハ

類似ニシテ同商品ニ使用セントスルモノ

五 此法律施行前ヨリ他ニ使用者アル商標ト同一若クハ類似ノモノ

六 商品ノ普通名稱產地ヲ表彰スルモノ又ハ其品位品質形狀ヲ商業上慣用

ノ文字圖形若クハ記號ニ依リ表彰スルモノ及ヒ普通ニ使用セラルル氏名

商號會社名若クハ組合名ヲ普通ノ書體ニ依リ記載スルモノ

七 欄地紋其他特別著明ノ外觀ナキモノ

等ハ商標ト爲スコトヲ得サルナリ

商號ハ商人ノ營業上ノ名ナルカ故ニ一營業ニ付キ唯一ナルコトヲ要スレトモ商標ハ商品ノ表彰ナルカ故ニ商品ノ種類又ハ品質ニ從テ各別ノ商標ヲ用フル

コトヲ妨ケス

商標專用權ハ登錄ニ因リ始メテ發生スルコト恰モ商號專用權カ登記ニ因リテ發生スルカ如シ登錄ハ農商務省特許局ニ備フル登錄原簿ニ記入スルニ依リテ之ヲ爲スナリ

商標專用權ノ效果ハ商號專用權ノ效果ト酷似スト雖モ比較的ニ強力ナリ商號

ノ登記ヲ爲シタル者ハ唯不正ノ競争ノ目的ヲ以テ同一又ハ類似ノ商號ヲ使用
スル者ニ對シテ損害ノ賠償及ヒ其使用ヲ止ムヘキコトヲ請求スルコトヲ得ル
ニ止マルモ商標專用權ノ效果ハ他人ノ登錄商標ナルコトヲ知其承諾ヲ經
スシテ之ト同一又ハ類似ノ商標ヲ製造シ之ヲ交付若クハ販賣シタル者又ハ他
人ノ登錄商標ト同一若クハ類似ノ商標ヲ同商品ニ使用シタル者又ハ情ヲ知リ
テ其商品ヲ販賣シ若クハ販賣ノ爲メ所藏シタル者ニ一月以上二年以下ノ重禁
錮又ハ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ヲ科セリ(第二〇條商標法第一六條又他人
ノ登記シタル商號ト同一若クハ類似ノ商號ヲ登記スルコトヲ得サルハ同市町
村内ニ限ルト雖モ商標ハ之ニ反シテ土地ニ制限ナキヲ以テ商標法ノ施行區域
内ニ於テハ何處ニ於テモ他人ノ登錄シタル商標ト同一又ハ類似ノ商標ノ登錄
ヲ受クルコトヲ得サルナリ(第一九條商標法第二條第四號)

商標專用權モ亦之ヲ讓渡スコトヲ得但シ商號ハ單獨ニ讓渡スコトヲ得ルモ(第
二二條商標ハ營業ト分離シテ讓渡スコトヲ許サス)商標法第六條前ニ商號ノ讓
渡ヲ説明スルニ當リ商號專用權ヲ認メタルハ商號使用者ノ利益ヲ保護スルニ

在ルヲ以テ商號使用者ノ意思ニ反シテ其讓渡ヲ制限セサルコトヲ述ヘタリ然
ルニ商標法ニ於テハ商標使用者ノ利益ヲ保護スルト同時ニ世人ヲシテ信用ノ
目標ヲ認ラシメサル目的ヲ以テ商標主カ營業ヲ讓渡シ又ハ他人ト其營業ヲ共
ニスル場合ニ非サレハ商標ヲ讓渡スコトヲ得スト規定セリ是レ商法ノ商號ニ
關スル規定ト立法ノ精神ヲ異ニスル所アルナリ

又商號ノ專用權ハ年限ニ制限ナシト雖モ商標專用權ニハ之ニ反シテ二十年ノ
年限アリ(商標法第三條)但シ專用年限満了ノ後尙ホ其商標ヲ續用セントスル者
ハ更ニ其登錄ヲ受クルコトヲ得ルナリ(同第四條)

備考 商號專用權及ヒ商標專用權ハ共ニ一種ノ私權ニシテ又所謂財產權ナ
リ然レトモ民法ニ所謂物權ニモ非ズ又債權ニモ非ス若シ夫レ財產權ヲ分
テテ對世權對人權ト區別スルトキハ則チ對世權ニ屬スルモノナリ

第五章 商業帳簿

歐洲ニ於テハ中世紀ノ頃已ニ商人ハ其財産上ノ地位及ヒ日常ノ取引ヲ明瞭ナ

ラシムヘキ帳簿ヲ備フルノ義務アリキ商業帳簿ハ概シテ三種アリ(一)日記帳(二)財産目録(三)貸借對照表是ナリ

(一) 日記帳ハ日常ノ商取引及ヒ財産ニ影響ヲ及ホスヘキ一切ノ事項ヲ日記録スル所ノモノニシテ(第二五條)商人ハ整然且ツ明瞭ニ日記帳ヲ記載セサルヘカラス商人カ商業帳簿ニ記載スヘキ事項ハ必スモ其商業上ノ事項ニ限ラス荷モ其財産又ハ財産ニ影響ヲ及ホス事項ハ一切之ヲ記載スルコトヲ要ス蓋シ普通商人ハ其商業ノ爲メニ資本ヲ分別スルコトアリト雖モ商業資本モ亦商人ノ財産ナルヲ以テ彼此判然タル區別アルニ非ス如何ニ之ヲ流用スルモ妨ナキナリ故ニ商人ノ財産上ノ地位ヲ明カニセント欲セハ其商業上ノ事項ナルト否トヲ問ハス總テ之ヲ記載セシムルコトヲ要スルナリ故ニ家事費用ノ如キモ亦之ヲ記載セシメサルヘカラス然レトモ家事費用ハ日日之ヲ記載スルコトヲ要セス一箇月毎ニ其總額ヲ掲ケシムルナリ又小賣取引ノ如キハ同シク商取引ナリト雖モ之ヲ各取引毎ニ記載スルハ其繁ニ堪ヘサルノ恐アルヲ以テ日日ノ賣上總額ノミヲ記載セシムルナリ但シ現金賣ト掛賣トヲ區別シテ掲ケタルコ

トヲ要ス蓋シ掛賣ハ債權ヲ設定スルモノニシテ直チニ代價ヲ受取ル現金賣ト其財産ニ及ホス影響ヲ異ニスル所アルヲ以テナリ

(二) 財産目録 財産目録ハ或時期ニ於ケル商人ノ財産ノ現在ヲ示スヲ目的トスルモノニシテ動産不動産等ノ有體財産ハ勿論債權債務消極財産其他一切ノ財産關係ヲ記載シタル帳簿ナリ此財産目録ハ財産ノ現狀ヲ示スヲ目的トスルモノナルヲ以テ目録ノ各科目ニ其當時ニ於ケル價格ヲ附スルコトヲ要ス故ニ同一ノ財産科目ニシテ前後ノ財産目録ニ於テ其價格ヲ異ニスルコトアルヘク又債權ノ如キハ辨濟ヲ得ヘキ限度ニ於テ其價格ヲ計算セサルヘカラス隨テ全ク辨濟ヲ得サルヘキ債權ノ如キ科目ハ之ヲ掲載スルモ價格ヲ附スルコトヲ得サルナリ(第二六條)舊商法第三二條第二項

(三) 貸借對照表 貸借對照表ハ商人ノ資産ト負債トノ關係ヲ表明スルモノナリ其財産目録ト異ナル所ハ財産目録ハ財産關係ノ全面ヲ明カニスルヲ以テ目的トシ貸借對照表ハ單ニ權利義務ノ對照ヲ一目瞭然タラシムルヲ目的トスルモノナルヲ以テ貸借對照表ハ財産目録ノ摘要ニ過キサルナリ舊商法ニ於テハ

財產目錄ニ記載スヘキ事項ヲ動產不動產ノ有體財產ニ限リタリ其何故ニ債權ノ記載ヲ不用ト認メシヤ解スルコト能ハス且ツ財產目錄ハ財產ノ現狀ヲ示スヲ目的トスルモノナレハ債權モ亦之ヲ記載セサルヘカラス舊商法ハ又貸借對照表ニ於テモ各箇科目ノ價格ヲ附記スルコトヲ命シタルヲ以テ貸借對照表ハ却テ財產目錄ヨリ明細ナル財產表ニシテ已ニ貸借對照表ヲ作成スル以上ハ故ラニ財產目錄ヲ作ルノ必要ナキカ如シ新商法ニ於テハ歐洲ノ商業帳簿ノ實際ニ鑑ミテ財產目錄ヲ以テ權利義務ノ明細表ト爲シ之ヲ摘要シテ貸借對照表ヲ作リ權利義務ノ比較ヲ一目瞭然タラシムル主義ヲ採レルナリ

今左ニ參考トシテ明治二十六年大藏省令第七號銀行條例施行細則ニ依ル財產目錄及ヒ貸借對照表ノ書式ヲ掲ケテ之ヲ説明スヘシ

(第二號)

本店貸借對照表

借 方	摘 要	貸 方
	定期預金	13,000,000
	當座預金	37,053,000
	支拂送金手形	2,547,000
	他店ヨリ借(幾箇所)	2,600,000
		
17,500,000	貸付金	
765,500	當座預金貸越	
32,184,500	割引手形	
2,500,000	荷爲替手形	
5,200,000	公債證書	
18,500,000	他店ニ貸	
4,100,000	支店ニ貸	
5,000,000	支店元金	
		
	資本金	100,000,000
50,000,000	拂込未済資本金	
	積立金	7,000,000
	當期純益金	1,976,000
		
1,300,000	營業用地所建物	
200,000	同什器	
26,926,000	金銀有高	
		
16,176,000	合 計	164,176,000

第何期貸借表

資 産		金 額		負 債		金 額
貸 付 金	二九、九〇〇	〇〇	〇〇	定 期 預 金	二一、五〇〇	〇〇
當 座 預 金	一三、〇〇〇	〇〇	〇〇	當 座 預 金	六二、一六五	〇〇
割 引 手 形	五一、四七一	〇〇	〇〇	支 拂 送 金 手 形	四、四〇〇	〇〇
荷 爲 替 手 形	四三、〇〇〇	〇〇	〇〇	他 店 ヨリ 借	一四、七八五	〇〇
公 債 證 書	七五、〇六〇	〇〇	〇〇	資 本 金	一〇〇,〇〇〇	〇〇
他 店 へ 貸	二九、五二四	〇〇	〇〇	積 立 金	七〇,〇〇〇	〇〇
拂 込 未 済 資 本 金	五〇,〇〇〇	〇〇	〇〇	當 期 純 益 金	二,四六四	〇〇
營 業 用 地 所 建 物	二〇〇,〇〇〇	〇〇	〇〇			
同 什 器	二五,〇〇〇	〇〇	〇〇			
金 銀 有 高	三五,九八七	〇〇	〇〇			
内 譯						
合 計	二二二,三八〇	〇〇	〇〇	合 計	二二二,三八〇	〇〇

財產目錄

種類	摘要	金額
貸付金證書	三十三口通	二九九〇〇〇〇〇
當座預金	三十一枚	一三〇〇〇〇〇〇
割引手形	三十五枚	五一四七一〇〇〇
荷爲替手形	十五圓	四三〇〇〇〇〇〇
國債證券	十面七千圓	五五〇六〇〇〇〇
地方債證券	券面二千圓	二〇〇〇〇〇〇〇〇
他店へ貸	何箇所	二九五二四〇〇〇
營業用地所	三三百坪	八〇〇〇〇〇〇〇
營業用家作土藏	三棟建坪七十坪	一二五〇〇〇〇〇
營業用什器	金匣外何點	二五〇〇〇〇〇〇
拂込未濟資本金	八社株主三十名株式二千株又 現株主何名	五〇〇〇〇〇〇〇〇
合計		三三九八七〇〇〇〇
二二二三八〇〇〇〇		

右書式中第二號及ヒ第九號共ニ銀行ノ貸借對照表ノ圖式ヲ示シタルモノニシテ第二號ハ洋式ニ則リ第九號ハ之ヲ和式ニテ示セシノミ此ニ怪シムヘキハ第二號式ニ於テ借方ト名クルモノハ第九號式ニ於テ資産ト名ケラレ第九號式ノ負債科目ハ第二號式ニ於テ貸方科目ナリ何故ニ資産カ借方ニシテ又借方カ負債ナルヤ第九號式ニ於テ資産ト名クル所ノモノハ營業ヲ恰モ一財團ノ如ク看做レ營業財團ノ權利ニ屬スヘキ科目ヲ舉ケタルナリ隨テ其負債ハ營業財團カ資本主又ハ債權者ヨリ借受ケタル科目ナリ即チ營業財產ヨリ其債權者債務者又ハ資本主ニ對スル貸借關係ヲ見タルヲ以テ資産ハ營業財團ノ權利ニシテ負債ハ營業財團ノ義務ナリ然ルニ第二號式ニ於テハ之ニ反シテ資本主又ハ第三者ヨリ營業財團ニ對スル貸借關係ヲ觀タルモノナルヲ以テ第九號式トハ全ク反對ニシテ貸方ハ資本主又ハ債權者ノ權利ニシテ營業ノ負債ナリ隨テ借方ハ債務者ノ負債ニシテ營業ノ權利ナリ此ノ如ク第二號式ト第九號式トニ於テハ各觀察點ヲ異ニスルヲ以テ全ク反對ナル科目ヲ名クルニ至リ大ニ世ノ營業者ヲ誤リタルカ如シ余ハ寧ロ第九號式ノ主義ニ左祖スルモノナリ何トナレハ貸

借對照表ハ營業財產ノ貸借關係ヲ示スヘキモノナルヲ以テ營業ヲ我トシテ編製セサルヘカラサルナリ會社ノ貸借表ニ至リテハ會社即チ商人ナルヲ以テ此理益明白ナリトス

第十一號式ハ銀行ノ財產目錄ヲ示シタルモノナリ而シテ其債權ヲモ掲ケタルハ舊商法ノ動產不動産ト限リシニ勝ルコト明カナリ然レトモ第十一號式ヲ取リテ第九號式ノ資産ノ部ト比較スルトキハ如何ノ差異カアル殆ト同一ナリト云フモ不可ナキカ如シ此ノ如クナレハ特ニ財產目錄ヲ作ラシムル必要ナカルヘシ財產目錄ノ摘要欄ニ於テ例ヘハ貸付金證書ノ三十通トアルモ其價格ハ合計ノミヲ掲ケタルニ於テハ尙ホ營業財產ノ狀態ヲ詳ニスルコトヲ得サルヘシ宜シク其各通ニ就テ目錄調製ノ際ニ於ケル價格即チ損失ト爲ルヘキ部分ヲ控除シタル金額ヲ記載セシメサルヘカラス新商法第二十六條ノ趣旨ハ此ニ在ルナリ

財產目錄及ヒ貸借對照表ハ商人開業ノ時又會社ニ在リテハ設立登記ノ時ニ之ヲ作リ又毎年一回一定ノ時期ニ於テ之ヲ作ラサルヘカラス又年二回以上利益

ノ配當ヲ爲ス會社ニ在リテハ毎配當期ニ之ヲ作ルコトヲ要ス
 財産目録及ヒ貸借對照表ハ普通商人ニ在リテハ先ツ開業ノ時ニ之ヲ作り會社
 ニ在リテハ會社設立登記ノ時ニ之ヲ作ルコトヲ要ス舊商法ハ會社ニ在リテモ
 開業ノ時ニ之ヲ作ラセムル規定ナリシカ實際會社ノ開業ハ設立登記後數多ノ
 日子ヲ隔ツルコトアリ而シテ設立登記後ハ會社ハ獨立セテ權利義務ノ主體タ
 ルヲ以テ開業前ト雖モ設立登記ヲ終リタルトキハ其財産關係ヲ明カニスルコ
 ト必要ナリ故ニ新商法ハ先ツ設立登記ノ時ニ於テ之ヲ作ルコトヲ要スト改メ
 タルナリ又財産目録貸借對照表ハ年年一定ノ時期ニ於テ之ヲ作ラサルヘカラ
 ス又年二回以上利益ノ配當ヲ爲ス會社ニ在リテハ配當期毎ニ之ヲ作ラセム蓋
 シ配當ヲ爲スニハ決算ヲ爲ササルヘカラス決算ヲ爲スニハ財産目録貸借對照
 表ヲ明カニセサルヘカラス

商人ハ其商業帳簿及ヒ營業ニ關スル信書ヲ十年間保存スル義務アリ新商法ニ
 於テハ舊法ノ如ク商業帳簿ニ法律上ノ證據力ヲ與フル主義ヲ採ラス蓋シ帳簿
 ニ法定證據力ヲ認ムルハ民事訴訟法ノ探證自由ノ原則ト抵觸スルヲ以テナリ

然レトモ商業帳簿及ヒ營業上ノ信書ハ商業上ノ法律關係ノ爲メニハ有力ナル
 證據ト爲ルヘキモノナリコサク氏曰ク商業帳簿ニ營業者ノ不利益ト爲ルヘ
 キ記載アルトキハ是レ營業者ノ裁判所外ノ自白ナリ若シ又營業者ノ利益ト爲
 ルヘキ記載アルトキハ營業者ノ裁判所外ノ立證ナリト商業帳簿カ事實上有力
 ナル證據トシテ參考セラルヘキハ勿論ナリト雖モ其如何ナル程度ニ於テ效力
 アルヤハ各事件ニ關シテ裁判官ノ認定スル所ナリ

備考 明治三十二年六月八日大藏省令第二十四號ヲ以テ銀行條例施行細則
 ヲ改定シ新商法實施ノ日ヨリ之ヲ施行セリ然ルニ省令中財産目録ノ書式
 (第九號第一一號)ハ舊施行細則所掲ノモノト異ナルコトナク單ニ積極財
 産ノ科目ヲノミ掲ケタルハ商法第二十六條ノ規定ニ違反スルノ疑ナキ能
 ハス

商法第二十六條ハ明カニ財産目録ニ債務ヲモ記載スヘキコトヲ規定セタ
 リ然レトモ財産目録ニ記載スヘキ債務科目ハ必スシモ貸借對照表ノ負債科
 目ト一致スルモノニ非ス何トナレハ貸借對照表ノ負債ノ部ハ營業カ第三

者ニ對スル債務關係ノミナラス營業カ金庫資本主ニ對スル債務ヲモ包含
スルモノナリ營業者カ營業資本ヲ他ヨリ借入レタルト否トニ拘ラス常ニ其
資本ヲ負債科目ニ掲クルナリ故ニ會社ニ在リテハ株金ヲ負債科目ニ掲ケ
商人營業ニ在リテハ其營業資本トシテ分別シタルモノヲ負債科目ニ掲ケ
ルヲ常トス是レ蓋シ貸借對照表ニ在リテハ貸借關係ヲ明カニスルカ爲メ
ニ資産ト負債トハ互ニ反對科目ヲ成シテ貸借關係ノ平準ヲ求メントスル
ヲ以テナリ財産目錄ハ之ニ反シテ財産ノ現況ヲ明細ニ示スヲ以テ目的ト
スルカ故ニ權利ト義務トヲ詳細ナル科目ニ列舉スルヲ以テ足レリトス故
ニ各科目ニ付キ必スシモ反對科目ヲ舉クルコトヲ要セス單ニ財産ト負債
トヲ表明スレハ可ナリ今試ミニ新商法ノ主義ニ從ヒ財産目錄ノ書式ノ一
案ヲ掲ケテ諸君ノ參考ニ供セン

財産目錄

積極財産ノ部

第一 不動産

一 地所

宅地、所在地、
地、坪數ヲ
記スヘシ

二 建物

家屋、所在地、
土藏、坪數ヲ
記スヘシ

小計

第二 動産

一 什器

圖、椅子、
書、箱、
シ、スヘ

二 商品

何圓幾風

消極財産ノ部

第一 借入金

一 借入金

何圓幾風、
利子ヲ
記スヘシ

小計

第二 預り金

一 預り金

何圓幾風、
利子ヲ
記スヘシ

小計

第三 未拂金

何圓幾風

第三 有價證券

一公債

整理公債
シヲ記スヘ

二株券

日本銀行株券
第百銀行株券
券數旁面
額達額
シ
フ
記
ス
ヘ

● 小計

第四 現金

二 正
氏 符

三 兌換券

第五 債權

一 預ケ金

、何何
、某某

二 貸付金

何某	何某
付金額及	抵當人有無
利	利

三、

11

以上合計

72

22

1

1

1

100

商法總則 商業帳簿

七九

0177

第六章 商業使用人

本章及ヒ次章ハ商人ノ商業上ノ機關タルヘキ者ヲ規定セリ本章ハ舊商法第一編第五章代務人及ヒ商業使用人ニ該當スルモノニシテ舊法ノ所謂代務人ト商業使用人トヲ總稱シテ商業使用人ト名ケタルナリ商業使用人ト商業主人トノ關係ハ設定行為ニ基クモノニシテ此設定行為ノ趣旨ニ從ヒ商業使用人ノ權利義務一様ナラス此權利義務ノ體様ニ從テ法律ハ更ニ商業使用人ニ種種ノ名稱ヲ區別シ支配人手代番頭等ト稱スルナリ

商業使用人ヲ設定スル行為ハ總テ民法上ノ行為ナリ委任・雇傭・代理權ノ授與等故ニ商業使用人ノ權利義務又ハ主人ト第三者トノ關係ニシテ商事上特別規定ヲ要セサルモノハ商法ニ於テ規定スル必要ナシ是レ新商法カ舊法ノ代務人及ヒ商業使用人ニ關スル數多ノ規定ヲ削除セシ所以ナリ

商業使用人ヲ分チテ二種トス一ハ主人ニ代リテ法律行為ヲ爲スコトヲ得ル權限ヲ有スル者ナリ二ハ主人ニ代リテ法律行為ヲ爲ス權限ヲ有セサル者ナリ第

一種ニ屬スル者ハ支配人手代番頭等ナリ支配人手代番頭ニ非サル商業使用人ハ第二種ニ屬スル者ト推定セラル(第三四條)然レトモ實際此二種ノ商業使用人ハ必ス常ニ判然タル區別アルモノニ非ス即チ支配人ニシテ法律行為ニ非サル事務ヲモ擔任スル者アリ又支配人手代番頭ニ非スシテ法律行為ヲ爲スヘキ委任ヲ受クル者アルナリ第一種ノ内更ニ支配人手代番頭トハ權限ノ性質ニ區別アリ支配人ノ權限ハ法律上一定ノ範圍アリ主人ハ之ヲ制限スルコトヲ得ルモノヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルナリ手代又ハ番頭ノ權限ハ之ニ反シテ其代理權ノ範圍ハ一ニ代理權設定行為ノ趣旨ニ因リテ定マリ法律上ノ制限ナシ

第一節 代理權アル商業使用人

第一 支配人

商人ハ其本店又ハ支店ニ於テ其商業ヲ營マシムル爲メニ支配人ヲ選任スルコトヲ得新商法ハ支配人選任ノ方法ハ總テ民法ノ代理權設定方法ニ依ルヘキモ

ノトシ選任ヲ登記セシムル外別段ノ規定ヲ設ケス舊商法ニ於テハ支配人ノ選任ニハ明示ノ委任ヲ要スルコトヲ規定セリト雖モ已ニ登記セシムル以上ハ必スシモ明示ノ委任ヲ必要トセサルヲ以テ削除セリ
支配人選任ニ關シテ一問題アリ即チ共同支配人ヲ選任スルコトヲ得ルヤ是ナリ

舊商法及ヒ獨逸商法ハ共ニ共同代務人ヲ認メタリ然ルニ新商法ニハ其規定ヲ削除セリ是ニ於テ解釋上共同支配人ヲ置クコト得ルヤ否ヤノ疑問ヲ生ス按スルニ此問題ハ支配人ノ共同ハ支配人ノ代理權ノ制限ト爲ルヤ否ヤノ問題ニ歸スルナリ抑モ共同支配人トハ如何ナル權限ヲ有スルモノナルヤ獨逸舊商法第四十四條ニハ共同代務^{「ジェーツフロゲル」}ニ在リテハ各代務人ハ其名ヲ商號ニ附記セサルヘカラスト規定セリ獨逸新商法ハ此規定ヲ以テ當然ナリト爲シ削除セリ又我舊商法第四十四條ニ依レハ共同代務人ハ總員共同ニ非サレハ代理行爲ヲ爲スコトヲ得ス此等ノ規定ニ就テ所謂共同支配人ノ權限ヲ推測スルトキハ共同者ノ各人ハ獨立シテ支配人ノ全權ヲ有スルモノニ非サルハ勿論支配人ノ權限ヲ分別シ

テ各人カ之ヲ分擔スルノ謂ニ非ス恰モ共有者ノ權利ノ如ク各人カ支配人ノ事務ノ各部ニ權限ヲ有シ而モ其權限ハ完全ナル代理權ニ非スシテ他ノ支配人ト共同シテ始メテ行フコトヲ得ヘキ權限ナリ即チ共同支配人總員カ一支配人タルナリ此總員ヲ以テ一支配人ト視ル以上ハ支配人ノ權限ハ一モ制限セラレタル所ナシ已ニ支配人ノ權限ヲ制限シタルモノニ非ストスレハ法律ノ禁スル所ニ非サルヲ以テ共同支配人ヲ選任スルコトヲ妨クサルナリ此ニ注意スヘキハ支配人ノ權限ヲ共同シテ行ハシムルコトハ妨ケナキモ權限ヲ區分シテ數人ニ分與スルコトハ爲シ得サルナリ支配人ノ權限ヲ數人ニ分與スルトキハ各員ハ其分擔事務ニ付テハ專權ヲ有スト雖モ他ノ事務ニ關シテハ毫モ權限ヲ有セス是レ支配人ノ權限ヲ共同ニ行フモノニ非スシテ各部分ノ事務ニ付キ完全ナル代理權ヲ有スルノミ夫レ支配人ノ權限ハ法定ニシテ分割スルコトヲ得ス之ヲ分割スルトキハ手代番頭等ノ代理權ト同種ニシテ復タ支配人ノ權限ニ非ス然レトモ主人ノ營業ニシテ數多ノ營業所(支店アル場合ノ如キ)アル場合ニ於テ各營業所ニ支配人ヲ置キ其營業所ノ事務ニ付テノミ支配人ノ權限ヲ付與スルハ法

律ノ許ス所ナリ第二十九條ニ曰ク商人ハ支配人ヲ選任シ其本店又ハ支店ニ於テ商業ヲ營マシムルコトヲ得ト即チ本店又ハ支店ノ事務ニ專任ノ支配人ヲ置クコトヲ認メタルナリ而シテ此場合ニ於テハ其所管營業所ノ事務ニ關シテハ一切ノ權限ヲ有スルモノナリ

支配人ハ主人ニ代リテ其商業ヲ營ミ其商業ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス而シテ支配人ハ民法第一百四條ノ規定ニ依リ其事務ニ關シ復代理人ヲ選任スルコトヲ得ト雖モ已ニ商業ニ關スル一切ノ代理權ヲ有スル者ナルヲ以テ之ニ手代番頭等ノ使用人ヲ選任解任スル全權ヲ認ムルハ實際ニ便利ニシテ寧ロ主人ノ意思ニモ適フナリ故ニ法律ハ明カニ之ヲ支配人ノ權限ニ屬セシメタリ(第三〇條第二項然レトモ支配人カ支配人ヲ選任スルコトヲ許ササルナリ)

上述ノ如ク支配人ハ營業ニ關スル一切ノ事務ニ代理權ヲ有シ又支配人ノ外總テノ商業使用人ヲ選任解任スルコトヲ得ル權限ヲ有ス此ノ如ク支配人ノ權限ハ法律ニ依リ其範圍一定ス是レ支配人カ手代番頭等ト異ナル所ナリ然レトモ

主人ハ支配人ノ法定權限ヲ制限スルコトヲ得ヘン但シ此制限ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス(第三〇條第三項獨逸商法ニ於テハ支配人ハ不動產ノ讓渡質貸及ヒ不動產所有權ニ制限ヲ受クヘキ行爲ニ付テハ特ニ委任アルニ非サレハ代理權ナシト雖モ其權限ノ制限ハ第三者ニ對シテハ善意惡意ヲ問ハス絶對ニ效力ナシ抑モ善意ト惡意トハ之ヲ判別スルコト甚タ難シ故ニ支配人ノ權限ノ制限ハ第三者ニ對シテハ絶對ニ效力ナシト規定スルコト便利ナルカ如シ然レトモ是レ我國ノ習慣ニ非サルノミナラス此制限ヲ知リテ支配人ト取引セル者ハ支配人自身ト取引セル意思ニ非スハ主人ノ追認ヲ得テ始メテ有效ト爲サントスル意思ヲ以テ取引セルモノト謂ハサルヘカラス然ラハ法律カ強テ之ヲ主人ノ行爲ト看做シテ主人ニ責任ヲ負ハシムル必要ナキナリ且ツ夫レ惡意ナルコトヲ證明スル責任ハ主人ニ在ルヲ以テ無辜ノ第三者ヲ害スルコトハ少カルヘシ

支配人ノ權限ハ法定ニシテ其範圍極メテ廣シ故ニ主人ノ信用ヲ負フコト亦隨テ大ナリ是ヲ以テ支配人ハ主人ノ商業ノ爲メニ其全力ヲ盡ササルヘカラサル

ハ理ノ當ニ然ルヘキ所ナリトス故ニ法律ハ支配人ヲシテ此忠實義務ヲ盡サシメンカ爲メニ支配人ハ主人ノ許諾アルニ非サレハ自己又ハ第三者ノ爲メニ商行爲ヲ爲セ又ハ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得スト規定セリ蓋シ合名會社合資會社等ノ無限責任社員ハ必スシモ其會社ノ事務ヲ執行スルモノニ非スト雖モ其會社ト利害關係甚タ深密ナルカ故ニ主人ノ營業ト利害ノ衝突ヲ來スコトナシトセサルナリ株式會社ノ取締役ノ如キハ其ノ會社即チ第三者ノ爲メニ商行爲ヲ爲スモノナルヲ以テ支配人ハ取締役ニ選任セラルルコトヲ得ス此ニ注意スヘキハ此支配人ノ行爲ニ關スル禁止規定ト似テ非ナルモノアリ代理商(第三八條)及ヒ株式會社ノ取締役第一七五條ノ禁止規定是ナリ代理商又ハ取締役ニ關シテハ本人ノ營業ニ屬スル商行爲ヲ爲スコト又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ禁シタリ是レ代理商又ハ取締役ニ在リテハ主トシテ利害ノ衝突ヲ恐レタルナリ之ニ反シテ支配人ハ單ニ利害ノ衝突ヲ避クヘキノミナラス主人ノ商業ノ爲メニ全力ヲ盡スヘキモノト爲シ營業ノ同種ト否トヲ問ハス總テノ商行爲ヲ禁シ又一般ニ商事會社ノ無限責任社員タ

ルコトヲ禁シタルナリ

支配人カ此禁止ニ違反シテ自己ノ爲メニ商行爲ヲ爲シタルトキハ主人ハ之ヲ以テ自己即チ本人ノ爲メニ爲シタルモノト看做スコトヲ得第三二條第二項此權利ハ支配人ニ對スル權利ニシテ之ヲ以テ第三者即チ相手方ニ對抗スルコトヲ得ス故ニ本人ハ唯支配人ニ對シテ其行爲ヨリ得タル物件又ハ權利ノ移轉ヲ請求シ得ヘキノミ而シテ此權利ハ其行爲ヲ主人カ知リタルトキヨリ二週間之ヲ行ハサルトキ又ハ行爲ノ時ヨリ一年ヲ經過セタルトキハ消滅ス

支配人ノ權限ハ民法ノ代理權消滅原因ニ因リテ消滅ス支配人代理權ノ消滅ハ之ヲ登記スルコトヲ要ス即チ支配人ノ選任及ヒ其代理權ノ消滅ハ登記ニ因リテ第三者ニ對シ效力ヲ生スルナリ

注意 支配人ハ必ス支配人ト稱スルコトヲ要スルヤ或ハ他ノ名稱ヲ附スルコトヲ得ルヤ法律ニ規定ナシ然レトモ特ニ之ヲ禁セサル限リハ他ノ名稱ヲ附スルモ妨ケナカルヘシ但シ支配人ニ非サル者ハ支配人ト稱スルコトヲ得スト信ス何トナレハ商法施行法第十九條ニ於テ從來支配人又ハ支配役ト

稱スル者ニシテ支配人ノ權限ヲ有セサル者ハ商法施行ノ日ヨリ三箇月内ニ其名稱ヲ改ムヘキコトヲ命シタルヲ以テ商法ハ支配人ニ非サル者ハ支配人ト稱スルコトヲ許ササル精神ナリト解釋セサルヘカヲサレハナリ又立法ノ理由ヨリ推測スルモ支配人ノ權限ハ甚タ強大ナル法定權限ナルニ支配人ニ非サル者ヲテ支配人ナル名稱ヲ借用セシムルハ公衆ヲ惑ハスノ恐アルナリ然レトモ商法施行後ニ於テ支配人ニ非スセテ支配人ト稱スル者アラハ之ヲ如何ニ處置スヘキカ商法施行法第十九條第二項ハ商法施行前ヨリ支配人又ハ支配役ト稱スル者ニ關シテハ之ヲ支配人ト看做スト規定セルニ拘ラス商法施行後ニ支配人ト稱スル者ニ關スル規定ナキヲ以テ之ト取引ヲ爲セタル第三者ハ本人ノ追認ヲ求ムルカ又ハ民法第百十條又ハ損害賠償ノ規定ニ依リ救済ヲ求メサルヘカラス

第二 手代番頭

手代及ヒ番頭ハ代理權ヲ有スル商業使用人ナリト雖モ其代理權ノ範圍ハ法律上一定セシ是レ手代及ヒ番頭カ支配人ト異ナル要點ナリ手代及ヒ番頭ノ權限

ハ法律ニ定限ナキヲ以テ商人ハ其代理權設定行爲ニ因リテ其範圍ヲ定メ即チ或種類又ハ特定ノ事項ヲ隨意ニ委任スルコトヲ得ヘク又一人ノ手代又ハ番頭ニ其營業ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ與フルコトモ得ヘシ此ノ如ク一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ與ヘラレタル場合ニ於テハ手代又ハ番頭ト支配人トハ如何ノ差異アルヤ其權限ノ廣狹ニ區別ナキコト明カナリ而シテ手代又ハ番頭ノ權限モ代理權ナリ支配人ノ權限モ亦代理權ナリトスレハ權限ノ性質モ亦區別スルコトヲ得サルナリ之ヲ要スルニ手代番頭ト支配人トノ區別ハ一ハ法律ニ依リテ其權限一定セラレ之ヲ制限スルモ善意ノ第三者ニ對シ效力ナキト一ハ其權限ノ範圍ハ本人ノ隨意ナルトニ在リ即チ兩者ノ區別ハ全ク權限ノ形式的效力ニ在ルナリ

手代番頭ノ權限ハ各其設定行爲ニ因リテ定マルト雖モ設定行爲ニ於テハ毎ニ完全ニ其權限ノ限界ヲ示スコト稀ナルヲ以テ法律ハ豫メ規定ヲ設ケテ設定行爲ニ示セタル事項ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有スルコトトセリ(第三條第二項)此ニ「關スル」一切ノ行爲ト謂フハ抽象的ニ其限界ヲ示スコト雖

シ各事件ニ就テ判斷スルコトヲ要ス唯大體「通常其事項ニ伴ヒテ起ルヘキ」
爲「下」謂フ如ク解釋スヘキカ（第三〇條第一項亦同シ）

第二節 代理權ナキ商業使用人

支配人、手代番頭ニ非サル商業使用人ハ代理權ナキ者ト推定セラル尤モ此推定ハ反對證據ヲ許スヲ以テ支配人、手代番頭ニ非サル商業使用人ト雖モ有效ニ代理權ヲ受クルコトヲ得ヘシ然レトモ其代理權ニ關シ特別ノ規定ヲ設ケス全ク普通ノ代理法則ニ從フヘキモノトス而シテ實際ニ於テハ支配人、手代番頭ニ非サル商業使用人ハ多クハ單ニ雇傭契約ニ因ルモノニシテ唯臨時特定ノ法律行為ノ委任ヲ受クルコトアルノミ（丁稚、小僧ノ如シ）然レトモ此等ノ商業使用人ニシテ又往往或種類ノ商行爲ニ關シテ代理權ヲ有スル者アリ通常店舗等ニ於テ日常ノ取引ヲ爲ス者ノ如キ屬見ル所ナリ舊商法第五十二條ニハ此等ノ商業使用人ニ代理權アリト看做スヘキ場合ヲ規定シテ曰ク「商業使用人カ商業主人ノ爲メニ店舗、倉庫及ヒ其他ノ營業場ニ於テ或業務ヲ辨スルトキ又ハ他所ニ送

遣セラルルトキ又ハ報場ニ於テ第三者ト取引ヲ爲スニ際シ主人ヨリ制止セラルス若クハ第三者ノ問ヲ受ケテ已レ之ヲ爲ス權アリト答ヘタルトキハ殊ニ其職分ノ範圍ニ付キ置カレタルモノト看做サル」ト然レトモ此規定ノ適用ヲ受クヘキ者ノ多數ハ手代番頭ナルヘク又手代番頭ニ非サル者ニ關シテハ便利ナル規定ナルカ如シト雖モ此般ノ事ハ普通商習慣ニ依リテ自ラ定アルヲ以テ特ニ之ヲ規定スルノ要ナシ

第七章 代理商

代理商ナル名稱ハ新商法ニ創メテ現ハレタルモノナリ舊商法ニハ代辦人ナル名稱ヲ用ヒタリ代辦人ト代理商トハ稍其性質ヲ同シウスルモ又相異ナル點少カラス（商法第一編第七章舊商法第一編第八章第二節參照）
代理商ハ獨立ノ商人ナリ其獨立ノ商人ナルコトハ新商法第三十六條、第四條及ヒ第二百六十四條、第十二號ニ依リテ明白ナリトス舊商法ノ代辦人モ亦商人ナルコト舊法第四百六條及ヒ第五條第三號、第四號及ヒ第九條ニ依リテ明カナリ

代理商カ獨立ノ商人タルノ點ハ前章ニ規定セラレタル商業使用人ト區別アル所ナリトス今代理商ノ規定ノ位地ヲ見ルニ舊商法ニ於テハ代辦人ノ規定ヲ仲立人仲買人運送取扱人等ノ諸商人ト同一ノ章ニ掲ケタルニ拘ラス新商法ハ代理商ノ規定ヲ第一編總則中商業使用人ノ次位ニ設ケタリ蓋シ代理商ハ他ノ商人ノ爲メニ商行爲ノ代理又ハ媒介ヲ爲スヲ營業トスルモノニシテ其商人ノ爲メニ一ノ商業機關トシテ平常連續的ニ商行爲ヲ爲スモノナレハ縱令商業使用人ト其性質ヲ異ニスルモ其委任者ヨリ觀レハ恰モ商業使用人カ營業ニ關シテ主人ノ爲メニ動作スルト頗ル類似セルモノナリ是レ新商法カ商業使用人ニ次キテ本章ノ規定ヲ設ケタル所以ナリ(代理商カ必ス常ニ商人ナルヤ否ヤハ多少疑アリ)

第一 代理商ノ定義

代理商ノ定義ハ商法第三十六條ニ之ヲ規定セリ曰ク

代理商トハ使用人ニ非スシテ一定ノ商人ノ爲メニ平常其營業ノ部類ニ屬スル商行爲ノ代理又ハ媒介ヲ爲ス者ヲ謂フ

此規定ニ依リ代理商ノ定義ヲ分析説明スレハ

- (一) 代理商ハ平常商行爲ノ代理又ハ媒介ヲ以テ營業トスル者ナリ
平常ナル文字ハ連續的ノ意味ヲ有スルモノニシテ是レ普通ノ代理ト異ナル所ナリ舊商法ニ於テハ代辦人ハ單ニ商行爲ノ代理ヲ營業トスルモノナルコトヲ定メタルモ新商法ハ其範圍ヲ擴張シテ商行爲ノ媒介ヲ營業トスル者ヲモ代理商中ニ包含セシメタリ蓋シ商行爲ノ代理ヲ爲ス者ト媒介ヲ爲ス者トハ實際相象スルコト多キノミナラス兩者ニ各別ノ規定ヲ設クル必要ナケレハナリ
- (二) 一定ノ商人ノ爲メニスル商行爲ノ代理又ハ媒介ヲ爲スモノナルヲ要ス
一定ノ商人ノ爲メニ云云トハ代理又ハ媒介ノ委任者ノ定マリアルコトヲ要スル意味ナリ代理又ハ媒介ニシテ委任者ノ何人タルヲ問ハサルカ如キハ代理商ニ非サルナリ委任者ノ數ハ多數ニテモ妨ケナシ其委任者ノ爲メニ繼續シテ代理又ハ媒介行爲ヲ爲スコトヲ要ス是レ代理商カ媒介行爲ノミヲ爲ス場合ト雖モ仲立人ト其性質ヲ異ニスル所以ナリ仲立人ノ委任者ハ一定セス又其委任ハ必スシモ連續的ノモノニ非ス(第三〇五條)

(三) 代理商ハ使用人ニ非サルコトヲ要ス

商業使用人ハ主人ノ營業ニ關シテ一ニ主人ノ機關トシテ商行爲ヲ爲スモノナリ代理商ハ固ヨリ委任者タル商人ノ營業ヲ補助スル商業機關ニハ相違ナキモ其行爲ハ則チ自己ノ營業トシテ爲スモノナリ換言スレハ商業使用人ハ獨立ノ商業主體ニ非サルモ代理商ハ全ク獨立ノ營業者即チ商人ナリトス其結果トシテ商業使用人ハ一旦委任終了スルトキハ全ク營業機關タルノ資格ヲ失フモ代理人ニ在リテハ縱令其委任關係ヲ解クモ商人タルノ身分ハ依然トシテ變スルコトナシ

第二 代理商ノ義務

代理商カ善良ナル管理人ノ注意ヲ以テ事務ヲ處理セサルヘカラサルコト其他代理商カ受任者トシテ負擔スヘキ義務例ヘハ事務ニ關スル報告ヲ爲ス義務委任者ノ指圖ニ從フヘキ義務、計算報告ヲ作ルヘキ義務、受取リタル金錢其他ノ物ヲ引渡スヘキ義務等ハ一切之ヲ民法ニ讓レリ唯特ニ商法ニ規定スル必要アリト認メラレタル代理商ノ義務ハ左ノ二箇ナリトス

(一) 代理又ハ媒介ヲ爲セタル毎ニ遲滞ナク之ヲ本人ニ通知スルノ義務(第三七條)

民法第六百四十五條ハ受任者ハ委任者ノ請求アルトキハ委任事務處理ノ狀況ヲ報告セ又終了ノ後ハ其顛末ヲ報告スルヲ要ストセリ然レトモ代理商ノ如ク連續シテ或種類ノ行爲ヲ爲スヘキ委任ヲ受クル者ニ在リテハ一本人ノ請求ニ因リテ始メテ事務報告ヲ爲サザルハ甚タ不便ナルヲ以テ法律ハ代理商ニ一行爲アリタル毎ニ之ヲ報告セシムル義務ヲ負ハシメタルナリ

(二) 本人ノ許諾アルニ非サレハ自己又ハ第三者ノ爲メニ本人ノ營業部類ニ屬スル商行爲ヲ爲シ又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得サル義務(第三八條)

商法ハ支配人ニ關シテ略ホ之ト同一様ノ規定ヲ設ケタリ第三二條然レトモ立法上ノ精神ヲ尋ヌルトキハ彼ト此トハ大ニ其理由ヲ異ニスルモノナリ今兩條ヲ對照スルニ第三十二條ニ於テハ一切ノ商行爲ヲ爲スコト又一切ノ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ禁制セルモ本條ハ單ニ本人ノ營業部類ニ屬スル商行爲又ハ同種ノ營業ヲ目的トスル會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得サルニ止

メタリ此等差異ノ存スル所以ハ支配人ト本人トノ間ニハ主從ノ關係ヲ有スルモノナレハ其全力ヲ舉ゲテ主人ノ營業ニ盡ササルヘカラス何ノ暇アリテ他ノ商行爲ヲ爲シ又他ノ會社ノ無限責任社員トシテ其責任ヲ完ウスルヲ得ンヤ是レ支配人ニ對スル禁止ノ廣大ナル所以ナリ然レトモ代理商ニ在リテハ事情之ニ反シテ大ニ斟酌スヘキモノアリ代理商モ亦本人ノ商業機關ナレハ固ヨリ之カ爲メニ十分ノ周旋ト盡カトヲ辭スルコトヲ許サスト雖モ代理商モ亦一箇ノ商人ナリ代理又ハ媒介ヲ爲スヲ業トスル者ナリ一人ノ委任者ノ爲メニ全力ヲ盡スコトヲ得ス故ニ法律ハ本人ノ利益ヲ保護スルト同時ニ又此代理商ノ利益ヲ保護セサルヘカラス而シテ一人ノ委任者ノ爲メニ全力ヲ盡ス能ハサル性質アルカ故ニ一切ノ自己又ハ第三者ノ爲メニスル行爲ヲ禁スルハ本人ノ望ムヘカラサル所ナリ然レトモ各委任者ノ爲メニ或種類ノ行爲ヲ委任セラルル者ナルヲ以テ同種類ニ屬スル行爲ヲ同時ニ自己又ハ第三者ノ爲メニスハ利益ノ衝突ヲ來スヲ以テ本人ノ爲メニ誠實ヲ缺クノ恐ナシトセス是レ第三十八條ノ規定カ第三十二條ト異ナル所以ニシテ要スルニ第三十八條ハ單ニ本人ト

代理商トノ利害ノ衝突ヲ防クヘキ限度ニ止メ適當ニ兩者ノ利益ヲ保護セントスル趣旨ニ基クモノナリ

代理商ニシテ第三十八條ノ禁制ヲ犯シタルトキハ第三十二條第二項及ヒ第三項ヲ準用シテ代理商カ自己ノ爲メニ商行爲ヲ爲シタルトキハ本人ハ之ヲ自己ノ爲メニスタルモノト看做スコトヲ得其損害賠償ヲ請求スルコトヲ得ルハ民法ノ規定ニ依リテ明カナリ獨逸新商法ノ草案ニハ損害賠償ニ依ル救済方法ノミヲ認メタリ蓋シ代理商モ亦商人ナレハ其者ノ爲シタル行爲ヲ自己ノ爲メニスタルモノトスル權能ヲ本人ニ與フルハ干涉ニ過キタリトセルナリ然ルニ法案確定ノ際ニ至リテ代理商ニ關シテハ我商法第三十八條ノ如キ制限ヲ一切撤去シタリ是レ蓋シ獨逸ニ於テハ此種ノ營業發達ヲ其商慣習上自ラ定マルモノアルカ爲メナランカ

第三 代理商ノ本人ニ對スル權利

代理商ノ本人ニ對スル權利モ亦民法ニ依リテ定マルヘキモノトス唯一ノ特例ヲ設ケタルハ商法第四十一條是ナリ同條ニ依レハ代理商ハ商行爲ノ代理又ハ

媒介ヲ爲シタルニ因リテ生シタル債權ニ付キ本人ノ爲メニ占有スル物ニ對シ
テ一種ノ留置權ヲ有スルモノトシテ其債權カ占有物ニ關係アルト否トヲ問ハ
サルナリ抑モ民法第二百九十五條ニ依レハ留置權者ハ其占有物ニ關係ナキ債權ニ付テハ
タル債權ニ付キ其物ヲ留置スル權アレトモ其占有物ニ關係ナキ債權ニ付テハ
留置權ヲ認メサルナリ然ルニ代理商ハ連續シテ本人ノ爲メニ或種類ノ商行
爲ヲ代理又ハ媒介スルモノナルヲ以テ其本人ノ爲メニ爲シタル行爲ヨリ生シ
タル債權ノ爲メニハ其債權ニ關係ナキ物ニ關シテモ留置權ヲ與フル必要アル
ナリ

第四 代理商ノ權限

第三十九條ニ依レハ物品販賣ノ委任ヲ受ケタル代理商ハ賣買ノ目的物ノ瑕疵
又ハ數量ノ不足其他賣買ノ履行ニ關スル通知ヲ受タル權限ヲ當然有スルモノ
トセリ此等ハ全ク委任ノ内容ニ依リテ定マルヘキモノナルモ今代理商ニシテ
此等通知ヲ有效ニ受タルノ權限ナシトセハ其不便甚シ而シテ實際當事者カ善
ク此等ノ點ヲ明約スルコトナカルヘシ是レ特ニ本條ヲ設ケタル所以ナリ

第五 代理權ノ消滅

代理商ノ代理權ノ消滅原因ハ種種アルモ一切之ヲ民法ニ譲リ唯契約解除ニ關
シテ一特例ヲ設ケタリ民法第六百五十一條ニ依レハ委任ハ各當事者ニ於テ何
時ニテモ之ヲ解除スルコトヲ得ルモノトセリ是レ羅馬法以來ノ原則ナリ蓋シ
委任關係ノ根據ハ全ク信用ニ存スルモノナレハ一方ニシテ他ノ信任ヲ缺カン
カ一日モ委任關係ノ存續スヘキ理由ナシ特ニ羅馬法主義ニ從ヘハ委任ハ無報
酬ヲ以テ要件トス故ニ受任者ハ委任契約ニ因リテ一モ利得スル所ナキヲ以テ
委任者カ何時契約ヲ解除スルモ以テ受任者ヲ害スルコトナク又受任者ハ好意
ヲ以テ他人ノ爲メニ勞務ヲ爲スモノナルヲ以テ之ニ契約解除ノ自由ヲ與フル
ハ條理ニ適フモノト爲セルナリ然ルニ近世ノ法律思想ニ從ヘハ委任ハ必スシ
モ無報酬ナルコトヲ要セスト雖モ本來當事者間ノ信用ニ基クモノナルヲ以テ
我民法ノ如キモ亦何時ニテモ契約ヲ解除スルコトヲ得ルヲ原則トセリ然レト
モ此規定ヲ以テ直チニ代理商ニ適用スルトキハ代理商ノ不利甚シ何トナレハ
代理商ハ前述ノ如ク營業トシテ其委任行爲ヲ爲スモノナルニ何時ニテモ委任

若ニ於テ隨意ニ解除シ得ルモノトセハ代理商ハ其利得ヲ失フコト少カラサル
ヘケレハナリ又何時ニテモ解除シ得ルノ權ヲ代理商ニ與ヘンカ爲メニ本人ノ
不利ヲ被ルコト亦代理商ノ不利ヲ受クルニ異ナラス是レ第四十條第一項ヲ設
ケテ契約ニ期限ナキ場合ニハ各當事者ハ二箇月前ニ豫告ヲ爲シテ其契約ノ解
除ヲ爲スコトヲ得ルモノトセシ所以ナリ若シ又當事者ニシテ契約ノ期間ヲ定
メタルトキハ其契約ノ期間ヲ守ルヘキハ勿論ナリ然レトモ若シ當事者ニ於テ
已ムヲ得サル事由アルトキハ何時ニテモ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得ルモノト
セリ(第四〇條第二項)

商 法 總 則 終

法學博士 金 井 延 講 述

經 濟 學 總 論

和佛法律學校發行

經濟學總論目次

緒言

第一編 經濟學上ノ根本概念

第一章 欲望

第二章 財貨

第三章 價直

第四章 經濟

第五章 經濟的活動ノ前提

第一節 社會

第二節 國家

第三節 財產制度

第二編 經濟學ノ定義

第三編 經濟學ノ分科

經濟學總論目次

經濟學總論目次

第一章 經濟學ノ總論	一
第二章 經濟學ノ範圍	二
第三章 經濟學ノ方法	三
第四章 經濟學ノ對象	四
第五章 經濟學ノ意義	五
第六章 經濟學ノ地位	六
第七章 經濟學ノ發展	七
第八章 經濟學ノ分類	八
第九章 經濟學ノ關係	九
第十章 經濟學ノ應用	十
第十一章 經濟學ノ結論	十一

經濟學總論

法學博士 金井延講述

緒言

經濟學ノ研究ハ何レノ時代ニ於テモ頗ル必要ナリ然レトモ其ノ特ニ今日ノ時勢ニ照シテ非常ニ必要ナルハ世人ノ一般ニ認メサルヲ得サル所ナル可シ經濟學ノ研究ハ實ニ一方ニ於テ實際上非常ニ必要ナルト同時ニ他方ニ於テハ又純粹ノ學理講究上ニモ必要ナリトス

抑モ經濟ニ關スル議論ハ歐羅巴ニ於テハ遠ク希臘羅馬ノ昔時ヨリ東洋ニ於テハ印度支那ノ太古ヨリ既ニ發生シ居リ時ヲ經ルニ從ヒ漸漸進歩發達シ來リタルモノナルニモ拘ラス之ヲ一科ノ獨立シタル學問トシテ研究スルニ至レルハ

漸ク今ヲ去ルコト百餘年前ノ事ナリトス是ヲ以テ經濟學上ニ於テハ未タ何人ト雖モ疑フ可ラス眞理トシテ認メサルヲ得サル一定不動ノ必然の原理原則ナルモノ多ク存在セス從テ之ニ關スル學派モ亦數多アリ而シテ方今ハ即チ經濟學ノ變遷時代ナリ既ニ變遷ノ時代ナリ故ニ今日正確ニシテ疑フ可ラサル理論ナリトシテ一般ニ認メラルルモノモ明日ハ不正確ニシテ取ルニ足ラサル誤謬ノ甚シキ空論トシテ排斥サルルニ至ルヤモ未タ知ル可ラス今ノ時ニ當リテ經濟學ノ原理原則ヲ絕對的ニ疑フ可ラサルモノトシテ確定セムトスルハ極メテ困難ノ事ニ屬スルト同時ニ亦斯道ノ學者先輩カ當ニ審テ務ム可キ必要ノ事タリ又吾邦現時ノ狀態ニ於テ經濟學ノ實際上非常ニ必要ナルハ多言ヲ要セサル所ナリ抑モ吾邦現時ノ經濟界ハ實ニ變化ノ甚シキ時代ニ遭遇セルモノニシテ又實ニ最モ困難ナル境遇ニ在リ特ニ日清戰役ノ後ニ至リ諸種ノ事業勃然トシテ興起シ之カ爲メ資金ノ供給ニ缺乏ヲ告クルニ至レリ而シテ此等ノ事業ハ果シテ皆悉ク有益確實ノ事業ナル乎否ヤ他語以テ之ヲ言ハハ資金ハ皆悉ク有益確實ナル事業ニ投セラレ終リタルカ爲メ遂ニ不足ヲ訴フルニ至レルモ

ノナル乎否ヤ是レ頗ル決シ難キノ問題ナリ蓋シ願フニ一時勃興セル多クノ事業中ニ在リテハ投機的ノ事業モ亦比較的ニ頗ル多數ヲ占メタルモノノ如シ而シテ此等ノ投機的事業ヲ除キ他ノ種類ノ事業ニ對シテモ尙ホ資金ハ不足シ居ルヤ是レ實ニ須ラク攻究一番ヲ要スルコトナリ近時外資輸入ノ議漸ク世間ノ問題ト爲レリト雖モ是レ今日ノ實際ニ於テ頗ル困難ノ事ナリ抑モ外資輸入ノ事タル必スシモ可ナラサルニ非ス場合ニ依リテハ大ニ可ナリ然レトモ一年以來外資輸入說ノ大ニ勢力ヲ得ルニ至レル所以ノ本邦近時ノ經濟事情ハ虛心平氣ニ之ヲ究メサル可ラス願フニ本邦ノ近時ハ金融逼迫ノ時代ナリ而シテ金融逼迫ハ必スシモ資本ノ不足ノミニ因ルニ非ス資本ノ實際豐富ナル場合ニモ亦金融逼迫ノ現象往往存在スルコトアルヲ忘ル可ラス金融ノ逼迫ハ國內ニ實際存在スレトモ貯藏セラレ居ルカ爲メ資本カ資本トシテ世上ニ出テサルニ因ルコトアリ是レ畢竟國民ノ貯蓄ニ對スル觀念ノ誤レト金融機關ノ不整頓ナルトヨリシテ起ル結果ナリ今年ニ入リテヨリ以來ハ世間ノ景氣稍ヤ恢復ノ傾向ナキニシモアラスト雖モ是レ果シテ眞ニ恢復サルルニ至ル可キ傾向ナ

ルヤ否ヤハ未タ遽カニ斷言ス可ラス况ヤ一昨年来穀ノ不作ナリシカ爲メ貨幣制度ノ變更ハ姑ク別問題トシテ措テ論セサルモ米價ノ實際經濟社會ニ於ケル一般物價ノ變動スル所以ノ重要ナル元素ト尙ホ成リ居レル我日本ハ米穀不作ノ影響ヲ蒙ルノ非常ニ大ナルコト實ニ測ル可ラサルモノアルニ於テヤ米價モ或一定ノ程度ヲ超過スル時ハ世人一般ハ爲メニ非常ノ困難ヲ感スルコト勿論ナリ殊ニ貧民ニ在テハ其困難實ニ名狀ス可ラサルモノアリ昨年ハ幸ニシテ農家ノ稱シテ三厄日ト曰フモノモ無事平穩ニ經過シ其後ノ景氣モ頗ル宜シカリシカ是レ實ニ一大好原因ト爲リテ多少金融モ緩和ニ歸シタル譯合ナレトモ二三年來不景氣ノ情カ既ニ我經濟界ニ附着シ居ルヲ以テ一時ニ全ク緩和セテ一陽來復ノ春ヲ見ル可シトハ思ハレナリシカ事實ノ成行果シテ然リキ今年ハ昨年ニ比シ米作稍ヤ劣リ到底平年ノ作柄ニ勝ラサル可シ然レトモ既ニ景氣恢復ノ機運ニ向ヒ居レハ經濟界ハ左マテノ困難ヲ見サル可シ而シテ此等ノ實際問題ヲ解釋スルニハ經濟學ノ思想ヲ要スルコト勿論ナリ是レ吾邦今日ノ實際上斯學政究ノ必要ナル所以ノ一ナリ

一般經濟社會ニ關スル重要問題ハ先ツ前述フル所ニ止マリ倍テ次ニ工業ニ關スル特別問題ハ如何ト願ルニ最近七八年以來ニ於ケル工業社會ノ進歩ニ伴ヒ今ヤ既ニ工業主ト勞働者トノ間ニ一大衝突ヲ惹起セムトスルノ形勢トハ爲リス殊ニ近來大工場ニ於テ屢々之ヲ見ル是ニ於テ乎職工保護問題起リ工業條例ノ制定必要ナルヲ説ク者アルニ至レリ昨年間キシ所ニ據レハ此種ノ條例ハ第十三議會ニ工場法案トシテ提出セララルトノコトナリシカ如何ナル都合ニヤ事遂ニ茲ニ至ラサリキ然レトモ之ヲ要スルニ工場ニ關スル問題ノ多少世人ノ注目ヲ惹クニ至リシハ確カニ最近ノ著明ナル事實ナリ而シテ職工保護ノ今日ニ必要ナルハ誠ニ疑フ可ラサル事ナレトモ其保護ノ程度ハ如何ニ之ヲ定ム可キカ若シ此種ノ社會政策の立法ノ第一着手ニ制定サル法令ニシテ不完全甚シカラムカ後日ニ至リテ之ヲ改良スルコト決シテ易シトセス故ニ將ニ始メテ制定セムトスルノ今日ニ於テ豫メ大ニ之ヲ政究シ以テ出來得ル丈完全ナルモノヲ設ケサル可ラス

次ニ財政上ノ問題ハ如何抑モ今日ノ財政問題ハ何ソヤ曰ク是レ戰後ノ經營ニ

必要ナル財政ヲ如何ニ處置ス可キヤノ問題はナリ二十七八年戰役後ノ經營事業トシテ起レルモノ頗ル多シ其中ニ就キ軍備擴張ノ一事ハ萬衆ノ口ニセラレタル所ナリ然レトモ單ニ軍備ヲ擴張スルノミヲ以テ萬全ナル國家ノ經營事業ト爲ス可ラサルコト勿論ナリ農工商ノ業務モ教育ノ事モ亦共ニ之ヲ擴張スルヲ要ス然ルニ此等ノ種類ニ屬スル行政經費殊ニ教育費ハ極メテ不充分ナリ試ニ世界各國ノ財政ニ關スル統計ヲ見ヨ歐米ノ強大國ハ論スルマテモナシ稍ヤ中等ニ位スル國否ナ頗ル小ナル國ニ於テモ其教育費遙カニ吾邦ヲ凌駕スルモノ尠カラス四千餘萬ノ人口ト二萬七千六百十二方里餘ノ面積トヲ有スル我大日本ハ此點ニ於テ果シテ愧色ナキヲ得ヘキヤ學術ノ進步農工商ノ發達頗ル遲運タルヤ誠ニ故ナキニ非サルナリ現ニ歐米諸國ニ於テハ左程ノ新發明ニ非サル事モ吾邦ニ於テハ大發明トシテ賞讃セラレ發明者モ亦得然タルカ如キハ以テ諸般ノ事皆尙ホ頗ル幼稚ナルヲ證スルニ足レリ噫噫

又交通機關ノ如キモ時ニ京濱間ノ電信ニ三時間ヲ要スルコトアルカ如キハ往往吾人ノ耳朶ニ接スル所ナリ是レ畢竟經費不充分ノ結果ナラストセムヤ之ヲ

要スルニ今日ノ狀態ハ有ラユル事業カ經費ノ不足ヲ感シツツアルノ時ナリ是レ果シテ軍備擴張ノ結果ナル乎又果シテ軍備擴張ハ既ニ國力ニ堪ヘストスル乎蓋シ他ノ事業ニ比較シテ聊カ多額ナリト謂フニ過キサルヘシ而シテ今日社會全般ノ事業ニ對シテ一時ニ消極的政策ヲ採ラムトスルモ到底不能ノ事ニ屬ス何トナレハ中途ニシテ當初ノ方針ヲ改ムルトキハ恰モ一旦植付ケタル苗ヲ中途ニ植換フルト同シク既ニ費シタル勞力資本ヲハ途ニ空無ニ歸セシメサル可ラス況ヤ其成果ノ見ル可ラサルハ論ナキニ於テヤ一言ニシテ之ヲ盡セハ今日ノ歲入ヲ以テ擴張ヲ要スル總テノ事業ヲ經營セムトスルハ到底不能ノ業ナリ一日モ早ク他ニ確實ナル財源ヲ發見セサル可ラス而シテ今日之カ救済策ヲ論スル者一ニシテ足ラスト雖モ要スルニ一ハ即チ歲入ヲ増加セントセハ地租ヲ増加スルニ若カストスルモノニシテ他ノ一ハ即チ主トシテ砂糖稅及ヒ酒稅等ノ如キ財政學上ニ於テ消費稅ト稱スルモノヲ以テセムトスルモノトノ議論ニ外ナラス而シテ地租増徴ヲ主張スルモノハ今日ハ農民ノ最モ富裕ナル時ナレハ地租増徴ノ好時機ナリトシ之カ爲メ困難ヲ感スルモノハ獨リ

小數ノ地主アルノミト説キ之ニ反對スルモノハ消費稅ヲ増加スルニ若カスト、爲セリ此問題タル決メテ一朝一夕ニ其利害得失ヲ決スヘキモノニアラス攻究ノ上ニモ更ニ攻究ヲ要スヘキ一大問題タリ抑モ酒稅及ヒ砂糖稅等ノ如キハ如何ニ増加スルモ一見決メテ不都合ナキカ如シト雖モ是レ皮相ノ見タルノミ精密ニ探究スルトキハ彼ノ下等社會ノ終日勞働ニ從事スル者ニ在リテハ一杯ノ醃酌ヲ以テ終日ノ勞ヲ慰スルモノナレハ此社會ニ在リテハ一定ノ分量ヲ超エサル以上ハ酒ノ必要ナル誠ニ吾人想像ノ外ニ在リ斯ル次第ナレハ課稅ノ高キニ過クルモ又低キニ失スルモ共ニ害アリ要ハ唯其ノ分量如何ニ在ルノミ殊ニ酒稅ノ如キニ在リテハ課稅高キニ失スルトキハ自然酒質ヲ惡クスルノ弊アリ即チ酒ニ亞爾箇保兒ヲ混和スルモノアルニ至ルヘシ亞爾箇保兒ハ最も恐ルヘキ害毒ヲ含ムモノナレハ飲酒家ハ爲メニ健康ヲ害シ國民衛生公衆衛生ノ上ニ至大ノ害ヲ與ヘルモノタリ又砂糖稅ニ付テモ右ト同様ノ弊ナキニアラス即チ砂糖ノ如キハ社會ノ進歩ニ伴隨シテ國民ノ嗜好スルモノナレハ一旦砂糖ノ甘味ヲ覺エタルモノニ向テ之ヲ廢セシムルハ策ノ得タルモノニアラス況ヤ課

稅高キニ失スルトキハ是マヲ比較的下等ナル物ヲ食スルコトヲ得タル者カ述ニ是ヨリ一層高價ナル他物ヲ消費スルニ至ルヘシ是レ實ニ上等社會ニ影響ヲ與フルノミナラス下等社會ニモ亦大ナル影響ヲ與フルモノナリ蓋シ消費稅ヲ増加スルハ國家百年ノ長計タルヘシト雖モ一時ニ之ヲ増加スルトキハ一般ノ秩序ヲ傷フヘキヲ以テ却テ惡結果ヲ來スニ至ルヘシ是レ經濟學上ヨリ大ニ論究セサルヘカラサルノ大問題ナリ

茲ニ注意スヘキハ政治問題ト經濟財政ノ問題トノ混同ヲ避クヘキコト是ナリ地租増加問題ノ如キニ在リテハ代議士カ自家ノ選舉區民ノ歡心ヲ買ハシカ爲メニ其ノ良心ヲ枉ケテ増稅說ニ反對シ財政經濟ノ問題ト政治問題トヲ混同スルモノ尠シトモス豈慨セサルヘケムヤ又一方ニハ地租増徴ハ後日ノ豫備ニセムトスルモノアリ是レ財政學上大ニ論究スヘキ好問題タリ而シテ財政學ハ經濟學ノ範圍内ニ在リトス

又經濟學ハ法律學ト關係スル所極メテ多ク兩兩相待チテ完キヲ得ルモノナリ即チ法典ノ制定ハ經濟學ニ非常ナル影響ヲ及ボスモノナリ

經濟學ニハ總論純正經濟學應用經濟學ノ別アリ而シテ總論ハ學者ニ依リ往往其意義ヲ異ニセリ即チ或者ハ茲ニ所謂經濟學總論ヲ以テ純正經濟學ト解スルモノナキニ非スト雖モ余ハ從來經濟學ヲ總論純正經濟學及ヒ應用經濟學ノ三大部門ニ分チテ之ヲ論究スルモノナリ所謂總論ニ於テハ經濟學ノ基礎ト爲ルヘキ觀念ヲ說述スルモノナリ換言スレハ純正經濟學及ヒ應用經濟學ノ根本トシテ必要ナル概念ヲ說クモノナリ故ニ總論又ハ敘論ト稱スルモ可ナリ生産交易分配等ハ總論中ニ於テ論スヘキモノニアラス總論ニ於テ論スヘキモノハ唯經濟學ノ根本觀念ノミ例ヘハ價格トハ何ソヤ富トハ何ソヤ又經濟學ノ定義部門他ノ學問トノ關係及ヒ研究ノ方法ハ如何等ヲ論スルモノヲ總論トハ謂フナリ

余ノ本學年間本校ニ於テ講セント欲スルハ經濟學第一卷總論ナリ

第一編 經濟學上ノ根本概念

第一章 欲望

吾人人類ノ此世ニ在ルヤ衣食住ノ必要ニ關スルモノヲ第一トシテ諸種ノ不足ヲ感ス此不足ノ感覺ト之ヲ滿サント欲スル願意トヲ包括スル所ノモノヲ稱シテ之ヲ欲望ト曰フ(一)此欲望ヲ滿スニ非サレハ人類ノ生存繁榮ハ得テ期ス可(二)是レ取リモ直サス欲望ノ定義トモ稱スヘキモノ吾人カ此世ニ生活スルニ方リ先ツ第一若ニ不足ノ感ヲ起スモノハ衣食住ノ三ナリトス然レトモ人類ハ固ト極メテ多欲ノ動物ナリ管ニ此三個ノ不足ヲ感スルノミナラス文明ノ進ムニ從ヒ益々多欲ト爲ルモノナリ古人モ衣食足而知禮節ト言ヘリ能ク這般ノ消息ヲ解シ得タリト謂フヘシ何トナレハ文明人ハ極メテ多欲性ナリ業己ニ衣食住ノ不足ナキニ至レハ或ハ天文ノ原理ヲ究メテ太陽ノ運行晝夜ノ別アル所以ヲ知得セントスルノ念慮ヲ起シ又美術文學等ニ付テ不足ヲ感シ或ハ國務大臣タラント欲シ又或ハ人間一生涯ノ榮華ヲ極ムルヲ以テ満足セス死後ニ亘リテ尙ホ光輝アル名譽ヲ傳ヘント欲シ學問又ハ審美ヲ研究セントスルカ如キハ人類一般ノ常態ナリ而シテ此等ノ不足ヲ感スルト同時ニ之ヲ滿サント欲スルハ又人ノ常性ナリ然レトモ不足ノ感覺ト之ヲ充實セント

スル願意トハ其性質固ト同一ノモノニアラス此二者ヲ包括スルモノヲ稱シテ之ヲ欲望ト曰フ

ラス(二)故ニ人類ハ常ニ意ヲ欲望ノ満足ニ注カサルハナク之カ爲メ經營慘憺到(三)論スル迄モナク此欲望ヲ滿ササルトキハ人類ノ繁榮ヲ期スルコトハ到底望ムヘカラサルナリ皮相ノ見ヲ以テスレハ熱帶地方ニ在リテハ衣服モ家屋モ共ニ不要ナルカ如シト雖モ僅ニ二三年間位ハ左マテ不都合ヲ感セサルヘキモ一生涯ヲ通シテ衣セス住セス以テ生活スルコトハ到底不能ノコトナリトス歐羅巴ニ於テハ野蠻人ノ性質ヲ研究セントシテ亞非利加ノ中央ニ野蠻人ト同居シテ之カ研究ニ從事セタル者アリシカ其研究ノ結果ニ依レハ彼等ハ概シテ短命ナリトノコトナリ尤モ彼等ノ年ヲ算スルハ最モ困難ナリシト云フ又一説ニハ彼等ノ間ニハ殺戮鬭爭ノ絶エサルヲ以テ其結果トシテ短命ナリト云フト雖モ衣類住居其他衛生ニ關スル事項ノ不完全ナルコト蓋シ眞ノ原因ナラン歟又同シク熱帶ノ地方ニテモ衣服ヲ着スル方熱サヲ凌キ易シト云ヘリ例ヘハ印度ヨリ起レル佛教ノ僧侶ノ法衣ノ如キハ他ノ衣服ニ比

シテ熱サヲ避クルニ便ナリト云フ又野蠻人ト雖モ不完全ナカラ岩窟或ハ木ノ穴等ニ入り或ハ樹間ニ巢ヲ造リテ居住スルモノアルヲ見レハ住居ノ必要ナルコト知ルヘキナリ又野蠻人ハ一週間位ノ噴溜ヲ爲スコトアリト聞ケトモ永ク食ハスシテ居ルコトハ到底能ハサル所ナリ是ニ由テ之ヲ觀レハ衣食住ノ人間ノ生活ニ必要ナルコト多辯ヲ要セスシテ明カナリ

ラサルナシ(三)

(三)人類ハ欲望ノ満足ニ最モ注意シ之カ爲メニ經營慘憺到ラサルナシ換言スレハ吾人ノ經濟的活動ハ殆ト欲望ヲ満足セシメント欲スル經營ノ結果ナリ經濟現象ノ根源ハ實ニ人類ノ欲望ニ在リト謂フヘシ

欲望ニハ社會全體ノ欲望ト一私人ノ欲望トノ別アリト雖モ兩者ノ區域ハ共ニ豫メ定マリタル先天的自然的ノ限界アルニアラスシテ文明ノ進歩ニ從ヒテ絶エス變遷シ擴張スルモノトス(四)

(四)社會ニハ社會ノ欲望アリ國家ニハ國家ノ欲望アリ一國ノ欲望ハ以テ之ヲ國是ト爲ササルヘカラス歴史ヲ讀ミシ者ハ一國ノ國是カ往往豪傑ノ手ニ

依リテ變更セラレンコトアルヲ見シ然レトモ是レ唯皮相ノ見タルノミ一國ノ國是社會全體ノ欲望ノ趨勢ハ爾カク一個人ノ爲メニ左右セラルルモノニアラス時勢ハ決シテ一朝一夕ニ成ルニアラス英雄豪傑ノ爲メニ唯速ニ時運ノ向フ所ヲ察シテ之ニ乗スルニ在ルノミ左レハ英國ノ國是ハ時ニ多少ノ變動ナキニアラスト雖モ一ニ世界ノ商權ヲ掌握セントスルニ在リ又露國ノ國是ハ絶エス南進ノ方針ヲ探レルコト「ベートル大帝以來世界各國ノ認ムル所ナリ是レ蓋シ露國ノ地勢上已ムヲ得サルノ結果ナラン抑モ露國ノ南進策ハ「ベートル大帝ノ時代ニ始マリシニハアラス同帝ノ時代ニ至リテ唯一層ノ明白ヲ致セシノミ而シテ之ヲ佛國ノ國是ニ見レハ大革命ノ前後多少ノ變動アリシニ拘ラス概シテ云ヘハ同國ハ絶エス世界ノ文明ヲ指導セントシツツアルカ如シ夫レ然リ而シテ總テ欲望ハ皆先天的ニ定マレルモノニアラス又一定ノ區域内ニ限ラルルモノニアラス社會ノ進歩ニ伴隨シテ絶エス變遷シ擴張シツツアルモノナリ斯ノ如キ性質ヲ有スル欲望ハ即チ文明ノ基礎ヲ成ス是レ單ニ社會全體ノ欲望ノミナラス一人ノ欲望ニ於テモ亦同一ナリトス」

現時ノ社會ニ於ケル人心ノ欲望ハ其種類分量共ニ頗ル多シ之ヲ悉ク枚舉スルハ到底能ハサルコトナリ能フヘキハ夫レ唯一一定ノ觀察點ヲ基トシテ欲望ヲ分類スルノ法アルノミ歟(五)獨逸ノ經濟學者「ワシエル」氏ハ欲望ノ人生生活ニ

(五) 今日ノ世界ニ於ケル欲望ハ其種類及ヒ分量共ニ頗ル多ク之ヲ枚舉スルハ到底不能ノ業ナリ唯爲シ得ヘキハ欲望ノ種類ヲ分ツノ一方法アルノミナラン而シテ其分類ノ方法亦種種アリ或ハ人生ノ生活ニ於ケル關係ノ緩急ヲ標準トスルモノ或ハ欲望ヲ滿ス爲メニ要スル金錢ノ多寡ヲ以テ標準トスルモノ或ハ品格ノ高低ヲ以テ標準トスルモノ等其見ル所異ナレリト雖モ固ヨリ一定不變ノ標準アルニアラサレハ何レモ誤レリト謂フヘカラス要ハ唯欲望ノ種類ヲ悉ク包容スルニ足ルヘキ標準ヲ發見スルニ在ルノミ要スルニ人類ノ生活ニ於ケル緩急ヲ基本トシテ欲望ノ種類ヲ分類スルヲ最モ便利ト爲スヘキカ如シ

於ケル關係ノ緩急ヲ基トシテ之ヲ三種ニ分テリ曰ク自然的欲望曰ク地位的欲望曰ク奢侈的欲望ト是レ頗ル便利ナル分類法ナレハ直チニ採テ以テ欲望ニ關ス

ル説明ノ歩ヲ進ムルモ亦可ナリト雖モ余ハ觀ル所アリ總テノ欲望ヲ分チテ第一消費ニ因リテ満足サルルモノ第二消費ニ因ラス却テ消費ヲ爲ササルカ爲メ満足サルルモノノ二者ト爲シ其第一ヲ更ニ細別シテ「ロッシェル氏」ノ如クセムト欲ス而シテ第二種ノ欲望ハ守錢奴ノ徒ラニ金錢ヲ蓄積スルノミヲ是レ事トシ之ヲ費シテ身分相應ノ欲望ヲ滿ス コトヲ爲サス却テ費ヤササルヲ以テ其欲望ヲ滿スカ如キヲ謂フ

「ロッシェル氏」ノ所謂自然の欲望トハ人類ニ取テ自然ニ必要ナル衣食住ニ關スルモノニシテ之ヲ滿ササルトキハ生命健康ヲ損傷スル地位の欲望トハ人人ノ(七)吾人人類ニ取リテ天然自然ニ必要ナル欲望ハ即チ自然の欲望ナリ故ニ之ヲ必要の欲望ト稱スルモ亦可ナリ若シ夫レ之ヲ缺カン乎生命健康ハ得テ保ツヘカラサルナリ

地位ニ應スルモノナリ吾人カ自他ニ對シ社會上ノ地位品格ヲ保維スルニ必要ナルモノナリ之ヲ滿ササルトキハ人人其自己ニ對シ社會ニ對スル面目ヲ失ハザルヘカス此種ノ欲望ハ人人ノ社會上ニ有スル地位高ケレハ高キ程益高尙

ナルヲ常トス(七)奢侈の欲望トハ人人ノ分限以上ニ位シ身分ニ相應セザルモノ(七)人ハ其身分ニ相應スル社會上ノ地位品格ヲ保持セザルヘカラス而シテ之ヲ保持スルノ必要ハ社會ニ對スルノミナラス自己ニ對シテモ亦同一ナリトス切ニ言ヘハ他人ノ前ニテハ高尚ナル品格ヲ裝ヒナカラ自己一人ノ時ニハ野卑極マレル行劬ヲ爲スカ如キハ斷シテ之ヲ避ケサルヘカラス抑モ小人閑居シテ不善ヲ爲ストハ古人ノ警語ナリ文明人士ノ慎重ヲ要スヘキ所トス例ヘハ書生ハ書生相應ノ地位品格ヲ保ツヘク又車夫ハ車夫相當ノ地位品格ヲ持セサルヘカラス若シ然ラスンハ遂ニ社會ノ擠斥ヲ受クルニ至ルヘシ而シテ此種ノ欲望ハ社會上ノ地位高ケレハ高キ程其分量及ヒ種類ノ増加スルモノナリ尤モ格段ナル一個人ニ付テ之ヲ觀レハ時ニ反對ノ結果ナキニアラスト雖モ社會ノ全體ヨリ之ヲ洞觀スルトキハ必ス斯ノ如キ現象ヲ發見スヘナリ故ニ此種ノ欲望ハ勿論生命健康ヲ保ツニ必要ナルニアラス又社會上ノ地位ヲ維持スルニモ毫末ノ必要ナシ是レ唯常ニ自己ノ支出ヲシテ遂ニ收入ノ及ハサル所タラシムルノ結果ヲ奏スルモノタルニ過キス(八)此種ノ欲望ハ之ヲ滿

(八) 奢侈の欲望トハ身分ニ不相應ナル欲望ノ謂ナリ即チ車夫ニシテ綾羅錦繡ヲ纏ヒ以テ街衢ニ乘客ヲ待ツカ如キ是ナリ是レ單ニ生命健康ヲ保維スルニ必要ナルノミナラス却テ害アリトス而シテ此欲望ヲ滿サントスルトキハ自己ノ支出ヲシテ遂ニ其收入ノ及ハサル所ニ至ラシメサルヘカラス好シ一兩年間位ハ無事ニ通過スルコトヲ得ヘキモ一生涯ヲ通シテ然ランニハ到底倒産ノ悲境ニ沈マサル可カラズ豈慎マサルヘケンヤ

足セメサルヲ可トス之ヲ満足セシムレハ小ニシテハ一身一家ノ破産ヲ來シ大ニシテハ一國ノ衰亡ヲ招ク羅馬ノ末路實ニ善ク之ヲ證ス(九)

(九) 斯ル欲望ハ之ヲ満足セシメサルヲ可トス何トナレハ此欲望ニシテ永ク續キ絶エス之ヲ滿ス時ハ必ス破産ヲ招クヘシ縱令一人ニテモ常ニ此種ノ欲望ヲ滿スモノアルトキハ遂ニハ一社會ノ慣習ト爲リ其波及スル所實ニ塞心スヘキモノアリ羅馬ノ歴史ハ實ニ善ク之ヲ證セリ抑モ羅馬ハ微徵タル小國ヨリ起リテ遂ニ一大強國ト爲リ當時ノ世界ニ雄飛セシ古帝國ナリ而シテ其滅亡ノ原因ハ固ヨリ種種アルヘシト雖モ北方日耳曼人ノ侵略ニ依リテ

滅亡セリト云フハ抑モ皮相ノ見ナリ斯ノ如キ見解ハ所謂史ヲ觀テ眼光紙背ニ徹セサルノ致ス所ナリ夫レ羅馬ノ起ルヤ一朝一夕ノ事ニアラス羅馬ノ亡フルヤ亦一朝一夕ノ事ニアラサルナリ羅馬ノ滅亡ハ國民ノ奢侈實ニ之カ因ヲ爲セリ即チ敵國外患ナキモノハ國亡フトハ真ニ此謂ナリ羅馬ニ於ケル奢侈ハ實ニ言語ニ絶エタリ羅馬ノ國民ハ爲メニ腐敗セリ豈滅亡セスシテ止ムヘケンヤ彼ノアチヲ等ノ侵入ハ唯滅亡ヲシテ一日ヲ早カラシメタルニ過キサルノミ然リト雖モ是レ豈獨リ羅馬ノミナランヤ何レノ國ノ歴史ト雖モ皆然ラサルハナシ故ニ余ハ羅馬ノ滅亡ハ日耳曼人ノ侵略ニアラスシテ國民ノ奢侈ニ因ルト曰フ

其レ然リ而シテ奢侈の欲望ト地位の欲望トハ往往之ヲ明白ニ分別シ難シ如何ナル點マテカ地位の欲望ニシテ如何ナル點ヨリ以テハ奢侈の欲望ナルヤ是レ頗ル曖昧ニシテ吾人往往其分界ニ苦シム甲ノ人ニ對シテ社會上ノ地位品格ヲ保維スルニ必要ナル欲望モ乙ノ人ニ對シテハ奢侈の欲望タルコトアルハ何人ト雖モ之ヲ認ムルコト難カラス(一〇) 尙ホ一步ヲ進メテ之ヲ論スレハ自然的欲

(10) 奢侈の欲望ト地位の欲望トハ一見區分シ易キカ如キモ此二者ハ實際明白ニ區分スルコトヲ得サルモノナリ即チ何レノ點マテカ地位の欲望ニシテ何レノ點ヨリカ奢侈の欲望ナルカ往往之カ區別ニ苦シムモノナキニアラス例ヘハ堂堂タル國務大臣カ其出入ニ馬車ニ乗ルカ如キ又宏壯ナル官宅ニ住居スルカ如キハ其威嚴品格ヲ保ツニ必要ナルヘキモ若シ一个ノ貧書生カ輕車ヲ驅リ肥馬ニ鞭チ街頭ヲ疾驅スルカ如キ又壯嚴ナル家屋ニ住居スルカ如キコトアラハ非常ノ贅澤ナリ即チ此兩者ノ區別ハ其行爲ハ同一ナルモ其行爲ヲ爲ス人ニ依リテ或ハ奢侈の欲望ト爲リ或ハ地位の欲望ト爲ルヘシ以テ兩者ノ區別ノ難キヲ知ルヘキナリ

望ト地位の欲望トノ間ニモ亦然タル區別ヲ絶對的ニ立テ難キ場合多シ何トナレハ或人ニ必要ナル地位の欲望モ他ノ是ヨリモ地位ノ高キ人ニ取リテハ未タ以テ其地位品格ヲ維持スルニ足レリト爲スコト能ハス其位ノコトハ甲者ニ取リテハ實ニ必要缺ク可カラサル自然的欲望ナルコト往往是アリ自然的欲望ノ人人ニ依リテ大ニ異ナルコトアルモ更ニ疑フヘカラス甲ノ人ニ適當スル

衣食住モ乙ノ人ニ取リテハ未タ以テ決シテ満足スヘシト爲スニ足ラス(11)

(11) 尙ホ一層進ミテ論スルトキハ地位の欲望ト自然的欲望トノ間ニモ亦判然區別シ難キモノアリ即チ自然的欲望モ人ニ依リテ異ナリ甲ニ適應ナルモノモ乙ニハ必スシモ適當ナラス例ヘハ野蠻人ノ自然的欲望ハ必スシモ文明人ヲ満足セシムルニ足ラサルカ如シ是ニ由リテ之ヲ觀レハ財産ノ多少慣習ノ如何ハ自然的欲望ニ大ナル影響ヲ與フルモノタルコト明カナリ故ニ自然欲望ハ本來斯ノ如キモノナリト豫メ定ムルコト能ハス是レ實ニ種類ノ點ニ於テ然ルノミナラス分量ノ點ニ於テモ亦然リトス

第一種ノ欲望ト第二種ノ欲望トノ區別ハ實ニ第二種ト第三種トノ區別ト同様一見誠ニ明白ナルカ如シト雖モ一步ヲ進メテ熟考スレハ其實頗ル立テ難キモノトス經濟學ハ此種ノ困難問題ヲ其發端ニ掲ケサルヘカラス(12)

(12) 是レ即チ前ニ述ヘタル所ヨリ推測シ得ヘキ結論ニ外ナラス經濟學ハ欲望ノ區別ヲ立テナカラ其區別タルヤ實ニ絶對的ノ區別ニアラス即チ發端ヨリ此困難ナル區別ノ問題ヲ研究セサルヘカラサルナリ人間社會ノコト

ハ終始變化極リナキモノナルヲ以テ欲望ノ種類ノ如キハ明確ニ之ヲ論斷スルヲ得ス即チ機械的ニ論究スルモノトハ各其論決テ異ニセサルヲ得ザルナリ以上論スル所ニ由リテ之ヲ推考スレハ彼ノ贅澤ト節儉トノ區別ノ如キモ所謂贅澤行為ノ中ニハ地位の欲望ヲ滿スコトモ含マレ居レハ絶對的ニ之ヲ解説スルハ甚タ難シ此二者ハ共ニ人ニ依リ階級ニ依リ國ニ依リ大ニ異ナルモノト謂ハサルヘカラサルコトナラン(三)從テ贅澤品ト必要品トノ區別ノ如キモ決(三)以上欲望ノ種類ヲ講了セルカ世上ニ所謂贅澤ト節儉トハ一見截然タル區別ノ存スルモノノ如クナレトモ所謂贅澤行為ノ中ニモ亦地位の欲望ヲ滿スコトモ包含サルモノナレハ明白ナル解説ヲ與フルコト難シ畢竟人ニ依リ階級ニ依リ國ノ貧富ノ程度ニ依リテ大ナル差異ヲ呈スルコト知ルヘシ例ヘハ王公貴人ニ取リテハ地位の欲望ヲ滿スニ過キサルモノモ常人ニ取リテハ贅澤タルカ如シ

テ絶對的ニ存在スルモノト爲スヲ得サルヘシ例ヘハ酒ト煙草トハ通常贅澤品ト名ケラレ各國ノ政府ハ概テ之ニ重税ヲ課スルヲ一般ノ原則トスレハ實ニ

事ノ大體ニ於テ敢テ不可ナルコトナシト雖モ畢竟單ニ相對的ノ斷定タルニ過キスト謂ハサルヘカラス(四)此二品ハ何人ニ取リテモ贅澤品ナリト謂フヲ得

(四) 贅澤品ト必要品トノ區別ハ相對的ノモノニシテ絶對的ノモノニアラス例ヘハ煙草酒ノ二品ハ何人モ之ヲ贅澤品ト認ムルノミナラス各國ノ政府ハ大概之ニ重税ヲ課スルヲ常トセリ現ニ我國ニ於テモ葉煙草ニ對シテハ非常ニ重キ税ヲ課スルト同様ノ結果ヲ奏スル專賣法ヲ行ヘリ又近來傳フル所ニ據レハ酒ニ對シテハ更ニ一層ノ重税ヲ課セントスルモノノ如シ然レトモ酒煙草ハ必スシモ絶對的贅澤品ニアラスシテ唯相對的ニ贅澤品タルノミ是忘ルヘカラサル事ナリ

合アリ若シ或人ニシテ酒ト煙草トノ兩者アルニアラサレハ其生命健康ヲ維持スルコト能ハサルカ如キコトアラハ此二品ハ疑モナシ此人ニ取リテハ必要品ナリ一國一階級ノ人皆此人ノ如クナラハ誠ニ嘆息スヘキコトニハアレトモ其國其階級ニ取リテハ二品共ニ必要品ト爲リタルナリ(五)斯ノ如キ(五) 甚タ奇異ナル現象ナレトモ酒ト煙草トハ何人ニ取リテモ必要ノ物

品ナリト斷言スルヲ得ス若シ此二品ナケレハ生命健康ヲ維持スルコト能ハサル人アラハ此人ニ取リテハ兩者共ニ無二ノ必要品ナリ若シ一國全體カ又ハ或一階級ノ者皆斯ノ如キトセハ固ヨリ嘆息スヘキコトナレトモ此國此階級ニ取リテハ同シク必要品ナリ又或種ノ病氣ニ取リテハ酒ニアラサレハ飲料ト爲スコト能ハサル場合アリ曾テ余ノ知人某病氣ニ罹リシカ平素ハ好酒家ニアラサリシモ病氣ノ爲メシヤンバンノ外飲食共ニ咽喉ヲ通セサルヨリ數日ノ間シヤンバンヲミテ飲料トシテ居リシカ結局病ハ癒テ舊ニ復セラレタリ是レ取リモ直サス此人ノ病氣ノ回復ハシヤンバンニ在リト謂フヘシ「ヤンバン」ハ通常ノ醇酒ヨリモ高價ノ飲料ナレハ贅澤品タルカ如キモ斯ル場合ニハ必要品タリシコト多言ヲ俟スシテ明カナリ

必要ノ生シタルハ素ト惡習惡慣ニ依ルコト疑フヘカラスト雖モ是レ自ラ別問題ナリ是等ノ事ニ關シ善惡正邪ヲ判定スルハ經濟學本來ノ職分ニアラス飲酒喫煙ノ習慣ノ善惡正邪ニ拘ラス苟モ之カ欲望ヲ滿スニアラサレハ生活スルコト能ハサル人アラハ此人ニ取リテハ酒ト煙草トノ二品ハ經濟學上之ヲ必要

品ト認メサルヘカラスト故ニ贅澤品、必要品ノ區別ハ相對的ノモノニシテ絕對的ノモノニアラス千萬人ノ者ニ取リテ同一ナルニアラス人ニ依リ階級ニ依リ國ニ依リ時代ニ依リテ異ナル之カ區別ヲ立ント欲スル者ハ此點ニ注意スルヲ要ス其レ然リ突然リト雖モ更ニ退テ考フレハ是レ兩種ノ物品中極メテ相接近シタルモノニ付テノ觀察ナリ雙方ノ極端ニ位スルモノニ至リテハ之ヲ區別スルコト全ク出來得ヘカラストニアラス(二六)

(二七) 必要品贅澤品ノ區別ハ人ニ由リ階級ニ由リテ異ナルモノナルヲ以テ此點ニ付テ區別スヘキコトヲ要ス然レトモ退テ考察スルトキハ極メテ相接近セル物ニ付テ然ルノミ極端ニ位スル諸物ノ間ニ於テハ幾分カ區別シ易キモノナリ例ヘハ米ト金剛石ノ指環ノ如キ即チ判別シ易キ一例ナリ

抑モ人類ノ禽獸ト異ナル點ハ種種アリ倫理學者ハ之ヲ良心良智ノ有無ニ歸シ動物學者ハ身體ノ構造歩行ノ狀態ニ在リトス其他種種様様ナル點ニ付テ異ナル所ヲ列舉スルコトヲ得ヘシ而シテ經濟學上ヨリ觀察スレハ人類ノ禽獸ト異ナル點ハ其欲望ノ大ニシテ且ツ高尚ナルニ在リト謂ハサルヘカラスト是レ實

ニ著明ナル事實ニシテ更ニ疑フヘカラス(二七)人類ノ欲望ハ社會ノ進歩ト共ニ
(二七)人間ト禽獸トノ異ナル所多キハ勿論ナレトモ其異ナル點ハ觀察
ノ方面ニ由リテ固ヨリ異ナラサルヲ得ス倫理家ハ人間ニハ靈魂ニ伴ヘル良
智良心アルノ點ヲ以テ動物學者ハ身體ノ組織及ヒ歩行ノ狀態ノ異ナル點
ニ在リトセリ然レトモ退テ考フレハ所謂歩行ノ異ナル所ハ彼ノ進化說ニ
依レハ却テ人間ト獸類ノ近似セル所ヲ證明スルモノナラン即チ四足ヲ有セ
ル獸類カ前ノ左足ヲ前進スルトキハ次ノ後ノ右足ヲ前ニ進メ其右足ヲ前進
セルトキハ次テ後ノ左足ヲ前ニ進ムルカ如キハ人間ノ走ルトキニハ手足ヲ
互ニ前後シテ進ムト頗ル相似タルモノアリ殊ニ猿ニ至リテハ最モ人間ト相
似タル點多キヲ見ルヘシ人間ノ下等動物ヨリ進化セリトノ說ハ今日一般ニ
認ムル所ナリト雖モ此等ハ茲ニ詳論スルノ必要ナシ然リ而シテ經濟學上ヨ
リ論スレハ人間ノ欲望ハ至大ニシテ且ツ高尚ナルモ下等動物ノ欲望ハ極メ
テ下品ニシテ其分量モ亦至テ少シ極論スレハ下等動物ハ殆ト無欲ナリト云
フモ輕言ニアラサルナリ

漸漸其數ニ於テモ増加シ其種類ニ於テモ亦年年歳歳高尚ニ赴ク其レ然リ欲
望ナルモノハ人類ノ進化ニ伴フテ増加シ且ツ進化スルモノナルヲ以テ原始
時代ノ有様ヲ觀レハ野蠻人ノ欲望ノ極メテ簡單ナルヲ知リ文明社會ノ狀態
ヲ察スレハ其頗フル錯雜ナルヲ知ルハ易易タル事ナリ是ニ由テ之ヲ觀レハ
欲望ノ増加其物ハ原理上決シテ憂フヘキモノニアラス其上下何レノ階級ニ
及ホス影響モ通常弊害ナクシテ却テ大ニ生計ノ程度ヲ上進シ且ツ一方ニ於テ
ハ生計ノ程度ノ上進ニ伴フモノナレハ歡迎スヘキモノナリ(二八)然レトモ左ノ
(二八)野蠻人ハ其欲望甚タ簡單ナレトモ文明人士ハ極メテ複雜ナル欲望
ヲ有スルモノナリ然レトモ是レ決シテ憂慮スヘキモノニアラス或漢學者ノ
如キハ今日文明日進ノ狀態ヲ目シテ世人ノ贅澤ニ流ルルヲ嘆息セリト雖モ
是レ畢竟皮相ノ見ノミ方今欲望ノ往昔ヨリ増加セルハ其實經濟上ノ實力發
達シタルニ基クモノニシテ決シテ憂フヘキモノニアラス又近來各地ノ農民
カ稍ヤ贅澤ニ爲レルヲ見テ直チニ地租増徴ヲ主唱スル者ナキニアラサレト
モ余ヲ以テ之ヲ觀レハ彼等ノ贅澤ハ近年米價ノ騰貴シタル結果トシテ其實

力ヲ發達シタルニ因ルモノナリ試ニ論者ノ説ヲ其反面ヨリ觀察スルトキハ農民ハ飽マテ原始ノ狀態ヲ其儘ニ保守セヨト云フニ均シ豈ニ酷論ナラサランヤ余ハ寧ロ現在ノ狀態ヨリ尙ホ一層高尚ニ進メサルヘカラスト思惟スル者ナリ富ノ中央集權ハ余ノ從來希望セサル所ナリ

事情之ニ伴フ時ハ社會國家ノ盛衰上頗ル憂フヘキコトナリトス

第一 不道德ノ欲望大ニ増加スルコト(二九)

(二九) 今不道德ノ欲望ノ一二ヲ舉クレハ漫ニ酒色ヲ欲スルカ如キ弄花ヲ欲スルカ如キノ謂ニシテ人ノ生計ヲ増進スル正當ノ方法ニアラサルモノ即チ是ナリ

第二 種種ノ欲望他ノ經濟上ノ事情ニ全ク關係ナクシテ突然發達スルコト

經濟上ノ進歩之ニ伴ハスシテ奢侈ノ風一般ニ流行スルカ如キ即チ是ナリ(三〇) 經濟上ノ進歩ナキニ漫ニ奢侈ノ風行ハルルカ如キハ即チ第二ノ弊害ナリ例ヘハ農民ノ現時ノ生活ハ相當ナルヘキモ其經濟上ノ實力ハ昔時ト同一ナルニモ拘ラス濫ニ都人士ノ風ニ習フニ至ルカ如キハ即チ是ナリ

第三 肉體上ノ欲望ノミ獨リ増加シテ精神上ノ欲望少シモ進歩セス人心腐敗ノ傾向アルコト 是レ第一ノ事情ト頗ル密着ノ關係ヲ有シ多クノ場合ニ於テハ殆ト同一ナリ唯二者ノ別ハ其觀察點ヲ異ニスルノ差異ニ據ルノミ(三一)

(三二) 是レ第一ノ不道德ノ欲望ノ進歩ト殆ト同一ニシテ唯其異ナル所ハ觀察ノ點ニ在ルノミ肉體上ノ欲望トハ美麗ナル衣服ヲ着シ佳味ヲ食ヒ宏壯ナル家屋ニ住スルカ如キ欲望ニシテ取りモ直サス羅馬ノ末路ニ當リ盛ナリシカ如キ狀態ヲ謂フナリ

第四 欲望ノ増加ニ隨伴シテ人人ノ勞働力思考力共ニ衰へ進取活潑ノ氣象徴微トシテ振ハサルニ至ルコト(三二)

(三三) 勞働力思考力進取ノ氣象ノ衰フルトキハ自然怠惰ニ流ルルコト一般ノ常態ナリ而シテ是等ノ力ノ減衰スルトキハ社會ノ進歩發達ハ止マルモノトス

第五 欲望ヲ満足セシムルニ唯浪費奢侈ノ一法アルノミニ至ルコト(三四)

(三四) 欲望ヲ満足スレハ必ス浪費奢侈ヲ是レ事トスルヨリ外ナキニ至

ルトキハ其極終ニ破産ヲ見ルニ至ラサレハ止マサルヘシ是レ固ヨリ不可ナリ而シテ此事情ハ第二ノ事情ト殆ト同一ナレトモ兩者ハ觀察點ヲ異ニス以上五個ノ事情ハ互ニ相交又セルモノナリ故ニ一ノ事情中ニ自ラ他ノ事情ノ包含セラレルコトアルヘシ是レ實ニ大體ヨリ區別セルニ過キサノミ右五個ノ事情ヨリ生シ或ハ之ト密着ノ關係ヲ有スル一大弊害ハ徒ニ華美ヲ競ヒ物品ノ品柄ヲ兎ヤ角言ヒ漫然時ノ流行ニ心酔スルニ在リ(三)而シテ人事(三)欲望ヲ滿スニハ業既ニ充分ナルニモ拘ラス或ハ物品ノ品質ヲ選ミ或ハ毫末ノ實用タモナキ華麗ナル裝ヲ爲シ又時ノ流行ヲ追フテ進マントスルハ方今殆ト普通ノ常態ナリ例ヘハ流行ノ骨董品ヤ流行ノ植物トシ云ヘハ一品ノ骨董一鉢ノ蘭ニ往々數百金ヲ投シテ願ミサルカ如キ只管時流ニ後レサランコトヲノミ期スルハ或程度マテハ格別不都合ナカルヘシト雖モ大ニ警戒セサルヘカラサルコトナリトス

ノ意ノ如クナラサルヤ右ノ如キ事情往往欲望ノ増加ニ伴フ殊ニ進歩ノ迅速ナル社會ニ於テ甚シ是レ實ニ憂慮スヘキ事ナリ然レトモ之ヲ以テ社會進歩ノ

當然ノ結果タル欲望ノ増加其物ヲ非難スヘカラス(二五)

(三) 人間社會ノ事タル兎角意ノ如クナラステ欲望ノ増加ニ伴フテ往往上述ノ如キ弊ヲ生スルモノナリ殊ニ過渡時代ノ社會ニ在テハ一層甚シキ弊害アルヲ見ルヘシ然レトモ是レ欲望ノ増加其物ノ罪ニアラス唯之ニ附着セル弊害タルノミ經濟タルモノハ之カ區別ヲ明カニシテ之カ矯正ノ任ニ當ラサルヘカラス所謂妨主ヲ惡ミテ袈裟ニ及フカ如キコトアルヘカラス欲望ノ増加ハ寧ロ社會進歩ノ自然ノ結果タルノミ

以上欲望ノ原則ヲ講了セリ是ヨリ此原則ハ本邦近時ノ狀態ニ照シテ如何ナルモノナルカラ説明スヘシ

余ハ實ニ近時欲望ノ増加ト國民經濟ノ發達トニ伴フテ種種ノ弊害相踵テ發生セルノ感ヲ懷ク者ニシテ之ヲ禁セント欲スルモ得ヘカラス之ヲ換言スレハ人人ノ實力ニ不相當ナル欲望大ニ増加シ人心日日ニ奢侈ニ流ルルノ恐アリ殊ニ戰爭後ヲ甚シトス之カ爲メ物價騰貴ノ趨勢ヲ大ニ助長セタルヤ疑ナキカ如シ人或ハ本邦ノ近狀ヲ以テ羅馬ノ末路ニ比スル者アリ是レ少シク過

大ノ斷定タルニ失シ余ハ今日ノ聖代ニ在リテ固ヨリ此ノ如キ不祥ノ言ヲ爲スヲ欲セス寧ロ近時ノ狀態ヲ以テ本邦維新以來ニ於ケルカ如キ一般社會變遷ノ時代ニハ往往免ルヘカラサルモノト覺悟スルノ却テ至當ナルニアラスヤト考フル者ナリ或人ノ言少シク杞憂タルヲ免レサルカ如シ然レトモ人ヲシテ愛國憂世ノ至情終ニ此言ヲ發セシムルニ至レル社會ノ狀態ハ大ニ之ヲ歎息セサルヘカラス世ノ先覺者タル者當ニ後進者ヲ誘導シテ國民奢侈ノ弊風ヲ矯ムルニ勉ムヘシ

近時ニ於ケル奢侈ノ狀況大畧左ノ如シ

第一 世ノ所謂紳士紳商等邸宅別荘等非常ニ増加シ中ニハ往往之カ爲メ借財ヲ爲シ困却セルモノアルカ如シ就中意外ナルハ最モ質朴ヲ貴ハサルヘカラサル軍人中ニ往往戰爭後得意ノ餘勢ニ乘シ徒ニ華美ヲ事トシ「モルトケ」一派ノ美風ヲ忘レ古名將ノ遺訓ヲ奉セサル者アルコト即チ是ナリ

第二 學生ノ費消スル所明治十六七年ノ頃ニ比シ平均殆ト四倍以上ニ爲レルコト(明治十六七年ノ頃ニ在リテハ學生ノ宴會ハ大抵飛鳥山カ日比谷原

ナリシカ今日ノ宴會ノ會場ハ大抵料理屋ナリ又其頃多クノ學生ハ毎月一回ツツ位ハ遠足會ヲ爲シタリシカ其會費ハ僅ニ參錢位ツツナリシ然レトモ遠足會ヤ宴會ノ目的ハ十分ニ之ヲ達スルコトヲ得タリ惟フニ學生モ亦近時ニ至リ世間一般ノ風潮ニ感染シタルモノナラン歟)

第三 輸入品中幾分カ生計ノ程度ノ正當ナル上進ニ伴ヒ幾分カ奢侈ノ増加ヲ證スル物ノ輸入増加シタルコト(貨幣制度調査會報)

第四 諸縣ニ於テ人民ノ生計及ヒ冠婚葬祭ニ關スル費用ノ増加セルコト(同報第三三七一頁乃至三三七五頁及七)

第五 所謂不生産の營業並ニ同營業者ノ増加セルコト(同報第三三七〇頁及七)此等ヲ外ニスルモ事實ハ更ニ之ヨリ尙ホ大ナルモノアリ加之近日ノ傾向ハ拜金宗ノ風潮ヲ生セリト雖モ眞ノ拜金宗ナレハ尙ホ怨スヘキモ奢侈ヲ爲スカ爲メニ所謂僥倖心ノ發達セルモノナキニシモアラス余ハ今一一之ヲ明言セサルヘシト雖モ誠ニ慨歎ノ外ナキナリ

第二章 財貨(一)

(1) 財貨トハ獨逸語ノ「ギュータル」(Güter) 英語ノ「グーズ」(Goods)ヲ譯セタル語ナリ蓋シ相集リテ富ヲ爲スモノナリ富トハ獨逸語ノ「ライヒツム」(Reichtum) 英語ノ「ウェルス」(Wealth)ニ該當スルモノナリ然レトモ獨逸語ノ「ライヒツム」ハ之ヲ詳細ニ吟味スルトキハ單ニ財貨ノ相集マレルコトトハ少シク其意義ヲ異ニセリ英語ノ「ウェルス」ハ富ヲフ字ト同シク頗ル曖昧ノ意義ヲ有セリ元來財貨ノ相集合セルモノハ獨逸語ニ之ヲ「フェルミユーゲン」(Vermögen)ト云フヲ最も適當トス英語ニテ之ニ該當スル語ハ其法律上ノ意義ヲ有スル場合ノ外之ナシ抑モ「フェルミユーゲン」ニハ二義アリ(一)財貨ノ集合セルモノ(二)財産即チ是ナリ英語ノ「ウェルス」ハ財貨ノ集合體ニハ少シク適當セサル所アリ余ハ從來獨逸語ノ「ギュータル」ヲ譯シテ貨[○]財ト云ヘリ然レトモ貨財トハ多ク集合セルモノニ用ヒラルル語ニシテ殆ト富ト同意義ノモノナルヲ以テ一昨年以來之ヲ財[○]貨ト改メタリ而シテ財貨ハ畢竟相集リテ富ヲ組成スルモノナリ

財貨トハ如何ナルモノナルヤニ關シテ古來學者間ニ種種ノ議論アリ「ロツシエ」氏ハ之ニ定義ヲ下シテ曰ク「財貨トハ世人ノ認メテ以テ人類ノ真正ナル欲望ヲ直接又ハ間接ニ満足スルニ要用ナリト爲ス所ノモノナリ」ト此定義中ニハ欲望ノ上ニ故ラニ「真正ナル」ノ形容詞ヲ用ヒテ總テ真正ナラザル欲望、德義人道ニ背反セル欲望ヲ滿スモノヲ全ク財貨ノ範圍外ニ置キ之ト同時ニ經濟學全體ノ根本概念ヲ單ニ心理的研究ノ目的物タラシムルノミナラス兼テ又倫理的研究ノ目的物タラシメンコトヲ期セリ然リト雖モ既ニ「クニース」ハ「グヂル」等諸氏カ非難シタルカ如ク「ロツシエ」氏ノ定義ハ恐ラクハ其當ヲ得サルヘシ第一氏ノ定義中「世人ノ認メテ」云云トノ條件ヲ故ラニ附加セルカ如キハ全ク贅事タルヲ免レスシテ定義ハ簡短ニシテ明瞭ナルヘキノ趣旨ニ背反セルモノト謂ハサルヘカラス畢竟財貨ハ人ニ認メテ始メテ成立シ人ニ對スル關係ニ依リテ存在シ人ヲ離レテハ決シテ單獨ニ存在スルモノニアラサルノミナラス總テ經濟上ノ事ハ人ト分離シテ語ルヘキモノニアラス故ニ「世人ノ認メテ」云云ノ文字ハ財貨ノ定義中ニ入ルルニ及ハサルモノナリト

謂ハサルヘカラス(1)

(1) 從來英國派ノ學者カ德義ト經濟トハ全然關係ナキカ如ク主張セシモ兩者ハ其實大ナル關係ヲ有スルモノナリ故ニ不道德ナル欲望ヲ満足スニ要ナルモノハ財貨ニアラスト是レ「ロツシエル氏」ノ定解スル所ナレトモ所謂不道德ナル欲望ヲ満足スニ要スル所ノモノハ財貨ニアラスト解スルトキハ大ナル不都合ヲ生スヘシ「ロツシエル氏」ノ此定義ハ宜シク之ヲ修正セサルヘカラス願フニ「ロツシエル氏」ノ所謂真正ナル欲望ヲ満足スモノト雖モ財貨タルヲ失ハス若シ夫レ斯ル欲望ヲ満足スモノハ不道德ナルノ故ヲ以テ財貨ニアラスト爲サハ之ヲ如何ニ名稱スヘキカ例ヘハ非常ナル豪奢ヲ極メント欲スルカ如キハ「ロツシエル氏」ヲ言ハシメハ不道德ノ欲望ナルヲ以テ之ヲ満足スモノハ財貨ニアラスト決定スルナラン然レトモ之ヲ財貨ニアラストセハ經濟學ニ於テ論スルコトヲ得サルニ至ラン然ラハ即チ何レノ學問ニ於テ之ヲ論究スヘキ歟蓋シ經濟學ヲ外ニシテハ之ヲ攻究スルノ學科ナカルヘシ

次ニ真正ナル欲望ヲ満足セシムルモノノミヲ以テ財貨ト爲スハ大ニ誤レリ何

トナレハ財貨其物ハ決シテ善惡正邪ニ關係ナシ苟モ欲望ノ存在スル以上ハ其所謂真正ナルト否トニ拘ラス其不道德ナルト然ラサルト問ハス之ヲ満足セシムルニ適當ナルモノハ之ヲ財貨ト名クルヨリ外ニ名案ナケレハナリ此ノ如キモノヲ以テ財貨ニアラストセハ抑モ是レ之ヲ何ト名ケテ可ナルヤ又之ニ關スル學問ハ果シテ如何ナルモノナルヤ此ノ如キモノト雖モ畢竟皆財貨タルニ過キス之ニ關スル學問ハ結局經濟學ノ外ニ一モ之アラサルナリ現ヤ欲望ノ真正ナルト否トヲ分別シ不道德ナルト然ラサルトヲ決スルハ到底絶對的ニ爲シ能ハサル事ナルニ於テヤ又現ヤ同一ノ財貨ニテモ場合ニ因リ自然的必要ノ欲望ヲ満足スコトアリ奢侈的不道德ノ欲望ヲ満足スコトモアルニ於テヤ加之經濟學全體根本ノ概念ヲシテ單ニ心理的研究ノ目的物タラシムルノミナラス兼テ又倫理的研究ノ目的物タラシムルヲ要スルモノト爲スノ點ヨリシテ見ルモ真正ナルノ形容詞ハ毫モ其必要ヲ見サルナリ社會經濟ノ倫理道德ト矛盾スヘカラサルハ言フ俟タス是レ財貨モ欲望モ皆人生生活ノ大本ニ從ハサルヘカラサルヲ知ラハ隨テ自ラ明カナルヘキナリ故ラ「真正ナル」文字ヲ欲望

ノ上ニ冠ラシムルノ必要果シテ何處ニカアル「ロ氏」ノ定義ハ之ヲ畢竟加フルニ及ハサル文字ヲ加ヘテ徒ニ冗長ニ流ルルノ過失ニ陷リシモノト断定セサルヘカラス(三) 故ニ余ハ財貨ニ與フルニ少シク異ナレル定義ヲ以テセント欲ス曰ク

(三) 既ニ論シタルカ如ク「ロ氏」ノ定義ハ奇怪ナル結果ヲ生スルニ至ルヘシ而シテ經濟學全體ノ根本概念ハ之ヲ以テ心理倫理ノ諸學ト密着ノ關係アルモノト爲スニ在リ此點ヨリシテ財貨ノ定義中ニ之ヲ明カニセントシタルハ全ク贅事タリ抑モ「真正ナル」ノ文字ヲ附加スルニアラスンハ經濟現象カ心理及ヒ倫理ト密着ノ關係アルコトヲ明カナラシムル能ハサルモノナラシメハ之ヲ附加スルノ必要アルヘシト雖モ經濟學上ノ行爲ハ倫理ノ大本ニ從ハサルヘカラサルコトハ當然ニシテ今更ラ言フヲ俟タサル所ナリ何トナレハ經濟學ハ人間ヲ離レテ成立シ得ヘキモノニアラス人間社會ノ必要ヨリ生シタルモノナレハ人間處世ノ大本タル倫理ト關係ヲ斷ツヘカラサレハナリ尤モ多衆人中ノ事事物物ニ付テ觀察スルトキハ往往不倫不道ノ事ナキニアラスト雖モ大體ヨリ論スレハ人生生活ノ倫理ノ大本ニ基ケルコト瞭トシテ明カナリ

是故ニ「ロ氏」ノ定義ハ全ク誤レルニハアラサレトモ定義ノ原則ニ適合セサルモノト謂ハサルヘカラス

財貨トハ總テ人類ノ欲望ヲ滿スニ適當ナルモノナリト(四) 此定義ニ從ヒ財貨ナルト不正ナルトヲ問ハス欲望ヲ滿スニ足ルモノナリト謂フヲ以テ主眼トス又定義中ニ適當ナルト曰フヲ「滿ス」ト曰ハサルハ滿スノ事實アルヲ要セス欲望ヲ滿スニ適當ナルモノナレハ欲望ヲ滿スノ事實ナキモ財貨タルヘキヲ以テナリ例ヘハ米ハ元來財貨ナルモ航海中ニ沈没スルトキハ其米ハ魚腹ニ葬ラルルモ財貨タルノ性質ヲ失ハサルカ如シ

ノ種類ヲ分ツコト如何是レ自ラ標準ニ依リテ異ナリ種種ノ分類法アリ得ヘク又實際之アリトス而シテ余ノ以テ最モ要用ナル分類法ト爲スモノハ財貨ヲ分テ二ト爲スニ在リ(五)

(五) 今前掲ノ定義ニ依リテ財貨ヲ分類スレハ一ハ内部ノ財貨ニシテ他ハ外部ノ財貨ナリ然レトモ余ハ之ヲ内界ノ財貨及ヒ外界ノ財貨ト稱セントス

第一 内界ノ財貨一ニ之ヲ無形ノ財貨ト云フ(六)

(六) 内界ノ財貨ハ一ニ又無形ノ財貨ト稱ス然レトモ無形ノ財貨ト云フハ穩當ナラス何トナレハ内界ノ財貨ノ中ニモ亦有形ノ財貨アルヘケレハナリ故ニ内界ノ財貨ト名ケタリ

内界ノ財貨トハ人人ノ心身其物ニ附着シテ賣買讓與スヘカラサルモノナリ腕力智識藝能性質等ハ此種類ニ屬ス此等ハ實ニ賣買讓與スヘカラサルモノナリ然レトモ其形狀ヲ一變シテ所有主ノ勤勞ト化スルトキハ他人ニ對シテ外界ノ財貨タルヲ得ヘシ(七)

(七) 内界ノ財貨トハ人間ノ身體又ハ心界ニ附着シテ分離スヘカラサル人間固有ノモノナリ故ニ如何ナル高價ヲ以テスルモ之ヲ賣買スルヲ得ス故ニ普通ノ場合ニ於テハ之ヲ經濟學上ニ於テ論スルノ限ニ在ラス然レトモ其形狀ヲ變シテ所有主ノ勤勞ト化シタルトキハ他人ニ取リテハ即チ外界ノ財貨ト爲リ自己ニ取リテハ依然内界ノ財貨ナリ例ヘハ車夫ノ力ハ車夫其者ノ爲メニハ賣却シ讓與スルコト能ハスト雖モ一時其雇主ノ爲メニハ

第二 外界ノ財貨一ニ之ヲ有形ノ財貨ト曰フ(八)

勤勞ト爲ルヘケレハ雇主ノ爲メニハ即チ外界ノ財貨ナリ是レ特ニ腕力ノミニ限ルニアラス性質藝能等ニ付テモ亦同様ニ論セサルヘカラス而シテ性質ニテ云ヘハ正直ナルカ爲メニ或銀行ノ金庫番ヲ爲スカ如キコトアラハ其正直ナル性質カ銀行ニ取リテハ外界ノ財貨タリ

(八) 此種ノ財貨ヲ稱シテ有形ノ財貨ト曰フハ穩當ナラス何トナレハ此種類ノ財貨中ニモ亦無形ノ財貨アリ得ヘケレハナリ故ニ余ハ特ニ之ヲ外界ノ財貨ト名ケタリ

外界ノ財貨トハ吾人人類ヲ圍繞スル外界ノ一部分ニシテ採リテ以テ吾人ノ用ニ供シ吾人ノ欲望ヲ滿スニ適當ナルモノナリ故ニ其有形ナルト無形ナルトヲ問ハス尙モ宇宙間ニ現存シ人間勿論人格ヲ供ヘタル人間ノミヲ曰フ以外ニ在リテ人間ノ用ヲ爲スニ足ルモノハ總テ外界ノ財貨タラサルハナシ從テ外界ノ財貨ヲ名ケテ有形ノ財貨ト曰フハ過レリ有形ノ財貨ハ之ヲ外界ノ財貨ニ似テ而シテ非ナルモノト謂ハサルヘカラス(九)

(九) 外界ノ財貨トハ吾人人類ヲ圍繞スル事事物物殆ト皆是ナリ宇宙ノ森羅萬象皆多少此性質ヲ具ヘサルナシ故ニ苟モ探リテ以テ吾人ノ欲望ヲ滿スノ用ニ供スルコトヲ得ルモノハ之ヲ稱シテ外界ノ財貨ト曰フヘキナリ然レトモ人類ニシテ人格ヲ備ヘサルモノハ生理的ニハ勿論人類タルモ經濟學上ノ所謂財貨ナリ換言スレハ真正ナル人間以外ニ於ケル森羅萬象ヲ稱シテ有形ノ財貨トハ曰フナリ

外界ノ財貨ヲ細別シテ二ト爲ス即チ(甲)自由財貨(乙)經濟上ノ財貨是ナリ

(甲)自由財貨或ハ之ヲ非經濟上ノ財貨トモ曰フ(乙)自由財貨トハ人類カ勞働ス故ニ或ハ之ヲ經濟上ノ財貨ニ對シテ平仄ヲ合ハサムカ爲メニ非經濟上ノ財貨ト曰フ者アリ此語ハ意味ヲ現ハスニハ稍適當ナルヘキモ未タ以テ完全ナリト爲スヲ得ス寧ロ原語ヲ直譯シテ自由財貨ト名クル方優レリ元來自由財貨ニ對スル原語夫レ自身カ已ニ適當ナラサル語ナレトモ多數ノ學者カ久シク之ヲ使用シ居ルカ故ニ今日ニ至リテハ之ヲ聞キテ何人モ怪

ム者ナシ故ニ自由財貨ヲフ語モ新シク且ツ奇ナルニ拘ラス之ヲ慣用スレハ奇異ノ感自ラ消失スルニ至ラン維新以來歐洲ノ學問カ輸入セラレテヨリ此ノ如キ例ハ屢遭遇スル所ナリ例ヘハ法律上ニ於テ權利ヲフ語ノ始メテ出來タルトキハ非難ノ聲喧シク以テ法律上ノ用語ト爲スニ足ラストスル者サヘアリタルモ慣用ノ久シキ今日ニ於テハ誰一人トシテ恠ム者ナキニ至レリ而シテ非經濟上ノ財貨ヲフ語モ適當ナラサルノミナラス其他ニモ適當ノ用語ナキヲ以テ余ハ斷然自由財貨ヲフ語ヲ用フル事トセリシ若クハ他ニ報酬ヲ與フルヲ要セスシテ分量ノ大小如何ニ拘ラス自由自在ニ使用シ若クハ獲得シ得ヘキモノヲ曰フ空氣光線等ノ如キ即チ是ナリ(二)自由財貨トハ人カ身體又ハ精神ヲ勞スルコトナク他ニ報酬ヲ與フルコトヲ要セスシテ自身ノモノトシテ獲得スルコトヲ得如何程多クノ分量ヲ使用シ獲得スルモ何人モ咎メサルモノヲ云フ吾人ノ使用スル空氣光線ノ如キ即チ是ナリ然レトモ此等ノ自由財貨ト雖モ或特別ノ場合ニハ自由財貨タルヲ得サルコトアリ即チ潛水器ノ使用者カ呼吸スル空氣ハ一時自

由財貨タルノ性質ヲ失ヘルモノナリ例ハ軍艦沈没シ潜水者ヲシテ之ヲ引揚ケシムル時ノ如キハ潜水者ノ使用スル空氣ハ之ヲ大氣ノ中ヨリ輸送セサルヘカサルヲ以テ二條ノ管ヲ用ヒ其一端ヲ口及ヒ鼻ニ簪入シハ空氣ヲ呼吸スルノ用ニ供シ一ハ之ヲ吐出スルノ用ニ供シ而シテ管ノ他端ニ唧筒ノ如キ器械ヲ裝置シ此器械ノ運轉ニ據リ潜水者ヲシテ絶エス新鮮ナル空氣ヲ吸入スルヲ得セシムルナリ故ニ此場合ニ於ケル空氣ハ勞力ト資本トヲ要シ且ツ之ヲ輸送スル分量ニモ自ラ限リアルヲ以テ此限リアル空氣ハ自由財貨タルノ性質ヲ失ヒ經濟上ノ財貨ト爲ルモノナリ又光線モ之ヲ理化學上ノ實驗ニ用フルトキハ經濟上ノ財貨ト爲ルコトアリ即チ物理學上ノ實驗ニ據リテ光線ノ七色ヲ分析シ若クハ之ヲ湊合スル場合ニ於テハ暗室ヲ作り針小ノ孔ヲ穿チテ一條ノ光線ヲ入ルノミニテ他ノ光線ノ侵入ヲ防クノ仕掛ヲ要スルコトアルヲ以テ是ニモ幾多ノ資本ト勞力トヲ要シ又其使用スル光線ニ限リアルヲ以テ潜水者ノ空氣ト同様ニ此場合ノ光線モ亦自由財貨タルノ性質ヲ失ヒテ經濟上ノ財貨ト爲ルナリ然レトモ

空氣光線ヲ經濟上ノ財貨ト爲ルハ例外ノ場合ニシテ普通ノ場合ニ於テハ此二者ハ共ニ自由財貨タルモノナリ

自由財貨ニモ亦二種アリ(イ)絕對的自由財貨(ロ)相對的自由財貨即チ是ナリ(イ)絕對的自由財貨トハ極メテ非常ナル例外ノ場合ヲ除ク外自由財貨タルノ性質ヲ失ハサルモノナリ空氣光線ノ如キハ元來此種類ニ屬シ唯例外ノ場合ニ人爲ヲ以テ故ラニ一時自由財貨タルノ性質ヲ失ハシムルコトアルノミ(CI)

(ロ) 絕對的自由財貨ト雖モ如何ナル場合ニモ其性質ヲ失ハスト曰フヲ得ス前ニ述ヘタル空氣光線ノ如キ自由財貨モ人爲ヲ以テ一時自由財貨タルノ性質ヲ失ハシムルコトアリ但シ二者ハ共ニ此等ノ例外ノ場合ヲ除クノ外時ノ古今海ノ東西ヲ問ハス常ニ自由財貨タルモノナリ(ロ) 相對的自由財貨トハ場所ノ異ナリ歲月ノ經過スルニ從ヒ自由財貨タルノ性質ヲ失フニ至ルコトアルモノヲ曰フ土地ノ如キハ此種類ニ屬スルモノナレトモ方今已ニ多クノ國ニ於テ自由財貨タルノ性質ヲ失フニ至レルモ

ノナリ往昔未開ノ社會ニ在リテハ土地ハ全ク自由財貨ニシテ交換價值ヲ有セザリキ故ニ人人皆自由ニ之ヲ占領シ得ヘク社會ハ未タ其一人若クハ共同團體ノ特ニ所有シ得ヘキモノタルヲ認メザリキ(二)然ルニ時勢(三)相對的自由財貨トハ人爲ノ作用ニ由リ自由財貨タルノ性質ヲ失フニ至ルモノニアラスシテ時代若クハ場所ノ異ナルニ依リテ其性質ヲ自然ニ失フモノヲ曰フ故ニ或場所若クハ或時代ニ在リテハ自由財貨タルモ他ノ場所若クハ他ノ時代ニ在リテハ自由財貨タルヲ得サルモノナリ財貨中此種類ニ屬スルモノハ許多アルモ就中土地ハ最モ著シキモノナリ蓋シ古昔ニ在リテハ土地ハ何人モ金錢ヲ出シテ之ヲ買取ルノ思想ナク空氣光線ト同シク何人カ自由ニ使用シ占領スルモ之ニ向テ容喙故障ヲ爲スナカリシモノナリ即チ當時ニ在リテハ土地ハ一人又ハ共同團體即チ社會全體ノ所有ニ屬ストノ制ヲ認メザリシナリ今日ニテモ亞非利加ノ内地又ハ太平洋ノ中央ニ在ル小嶋ノ如キニ在リテハ太古ノ有様ト同シク土地ハ何人ニテモ之ヲ自由ニ使用シ占領スルコトヲ得ルナリ

ノ變遷ニ從ヒ土地モ亦漸漸共同團體ノ所有又ハ一人ノ所有ニ歸スルニ至レリ是ニ於テ乎土地ノ所有權ナルモノ認メラレ其代價モ生シ勞働ヲ爲シ又ハ一定ノ報酬ヲ與フルニアラサレハ之ヲ取得スルコト能ハサルニ至リ遂ニ今日ニ於テハ土地ハ實ニ諸種ノ財貨中最モ高價ナルモノノ一ト爲レリ而シテ事ノ茲ニ至レルハ何等ノ人爲ノ手段方法ニ因ルニアラス唯土地カ時勢ノ變遷ニ從テ自然ニ自由財貨ノ區域ヲ脱シタルニ過キス(四)(四)前ニモ述ヘタルカ如ク太古土地ハ何人モ之ヲ自由自在ニ使用スルヲ得ルモノナリシコトハ社會學上誠ニ明瞭ナル事實ナリ然ルニ時勢ノ變遷ニ從ヒ人口モ増加シ土地ノ人ニ與フル利益モ一般ニ知ラレ遂ニ土地ノ所有權ナルモノ認メラルコトト爲レリ而シテ土地所有權ノ發達ヲ觀ルニ土地ハ初メ共同所有權ノ目的物ニシテ一人ノ土地所有權ナルモノハ認メラレス即チ一部落又ハ部落ノ内ノ小團體ノ所有ニ屬セリ今日ニテ云ヘハ一郡又ハ一町村ノ所有ト云フト同一ニテ個人ハ之ヲ所有スルヲ得ザリシモ時勢ノ變遷ニ依リ漸漸個人ノ所有ニ屬スルニ至

レリ隨テ土地ニ價ヲ生シ荷モ土地ヲ使用セント欲セハ勢力ヲ爲シ又ハ一定ノ報酬ヲ與フルヲ要スルコトト爲リ遂ニ今日ニテハ土地ハ財貨中最モ高價ノモノノ一ト爲レリ即チ太古ニ在リテハ自由財貨タリシ土地カ今日ニテハ經濟上ノ財貨ト爲ルニ至レリ故ニ文明ノ程度進ムニ從ヒ土地ハ其價ヲ増スモノナリト謂ハサルヘカラス我國ニテモ維新以前ニ在リテハ横濱ノ如キニ於テハ土地ノ價甚タ卑カリシモ今日ニテハ其價大ニ騰貴シ土一坪ノ價金一坪ニ相當スト曰フモ過言ニアラサルニ至レリ然レトモ横濱ノ繁盛モ英京倫敦杯ニハ及ハサルヲ以テ土地ノ價モ亦隨テ倫敦ニ於ケルカ如ク高貴ナラサルナリ此ノ如ク土地ノ價ハ文明ノ進歩ト正比例ヲ爲スモノナリト謂ハサルヘカラス然リ而シテ自由財貨中相對的ノモノハ獨リ土地ノミニ限ラス土地ハ單ニ其最モ著シキモノタルノミ彼ノ原野ニ生スル草根木皮ノ如キモ昔日ニ在リテハ何人モ自由自在ニ之ヲ獲得スルヲ得タルモノナレトモ之ヨリ藥品ヲ製出スルニ至リタルト人口ノ増加ノ爲メ需用ノ増シタルトニ因リ此等モ亦價ヲ有スル

コトト爲リ遂ニ自由財貨タル性質ヲ失ヒタルモノナリ此他禽獸蟲魚皆多少然リ此相對的自由財貨ハ絕對的自由財貨ト共ニ財貨ノ種類トシテハ之ヲ舉ゲサルヲ得タレトモ進ミテ種種ノ經濟上ノ問題ヲ考究スルニハ自由財貨ニ遭遇スルコトハ稀ナリ但シ方今既ニ經濟上ノ財貨ト爲リ居ル土地ハ此限ニ在ラス而シテ經濟上最モ必要ナルモノハ經濟上ノ財貨ナリ就中其中ノ有形ノモノ即チ貨物ナリトス

(乙)

經濟上ノ財貨或ハ之ヲ經濟的財貨ト曰フ(二五)經濟上ノ財貨トハ吾人類

(二五)經濟的財貨ト曰フトキハ聞ク者皆德用向キノ財貨ナルカ如キ或ヲ惹起スノ恐アルヲ免レス故ニ余ハ的ノ字ニ代フルニ上ノ字ヲ以テシ經濟上ノ財貨ナル語ヲ用フルコトトス

ヲ圍繞スル外界ノ區劃サレタル一部分ニシテ人爲ニ依リテ人人ノ欲望ヲ充タスニ適當ナル形體ヲ得又ハ之ニ適當ナル地位ニ置カレ而シテ後始メテ財貨タルノ性質ヲ得ルカ或ハ斯クシテ財貨タルノ性質ヲ増加サル所ナルモノヲ曰ラ(二六)經濟上ノ財貨ハ通常外界ノ區劃サレタル一部分ニシテ吾人類

二〇 宇宙ノ森羅萬象悉ク皆吾人人類ヲ圍繞スル所ノモノタラサルハナシト雖モ其中ニ就キ經濟上ノ財貨タルモノハ單ニ其一部分ナリ即チ特ニ限ラレタル外界ノ一部分ニ過キス此外界ノ一部分ハ或ハ人間ニ都合善キ形ニテ存在シ又ハ都合宜シカラサル形ニテ存在ス之ニ人ノ所爲ヲ加ヘテ人ノ欲望ヲ充タスニ適當ナル形體ノモノト爲シ又ハ適當ナル地位ニ置キテ始メテ財貨タルノ性質ヲ得セシメ或ハ之ニ依リテ財貨タルノ性質ヲ増加スルコトヲ得ルモノヲ稱シテ經濟上ノ財貨ト曰フ而シテ人爲ニ依リテ財貨タルノ性質ヲ得又ハ財貨タル性質ノ増加サルニハ形ヲ變スルコトアリ場所ヲ轉スルコトアリ先ツ人爲ニ依リテ適當ナル形ヲ得ルモノノ例ヲ舉クレハ銅又ハ鐵ノ如キモノ即チ是ナリ此等ノ物ハ其自然ノ有様即チ鐵山ニ在リテ銅鐵鑛タルトキハ其儘ニテハ全ク人ノ欲望ヲ充タスコト能ハス或ハ充タスコトアルモ誠ニ僅少ナリ骨董師採ノ間ニ在リテハ奇形ナル鑛物ヲ愛シ或ハ之ヲ賣買シテ其欲望ヲ充タスコトアルヘキモ此以外ノ人ニ取リテハ斯ル鑛物ヲ愛スル者ナシ然ルニ之ヲ精製シテ家具又ハ銅線

ト爲ストキハ之ニ依リ人ノ欲望ヲ充タスコト鮮少ナラス特ニ文明的交通機關ノ一タル電線ノ如キハ專ラ銅線ヲ用フルモノト又鐵ノ如キモ之ト同様ニシテ鑛物ノ儘ニテハ殆ト全ク用ヲ爲ササルモ之ヲ精製シテ機關車ヲ作リ又ハ鍛鍊シテ名刀ト爲ス時ハ其功用偉大ナルモノアリ而シテ此等ノモノカ形ヲ變スルトキハ必スシモ場所ヲ移轉スルモノト云フヲ得サルモ多クノ場合ニ於テハ同時ニ場所ヲ移轉スルモノナリ即チ鑛山ヨリ銅鐵鑛ヲ採リ來リテ之ヲ精製スルトキノ如キ是ナリ然レトモ此所ニハ説明上便宜ノ爲メ兩者ヲ區別シテ說カン外界ノ一部分カ場所ヲ替フルニ因リ財貨タルノ性質ヲ得又ハ其性質増加サルトキノ例ヲ舉クレハ珊瑚珠又ハ眞珠カ海底ニ在ル時ハ船ヨリ之ヲ望視スレハ光輝燦爛トシテ美ハ即チ美ナレトモ幾千尋ノ海底ニ在ル儘ニテハ何等ノ用ヲ爲スコトナシ時ニ或ハ好奇家アリテ海上ヲ航行スル都度望遠鏡ニテ之ヲ望視シ以テ其一種ノ欲望ヲ充タスコトナシトセサルモ一般ノ人ハ此ノ如キコトニテハ何等ノ欲望ヲ充タスコト能ハス即チ或例外ノ場合ニ於テハ海底ニ在ル儘ニテ欲望

ヲ充タスコトアルモ一般ニハ欲望ヲ充タスコトナシ然ルニ之ヲ海中ヨリ
引キ上クルトキハ高貴ノ價ヲ有スルニ至ル而シテ珊瑚珠ハ或ハ人爲ニ依
リテ形ヲ變スルコトアルモ異珠ニ至リテハ形ヲ變スルコトナシ此等ノモ
ノハ例外ノ場合ニハ天變地異ニ因リテ場所ヲ轉スルコトナシトセサルモ
普通ノ場合ニハ人爲ニ依リテ引上ケラルルモノナリ且ツ此等ノモノハ固
ヨリ外界ノ一部分ニシテ而モ限リアルモノナレハ均シク外界ノ一部分タ
ル空氣ノ如キ無限ノモノトハ大ニ異ナレリ以上ノ如キモノヲ指シテ經濟
上ノ財貨ト曰フ

ノ自由ニ左右シ若クハ利用スルコトヲ得ルモノタラサルヘカラス之ヲ換言
スレハ通常一個人ノ所有權ノ範圍内ニ屬スヘキモノタラサルヘカラス(七)

(七) 經濟上ノ財貨ハ勞働シ若クハ他ニ報酬ヲ與フルニ因リテ之ヲ占有
スルコトヲ得且ツ之ヲ自由ニ左右シ又ハ利用スルコトヲ得ルモノナレト
モ間ニ之ヲ利用シ使用スルコトハ出來ルモ全ク自由ニ左右スルヲ得サル
モノニシテ尙ホ且ツ經濟上ノ財貨タルモノアリ例ヘバ土地ノ如キハ經濟

上ノ財貨ナルモ自由自在ニ形ヲ變シ即チ或ハ球形ノモノト爲シ或ハ方形
ノモノト爲スコトハ出來サルナリ若シ球形又ハ方形ト爲ストキハ普通ノ土
地タルヲ得ス然レトモ土地ノ如キモノト雖モ勞働若クハ他ニ報酬ヲ與フ
ルニ因リテ得タル上ハ之ヲ利用スルコトヲ得ルモノナリ但シ法律ヲ以テ
利用ヲ制限スルトキハ格別ナリ而シテ又經濟上ノ財貨ハ一個人ノ所有權
ノ範圍内ニ屬スルモノナルヲ要スレトモ或國ニ於テハ所有權ヲ認メサル
モノニシテ尙ホ經濟上ノ財貨タルノ性質ヲ他ノ點ニ於テ備ヘ之ヲ經濟上
ノ財貨ト名クルノ外致方ナキモノアリ故ニ經濟上ノ財貨ハ一個人ノ所有
權ノ範圍内ニ屬スルモノタルヲ要スルハ普通ノ場合ニシテ是ニハ例外ア
ルコトヲ知ラサルヘカラス尙ホ此點ハ後ニ至リテ詳述セン

經濟上ノ財貨ハ又人爲ニ依リテ始メテ其重ナル性質ヲ具有スルニ至ルモノ
ナレハ常ニ勞力ニ據リテ起リ勞力ナケレハ之アルコトナシト曰フヲ可ナリ
但シ同一ノ勞力ハ必スシモ同一ノ財貨又ハ利用ヲ生セス同一ノ財貨又ハ利
用往往異種ノ勞力ニ因リテ起ル故ニ經濟上ノ財貨ノ起源ハ種種様様ノ勞力

ニ在リ先占ノ如キ容易ナル勞力ノミニ因リテ財貨ノ生スルコトモアレハ日
夜刻苦シテ勞働セサレハ財貨ノ生セサルコトモアリ唯何レノ經濟上ノ財貨
モ皆勞力ヲ要スルノ點ニ於テハ相一致スルノミ(二)此理由ト有限ノ性質ヲ
(三)前ニ述ヘタルカ如ク經濟上ノ財貨ハ其重ナル性質即チ人ノ欲望ヲ
充タスノ性質ヲ人爲ニ依リテ得ルモノナリ故ニ勞力アリテ始メテ經濟上
ノ財貨ハ財貨トシテノ價ヲ十分ニ備ヘ得ルモノナルヲ以テ大體ヨリ云ヘ
ハ經濟上ノ財貨ハ勞力ニ因リテ成ルト云フヲ得ルナリ然レトモ同一ノ勞
力ハ同一ノ經濟上ノ財貨ヲ生セス又同一ノ勞力ハ必スシモ同一ノ利用
ヲ生セス例ヘハ人力車夫カ客ヲ乗セテ同一ノ道程ヲ行クモ十錢ノ賃金ヲ
得ルコトアリ又二十錢ノ賃金ヲ得ルコトアリ車夫ノ得タル賃金ハ二ツノ
場合ニ於テ等シク財貨タルノ點ニ於テハ同一ナルモ其得タル金額ノ多少
即チ十錢ト二十錢トハ大ニ其利用ヲ異ニスルモノナリ此ノ如ク同一ノ勞
力ヲ施スモ同一ノ結果ヲ生セサルハ乘客ノ貧富及ヒ其他種種ノ事情ニ由
ルモノニシテ若シ車夫カ勞力ヲ施スニ當リ常ニ總テノ事情同シカリセハ

同一ノ結果ヲ生スルコトヲ得ヘキモ此ノ如キハ殆ト稀有ノ事タリ人間界
ニ於ケル原因結果ノ關係ハ物理界ニ於ケルモノトハ大ニ異ナレリ物理界ニ
於テハ同一ノ原因アレハ必ス同一ノ結果ヲ生スルモ人間界ニ在リテハ同
一ノ原因アルモ之ニ伴フ周圍ノ事情時ニ由リ大ニ異ナレハ必スシモ同一
ノ結果ヲ生セス而シテ又同一ノ利用同一ノ財貨モ異ナリタル勞力ニ因リ
テ生スルコトアリ例ヘハ均シク十錢ノ賃金ヲ得ルニモ新聞紙ノ配達ニ因
リテ得ルコトアリ人力車ヲ挽キテ得ルコトアリ是レ恰モ物理界ニ在リテ
熱ナルモノカ必スシモ同一ノ原因ニ由リテ生セス或ハ摩擦ニ因リ或ハ單
純ナル運動ニ因リテ生スルコトアルカ如シ而シテ財貨ヲ得ルニ最モ容易
ナル勞力ハ先占ニシテ之ヲ大ナル勞働ヲ爲シ汗水ヲ流シテ始メテ財貨ヲ
得ルニ比スレハ大ナル差異アリ此ノ如ク財貨ノ成立スルニハ其種類ニ由
リ種種ノ事情ニ由リテ勞力ノ難易ニ非常ノ差異アルモ勞力ヲ要スルノ點
ニ至リテハ皆相一致セリ

有スルトヨリシテ經濟上ノ財貨ハ不法ニ之ヲ獲得スル場合ノ外常ニ自ラ勞

歸スルカ或ハ他ニ報酬ヲ與フルカ然ラサレハ他人ヨリ無代價ニテ讓與サル
ルニアラサレハ決シテ之ヲ得ヘカラサルナリ

經濟上ノ財貨ニ三種ノ別アリ即チ(イ)貨物(ロ)人的財貨(ハ)有利關係ノ三者是ナリ
(イ)貨物トハ一ニ之ヲ有形ノ經濟的財貨ト稱シ吾人人類ヲ圍繞スル外界ノ區
劃サレタル一部分ノ重ナルモノニシテ常態トシテ財貨タルノ性質ヲ有ス
ルモノナリ是レ財貨ノ最も普通ナルモノニシテ經濟學上最も多く用ヒラ
レ或意味ニ於テハ最も重キヲ置カサルヘカラサルモノナリ通常ノ商品珍
奇ノ美術品食用品製造品等ノ如キ皆是ナリ(ニ)九

(ニ)九 美術品ノ美術品タル所以ハ商品ノ如ク有形ナル物件其物ニアラ
スシテ高尚ナル理想ニ存スルモノナレトモ有形ノ物件ト離ルヘカラサ
ルカ故ニ是レ亦貨物ナリ此等ノモノハ其通常ノ有様ニテ貨物タルモノ
ニシテ有利關係ノ如キ一時財貨タル性質ヲ有スルモノトハ同シカラス
即チ此等ノ物カ貨物タル性質ヲ失フトキハ其モノノ消滅スルトキニ限
ルモノナリ此貨物ハ經濟學上最も多く遭遇スル所ノモノナリ然レトモ

財貨ハ有形ノモノノミニ限ラス人ノ理想智識ノ如キ無形ノモノモ財貨
ナリ無形ノ財貨中間ニ最も尊フヘキモノヨリ觀レハ金錢米穀ノ如キ
富貴吾レニ於テ何ニカアラント謂フコトヲ得ルモ或意味ニ於テハ貨物
ハ經濟上最も重キヲ置カサルヘカラス

(ロ) 人的財貨トハ人其モノ及ヒ之ニ直接ノ關係ヲ有スル財貨ナリ之ヲ説明ス
ルニハ便利ノ爲メ更ニ細別シテ(1)ト(2)トノ二ト爲シ(3)ニ於テハ人其モノ
ノコト(2)ニ於テハ人ノ勤勞ヲ論述スヘシ(1)10

(1)10 人的財貨ハ一ニ之ヲ屬人的財貨トモ曰フ然レトモ屬人的財貨ト
曰ヘハ人ニ屬スル財貨ノミヲ意味スルコトト爲ルナリ而シテ人的財貨
ハ人ニ屬スル財貨ノミナラス人其モノヲモ包含スルモノナリ

(2) 人其モノ 人其モノトハ生理上並ニ心理上ニ於テハ他ノ人類ト異ナ
ル所ナケレトモ社會上經濟上並ニ法律上ニ於テ貨物ト同様ノ取扱ヲ受
ケ實際貨物ト同様ノ性質ヲ帶フルモノナリ(3) 而シテ其之ヲ帶フル
(3) 人ニハ人格ヲ備ヘタル者ト然ラサル者トノ二者アリ錢ニ外界

ノ財貨ノ定義ヲ與フルニ當リ苟モ人間以外ニ在リテ人間ノ採テ以テ其欲望ヲ充タスニ適當ナルモノヲ曰フト述ヘ其所謂人間トハ人格ヲ備ヘタル者ナルコトヲ要スト云ヘリ而シテ此所ニ所謂人其モノトハ即チ人格ヲ備ヘサル人夫レ自身ヲ指スモノナリ生理上竝ニ心理上ヨリ云ヘハ此種ノ人ト雖モ固ヨリ渴シテハ水ヲ欲シ飢エテハ食ヲ求メ寒ケレハ衣ヲ欲シ又喜怒哀樂ノ感情ヲ具フル等總テ他ノ人類ト同一ナレトモ是レ唯生理上又ハ心理上ヨリ觀察シタルニ過キス法律上ニ於テハ普通ノ人類ハ人格ヲ備フル者トシテ認メラレ權利義務ノ主體タレトモ貨物ノ性質ヲ有スル人其モノハ人格ヲ認メラレス又社會上ニ於テモ經濟上ニ於テモ二者ハ之ヲ同一視スヘカラス故ニ人格ヲ備ヘサル人ハ有形ノ商品食用品製造品等ト同一ノ取扱ヲ受ケ亦實際同一ノ性質ヲ有スルモノナリ此ノ如キ人其モノニシテ實際貨物ト同一ノ性質タルモノ昔日ニ在リテハ澤山存在シタルモ世ノ開明ニ赴クニ從ヒ漸漸其數ヲ減スルニ至レリ此ノ如キモノハ今日ニ於テ

全ク之ナシトセサレトモ公然認メラルルニアラスシテ單ニ所謂公然ノ秘密トシテ存スルニ過キス

ノ程度如何ハ總テ時ノ法律制度ニ據リテ定マルモノトス(二)故ニ奴隸(二)人間ニシテ貨物ノ取扱ヲ受ケ實際貨物ノ性質ヲ具フルニ至ルハ時ノ法律制度ニ據ル即チ貨物ノ人類ハ法律ノ之ヲ認ムルニ由リテ在存スルモノナリ隨テ貨物ノ性質ヲ帶フル程度ノ如何モ亦時ノ法律ニ依リテ定マルモノナリ而シテ法律上ニテハ認メラレサルモ實際上ニ於テ貨物ノ人類ノ存スルコトナシトセサレトモ此等ノモノハ此所ニ之ヲ論スルノ必要ナシ

ノ公認サレタル古代并ニ中世ノ諸國ニ於テハ彼等ハ生理上并ニ心理上ニ於テハ慥カニ他ノ人類ト異ナルコトナカリシト雖モ單ニ普通ノ貨物トシテ買賣讓與サレタルニ過キス又奴隸トマテニハ至ラサルモ之ニ類似スル所謂半奴隸ノ存在スルニ當リテハ是レ亦人類ニシテ人類ニアラス貨物ト稱スルモ可ナルモノナリ(三)此ノ如ク半奴隸ト稱スヘキ者ハ

(三) 人類ニシテ貨物ノ性質ヲ帶フル者ハ奴隸ナリ奴隸ハ法律上權利ノ主格タルヲ得ス單ニ權利ノ目的物タル者ナリ故ニ奴隸ノ持主ハ之カ生殺與奪ノ權利ヲ有シ奴隸ヲ殺スモ罰セラルコトナシ隨テ奴隸一箇ニ付キ若干ト云フ價ヲ定メテ之ヲ賣買スルニ至ル此ノ如ク奴隸ハ生命アルノ點ヨリ觀レハ普通ノ人類ト同一ナルモ單ニ權利ノ目的物タルヲ得ル者ナルヲ以テ牛馬鷄豚ト同シク貨物ノ性質ヲ有スル者ナリトス然レトモ等シク生テ人間ニ享ケタル者ヲ奴隸ト爲シ之ヲ貨物ト同一視スルハ苛酷ノ極ナルヲ以テ中世以後諸國大抵皆奴隸ノ制度ヲ認メサルコトト爲レリ而シテ又半奴隸ナル者アリテ法律上ノ取扱奴隸ニ於ケルカ如ク苛酷ナラサルモ普通ノ人間ト取扱ヲ異ニサレ人格ヲ認メラレサル者アリタリ此半奴隸ハ奴隸ニ比シ法律上ノ取扱ニ多少寬嚴ノ差アルモ二者共ニ人格ヲ有セサル者ナレハ貨物タル性質ニ於テハ同一ナリ

眞個ノ奴隸ノ既ニ廢セラレタル後ト雖モ多クノ國ニ於テ尙ホ存在セリ

其一種タル露國ノ農僕莊僕ノ如キニ至リテハ近年マテモ之アリタルモノナリ(四)

(四) 人間ヲ奴隸トシテ取扱フコトハ苛酷ノ最モ甚シキモノナルカ故ニ人類ノ同胞ニ對スル感覺發達スルニ從ヒ眞ノ奴隸ハ廢セラレタルモ尙ホ半奴隸ナル者存在シタリ農僕ノ如キハ其一種ニシテ土地ニ附着シ土地ト共ニ賣買讓與サレタリ當時農業ニ在リテハ勞働ヲ要スルコト最モ多ク通常ノ勞働ニテハ十分農作ヲ爲ス能ハサルヲ以テ奴隸ニ均シキ勞働者タル農僕ヲ以テ土地ノ附着物ト爲シタルモノナリ此農僕ハ其附着スル土地ト共ニ賣買讓與サレタルモノニシテ極近來マテ存在セリ特ニ露西亞ノ如キハ農業ヲ主トスル大國ナルヲ以テ土地ヲ耕スニ非常ニ多クノ農僕ヲ用ヒ土地ト共ニ之ヲ賣買讓與セリ其之ヲ廢止シタルハ今ヲ距ルコト漸ク四十年前ナリ即チ千八百六十二年二月十九日ノ露帝ノ詔勅ニ依リ千八百六十三年三月十七日ヲ期シ農僕ヲ開放シテ自由ノ民ト爲セリ其開放サレタル當時ニ於ケル露

國ノ農僕ハ男女老若合セテ二千六百六十二万五千六百九人ノ多キヲ占メタリ以テ露國ニ於ケル貧富懸隔ノ一端ヲ見ルニ足ルヘシ而シテ奴隸ノ存在シタルハ獨リ露國ノミニアラスシテ英佛獨等亦然リ唯此等諸國ハ此制度ヲ廢止スルコト露國ヨリ早カリシノミ又米國ニ於ケル南北戰爭ハ奴隸ヲ廢止スヘキヤ否ヤニ付キ議論ノ沸騰シタルニ基因スルモノニシテ民權自由ヲ重スル米國人ト雖モ尙ホ且ツ黑人ニ對シテ當時人權ヲ認メナリシナリ而シテ此戰爭ハ前世紀ノ六十年代ノ出來事ナリ現今ニテモ南亞米利加并ニ亞弗利加邊ニテハ秘密ニ奴隸ヲ賣買ス而シテ我國ニテモ古昔ハ奴隸ノ賣買アリタルモノニシテ之ニ關スル法令ノ規定モアルナリ又今日ニテモ人身賣買實際ニ行ハル唯公ケニ認メラレサルノミ然レトモ此ノ如ク公ケニ認メラレサルモノハ此所ニ論スルノ必要ナシ以上述フル所ニ據レハ人類發達ノ變遷ハ大體ニ於テ各國皆其軌ヲ同シウスルモノナリ尙ホ此點ニ關スル詳細ハ後日ニ至リ之ヲ述ヘン

其レ然リ然リト雖モ違ク例ヲ海外諸國ニ求ムルニ及ハス之ヲ本邦ノ歴史ニ徵スルニ本邦ノ古代ニ於テ氏氏ナルモノアリ之ニ伴部若クハ部曲ナルモノ附屬シ居リ舊幕時代ニ於ケル譜代ノ臣下ト同様ニ人身ノ自由ナカリシモノナリ其名稱ハ時代ニ依リテ大ニ異ナレトモ其實ハ大體ニ於テ皆同シ日本紀中安閑紀ニ部曲ヲ氏奴ト記ス是レ已ニ人身ノ自由ナキ者ナリ然ルニ此氏奴ヨリモ尙ホ下ニ位シ之ニ屬スル奴隸賤民隨身ナトト稱スル者スラアリテ此等ヲ賣買讓與シタル實例乏シカラサルノミナラス之ニ關スル法規マテモ多少備リ居リタルカ如シ現ニ觀ノ爲メニ賣ラレタル子ハ賤民ト爲ルヘキモノナレトモ兄ノ爲メニ賣ラレタル弟ハ賤民ノ階級マテニハ下ラスト云フガ如キ規定存在セリ(二五)

(二五) 往時ニ在リテハ何レノ國ノ人民モ皆倫理想充分ニ發達セザリシヲ以テ奴隸及ヒ半奴隸ノ制度殆ト何レノ國ニモ存在セリ之カ適例ハ之ヲ海外諸國ニ求ムルマテモナク我國ノ歴史ニ徵照シテ明カナリ即チ我國ノ古代ニ氏氏ナルモノアリテ之ニ附屬スル伴部若クハ部

曲ナルモノアリシカ其身體ヲ全然拘束セラルルコト恰モ舊幕時代ニ於ケル譜代ノ臣下ト同様ナリシ又日本紀ノ安閑紀ニハ部曲ヲ氏奴ト記シ氏奴ノ下ニ奴婢、賤民、隨身等ノ者之アリ此等ハ總テ人身ノ自由ナキモノナリシ特ニ奴婢、賤民、隨身等ハ氏奴ヨリ一層賤シクシテ之ヲ賣買讓與シタル實例乏シカラス且ツ之ニ關スル法規モアリタリ現ニ親ノ爲メニ賣ラレタル子ハ賤民ト爲ルモ兄ノ爲メニ賣ラレタル弟ハ賤民ト爲ラストノ規定存セリ兩者ノ間ニ此區別アル所以ハ蓋シ兄ノ弟ニ對スル權力ハ親ノ子ニ對スル權力ニ及ハサルノ理由ニ基クモノナラン此ノ如キ制度全ク廢止サレタル今日ニ於テモ賤シキ者ヲ賤民ト稱シ自己ヲ卑下スルトキニ隨身ノ語ヲ用フルコトアルハ此等ノ古代ニ於ケル制度ニ職由スルモノナラン由是觀之本邦ニモ奴隸ニ類シタル者アリ之ニ關スル法規マテモ多少備リ居リシ時代アリタルコトハ他ノ諸國ト其軌ヲ同シウスト謂フヘシ然レトモ此等ノ事ヲ詳細ニ研究スルハ法制史、經濟史或ハ社會學等ノ範圍ニ屬シ經濟學ニ於

(五)

テハ深ク之ヲ研究スルノ暇ナキヲ以テ此所ニハ唯財貨ノ中ニ斯ル種類アルコト及ヒ我國ニモ此等ノ者ノ存在セタリシコトヲ述フルニ止ム

勤勞 勤勞トハ人類カ一時外界ノ物體ニ及ホス影響ニシテ其繼續シツツアル間財貨タルモノナリ之ヲ換言スレハ人人ノ活動力其繼續スル間財貨タルノ性質ヲ有スルナリ例ヘハ雇人ノ勤勞ノ如キモノ即チ是ナリ(一)此ノ如キ勤勞ハ捕捉スヘカラスアルヲ以テ之ヲ全ク占有スルヲ得(二)勤勞トハ人人ノ活動ニシテ之ニ依リ一時外界ノ物體ニ影響ヲ及ホシ其影響ノ繼續スル間財貨タルモノナリ但シ此所ニ所謂影響ノ繼續トハ實際ニ於テ毫モ間斷ナキヲ要スルニアラス例ヘハ下女下男ノ如キハ或一定ノ期間報酬ヲ定メテ雇主ノ爲メニ勞役ニ服スルモ其勞役ハ晝夜通シテ間斷ナキヲ得ルモノニアラス即チ夜間ハ睡眠シ晝間ト雖モ休憩スルコトアルモ其定マリタル雇傭期間ハ勤勞ノ繼續スルモノト看做ササルヘカラス而シテ雇主ハ雇傭契約ノ範圍内ニ於テ其

勤勞ヲ自由ニ左右シ賣買讓與スルコトヲ得ルモノナルカ故ニ勤勞モ亦財貨ナリ此所ニ注意スキハ他ニアラス雇主ハ婢僕ノ供スル勤勞ヲ賣買讓與スルヲ得ルモ婢僕其人ヲ賣買讓與スルヲ得サルコト即チ是ナリ是レ婢僕ノ奴隸ト異ナル所ナリ

ス故ニ此種ノ財貨ハ(イ)種ノ財貨即チ貨物ノ如ク完全ナル所有權ノ範圍内ニ屬スルヲ得ス之ニ對スル所有權ハ法令上或ハ認メラレ或ハ認メラレス何レニシテモ極メテ不完全ナルモノタルヲ免レス(二七)

(二七) 勤勞ノ結果ハ多ク有形ナレトモ勤勞ソレ自身ハ無形ニシテ之ヲ捕捉スルヲ得ス故ニ如何ニ嚴酷ナル雇主ニテモ雇人ヲシテ終日間斷ナク勤勞ニ服セシムルヲ得サルモノナリ即チ雇人ト雖モ終日ノ勤勞ニ疲レテ倦ムニ至ルコトアルヘシ此場合ニ於テ之ヲ使役センカ爲メ鞭撻ヲ加ヘンカ是レ已ニ違法ノ事ニシテ雇主タルモノノ爲スヘカラサルコトタリ況ヤ鞭撻ヲ加フルモ尙ホ勤勞ニ服セサルニ於テハ又奈何トモスヘカラサルニ於テヲヤ此ノ如ク勤勞ナルモノハ之ヲ全ク

(ハ)

占有スルコトヲ得サルカ故ニ通常貨物ノ如ク完全ナル所有權ノ範圍内ニ屬スルモノトハ大ニ其趣ヲ異ニスルモノナリ隨テ勤勞カ所有權ノ目的物ト爲ルヲ得ルヤ否ヤハ法令上一問題タルヲ得ルモノナレトモ之ヲ抽象的ニ觀察スレハ所有權ノ範圍内ニ屬スルモノナリト云フヲ得サルニアラス但シ之ニ對スル所有權ハ極メテ不完全ナリト云ハサルヘカラス

有利關係トハ人又ハ貨物ニ對スルノ關係ニシテ之ヲ有スル者ニ利益アルモノナリ此關係ヲ外物ト區別シテ財貨ノ一種ト認定スルニハ多少心ノ抽象力ヲ要ス(二八)

(二八) 有利關係トハ或人ニ屬スル關係ニシテ人ニ對スルモノアリ貨物ニ對スルモノアリ人ト貨物トノ兩者ニ對スルモノモアリ此關係ハ即チ一種ノ財貨ナリ然ルニ關係ハ無形ノモノナルカ故ニ之ヲ他物ト區別シテ財貨ナリト看做スニハ人若クハ貨物ヨリ分離シテ想像セサルヘカス是レ其心ノ抽象力ヲ要スル所以ナリ此種ノ經濟上ノ財貨ハ之ヲ三種

ニ分チテ述フルヲ便利トス

(5)
自由交通ヨリ起ルモノ 自由交通ヨリ生スル有利關係トハ法令ノ規定ニ依リテ始メテ起ル所ノモノニアラスシテ經濟社會ニ於ケル人類ノ自由活動ニ據リ自然ニ生スル所ノ關係ヲ云フ例ヘハ商人ノ得意ノ如キ他人ニ對スル有利ノ關係即チ是ナリ元來此ノ如キ關係ハ人爲ニ因リテ起リ金錢ヲ以テ賣買讓與スルヲ得ルモノニシテ優ニ財貨タルノ性質ヲ有セリ(二九)

(三九) 自由交通トハ法令ノ保護若クハ獎勵等ノ力ニ據リ起ルモノニアラスシテ人類ノ經濟上ニ於ケル自由活動ヨリ生スル交通ニシテ此自由交通ヨリ起ル關係ヲ(5)種ノ有利關係トス例ヘハ商人ノ得意ノ如キ即チ是ナリ得意ナルモノハ敢テ法令ノ力ニ依リテ起ルモノニアラスシテ商人ノ勉勵ト誠意トニ因リテ生スルモノナリ而シテ得意ハ之ヲ有スル商人ノ他人ニ對スル無形ノ關係ナルモ其有無多少ハ大ニ商業ノ盛衰榮枯ヲ來スモノナレハ是レ亦一種ノ財貨タルヲ得ルモノ

ナリ隨テ之ヲ賣買讓與スルコトヲ得ルモノトス現今商業ノ最モ進歩シタル英國ニ在リテハ得意ノ賣買讓與盛ニ行ハレ之ニ關スル紛糾ヲ生スルコト屢之アリ從來我國ニ於テハ得意ノコトヲ株ト稱シ其賣買讓與ハ往往目撃セル所ナリ即チ彼ノ暖簾ヲ分ツト云フコトハ得意ノ讓與ニ該ルモノナリ例ヘハ久シク商家ニ召使ハレ商業上ノ伎倆ト經驗トニ富ミ相當ノ年齡ニ達シタル者ニハ主人ノ許シヲ得テ主家ト同分ノ得意先ニ對シ自家ニ久シク召使ヒタル某ヲシテ此度何處ニ商店ヲ開カシメタルニ付キ爾來自分ト同様ノ愛顧ヲ受ケ度旨ノ廣告ヲ爲スコトアリ然ルトキハ世間ノ人ハ此新店ニ對シ主家ニ對スルト同一ノ信用ヲ以テ商用ヲ命スルニ至ルヲ以テ全ク獨立シテ新店ヲ開ク者ニ比スレハ商業上ノ繁盛ヲ來スコト頗ル大ナリト是レ即チ得意ノ讓與ナリ故ニ得意ハ一種ノ財貨タル性質ヲ有スルモノナリト云フサルヘカラス現ニ東京ニ於テモ三河屋又ハ伊勢屋等ノ屋號ヲ有ス

ル商店ノ數十戸アルハ蓋シ得意ノ賣買讓與ニ由リテ生シタルモノナラン

(ろ)

經濟上ノ特別關係ニシテ法律ニ依リテ經濟交通多少制限サレ而シテ後始メテ財貨タルノ性質ヲ得ルモノ即チ特別保護專賣特許ノ如キモノヲ云フ(三〇)

(三〇) 法律カ或制限ヲ設ケテ一般經濟交通ヲ多少束縛シ之ニ依リ或特定ノ人ヲシテ他ノ人ニ比スレハ利益アル關係ヲ得セシムルコトアリ例ヘハ或物品ノ專賣特許權ヲ得タル者アルトキハ獨リ其者ノミ之ヲ製造販賣シ又ハ特許權其モノヲ賣買讓與スルコトヲ得他ノ者ハ同種ノ物品ヲ製造販賣スルコトヲ得サルノ制限ヲ受クルモノトス此ノ如ク法律カ他ノ者ニ加フル制限ハ特許ヲ得タル者ニ對スル保護ト爲リ彼ハ之ニ依リテ有利ノ關係ヲ得ルモノナリ此ノ如キ有利ノ關係ハ即チ財貨タル性質ヲ有スルモノナリ

(は)

人生ノ必要ニ應スル公共的ノ事業ヲ終始怠リナク規則正シク舉行ス

ルカ爲メニ設ケラレタル諸種ノ制度文物(三一)

(三一) 人生ニ必要缺クヘカラサル或事業ヲ永久ニ間斷ナク施行スルヲ目的トシテ設ケラレタル制度文物殊ニ公益ニ關スル施設ハ其主タル性質一種ノ關係ニシテ經濟上ノ財貨ナリ例ヘハ國家又ハ地方團體又ハ此等ニ關スル制度文物ノ如キ即チ是ナリ國家ハ固ヨリ財貨以上ノモノナレトモ之ヲ經濟上ヨリ觀察スレハ一種ノ財貨タルモノナリ何トナレハ國家存立ノ基本ハ其事務カ秩序正シク行ハルルニ在リ而シテ其事務カ整然トシテ行ハルルハ人類ニ取リテ必要缺クヘカラス人類ハ之ニ依リテ始メテ種種ノ欲望ヲ充タシ安堵生活スルコトヲ得ルモノナレハナリ然レトモ國家ハ單ニ財貨トシテ存在スルノミニアラス此他種種ノ資格アルハ勿論ナリ國家カ一種ノ財貨タルト同一ノ理由ニ因リ地方團體又ハ諸種ノ公共事務ヲ施行センカ爲メ設ケラレタル制度組織ハ悉ク經濟上ノ財貨ナリ又半官半民ノ資格ヲ有シ公益公益ヲ目的トシ文明ノ程度ニ依リテ財貨タルモノト否ラサルモノト

アリ亦十字社ノ如キハ此類ニ屬ス
右三種ノ有利關係ヨリ生スル一種ノ權利ハ之ヲ更ニ(二)ノ下ニ財貨ト看做
スヲ可トス

(1c) 所有權其他ノ權利ニシテ第三者ノ勤勞貨物等ニ對スル請求權ヲ與フ
ルモノ例ヘハ契約ニ基ク權利ノ如キモ亦一種ノ財貨ト看做ササルヘカ
ラス(111)

(111) 所有權ヲ除キタル他ノ權利ニシテ第三者ノ勤勞又ハ貨物ヲ請
求シ得ル權利モ亦財貨ナリトス然レトモ其性質ハ他ノ財貨ト大ニ異
ナル所アルヲ認メサルヘカラス

總テ財貨ハ以上述ヘタル種類ニ漏ルルモノナカルヘシ此等ノ種類ヲ表ニテ示
セハ左ノ如シ

財貨
內界ノ財貨 自由財貨 絕對的自由財貨
外界ノ財貨 相對的自由財貨 (人其モノ)

人的財貨 勤勞

經濟上ノ財貨 貨物

自由交通ヨリ生スルモノ

有利關係

法律上ノ制限ニ基クモノ

公共ノ組織ニ由レル秩序ノ關係

第三章 價 直 (二)

(一) 價直トハ獨乙語ニテ「ウエルト」(Wert)ト云フモノニシテ英語ニテ「バリュ
ウ」(Value)佛語ニテ「バロール」(Valeur)ト云フ然レトモ此英佛ノ語ハ獨乙語ノ
「ウエルト」ト少シク其意味ヲ異ニシ寧ロ價直ノ一種タル價格ニ相當セリ故ニ
價直ナル語ヲ強テ英語ニ譯スルトキ「ウオーズ」ヲ以テ最も適當ナリトス從來
我國ニ於テハ價直ト價格ト同一ノ意義ニ用ヒ兩語トモ均シク金錢ニ見做
リタル價ニ用ヒラレタルモ本章ニ用フル價直ノ語ハ價格ヨリモ廣キ意味ヲ
有スルモノニシテ獨乙語「ウエルト」ニ相當スルモノナリ英國ニテハ價直ニ

適當ナル語ナク「バリユウ」ナル語ヲ用フレトモ是レ獨逸語「ウエル」ト少シク其意義ヲ異ニシ價直ノ一種ナル價格ト同一ノ意味ヲ表ハスニ過キス故ニ價直ハ強テ之ヲ英語ニ譯スレハ「ウォースト」云フヲ適當ナリトス抑モ價直トハ之ヲ有スル財貨カ人類經濟上ノ目的ヲ達スルニ足ル所ノ性質ニシテ人ノ認識スル所ノモノナリ換言スレハ價直トハ人ノ認メテ以テ其欲望ヲ満足スルニ適當ナリト爲ス所ノ財貨ノ性質ナリ而シテ此性質ハ之ヲ他ノ財貨カ人ノ欲望ヲ満足スルニ適當ナル性質ト比較スルニアラサレハ之ヲ明カニスヘカラス故ニ價直ハ財貨固有ノ性質其モノニアラスセテ此性質ヲ人類カ主觀的ニ認識スルニ因リテ生スルモノナリ(二)

(一) 價直トハ財貨カ人ノ欲望ヲ滿タスニ足ルノ性質ニシテ人ノ認識スル所ノモノナリ故ニ價直ハ總テ主觀的ノモノナリト謂ハサルヘカラス但シ人ニヨリ價直ヲ分チテ主觀的價直ト客觀的價直トノ二者ト爲ス者アレトモ其所謂主觀的價直トハ自己一人ノミカ認ムルモノヲ謂ヒ客觀的價直トハ世間一般ノ人ノ認ムルモノヲ謂フモノナルヲ以テ結局價直ハ總テ主觀的認識力ニ

據リテ成立スルモノナリトノ原理ハ動カスヘカラサルモノナリ然リ而シテ此ノ如クシテ成立スル價直ノ大小高低ヲ定ムルニハ二箇以上ノ財貨ヲ比較スルヲ要ス例ヘハ水カ渴ノ欲望ヲ滿タス力ハ之ヲ酒カ同欲望ヲ滿タス力ニ比シテ始メテ之ヲ明カニ知リ得ルカ如シ

其レ然リ而シテ人類ノ主觀的認識ハ種種ノ財貨ニ對シ相異ナルコト種種ノ財貨カ人ノ欲望ヲ満足セシムルノ程度大ニ異ナルト同様ナレハ價直モ亦種種ノ財貨ニ對シ相異ナラサルヲ得ス故ニ種種ノ財貨ニ附著スル所ノ性質ヲ精査比較シテ始メテ真正ノ價直ヲ知ルヘキナリ(三)

(三) 真正ノ價直ヲ知ルニハ財貨ニ附著スル性質ヲ精密ニ吟味シ之ヲ相互ニ比較スルヲ要ス何トナレハ各種ノ財貨ハ悉ク同一ノ欲望ヲ滿タスモノニアラス其之ヲ滿タス程度互ニ相異ナリ隨テ人ノ主觀的認識モ各種ノ財貨ニ對シ相異ナルモノナレハナリ

價直ヲ分チテ二ト爲ス曰ク第一、利用價直第二、交換價直是ナリ
第一 利用價直(一)ニ之ヲ效用價直又ハ使用價直ト謂フ(四)

價直
利用價直
交換價直

(四) 利用價直ヲ效用價直又ハ使用價直トモ謂フ然レトモ此三ツノ語ハ何レヲ用フルモ意味ニ於テハ同一ナリ余ハ姑ク利用價直ノ語ヲ用フ

利用價直トハ一種ノ財貨カ直接ニ人類ノ利用ニ適スル性質ニシテ此財貨ノ所有若クハ之ヲ所有セント欲スル者自身或ハ社會一般カ此種ノ財貨カ其欲望ヲ直接ニ満たスニ足ルヲ認ムルニ因リテ生スルモノナリ(五)

(五) 財貨カ直接ニ人ノ利用又ハ使用ニ適スル性質ヲ有シ此性質ヲ人カ認ムルニ因リテ利用價直ナルモノ生ス然リ而シテ此性質ヲ認ムル者ハ當該財貨ヲ所有シ若クハ所有セントスル或特定ノ人ナルコトモアレハ社會一般ノ人ナルコトモアリ

此利用價直ヲ細別シテ二トス即チ(甲)具象の利用價直(乙)抽象の利用價直是ナリ

(甲)具象の利用價直一ニ之ヲ特別の利用價直ト謂フ

具象の利用價直トハ或人ニ特別ニシテ且ツ直接ノ利用價直ナリ即チ財貨ノ所有者若クハ之ヲ所有セント欲スル者カ或種類ノ財貨又ハ或特定ノ時ニ際シ其特定ノ分量カ自己ノ欲望ヲ満たスニ適當ナルヲ認ムルニ因リテ成立ス

ルモノトス(六)

(六) 具象の利用價直ヲ特別の利用價直トモ謂フ然レトモ二語孰レヲ用フルモ差支アルコトナシ唯學問上ノ用語トシテハ寧ロ具象の利用價直ト謂フヲ可ナリトスルニ過キス此種ノ價直ハ或特定ノ人ニ依リテ其直接ニ利用ヲ與フルヲ認メラルルニ因リテ生スルモノナリ即チ財貨ノ所有者又ハ之ヲ所有セント欲スル者カ自己ノ欲望ヲ満たスニ適當ナルヲ認ムルカ又ハ或特別ノ場合ニ其財貨ノ特定ノ分量ヲ自己ノ欲望ヲ満たスニ適當ナリト認ムルニ因リテ具象の利用價直ヲ生ス故ニ此價直ノ生スル場合ニハ同一ノ財貨ニシテ或人ニハ利用ヲ與フルヲ認メラルルモ他ノ人ニハ認メラレサルコトアリ例ヘハ骨董品ノ如キハ骨董好ノ人ニハ其好奇心ヲ満たスニ足ルヲ十分認メラルルモ他ノ人ニハ之ニヨリ何等ノ欲望ヲも満たスニ足ルコトヲ認メラレサルカ如キ是ナリ

(乙) 抽象の利用價直一ニ之ヲ一般の利用價直ト謂フ(七)

(七) 此二ツノ語モ亦孰レヲ用フルモ可ナリ唯抽象の利用價直ノ方學問上

ノ語トシテハ一層適當ナルノミ

抽象的利用價直トハ一種ノ財貨カ其性質上人類一般ノ或欲望ヲ滿タスニ適當ナルヲ世人一般ニ認メラルルニ因リテ成立スルモノナリ(八)

(八) 或財貨カ人ノ或欲望ヲ滿タスニ足ルヲ一般ノ人ニ認メラルルトキハ抽象的利用價直ナルモノ生ス例ヘハ水ノ如キハ此種ノ價直ヲ有スルモノトス即チ水ハ渴シタルトキニ之ヲ飲メハ欲望ヲ滿タスニ足ルハ何人モ之ヲ認ムル所ナレハナリ但シ非常ノ好酒家ニ在リテハ渴ヲ醫スルハ酒ニ若クナシトスル者或ハ之アルヘシト雖モ是レ例外ニ屬スルモノニシテ世人ハ一般ニ水カ渴ノ欲望ヲ滿タスニ足ルヲ認ムルカ故ニ水ハ抽象的利用價直ヲ有スルモノナリト謂ハサルヘカラス然リ而シテ價直ハ人ノ認識ニ因リテ生シ認識ハ時勢ニ因リテ異ナルカ故ニ當初一ノ財貨カ或特定ノ人ニノミ利用ヲ與ヘ具象的利用價直ヲ有スルモ世ノ風潮變移シテ世人一般カ其價直ヲ認ムルニ至ルトキハ具象的利用價直變シテ抽象的利用價直ト爲ルモノトス流行品ノ如キ即チ是ナリ例ヘハ骨董品ノ如キハ具象的利用價直

ヲ有スルモノナルモ流行ニ因リ世人一般カ之ヲ愛スルニ至ルトキハ隨テ抽象的利用價直生スルモノナリ而シテ又之ト同一ノ理ニ據リ始メハ抽象的利用價直ヲ有セシモノカ具象的利用價直ノミヲ保存スルニ至ルコトアリ例ヘハ往昔流行シタル麻上下ノ如キハ當時ニ在リテハ抽象的價直ヲ有セシモ今日ノ燕尾服時代ニ至リテハ單ニ具象的利用價直ヲ存スルニ過キス

第二 交換價直

交換價直トハ舊派經濟學者ノ多數カ直チニ價直其モノト混同スル所ノモノニシテ一種ノ財貨カ他ノ財貨ト交換シ得ルニ適當ナル價直ナリ(九)

(九) 舊派經濟學者ノ多數ハ交換價直ハ即チ價直ニシテ交換價直ヲ措キテ別ニ價直ナルモノアルコトナシト斷定シ二者ヲ同一ニ看做シ利用價直ヲ認メス然レトモ價直ヲ有スル財貨ニシテ交換シ得ヘカラサルモノアルハ爭フヘカラサル所ナリ蓋シ交換シ得ヘカラサル財貨ニ二種アリ其一ハ性質上交換スルコト能ハサル財貨ニシテ内界ノ財貨ノ如キハ之ニ屬ス例ヘハ茲ニ正直ノ

歸アリ此翁父ヲシテ金庫ノ監守ヲ爲サシムルトキハ盜難ヲ防クヲ得ルヲ以テ此正直ナル性質ハ即チ財貨ニシテ價直ヲ有スルモノナレトモ此ノ如キ内界ノ財貨ハ之ヲ有スル人ニ專屬シ之ヲ交換セント欲スルモ能ハサルモノナリ故ニ交換價直ヲ有セス其ニハ性質上交換スルト能ハサルニアラサルモ他ノ財貨ノ代リニ之ヲ受取ル者ナキニ由リ交換シ得ヘカラサル財貨タルモノナリ例ヘハ骨董品ノ如キハ之ヲ他ノ財貨ト交換セント欲スルモ買主若クハ受取人ナキコトアルカ如シ英國舊派ノ學者ハ此二種ノ如キ財貨ニハ價直ナシト爲セリ故ニ彼等ハ價直ノ意義ヲ解スルコト狹キニ失シタルモノト謂ハサルヲ得ス抑モ交換價直ナルモノハ畢竟間接ノ利用價直ニシテ唯一時其利用ヲ猶豫サレ居ルニ過キササルモノトス何トナレハ交換ノ目的ハ交換シテ得タルモノヲ以テ各自ノ欲望ヲ滿タサントスルニ在レハナリ即無甲ニ於テ無用ナリトスルモノヲ甲ハ有用ナリトシテ受取ルモノナリ然ラハ其交換セラルヘキモノハ利用價直アルモ一時其利用ヲ猶豫サレタルノミ此ノ如ク人ノ欲望ヲ滿タス

ヲ得ヘキ財貨アリテ而シテ之カ價直ヲ認ムルニ因リ交換ノ起ルモノナレハ利用價直アリテ始メテ交換價直アリト謂ハサルヘカラス此理ヲ知ラント欲セハ先ツ交換價直ハ如何ナル條件ノ下ニ成立スルヤヲ知ラサルヘカラス交換價直ノ成立條件三アリ左ノ如シ

(甲) 利用價直アルヲ要スルコト(一〇)

(一〇) 利用價直アリテ始メテ交換價直アリ利用價直ヲ離レテ交換價直カ單ニ存在スルモノニアラス何トナレハ毫モ人ノ欲望ヲ滿タスニ足ラサルモノハ恩惠的ニ出ツル例外ノ場合ヲ除キテハ決シテ賣買交換セラルコトナケレハナリ然レトモ前ニ述ヘタルカ如ク利用價直ニハ抽象的ノモノト具象的ノモノトノ二種アルヲ以テ世間一般ノ人カ見テ以テ利用價直ナシトスル物ノ賣買二三ノ人ノ間ニ行ハルコトアラハ是レ當事者各自ニ取リテハ利用價直アルモノナリ世間一般ノ度外視スル所ニシテ單ニ二三ノ人ノ間ニ行ハル骨董品ノ賣買ノ如キハ之カ一例ナリ故ニ交換價直ノ成立ニハ必スヤ先ツ利用價直アルヲ要スルモノトス

(乙) 交換價直ヲ有スル財貨ヲ獲得スルニハ必ス勞力ヲ提供スルカ若クハ他ニ報酬ヲ與フルヲ要スルコト(一)

(二) 交換價直ヲ有スル財貨ヲ得ルニハ自ラ働クカ又ハ働クニ相當スル次ノ報酬ヲ與フルヲ要ス若シ然ラサルモノハ交換價直アルコトナシ故ニ彼ノ自由財貨タル空氣ノ如キハ之ヲ得ルニ何等ノ報酬ヲ要セサルヲ以テ交換價直ナキモノナリ但シ空氣ト雖モ潛水者カ器械ニ依リ之ヲ使用スルトキハ經濟上ノ財貨ト爲ルヲ以テ交換價直ヲ生スルモノトス

(丙) 交換價直ヲ有スル財貨ヲ全ク所有シ賣買讓與スルハ法令ノ認許スル所タルヲ要スルコト(二)

(三) 法令カ賣買讓與ヲ認許セサル財貨ニハ交換價直ナシ故ニ奴隸ノ賣買ヲ法令上禁止スル文明諸國ニ於テハ奴隸ハ實際存在スルコトアルモ是レ社會ノ裏面ノ事ニシテ經濟學ハ公然之ヲ認ムルコトナク之ヲ以テ交換價直ヲ有スルモノト爲サス

右述ヘタル所ニ據レハ交換價直ヲ有スルモノハ通常經濟上ノ財貨ナリ然レト

モ自由財貨モ亦前掲ノ三條件ヲ具備スルトキハ交換價直ヲ有シ得サルニアラズ(三)

(三) 交換價直ヲ有スルモノハ通常經濟上ノ財貨ナレトモ總テノ經濟上ノ財貨ハ必ス交換價直ヲ有スルモノナリト爲スヲ得ス之ニ反シテ自由財貨モ亦前掲ノ三要件ヲ具フルトキハ交換價直ヲ有スルモノト爲ル例ヘハ潛水者ノ爲メニ器械ノ作用ニ依リテ供給サルル空氣ノ如キハ勞力ト資本トヲ要シ且ツ法令上之カ呼吸ヲ禁止スルカ如キコトナキカ故ニ交換價直ヲ有スルモノナリ

右ノ如ク價直ニハ利用價直ト交換價直トノ二大區別アレトモ前已ニ述ヘタルカ如ク交換價直存在條件ノ一ハ利用價直ニシテ利用價直アリテ而シテ後チ始メテ交換價直ノ生スルモノナレハ財貨ノ價直ハ到底同一ノ主觀的認識力ニ因ルモノナリ畢竟二者ハ一ノ價直ノ兩面タルニ過キス(四)

(四) 財貨ニシテ利用價直ノミアリテ交換價直ナキモノアリ然レトモ交換價直アルモノニハ利用價直ノ備ハラサルコト決シテ之アルコトナシ然リ而

シテ此後ノ場合ト雖モ利用價直ニ交換價直カ附加サレタルニアラスシテ兩者ハ唯一ノ價直ニ付キ觀察ノ方面異ナルヨリ生スルモノタルニ過キス例ハ茲ニ一箇ノ湯呑ヲ取り前面ヨリ之ヲ見ルトキハ凹形ヲ爲スモ後面ヨリ之ヲ見レハ凸形ヲ爲スカ如ク二種ノ價直モ亦之ト同一ノ關係ヲ有スルモノニシテ利用ノ點ヨリ觀ルト交換ノ點ヨリ觀ルトノ差異アルノミ而シテ此ノ二種ノ價直ハ何レモ同一ノ主觀的認識力ニ因リテ生スルモノナリ然ルニ舊派ノ經濟學者中價直ノ種類ヲ分ツニ當リ利用價直交換價直ノ二者ヲ全く別異ノモノト爲セルアルハ未タ研究ノ足ラサルニ因ルモノナリ

此ノ如ク交換價直ノ基礎ハ常ニ利用價直ニシテ利用價直ハ之ヲ有スル財貨ト他ノ財貨トノ比較ニ依リテ確定スルモノナリ而シテ財貨ニ對スル需要ノ適切ナルト否トハ其他物ト交換スヘキヤ否ヤヲ決スルノ根底ト爲ルヘクレハ其交換スヘキヤ否ヤニ依リテ利用價直ノ大小如何モ亦確定スルニ至ルヘシ由是觀之利用價直ハ交換價直ニ依リテ確定セラレ交換價直ハ之ヲ有スル財貨ノ利用如何ニ依リテ生スルモノニシテ兩者ノ關係ハ實ニ車ノ兩輪鳥ノ雙翼ノ如ク相

待チテ始メテ成立スルモノト謂フヘシ勿論利用價直ハ交換價直ヲ待チテ始メテ生スルモノニアラスト雖モ交換價直ノ助力ニ據リテ是カ量定ヲ爲スニアラサレハ漠然捕捉スヘカラサルモノトシテ止マン(一五)

(一五) 何人モ無用ナリトスル物ハ之ヲ他物ト交換セント欲スルモ得ヘカラス故ニ人カ或財貨ニ對シ需要ヲ有シ其需要ノ適切ナルヤ否ヤノ差異ハ其物カ他物ト交換サルルコトヲ得ルヤ否ヤヲ決スルノ根底ト爲ルモノナリ之ト同時ニ其交換シ得ル物ナルヤ否ヤハ其物ノ利用ノ大小ニ關係ヲ有スルモノニシテ交換力アル財貨ハ利用價直モ隨テ大ナルモノナリ故ニ利用價直モ亦交換價直ノ力ニ依リテ確定スルモノニシテ兩者ノ關係ハ相待チテ始メテ全キモノナリ詳言スレハ利用價直ハ交換價直ニ依リテ始メテ生スルモノナリト謂フヲ得サレトモ交換價直ノ助ヲ藉ルニアラサレハ利用價直ノ程度ヲ量定スルコトヲ得サルモノトス例ヘハ太平洋ニ在ル殆ト際限ナキ水量ハ多少ノ利用ヲ人ニ與フルコトハ何人モ認ムル所ナルモ此水カ果シテ幾何ノ價直ヲ有スルヤヲ知ランニハ之ヲ他ノ水ト比較シ一バ鹽ヲ製スルヲ得ルモ飲

料ニ適當ナラス一ハ飲料ニ適スルモ鹽ヲ製スルニ適セサル等ノ點ヨリシテ兩者ヲ比較シテ而シテ後チ始メテ太平洋ノ水ノ利用價直ヲ量定スルコトヲ得ルモノナリ

此ノ如ク價直ニ利用價直ト交換價直トノ二種アリト雖モ此ノ區別ハ畢竟同一價直ヲ二箇ノ方面ヨリ觀タルニ過キサルナリ尙ホ進ミテ二種ノ區別ヲ問ハス等シク主觀的ノ認識ニ因レルモノタル價直ヲ左右スルニハ如何ナルモノノ斟酌ヲ要スルヤト云フニ通常下ノ二者ヲ參照ス一ハ財貨固有ノ利用即チ價直ヲ認メラルルモノノ有スル自然ノ利用ニシテ一ハ財貨ニ對スル欲望即チ是ナリ

(二) 此二要件中第二ノ欲望ハ其適切ナルト否トニ依リテ固ヨリ同一ナラサル

(三) 價直ハ其利用價直タルト交換價直タルトニ拘ラス總テ人ノ認識力ニ因リテ生スルモノナレトモ其認識力ニ因リテ價直ノ高低定マルニハ二箇ノ斟酌サルヘキモノアリ一ハ價直ヲ認メラルル物ノ自然ノ利用即チ天然自然ニ利用ヲ與ヘ得ルノ性質ナリ凡ソ價直ハ人カ認ムルニ因リ生スルモノナレトモ金ク何等ノ用ニモ立タサルモノニ對シテハ人カ價直ヲ認ムルコトナキ

ヲ以テ荷モ價直ヲ認メラルルニハ其物自身カ利用ヲ與ヘ得ルノ性質ヲ備フルモノタラサルヘカラス尙ホ他ノ一ハ價直ヲ認メラルヘキモノニ對シ人カ之ヲ得ントスル欲望存在セサルヘカラス例ヘハ煙草ノ如キハ二三百年前ニ何人モ之ヲ用フルモノナカリシカ故ニ當時ニ在リテハ雜草ト同一視セラレタルモノナレトモ爾後煙草ハ人ノ欲望ヲ滿タスモノト爲リ始メテ價直ヲ生スルニ至レルカ如キ即チ是ナリ

結果ヲ生シ需要供給ノ關係ニ依リテ定マリ需要ハ又社會上經濟上種種ノ事情ニ依リテ定マルモノナリ以上ノ二者先ツ第一ニ斟酌セラレサルヘカラスルモ其他ニ尙ホ必要ナルハ種種ノ價直ノ比較サルヲ得ルコト即チ是ナリ是レ特ニ交換シ得ヘキ財貨ニ於テ必要ナルノミナラス同時ニ又交換シ得ヘカラスル財貨ニ於テモ出來得ヘキコトナリトス(一七)

(二七) 人ノ物ニ對スル欲望ハ其物ノ異ナルニ從ヒ又人ニ依リ強弱アリ而シテ價直ノ高低ハ此欲望ノ強弱ニ依リテ支配サルルモノナリ換言スレハ價直ノ高低ハ之ヲ有スル物ノ需要供給ノ關係ニ依リテ定マルモノナリ即チ供給

多クシテ需要少ナキモノハ價低ク供給少ナクシテ需要多キモノハ其價直高シ是レ價直ノ高低ニ關スル經濟學上ノ原則ナリトス而シテ需要ノ多少ノ外國ニ對スル產業上ノ競争又ハ外交上ノ關係其他種種様ノ事情ニ依リテ定マルモノニシテ決シテ單純ノ原因ニ由リテ定マルモノニアラサルナリ從來英米佛等ノ經濟學者ニシテ廣義ノ價直ト價格トヲ同一視シタル者頗ル多ケレハ世人カ價直ノ一種タル交換價直ト價格トヲ混同スルハ敢テ深ク咎ムルニ足ラス(一〇)抑モ交換價直ノ價格ニ於ケル關係ハ財貨ノ交換サレ得ヘキ可能性(一一)從來英米佛ノ經濟學者ノ多數ハ價直其モノト價格トヲ同一視シ價直ハ即チ價格ナリト爲シ特ニ利用價直ナルモノヲ認メサリシ故ニ世人カ交換價直ト價格トヲ混同スルハ敢テ怪ムニ足ラサルナリ

性カ現ニ交換サルル事實ニ於ケルカ如シ(一二)價格ハ一種ノ財貨カ實際他ノ財(一三)交換價直トハ交換サレ得ヘキ性質ヲ謂ヒ價格トハ交換ノ事實アリテ始メテ起ルモノナリ故ニ交換ノ可能性ヲ有スル財貨カ實際交換サルルトキハ茲ニ始メテ價格ナルモノ生スルナリ

貨ト交換サルルニ因リテ始メテ成立スルモノナルカ故ニ甲ノ價格ハ其現在交換サルル乙ノ分量ニシテ乙ノ方ヨリ言ヘハ乙ノ價格ハ其現在交換サルル甲ノ分量ナリ例ヘハ米一升ト茶一斤ト交換サルルトキハ米一升ノ價格ハ茶一斤ニシテ茶一斤ノ價格ハ米一升ナリ然ラハ則チ價格ナルモノハ決シテ單獨ニ存在スルモノニアラス他ニ比例シ他ニ關係シテ起ラサルヘカラス而シテ其起ルヤ自由交通ノ經濟社會ニ在リテハ財貨ヲ相互ニ交換スル人人ノ合意ニ因ルモノトス財貨ニシテ通常交換サレ自由交通ノ經濟社會ニ最も多ク存在スルモノヲ稱シテ之ヲ貨物ト謂フ貨物ト常ニ交換サレ交換ヲ其職分トスルモノヲ稱シテ之ヲ交換ノ媒介ト名ク今日ノ社會ニ於テハ貨幣即チ是ニシテ實ハ貨物ノ一種ナリ(一四)

(一五) 價格ハ財貨ヲ交換スル人人相互ノ合意ニ因リテ定マルモノトス而シテ通常世人ノ間ニ交換サルル財貨ハ即チ貨物ナリ無形ノ財貨モ亦交換サルルコトナキニシモアラサルモ是レ特別ノ場合ニ屬ス而シテ直接ニ欲望ヲ滿タスヲ職分トセスシテ交換ヲ職分ト爲スモノヲ交換ノ媒介ト稱ス貨幣即チ

是ナリ貨幣モ亦一種ノ貨物ナレトモ他ノ貨物ト異ナル所ハ交換ヲ常職トスルニ在リ

財貨ハ其交換ナルヲ其レ丈多クノ種類ノ價格ヲ有ス即チ各種ノ財貨ハ之ト交換ナル他ノ財貨ニ對シ相互ニ交換ノ媒介タリ(二)此ノ如ク價格ハ單一箇(三)財貨ハ常ニ貨幣トノミ交換ナルモノニアラスシテ他ノ財貨ト交換ナルコトアリ此ノ如ク一ノ財貨カ貨幣ノ媒介ニ依ラスシテ直接ニ他ノ財貨ト交換ナル場合ニ於テハ其財貨ハ交換ナル毎ニ價格ノ種類ヲ増スモノトス例ヘハ米一升カ麥一升五合ト交換ナルトキハ米一升ノ價格ハ麥一升五合ナリ而シテ此一升ノ米カ更ニ茶一斤ト交換ナルトキハ此米ニハ二種ノ價格ヲ生シタル譯合ナリ即チ麥ニ對シテハ一升五合茶ニ對シテハ一斤ノ價格アルナリ故ニ交換ナル財貨ハ相互ニ交換ノ媒介タルモノナリ然レトモ價格其モノト價格ノ高低トハ自ラ別物ナレハ此二者ヲ混同スヘカラス

ノ財貨ノミニテハ存在セシテ數箇ノ財貨ノ比較ニ因リテ始メテ成立スルモ

ノナルカ故ニ一財貨ノ價格カ騰貴セリト謂フハ其交換上他ノ財貨ヲ得ル比例ノ増加シタルコトニシテ一財貨ノ價格カ下落セリトハ交換上他ノ財貨ヲ得ルノ比例減少シタルコトナリ故ニ一財貨ノ價格カ他ノ種類ノ財貨ニ對シテ全體同時ニ下落スルハ其他ノ財貨ト交換シ得ル比例ノ減少シタルニ外ナラス(三)然レトモ總テノ財貨カ同時ニ互ニ相騰貴シ又ハ互ニ相下落スルコトハ決シテ

(三)一財貨ノ價格ノ騰貴トハ其他ノ財貨ト交換ナルニ當リ從來ヨリモ多クノ分量ヲ得ルコトト爲リタルヲ謂ヒ其下落トハ他ノ財貨ト交換ナルニ當リ從來ヨリモ少クノ分量ヲ得ルコトト爲リタルヲ謂フモノトス

出來得ヘカラサル事ナリ何トナレハ價格ハ素ト二種以上ノ財貨ノ交換比例ナレハ一方ノ騰貴スルハ一方ノ下落スルコトニシテ雙方共ニ騰貴シ若クハ共ニ下落スルコトハ決シテ出來得ヘカラサルコトナレハナリ(三)然ルニ世間往往

(三)財貨ノ價格ハ二種以上ノ財貨カ互ニ相交換ナル比例ナルヲ以テ一方ノ騰貴ハ即チ一方ノ下落ヲ示スモノニシテ雙方共ニ騰貴シ又ハ共ニ下落スルコトハ理ニ於テ決シテ有リ得ヘカラサルコトナリ之ヲ例ヘハ恰モ井ノ

釣瓶ノ如シ即チ二箇ノ釣瓶ノ中一方カ下レハ必ス一方ハ上リ之ニ反シ一方カ上レハ一方ハ必ス下リ二箇共ニ同時ニ上リ又ハ下ルコトハ決シテナキナリ物價騰貴ノ聲ヲ聽キ之ヲ以テ總テノ財貨カ同時ニ騰貴シタルモノナルカ如ク思惟スル者アルモ本來決シテ然ルニアラス斯ル思想ノ由リテ來タル所以ヲ尋スルニ畢竟今日ノ經濟社會ニ於テハ米一升ノ價格ハ茶一斤ナリ茶一斤ノ價格ハ半紙五帖ナリナト曰ハスシテ金十五錢ナリトカ或ハ金二十錢ナリトカ曰ヒ貨幣ヲ以テ交換比例ノ標準ト爲スヲ以テ總テノ物ノ價格カ騰貴シタルカ如ク見ユルハ其貨幣ニ對スル交換比例ノ上リタルコトニシテ貨幣以外ノ物ノ騰貴シタルニ過キスシテ是レ取リモ直サス貨幣ノ下落ナリ方今社會一般ノ有様ヲ觀ルニ獨リ貨幣賣買ノ方法ノミ既ニ久シク世ニ行ハレ居ルヲ以テ物價ノ騰貴トハ貨幣ノ下落ナルコトヲ知ラサルモノ多キニ過キス(二四)

(二四) 世間往往物價騰貴ヲ以テ總テノ物ノ價格ノ騰貴ト解スル者アルモ是レ未タ其眞想ヲ知ラサルモノナリ物價騰貴トハ總テノ物ノ騰貴シタルニアラスシテ貨幣ノ價格カ貨幣以外ノ總テノ財貨ニ對シテ下落シタルニ過キサ

ルモノトス

貨幣ヲ以テ言ヒ表ハス所ノ價格ヲ稱シテ物價又ハ市價ト曰フ故ニ市價ハ種種ノ財貨ト貨幣トノ交換比例ニシテ價格ノ一種ト看做ササルヘカラス而シテ之ヲ貨幣カ種種ノ財貨ニ於ケル關係ノ點ヨリ觀察スルトキハ貨幣ト交換サルル種種ノ財貨ハ貨幣ノ市價ニアラスシテ其價格ナリ(二五)

(二五) 貨幣ニテ言ヒ表ハス價格ハ即チ物價又ハ市價ナリ此市價ナル語ハ世上ニ於テ時刻刻變動極リナキ價即チ時價ト同一ニ用ヒラルルコトアリ然レトモ茲ニ謂フ市價ハ其意義之ヨリモ廣シ即チ他ノ財貨ノ貨幣ニ對スル價ヲ謂フモノニシテ價格ノ一種ナリ然レトモ貨幣カ他物ニ對シテ有スル價格ハ其市價ニアラスシテ價格ナリトス

此ノ如ク市價ナルモノハ種種ノ財貨ト特種ノ財貨タル貨幣トノ交換比例ナレハ此貨幣ノ他ノ財貨ニ對スル價格ニシテ騰貴スレハ他ノ財貨ノ市價ハ全體同時ニ下落シ貨幣ノ價格ニシテ下落スレハ他ノ財貨ノ市價ハ全體同時ニ騰貴スヘキナリ故ニ價格ニハ決シテ全體同時ニ昇降スルカ如キコトナキモ市價ニハ

之アリトス所謂物價騰貴トハ即チ貨幣購買力ノ下落ニシテ物價下落トハ貨幣購買力ノ騰貴ニ外ナラサルナリ(二六)

(二七) 物價ノ下落ヲ換言スレハ貨幣ノ騰貴ナリ物價ノ騰貴ハ貨幣ノ下落ナリ然レトモ玆ニ注意スヘキハ物價ノ下落ハ貨幣ノ騰貴ナリ物價ノ騰貴ハ貨幣ノ下落ナリト曰フハ是レ唯一ノ事實ヲ言ヒ表ハセタルニ過キスシテ此事實ヲ言ヒ表ハスニ過サルコト物價高低ノ原因ハ何ニ基カトノ問題ハ自ラ別種ノ事ナリトス再言スレハ物價ノ騰貴ハ即チ貨幣ノ下落ニ基クモノナリト概言スヘキモノニアラス先ツ物價ノ騰貴カ貨幣ノ下落ト爲ル場合ヲ述フレハ例ヘハ銀貨本位ノ國ニ於テ銀ノ產出高増加シ其需要之ニ伴ハス却テ減少スルカ如キ事アラハ銀ノ價格下落スルヲ以テ物價ノ騰貴ヲ來スモノナリ然レトモ貨幣ノ價格下落セスシテ物價ノ騰貴スルコトアリ例ヘハ農產物ノ一タル米カ因作ナルカ爲メ供給減少シ又ハ或事情ノ爲メ需要増加スルトキハ米價ヲシテ騰貴セシムルモ是レ固ヨリ貨幣ノ價格ノ下落ニ原因スルニアラス又物價下落スルモ貨幣ノ價格騰貴セルニ基カサルコトアリ例ヘ

ハ米穀豐穰ニシテ供給大ニ増加スルトキハ米價ハ下落スルモ是レ明カニ貨幣ノ價格騰貴シタルカ爲メニアラス故ニ物價昇降ノ原因ハ貨幣價格ノ變動ニハ毫モ關係ナク貨物夫レ自身ノ變動ニ原因スルコトアルモノトス而シテ貨幣ノ下落ニ因ラスシテ貨幣以外ノ總テノ財貨カ同時ニ騰貴スルコトハ甚タ稀ナルモ決シテ絶無ト謂フヘカラス即チ進步ノ速カナル國ニ在リテハ往往ニシテ之アルモノトス例ヘハ明治二十七八年ニ於ケル日清戰爭以後ニ於テ諸物價ノ甚シク騰貴シタル原因ヲ考フルニ銀貨ノ下落モ亦之カ一原因ヲ爲シタルモノナランモ此間ニ於ケル物價ノ騰貴ハ決シテ銀貨ノ下落ノミニ基キタルモノニアラス何トナレハ若シ銀貨ノ下落ニ基キテ物價カ騰貴シタルモノナリトセハ銀貨ノ最モ下落シタルトキ即チ戰爭前又ハ戰爭中ニ最モ甚シク物價騰貴ノ事實ヲ來ササルヘカラス且ツ明治三十年銀貨本位制ヲ變シテ金貨本位制ト爲シ爾來金ノ價格カ騰貴シタルコトハアレトモ下落シタルコトハ全ク之ナキヲ以テ金貨本位實施ト同時ニ若クハ少クトモ之ヨリ一二箇月ヲ經過スレハ一旦騰貴シタル物價モ下落セサルヘカラルナリ然ルニ

實際ニ於テハ之ニ反對ノ現象ヲ呈シ諸物價ノ騰貴ハ戰爭以後ニ始マリ三十年十月以來却テ益騰貴シ翌三十一年夏期ノ頃ニハ殆ト其極點ニ達シ大ニ經濟社會一部ノ恐慌ヲ來セリ是ニ由リテ之ヲ觀ルモ物價騰貴ハ銀ノ下落ニ基クモノニアラサルコト推シテ知ルヘシ然ラハ物價ノ騰貴ヲ來セル重ナル原因如何ト云フニ我國ノ資金ノ所在カ異ナリタルコト其一ナリ詳言スレハ從前資金ノ大部ハ資本家ノ手ニ在リテ此資本家ニ依リテ資金カ諸種ノ事業ニ給セラレタルヲ以テ銀行ニ在ルトカ其他一定ノ事業ニ投セラレタルモ戰爭後種種ノ事情ノ爲メ其資金ハ下等社會ノ者ニ落タルコト極カラス即チ軍夫ノ給料又ハ職工ノ賃銀ト爲リテ此等ノ者ニ歸シタリ特ニ戰爭後種種ノ企業起リタルカ爲メ之ニ要スル諸種ノ材料及ヒ人夫職工ノ需用増加シタルニ因リ隨テ原料ノ代價又ハ職工人夫ノ賃銀ヲ騰貴セシメタリ加之職工人夫等ノ如キ勞働者ハ勤儉貯蓄ノ思想ニ乏シキヲ以テ隨テ得タル賃銀ハ隨テ飲食等ニ使用シタル等ノ爲メ諸物價ヲ騰貴セシメタルモノナリ要スルニ銀ノ下落ハ物價騰貴ノ一原因タルニ過キスシテ其主タル原因ヲ爲スモノニアラス故ニ物價

ノ騰貴ハ貨幣ノ下落ニノミ基クモノニアラサルナリ而シテ一旦狂騰シタル物價カ昨今ニ至リ少シク下落ニ傾キタルハ米穀ノ豐作ナリシト一時勃興シタル民間ノ事業モ經濟社會ノ不振ニ鑑ミ幾何カ差控ヘラルルニ至リタルカ爲メナリ元來物價ノ騰貴ハ貨幣ノ下落ニ基クヤ否ヤニ付テハ歐洲ニ於テモ議論アル所ニシテ銀貨本位論者ハ歐洲ニ於ケル近時ノ物價下落ハ金貨ノ騰貴シタルカ爲メナリト説キ反對論者ハ生産法ノ改良交通機關ノ發達等ニ由リ廣義ノ生産費大ニ減少シタルニ因ルモノトセリ然レトモ何レモ極端ニ走リタル議論ニシテ二者共ニ物價下落ノ原因ヲ爲セルモノト謂ハサルヘカラス之ニ關スル詳細ノ事ハ此ニ説明スルノ暇ナキヲ以テ省畧スルモ物價ノ高低ハ單ニ貨幣ノ高低ニ基クモノニアラサルコトヲ記憶セサルヘカラス

第四章 經濟

人類ハ其欲望ヲ満足セシメムトスルニ當リ最少ノ勞費ヲ以テ最大ノ結果ヲ得
「ソコトヲ願フモノナリ是レ實ニ人類ノ天性ヨリ生スル經濟主義ト稱スヘキモ

ノナリ此主義ニ據リ一定ノ計畫ニ基キ規則正シキ順序方法ヲ履ミテ欲望ヲ満足セシメンカ爲メ經濟上ノ財貨ヲ絶エス獲得シ使用スルヲ以テ目的ト爲ス活動ヲ稱シテ之ヲ經濟ト曰フ此種ノ活動ノ總テニシテ欲望ト其満足トノ範圍内ニ在リテ自ラ一箇ノ系統ヲ爲シ又ハ一箇ノ系統ヲ爲セリト認メラルヘキモノヲ稱シテ之ヲ社會經濟又ハ國民經濟廣義ト曰フ故ニ社會經濟ハ一箇ノ有機體ニシテ活動アルモノナリ此有機體ニ屬スル各箇ノ活動ヲ名ケテ之ヲ經濟的活動ト曰ヒ之ニ關スル當該現象カ即チ經濟現象タルナリ

經濟ニ關スル人類ノ活動ヲ稱シテ單簡ニ活動ト曰フヘキカ將タ又勞力的活動即チ勞動ト曰フヘキカハ歐米ノ學者カ往往疑ヲ懷ケル所ナリ「ワグネル」氏曰ク土地ニ對スル地代又ハ家屋ニ對スル賃貸料ノ如キ收益ノミヲ目的トスル財產ノ單純ナル管理ト雖モ亦常ニ勞動ノ觀念ニ屬スヘキ活動ヲシテ必要ナラシムルノミナラス既ニ獲得セル收入ヲ使用スルコトスラ亦同シ但シ經濟主格ノ要スル勞動ノ分量ト種類トニ關シテハ經濟ヲ觀念ノミニテハ未タ何等ノ定マレルコトナキノミ是レ自ラ別問題ナリ故ニ單ニ活動ト曰ハンヨリモ勞力的活動

又ハ之ト同意義ノ勞動テフ語字ヲ用フルヲ以テ適當ナリト云云然リト雖モ地主ノ單純ナル地主トシテ爲ス所資本家ノ資本家トシテ爲ス所又ハ爲ササル所ハ往往之ヲ勞動ト稱スルヲ得ス然レトモ亦經濟的ノ活動タルニハ相違ナシ故ニ予ハ寧ロ活動ヲ單簡ナル語ヲ採リ此中ニ勞動ト勞動ニアラサル經濟的ノ活動トノ二者ヲ包含セシムルヲ以テ適當ナリト認ムル者ナリ

第五章 經濟的活動ノ前提

第一節 社會

一箇人ハ單獨孤立シテ其生活ノ目的ヲ達シ得ルモノニアラス必スヤ他ノ人人ノ助力ヲ要スルモノナリ故ニ人類ノ互ニ相合シテ團體ヲ結フハ誠ニ自然ノ必要ナリ人類ノ團結ニシテ之ニ屬スルモノノ共同ノ目的ヲ達セシカ爲メ存在スルモノヲ稱シテ之ヲ社會ト曰フ社會ニシテ總テノ人類ト總テノ生活ノ目的トヲ包括スルモノヲ稱シテ之ヲ人類社會ト曰フ而シテ社會ニ於ケル人類ノ間ニハ種種様様ノ共同の活動アリ其中ニ在リテ單ニ欲望ノ満足ノミヲ以テ目的ト

スルモノヨリ觀察スレハ人類社會ハ即チ是レ經濟社會ナリ經濟社會ニ於ケル人類ノ協力同心ハ直接ニ共同ノ主權者若クハ共同ノ代表者カ定メタル諸令ニ據リテ行ハルモノニアラス一箇人ト一箇人又ハ國民ト國民トカ經濟上ノ目的ヲ以テ互ニ相接スルニ當リテハ其經濟的活動ハ寧ロ自然的ニ行ハルモノナリ但シ自然的ヲフ語調ハ絕對的ノ意義ヲ有スルモノニアラスト知ルヘシ然リ而シテ經濟的活動ノ主タル原動力ハ自利心 *Self-interest, intérêt personnel, Egoismus* 自利心トハ人人ノ其欲望ヲ可成の十分ニ満足セシメント欲スル願意ニシテ「イエリング氏」ノ以テ最少ノ勞費ヲ爲シテ最多ノ結果ヲ奏スルノ力ナリト爲ス所ノモノナリ自利心ノ極端ニ馳セ部陋ニ流ルモノヲ稱シテ之ヲ我利心 (*Gottfr. Feinnes, egoismus, Selbsteigennütze*) ト曰フ自利トハ他人ニ損害ヲ與ヘサル範圍内ニ於テ自己ノ利益ヲ謀ルコトナリ我利トハ他人ニ損害ヲ與フルヲモ願スシテ唯自己ノ利益ヲノミ是レ謀ルコトナリ二者ノ間自ラ微妙ノ區別アリ自利心ハ實ニ經濟的活動ノ主タル原動力ナリト雖モ人類ノ社會の生存ヨリシテ必然生セサルヲ得サル公共心ノ爲メ多少ノ制限ヲ蒙ルモノトス故ニ經濟現象

ヲ支配スル主要ノ力ハ自利心ニシテ之ヲ助クルモノハ公共心ナリ公共心ノ範圍ハ社會ノ狀態ニ應シテ大ニ異ナリ或ハ發シテ慈善事業ト爲リ或ハ一般ノ風俗習慣ヲ形成シ或ハ公ニ認メラレテ一國ノ法律制度上採ラルル所ノ主義ト爲ル隨テ經濟現象ヲ論スルニ當リ單ニ自利心ノミヲ以テ根據ト爲スハ時ニ大ニ誤謬タルヲ免レス

第二節 國家

人類並ニ社會ノ目的ヲ十分ニ達シ得ンカ爲メ人類社會ニ在リテ稍ヤ狭少ナル團體ノ結ハルルアリ之ヲ名ケテ國家ト曰フ國家ハ畢竟人類社會ノ一部分ニシテ一定ノ區域アル領土内ニ在リテ共同ノ主權ヲ奉シ社會ノ維持ト發達トヲ目的トスルモノナリ然リ而シテ一箇ノ社會其モノトシテノ國家ト社會制度トシテノ國家トハ之ヲ區別セサルヘカラス後者ハ國家主權ノ下ニ立ツ國民ヲ指導シ全體トシテ其共同ノ目的ヲ達スルノ方針ニ向ハムルモノナリ國權ノ作用ハ結局一ニ之ヲ以テ其目的トス

社會制度トシテノ國家ハ二箇ノ重要ナル職分ヲ有ス曰ク

第一 立法行政司法ノ手段ニ據リ法制ヲ確立シ之ヲ維持シ公共ノ秩序ヲ整ヘ以テ國家の社會即チ狹義ノ社會ニシテ一國家ト相一致スルモノニ屬スルモノノ共同生活ヲシテ出來得ヘカラスムルコト

第二 妨害ヲ除去シ妨害の影響ヲ避ケ且ツ人文ノ發達ヲ助クル獎勵の制度組織ヲ設ケテ社會進化ノ目的ヲ達セシムルコト

即チ是ナリ

人類ノ經濟生活ニ取リテ最重要ノ關係アル法律制度ハ國民ノ財貨殊ニ有形ノ貨物ニ對スル關係ヲ規定スルモノナリ財產制度即チ是ナリ乞フ之ヲ次節ニ論セン

第三節 財產制度

前既ニ論スルカ如ク人類ト人類ノ經濟トハ唯社會アルヲ假定シ茲ニ始メテ其存在ヲ認ムヘキモノナルハ更ニ疑フヘカラス而シテ多數ノ人カ相集リテ社會ヲ

成シ共同ノ生活ヲ營ムニハ必スヤ國家的ノ制度組織ナカルヘカラス是ヲ以テ國家ト國家ノ法制トハ實ニ人類ト其起原ヲ同シウマテ頗ル古シ國家的制度ノ在ル以前ニ眞誠ノ人類アルハ到底ルソーザノ想像タルニ止マリ絶對的自由ノ簡人アリ相集リテ任意ニ協議ヲ盡シ茲ニ始メテ國家社會ヲ組織シタルモノナリ國家ノ起原ハ契約ニ在リト説クハ實ニ一箇ノ思想タルニ過キサルナリ(一)

(二) 太古ノ事ハ歴史ニ徵スレハ多少之ヲ知り得ヘキカ如シト雖モ歷史上ニ太古ト稱セラルルモノハ眞ノ太古ニアラス眞ノ太古ノ事ハ實際之ヲ明カニ知ルヘカラスト謂ハサルヘカラス然リト雖モ人類並ニ人類ノ經濟現象ハ社會ト名クヘキ人類ノ集リテ成セル部落アルニアラサレハ存在スルヲ得ス社會アルノ前ニ生産現象ナトカ多少行ハレタリトセハ是レ今日ノ所謂經濟現象トハ全ク異ナリタルモノナリ此等ハ經濟學ノ定義ヲ論スルニ當リ詳細ニ説明セン然リ而シテ多數ノ人カ相集リテ部落ヲ作り共同生活ヲ爲スニハ多少國家的ノ制度ヲ要ス固ヨリ今日ノ如キ比較的ニ完全ナル制度組織ヲ常ニ要スルニハアラサレトモ上下ノ別治者被治者ノ別アリテ人類ノ行爲ヲ羈束

ズルモノハ多少之ナカルヘカラス即チ少ナクトモ國家組織ノ幼稚ナルモノハ存在セサルヘカラス實ニ社會ナルモノハ國家ノ組織ト相待テ存在スルモノニシテ國家ノ組織ナクシテ有機體タル社會ノ存在スヘキ道理ナシ此事ハ「スベンサー」ノ社會學ニ據ルモ明カナル所ナリ國家組織ノアル前ニ已ニ真正ノ人類アリタリト曰フハ「ルソー」等ノ妄想臆斷ニ過キス彼等ノ説ク所ニ依レハ人間ハ生レナカラニシテ天賦ノ自由ト權利トヲ有ス故ニ此等ノ人間カ相集リテ協議ノ上國家ヲ作リタルモノト曰ヘリ然リト雖モ此ノ如キ思想アル人類ハ國家の制度組織ノ少シモナカリシ時ニ存在セ得ヘキニアラス且ツ國家ナルモノハ人類共同生存ノ必要ニ迫ラレテ成立スルモノニシテ協議ニ成ルト云フカ如キ機械的ノモノニアラス國家組織以前ノ人類ハ單ニ且ニ食シタニ寢スル事ヲ知ルノミニテ有無交換ノ思想ナク人類ノ人類タル社交の生活ヲ爲セタルモノニアラス故ニ此等ノ人類ハ真正ノ人類ニアラスシテ下等動物ト敢テ擇フ所ナシ是ニ由リテ之ヲ觀レハ「ルソー」輩ノ所説ハ到底妄誕無稽ノ譏ヲ免ルヘカラサルナリ要スルニ近世ノ意味ニ於ケルカ如キ人間ア

レハ同時ニ社會國家アリ即チ兩者ハ之ヲ同時ニ存在セルモノトスルニアラサレハ社會ノ如何ナルモノナルヤハ之ヲ説明スルヲ得サルモノトス

人類ノ生存ニ必要ナル衣食住ノ關係ヲ規定シ人倫ノ大本ヲ保維シ徳教ヲシテ普ク行レシメ法制ヲ嚴ニ守ラシムルハ偏ニ之ヲ國家ノ組織ニ待タサルヘカラス故ニ一己人若クハ會社組合等カ財貨ヲ生産シ消費スルノ能力ハ單ニ其實際有スル所ノ腕力智力等ニノミ依ルニアラスシテ國家ノ制定シテ之ニ與フル財產制度ニ依ルコト多シ財產法上ノ規定如何ニ由リテ人人ノ經濟上ニ於ケル能力ハ大ニ異ナルモノアリ(三)國家ノ法令ニ反シテ財貨ヲ生産シ使用スル場合ハ(三)人類カ其生存ニ必要ナル需要ヲ充タスニハ必スヤ大體上國家ノ法制ニ據ラサルヘカラス而シテ國家ノ法制ハ勿論國家アルノ前ニ之アルコトナケレハ人類ノ人類タル生活ハ國家アリテ而シテ後始メテ全ヲ得ルモノナリ故ニ經濟上ノ能力即チ一己人又ハ會社組合等カ財貨ヲ生産シ又ハ消費スルノ能力ハ物質的ノ意味ニ於ケル能力ト異ナリ腕力智力等ノミニ據ルニアラス即チ非凡ノ智識腕力ヲ備ヘ苦心經營シテ生産シタル財貨モ國家ノ法制カ一

箇人ノ財產トシテ之ヲ保護スルニ於テ始メテ十分ニ經濟上ニ於ケル能力ノ全キモノタリ若シ各人ノ生産シタル財貨ハ皆社會ノ共有ニ屬スルモノナリトノ財產制度行ハレンカ一箇人ノ經濟上ノ能力ハ誠ニ是レ皆無ナリト謂フヘシ故ニ獨リ腕力智力等ノミカ經濟上ノ能力ヲ確定スルモノニアラスシテ其之ヲ確定スルモノハ國家ノ財產制度ナリ但シ吾人ハ一箇人ノ私有財產ヲ認ムル法制ニ浴スルコト既ニ久シキカ爲メ經濟上ノ能力カ之ニ依リテ定マルコトヲ覺ラサルノミ

經濟學ニ於テ別ニ之ヲ論スルノ必要ヲ見ス(四)加之單ニ人類全體ト人類社會ニ(四)國家ノ法令ヲ犯シテ財產ヲ使用シ若クハ生産スルノ行爲ハ之ヲ經濟學ノ眼中ニ置カスシテ可ナリ何トナレハ法令德義ノ範圍内ニ於テ行ハルモノニアラサレハ大體上之ヲ經濟現象トシテ認ムヘキモノニアラサレハナリ例ヘハ竊盜強盜ノ所爲ニ因リ得タル金錢ハ或意味ニ於テハ之ヲ生産ナリト謂フヲ得ヘキモ經濟學ニ於テハ之ヲ生産ト看做サス即チ盜賊ノ所爲ハ勢力ト謂フヘキモノニアラサルヲ以テ之ニ依リテ財貨ヲ得ルモ是レ經濟學ノ論究スヘ

キ範圍ノ外ニ在リテ經濟現象ニハアラサルナリ此ノ如ク經濟上ノ能力ハ國法ノ定ムル所ニ從ハサルヘカラサルカ故ニ若シ土地ハ總テ國家ニ屬シ一私人ノ之ニ對スル所有權ヲ認メサル法令行ハルルニ於テハ土地ニ對スル一私人ノ經濟的能力ハ皆無ナリト謂フヘシ但シ國家ヨリ一時借受ケテ耕作等ヲ爲ス丈ノ能力ハ此限ニ在ラス

般ノ富トノ關係ノミヲ論スルニ當リテハ經濟學ハ特ニ財產制度ノ如何ヲ觀セシテ可ナルヤモ知ルヘカラスト雖モ社會全體ノ富カ如何ニ各箇人並ニ各社會階級ノ間ニ分配サルルヤノ問題ヲ研究スルニ當リテハ是非トモ之ヲ不問ニ措クヲ得ス而シテ方今ノ經濟學ハ往昔ノ經濟學ト異ナリ重キヲ社會一般ノ富即チ富ノ總額ニ置カスシテ寧ロ其各社會階級ノ間並ニ各箇人ノ間ニ分配サルル分量ニ置クヲ以テ茲ニ聊カ財產法ノ規定ヲ論セサルヘカラサルナリ(五)

(五) 財產制度ヲ此所ニ論スルノ必要ハ經濟上ノ能力カ財產制度ノ主義如堂ニ由リテ異ナルカ爲メニミ據ルニアラス社會ニ於ケル富ノ總額カ社會一般ノ人ト如何ナル關係アルカ即チ一國ノ上ヨリ言ヘハ一國ノ富ノ總額カ一

國ノ人口全體ニ對シ如何ナル關係ニ立ツヤヲ講究スルニ止マル以上ハ經濟學上特ニ財產制度ヲ論スルノ必要或ハ之ナカルヘシ何トナレハ一國ノ富ノ總額ヲ其人口ニ割當ツル丈ニテ知ラルヘケレハナリ然レトモ其總額カ各個人及ヒ各社會階級即チ資本家勞力者等ノ間ニ如何ナル割合ヲ以テ分配サルルヤ資本家ノミカ利益ヲ獨占シ勞力者ハ相當ノ利益ヲ得サルニアラスヤ又其ノ得タル利益ハ私有財產トシテ之ヲ所有スルコトヲ得ルヤ等ヲ論スルニハ少クトモ財產制度ノ大要ヲ知リテ之ヲ斟酌セサルヘカラス而シテ現今ノ經濟學ハ社會一般ノ富即チ富ノ總額ニ重キヲ置カス主トシテ其富ノ分配力如何ニ行ハルルカヲ論スルモノナレハ財產制度ヲ論スルノ必要益々切ナリト謂ハサルヘカラス是レ單ニ生産ノミニ重キヲ置ケル舊派經濟學カ財產制度ニ冷淡ニシテ生産ヨリモ寡口分配ニ重キヲ置ク新派經濟學カ之ニ注意ヲ厚ウスル所以ナリ

財產法ニ所謂私有財產ナルモノハ社會ニ存在スル總テノ經濟上ノ財貨ニ對スル一人ノ分ケ前ナリ故ニ一定ノ時期ニ於ケル一人ノ經濟的能力ハ其保有スル財產權ノ内容ト相均シキモノナリ財產權ノ内容トハ何ソヤ曰ク經濟上ノ財貨即チ是ナリ(五)而シテ一人ノ財產權ナルモノハ國家ノ法令ニ依リテ其財(六)財產ヲフ語ハ權利ヲ指スモノナルコトモアレハ權利ノ内容即チ其目的物タル財貨ヲ意味スルコトモアリ故ニ此所ニハ財產ヲ或ハ權利ト爲シ或ハ權利ノ目的物ト爲スカ如キ混同ノ恐アルヲ避ケンカ爲メ權利ノ目的物ヲ意味スルトキニハ財產ト謂ヒ權利其物ヲ指ス時ニハ財產權ヲフ語ヲ使用ス而シテ私有財產トハ社會ニ存在スル一切ノ經濟上ノ財貨即チ富ノ全額ニ對スル一人ノ分ケ前即チ其分擔額ナリ故ニ或一定ノ時ニ或一人ノ有スル經濟上ノ能力ハ其人ノ有スル財產ニ據レリ

實上他人ニ對シテ有スル所ノ種種ノ權利ヲ綜合シタルモノニシテ此財產權ノ性質及ヒ之ヲ取得シ讓與スル法式ノ如何ハ皆是レ經濟上ニ重大ナル影響ヲ與フルモノナレハ財產制度ノ經濟現象ニ關スルヤ實ニ大ナリト謂ハサルヘカラス(七)公法ノ如キモ重大ナル影響ヲ經濟現象ニ反ホスニ相違ナシト雖モ而モ其影(七)一人ノ財產權ナルモノハ單ニ物ヲ所有スル權利ノミニアラス此他ニ

尙ホ種種ノ權利ヲ綜合シタルモノニシテ其内容ハ國法ノ規定如何ニ由リテ異ナルモノナリ即チ財產權ハ一國ノ法令ニ依リテ認めラルヘキ權利ナレハ之カ内容モ亦國法ノ規定ニ依リテ定マルヘキ當然ノ事ナリ而シテ此權利ノ性質及ヒ得喪移轉ハ經濟上ニ密接ノ關係ヲ有スルモノナルヲ以テ之ニ關スル制度ハ經濟現象ニ重大ノ影響ヲ及ホスコト明白ナリトス

響ノ大小強弱決シテ財產制度ノ影響ト同日ニ論スヘカラス財產制度ノ大主義ハ公法上ノ變遷政治上ノ變革等ノ屬アルニモ拘ラス百年殆ト同一ニシテ容易ニ動クコトナク經濟社會ニ直接ノ影響ヲ及ホスコト實ニ驚クヘキモノアリ(八)故ニ先ツ經濟上ノ狀態ニ變化アリテ而シテ後始メテ財產法ノ改正サルルコト

(八) 憲法、行政法等モ經濟現象ニ重大ノ影響ヲ及ホスニ相違ナク憲法並ニ附屬法ノ性質如何ニ由リテ經濟社會ノ影響ヲ蒙ルコトアルハ歷史上著明ノ事實ナリ然レトモ其影響タルヤ財產制度カ經濟上ニ及ホス影響ニ比スレハ誠ニ僅少ナリ何トナレハ公法ノ影響ハ間接ニシテ直接ナラサレハナリ例ヘハ衆議院議員選舉法ヲ改正シテ從來ノ被選舉資格ハ直接國稅十五圓以上ヲ納ム

ル者タリシヲ五圓以上ト爲シタリトスルモ之カ爲メニ人人ノ經濟的活動ニ差異ヲ生スルハ殆ト稀ニシテ若シ生スルコトアルモ是レ唯一部ノ少數者即チ所謂政治屋連ニ取リテ然ルノミ之ニ反シテ財產制度ハ國民生活ニ密著ノ關係ヲ有シ且ツ何レノ國ノ歴史ニ徵スルモ財產制度一タヒ定マレハ政治上ノ改革、公法上ノ變遷アルモ爲メニ容易ニ改正サルルモノニアラス又數多ノ年月ヲ經過シ社會ノ文運進歩スルモ之カ爲メニ根本的ニ改正サルルモノニアラサルカ故ニ經濟社會ニ直接重大ノ影響ヲ及ホスモノナリ

往往之アリト雖モ經濟上ノ現象ハ常ニ現在又ハ過去ノ財產制度ニ影響サルルノ大ナルハ毫モ疑フヘカラサル事實ナリ(九)

(九) 財產制度カ經濟上ニ重大ノ影響ヲ及ホスト同時ニ一方ニ於テハ經濟上ノ變動非常ニ劇甚ナル時ハ財產制度ノ改正ヲ促スコトアリテ二者互ニ相影響スル遙ニ大ナリトセサルヘカラス

財產法ノ主義ハ之ヲ大別シテ二ト爲ス一ハ綜合主義ニシテ一ハ個人主義ナリ

(甲) 綜合主義

經濟學總論 經濟學上ノ根本概念 經濟的活動ノ前提 財產制度

綜合主義ハ一ニ之ヲ國家主義ト稱シ又社會主義トモ名ク此主義ニ基ク財產制度ノ下ニ立ツ一箇人ハ重ナル貨物ニ對シ唯僅ニ一定時間ノ使用權ヲ有スルノミニシテ之ヲ自由ニ處分シ得ル所有權ハ單ニ公共ノ性質ヲ有スル國家若クハ其他ノ政治團體ノミニ屬ス(一〇)

(一〇) 此主義ハ或ハ之ヲ國家主義ト曰ヒ又ハ社會主義トモ名ク此主義ニ據リテ成レル財產制度ノ下ニ於ケル一箇人ハ重ナル貨物ニ對シテ一定ノ期間之ヲ使用シ之ヨリ收益スルノ權利アルモ之ヲ所有スルノ權利ナシ此所ニ重ナル貨物ト云ヒ財貨ト云ハサルハ貨物以外ノ經濟上ノ財貨ハ此主義ニ由リテ影響ヲ蒙ルコト甚タ少ク土地トカ資本トカノ如キ貨物ニ付テ之カ影響大ナルヲ見ルヘケレハナリ而シテ此主義ニ據レハ土地ノ如キハ一箇人ノ所有スルヲ得サルモノナリ唯或期間之ヲ使用シ耕作シ又ハ地上ニ家屋倉庫等ヲ建築スルノ權ヲ有スルノミニテ其所有權ハ國家又ハ地方自治體ニ在ルモノトス現今ノ文明國ニ於テハ此主義ヲ絕對的ニ採用スル所ナシト雖モ土地ノ或部分ニ付テハ此制度ヲ用フル所ナシトセス例ヘハ露國ノ或地方

ノ如キ即チ是ナリ又沖繩縣下ニモ此制度行ハレ居レリト云フ此他尙ホ我邦ノ或地方ニハ林場ノ一村落又ハ數村落ノ所有ニ屬シ一箇人ハ之ニ對シ到底所有權ヲ得ル能ハサル制度行ハル是レ綜合主義ニ基キタルモノナリ然レトモ此綜合主義即チ共產主義ハ單ニ机上ノ議論トシテハ兎モ角一般ノ原則トシテ之ヲ實際ニ行フニ於テハ社會ノ進運ヲ妨クルモノト謂ハサルヘカラス近時獨佛等ノ諸國ニ在リテハ此主義ヲ採レル社會黨ナルモノアリテ其勢力甚タ熾ナリ現ニ獨國ノ如キハ國會議員ニシテ此社會黨ヨリ選出サレタル者四十餘人アリト云フ然レトモ彼等ノ主張スル所ハ到底之ヲ實行スヘカラス萬一強テ之ヲ實行セハ現今ノ社會國家ヲ全ク改造スルニ至リ結局人類ノ幸福ヲ増進スルコト能ハサルヘシ

(乙) 箇人主義

箇人主義ニ據レハ一箇人カ總テノ經濟上ノ財貨ヲ永久ニ所有シ完全ナル財產所有權ヲ有スルヲ以テ原則トス(一一)

(一一) 此主義ニ據レハ一箇人カ經濟上ノ財貨ノ總テノ種類ヲ永久ニ所有ス

完全ナル所有權ヲ有スルヲ原則トス此原則ハ一般ニ認メラルル所ナリ然レトモ此原則ニ例外アルハ各國ニ於ケル法律ノ往往認ムル所ニシテ國ニ依リ之ヲ認ムルノ程度大ニ異ナル所アルノミ彼ノ有利關係中或種類ノ如キハ此例外中著シキモノナリ又有利關係以外ノ財貨ニシテ此例外ニ屬スルモノ少カラス殊ニ近來ニ至リ例外ノ場合非常ニ増加シ來レリ

財產法カ人類其モノヲ所有權ノ目的物ト看做スヤ否ヤ之ヲ換言スレハ法律上人類ニ身體ノ自由アリヤ否ヤ頗ル重大ナル關係ヲ經濟上ニ有スルモノナリ然レトモ方今ノ文明諸國ニ於テハ既ニ奴隸半奴隸等モ全ク廢止サレ人皆身體ノ自由ヲ有シ權利ノ主體タルモ決シテ其目的タラサルニ至レルカ故ニ今日ノ經濟學ニ於テハ單ニ此主義ノ法律制度ヨリ起ル經濟上ノ關係ヲ講究スルノミヲ以テ足レリトス(11)

(12) 財產法カ人類其レ自身ヲ所有權ノ客體トシテ認ムルヤ否ヤノ問題ハ獨リ經濟上ノミナラス社會上ニモ重大ノ關係アルモノトス其經濟上ニ於ケル關係ニ付テ言ヘハ若シ人類ヲ所有權ノ客體トシテ認メ之ヲシテ生産事業ニ從事セシムレハ其者ノ勞働ハ恰モ器械の動物ノ活働ト均シキカ故ニ之ヲ人身ノ自由アル人類ノ勞働ニ比スレハ其結果ニ著シキ差異ヲ生スヘキモノナルヤ明カナリ往昔ハ人其モノヲ權利ノ目的物ト爲シ奴隸半奴隸等ノ制度存在セシモ現今ノ文明諸國ニ於テハ社會ノ裏面ニハ之ニ類スルモノ實際存在セサルニアラサルモ法律上人類ハ人身ノ自由ヲ有シ權利ノ主體タレトモ之カ目的物トシテ取扱ハルルコトナキニ至レリ故ニ經濟學ニ於テハ奴隸ノ如キ權利ノ目的物タル人類ノ存在セサル社會ノ有様ヲ述フレハ足レルコトト爲レリ

又現今ノ社會ニ在リテハ法令ノ他ノ點ニ於テ認ムル各階級ノ間ニ存在スル經濟上ノ能力ヲ區別スルカ如キハ實際毫モ必要ナキコトナレハ經濟學ハ彼ノ華士族平民ノ如キ階級ノ區別ニ付キ故ラニ論セシテ國民皆之ヲ平等ノモノト看做シ其間ニ行ハルル經濟上ノ現象ヲ講究スルヲ以テ足レリトス(13)

(13) 往時ハ法令カ公ニ認メタル階級ノ區別ニ從ヒテ經濟上ノ能力ヲ異ニシタルコトアリ即チ武門武士ハ農工商ニ從事スヘカラストカ農ハ商ヲ爲ス

ヘカラストカ云フカ如ク階級ニ依リテ其從事スル所ノ經濟業務ノ種類ヲ區別シ又財產所有權ニ付テモ或階級ニ屬スル者ハ或物ヲ所有スルヲ得スト云ヘルカ如キ制限ヲ立テタルコトアリシモ今日ニ於テハ此ノ如キ區別存在セス他ノ點ニ於テハ法律カ認ムル華士族平民ト云フカ如キ區別アルモ是レ殆ト一種ノ形式的區別タルニ過キスシテ經濟上ノ能力ニ關係ナシ又貴族ニ付テハ經濟上ノ能力ニ多少ノ制限ヲ設ケ成ルヘク農工商等ノ生產事業ヲ爲スヘカラストスル國ナキニシモアラスト雖モ此等ハ例外ニシテ而モ之ニ關スル法律ヲ特ニ設ケタル國ハ殆ト之アルコトナシ故ニ法律上經濟的能力ニ關シテハ四民平等ニシテ其間別ニ階級ノ存スルコトナシ唯經濟上ノ働ニ依レル區別即チ土地ヲ有シ之ヲ生產事業ニ供スル者或ハ資本家又ハ勞働者ト云フカ如キ經濟階級又ハ社會階級ハ之ヲ區別シテ論セサルヘカラスト然レトモ是レ亦法律ニ依リテ能力ヲ區別サルルニアラスシテ經濟社會ノ實勢ヨリシテ生セル所得分配額ノ多少ニ據レル階級タルノミ故ニ前ニ謂フ階級ト後ノ階級トハ全ク別物ナリ

所有權發達ノ歴史ヲ按スルニ往古ハ全ク綜合主義ヲ採リタルモノニシテ一箇人ノ私有財產ナルモノハ少シモ認メラレス總テノ財貨ハ悉ク社會全體ノ共有スル所ナリシ是ヲ以テ「ルソー」流ノ學者ハ一箇人ノ權利ヲ非常ニ重シナカラ一方ニ於テハ社會ヲシテ綜合主義ノ行ハレタル原人時代ニ立戻ラシメント欲スルノ自家撞著ニ陷レルモノナリ(四)

(四) 所有權ノ發達ヲ歷史的ニ觀察スルニ往昔ハ專ラ綜合主義行ハレ一箇人ニハ所有權ナク所有權ハ獨リ共同團體ニノミ在リ即チ總テノ物ハ皆社會ノ共有ナリキ然ルニ社會漸ク進步スルニ從ヒ人人ノ理想發達シ初ハ箇人カ日所要スル物即チ野蠻人ニ取リテ必要ナル刀槍類ニ付テ所有權認メラレ其ヨリ漸ク進ミテ此等ノ武器ニ依リテ得タル物ニ付キ又進ミテ住居ニ付キ所有權認メラレタルモノニシテ一箇人ノ所有權ニ關スル制度ハ決シテ初ヨリ自然ニ存在セル制度ニアラサリシナリ現今ニ於テモ亞弗利加又ハ太平洋中ノ小島ノ如キ未開ノ地ニハ箇人ノ所有權認メラレス又文明國ニ於テモ多少共有制度ノ遺物存在スル處アリ例ヘハ我國ニ在リテモ沖縄縣ノ如キハ一

箇人ノ土地所有權ヲ認メス又東京附近ノ地方ニ在リテモ此ノ如キ事或ハ一部ノ土地ニ付テ行ハルル處アリ故ニ「ルソー」等ノ學者ハ往昔ノ社會ヲ尊ヒテ黃金時代ナリトシ社會ハ此時代ノ有様ニ立戻ルヲ以テ正理ニ合フモノナリトセリ然レトモ焉シテ知ラン此論ハ彼等カ主張スル人權ヲ重ニスルノ主義ト矛盾スルモノナルコトヲ是レ歴史の思想ニ乏シキ一ノ空想哲學的ノ議論タルニ過キスト謂ハサルヲ得ス

現今ノ社會ニモ尙ホ綜合主義ノ思想全ク存セサルニアラス即チ鐵道電信電話ノ如キ極メテ新シキ事物ニ對シテマテモ此主義ヲ採ル者アリ此等ニ關スル國有論ノ如キ即チ然リ又一箇人ノ所有權ヲ制限スル強制買収法ノ如キ規定アリ然レトモ此等ハ事ロ例外ニシテ一般ニ謂フトキハ文明諸國ニ行ハルル財產制度ハ專ラ箇人主義ニ基クモノナリ(二五)

(二五) 所有權ニ關スル制度ハ漸漸發達シ來リ現今ハ一般ニ箇人ノ所有權認メラルルモ綜合主義全ク其跡ヲ絶テリト謂フヘカラス或事物ニ付テハ事ロ新ニ綜合主義ヲ採ルニ至ルノ傾向アリ例ヘハ近世ノ發明ニ係ル電信電話鐵

道等ハ之ヲ綜合主義ニ據レルモノ即チ國有ト爲スノ主義頻リニ行ハレツツアルナリ現ニ電信ハ各國大概之ヲ以テ爲シ電話ハ國ニ依リテ或ハ之ヲ民有ト爲シ或ハ國有ト爲スト雖モ其之ヲ民有ト爲セル國ニ於テモ更メテ之ヲ國有ト爲スヘシトノ議論アリ我國ノ如キハ此二者ハ始ヨリ國有主義ヲ採リ近時ニ至リ鐵道ノ如キモ亦之ヲ國有ト爲スヘシトノ議論アリ其他ニ尙ホ強制買収ナル事アリテ戰時若クハ事變ノ際又ハ鐵道布設工事等ノ場合ニ在リテハ當事者カ承諾セサルモ土地收用法ノ規定ニ據リテ強制的ニ土地ヲ收用スル事アリ是レ一私人ノ土地所有權ヲ制限スルモノニシテ綜合主義ニ基キタル制度ナリ此強制買収ハ管ニ土地ノミナラス動産ニ付テモ行ハルルコトアリ即チ軍隊ノ演習等ノ場合ニ糧食ヲ要スルトキハ當事者カ任意ニ買収ニ應セサルコトアルモ之ヲ強制的ニ買上クル法令ノ存在スルカ如キ是ナリ此等ハ皆一箇人ノ所有權ヲ制限スルモノニシテ其根據ヲ綜合主義ニ取ルモノナリ然レトモ全局ヨリ論スレハ此等ハ寧ロ例外ニ屬シ箇人ノ所有權制度ハ原則トシテ一般ニ行ハレ居ルモノナリ而シテ此箇人ノ所有權ヲ認ムルノ主

義ハ之ヲ正義トスヘキヤ否ヤノ問題ニ付テハ古ヨリ議論ノアリシ所ナリ
古來一箇人ノ所有權ヲ正義トスル議論ノ根據トスル所ノ理由種種アリト雖モ
之ヲ大別スレハ左ノ三說ナリトス

第一說 ハ獨逸人アーレンス氏ノ最モ善ク説明スル所ナレトモ實際ハ佛國ニ
最モ多ク行ハレタル性法自然法ノ說ニシテ所有權ヲ人生固有ノ性質ニ基クモ
ノナリト爲スモノナリ此說ニ據レハ人類ハ元來生レナカラニシテ天賦ノ自由
ト天賦ノ權利トヲ有スル者ニシテ之ヲ保維シ獨立獨歩シテ經濟上ノ活動ヲ爲
スヲ得ルハ所有權アルニ據ル是ヲ以テ所有權アリテ而シテ後ヲ始メテ人類ノ
發達ハ完全ナルヲ得ヘク所有權ハ全ク天賦ニ基クモノナリト云フニ在リ(二六)
(二七) 此說ハ性法說又ハ自然法說トモ曰フヘキモノニシテ獨逸人アーレン
ス氏ノ詳シク説明スル所ナリ然レトモ此說カ實際最モ盛ニ行ハレタルハア
氏ノ本國タル獨逸ニアラスシテ佛國ナリ佛國ニテハ此主義甚タ盛ニ行ハレ
總テノ法律問題ヲ此主義ニ據リテ說カントシタリ彼ノ「ボアンナード」氏ノ如
キモ此主義ヲ信シタル者ナレハ我國ノ法律中ニモ多少此主義ニ據リテ立案

セラレタルモノアリ此主義ニ據レハ一箇人ノ所有權ハ人生固有ノ性質ニ基
クモノニシテ人ハ天賦ノ自由天賦ノ權利アリテ之ヲ保維シ獨立獨歩シテ經濟
上ノ活動ヲ爲シテ生産シタルモノモ自己ノ有ニ歸セスシテ箇人ハ天賦ノ權利
自由ヲ全ウスルヲ得ス故ニ之ヲ全ウスルニハ所有權ヲ認メサルヘカラス換
言スレハ所有權ハ自然ノ必要ニ因リテ生シタル權利ナリト云フニ在リ

第二說 ハフリーゴロシヤス「スタール」「パスチエー」「ロツク」等ノ諸氏カ主張
セル勞力說ニシテ財貨ノ起源ニ對シ正義ヲ行フカ爲メニ一箇人ノ所有權ナル
モノ存在スルモノナリト論ス此說ニ據レハ財貨ノ起源ハ勞力ナリ勞力ヲ大別
シテ二ト爲ス一ハ占有ニシテ一ハ通常ノ勞力ナリ此二種ノ勞力アリテ而シテ
後始メテ財貨生スルナリ故ニ財貨ノ生スル起源タル勞力ニ對スル正義トシテ
所有權ヲ認メサルヘカラスト云フニ在リ(二七)

(二七) 此說ハ財貨ハ如何ニシテ生スルヤヲ説明シテ財貨ハ人ノ勞力ニ因リ
テ生スルモノナリ勞力ニ二種ナリ占有ノ如キ容易ナルモノト普通ニ所謂勞
力即チ占有ニ比スレハ困難ナル勞力トノ二者是ナリ而シテ財貨ヲ生スル原

因タル勞力ノ二種中其一ヲタニ施シタルモノニ對シテハ所有權ヲ認メサルヘカラスト云フニ在リ

右ノ二說ハ共ニ先天的ノ理由ニ基クモノナリ即チ一ハ所有權ヲ以テ天賦ニ基クモノナリトシ此天賦トハ如何ナルモノナルヤニ付テハ少シモ説明セサルカ故ニ漠然タル感アルヲ免レス又一ハ所有權ヲ以テ勞力ニ基クモノナリト謂フト雖モ其勞力ハ何レノ場合ニ於テモ財貨ノ起源タルヤハ少シク講究ヲ要スル點アリ即チ勞力ハ財貨ノ狀態ヲ變スルノ原因タルコト疑ナキモ總テノ場合ニ於テ財貨ヲ生スルモノナリトスルハ稍ヤ其當ヲ得サルカ如シ

第三說 ハ「ホッブズ」モ「モンテスキュー」モ「ベンザム」等ノ諸氏カ主張セル法理說ニシテ前二者ノ如ク先天的ノ理由ニ基カス此說ニ據レハ一箇人ノ所有權ハ單ニ國家カ便宜上法令ヲ以テ認ムルニ由リ成立ツモノタルニ過キスト云フ(二)

(二) 第三說ハ法理說ト名クヘキモノニシテ此說ハ第二說ヲ唱ヘタル「ロツク」氏ト同シク民約說ヲ唱フル「ホッブズ」氏等ノ主張ニ係ルカ故ニ其根本ヲ多

少天賦自由說ノ思想ニ汲マサルニアラスト雖モ一箇人ノ所有權ヲ正義ナリトスル理由ニ至リテハ兩者大ニ異ナリ此說ハ「ホッブズ」氏ヲ始メトシ「萬法精理」著者タル「モンテスキュー」功利說ヲ以テ有名ナル「ベンザム」近世ノ學者間ニ録録ノ聞アル「ワグネル」等ノ諸氏カ等シク唱道スル所ナリ其基ク所前二說ノ如ク先天的ノ理由ニ據ラス特ニ第二說ノ如キハ財貨ハ勞力ヨリ成レルカ故ニ之ニ勞力ヲ施シタル箇人ノ所有ニ屬セシメサルヘカラス箇人ノ所有權ハ正義ナリト云フニ在レトモ勞力ハ何故ニ財貨ヲ生スルヤヲ説明セス且ツ假ニ勞力カ財貨ヲ生スルモノナリトスルモ或財貨ハ之カ生産ニ與レル勞力者ニノミ與ヘサルヘカラスル理由果シテ何クニカ在ル蓋シ人類ハ多少皆勞働ヲ爲スモノナレハ其勞働ヨリ生シタル財貨ハ之ヲ箇人ノ有ニ歸セスシテ社會ノ共有ニ屬スルモノトスルノ理由モ全ク立タサルニアラス然ルニ此點ニ關シ何等ノ説明ヲ與フルコトナク漫然自然ノ成行上斯クナラサルヘカラスト云フカ如キ先天的ノ理由ニ基ク第二說ハ探ルニ足ラサルナリ然ルニ第三說ハ國家カ自存ノ目的ヲ達シ又ハ自己ノ繁榮ヲ謀ルカ爲メ便宜上法令ヲ

以テ認メタルニ依リテ始メテ所有權發生スルモノナレハ箇人ノ所有權ハ法令ノ力ニ依リテ始メテ存在スルモノナリトスルニ在リ故ニ其基ク所先天的ニアラス

右ノ三說ハ共ニ一理アルモ未タ満足スヘカラサルノ點アリ眞理ハ蓋シ之ヲ折衷シタルモノナラン(二九)

(二九) 右述ヘタル三說ハ何レモ多少理由アル說ナリ然レトモ第一第二ノ說ニ付テハ已ニ述ヘタル如ク何故ニ斯ク論セサルヘカラサルヤノ點ニ關シ説明ナシ而シテ第三說モ亦國家ハ何故ニ便宜上所有權ヲ認ムルヤヲ説明セス故ニ以上ノ三說ヲ折衷シテ茲ニ始メテ眞理ニ達スルモノヲ得ヘシ然レトモ此點ニ付キ詳シク説明スルハ此編ノ目的トスル所ニアラサレハ此所ニハ只進ミテ法令カ一箇人ノ私有財產ヲ認メタル結果如何ヲ述ヘン

一箇人ノ所有權ト人身ノ自由トハ凡テノ社會上ノ發達即チ文明ノ進歩ニ最も必要ナル條件ナリトス是レ實ニ疑フヘカラサルコトナリ然リト雖モ亦決シテ動カスヘカラサル萬世不易ノ制度ト看做スヲ得ス國民ノ經濟上並ニ精神上ニ

於ケル進歩ト共ニ變化スルモノナリ(三〇) 之ヲ既往ノ歴史ニ照スニ前已ニ述

(三〇) 一箇人ノ財產所有權カ認メラル理由ハ此所ニ深ク論究セスト雖モ兎ニ角一箇人ノ所有權及ヒ人身ノ自由ヲ認ムルハ文明ノ進歩ニ必要ナル條件ニシテ之ヲ認メサレハ人文ノ發達得テ望ムヘカラス即チ若シ所有權ヲ認メサランカ人人ノ辛苦經營シタル結果ハ社會ノ共有ト爲リ毫モ其人ニ利益ヲ與フルコトナキヲ以テ非常ニ公共心ニ富ミタル人ニアラサル限リハ自ラ怠惰放逸ニ流レ社會ノ文物日ニ退步センノミ然ルニ自己ノ利害ハ毫モ顧ミルコトナク専ラ社會公共ノ爲メニノミ盡サントスルモノハ殆ト稀有ノ事ニシテ人人ノ利害相衝突スルニ當リテハ先ツ自己ノ利益ヲ圖ラントスルハ普通ノ人情ナリ而シテ又箇人ノ自由ヲ認メサランカ動モスレハ身體ノ拘束ヲ受ケ一自由ニ活動スル能ハサルヲ以テ社會ノ文物何ニ由リテカ發達スルヲ得ン然リト雖モ是レ現時ノ情勢ニ付テ言ヘルノミ今ヨリ數千百年ノ後情勢一變シ全ク理想的ノ人類生スルニ至ラハ或種類ノ物ニ付テハ箇人ノ所有權ヲ認メス又ハ凡テノ物ニ付キ所有權ヲ認メスシテ共有財產制度ヲ認ム

ルヲ可ナリトスルニ至ランモ知ルヘカラス故ニ私有財產制度及ヒ人身ノ自由ヲ認ムルコトハ社會ノ發達上萬古不易ノ必要條件ナリト謂フヲ得ス現ニ或國ニ於テハ土地ヲ國有トシ之ニ付テハ個人ノ所有權ヲ認メサルノ制度行ハルルカ如キ即チ之ヲ説明スルモノナリ

「タルカ如ク所有權ノ性質ハ時代ニ依リテ大ニ異ナリタルモノニシテ幼稚ノ社會ニ在リテハ人人ノ利害多クハ同一ナレハ共有財產ノ制度專ラ行ハレ唯リ其同所有權ノミ法令ノ認ムル所ナリ反之世運ノ進歩ニ從ヒ人人ノ利害相異ナリ漸漸互ニ相衝突スルニ至リ經濟上ノ業務モ亦次第ニ繁雜ニ赴キ社會ニ存在スル凡テノ能力ヲシテ十分ニ發達セシメ經濟上必要ナル凡テノ機關ヲシテ十分働キ能ハシムルニハ是非トモ法令上一個人ノ所有權ヲ認メサルヘカラス是レ私有財產制度ノ共有財產制度ニ次キテ起レル所以ナリ」(二)而シテ此所有權ハ(一)一個人ノ財產所有權ヲ認ムル制度ハ萬古不易ノモノニアラサルコトハ既往ノ制度ニ徴スルモ明カナリ即チ前ニモ述ヘタルカ如ク所有權發達ノ歴史ニ照ストキハ往昔ハ各人ノ爲ス所殆ト同一ニシテ其利害モ亦同一ナ

リシカ故ニ共有財產制度ヲ以テ足レリトシタルモ世運ノ進ムニ隨ヒ各人ノ利害ヲ異ニシ互ニ相衝突スルノ場合生シ生計上ニモ困難ヲ告クルニ至リ且ツ經濟上ノ事業モ漸次繁多ト爲リタルカ爲メ當ニ經濟上ノ能力ノミナラス諸般ノ能力ヲ十分ニ發達セシムルニアラサレハ社會ノ存在ヲ維持スルコト能ハサルニ至リ茲ニ始メテ私有財產制度ヲ認ムルコトト爲リタルモノニシテ此點ニ付テハ何レノ國ト雖モ皆歴史ヲ同シウス

常ニ社會人類ノ進歩ト共ニ其區域ヲ擴メ遂ニハ手足ノ以テ之ニ觸ルヘカラス目ノ以テ之ヲ見ルヘカラサル精神上ノモノニマテモ及フニ至レリ版權所有ノ如キハ即チ是ナリ此ノ如キハ決シテ往古ノ未開社會ニハ之アルコトナク進歩シタル社會ニ於テノミ見ル所ノ事實ナリ

此ノ如ク一個人ノ所有權ハ法令ノ一タヒ之ヲ認メテヨリ以來漸次擴張セシモノナレトモ亦一方ニ於テハ社會ノ進歩ト共ニ一個人ノ利害ト公共一般ノ利害ト相衝突スル場合益々加ハリ來レリ故ニ後者ヲ保護センカ爲メ前者ヲ多少制限スルノ必要モ亦漸漸増加シ強制買収法設ケラレ田野森林鐵道等ノ所有權

〔二〕種種ノ制限ヲ加フルコトト爲ルニ至レリ (三)此理由ニ基キ尙ホ一步ヲ進メ
(四) 本文ニ述ヘタル如ク一方ニ於テハ所有權ハ世運ノ進歩ニ伴ヒテ擴張
セラルルノ趨勢アリト雖モ又一方ニ於テハ却テ之ヲ縮少スルノ事情アリ即
チ箇人ノ所有權ヲ認ムルノ結果トシテ各人ノ間ニ智力ノ競爭起リ優勝劣敗
ノ理行ハレ智愚賢不肖等ノ別ニ從ヒテ甚シク貧富ノ懸隔ヲ來シ暴富者ハ百
般ノ利益ヲ獨占セント企テ其極ヤ遂ニ社會ノ公益ト相衝突スルノ場合ヲ生
スルニ至ルヲ免レス現ニ亞米利加ニ於テハ公共的性質ヲ有スル交通機關タ
ル鐵道ヲ獨占シ鐵道王ノ名ヲ博シタル者サヘアリ此ノ如ク公私ノ利害相衝
突スルトキハ國家ハ公益ヲ保護センカ爲メ私人ノ所有權ヲ制限スル必要ヲ
見ル故ニ或ハ強制買収法ヲ設ケ或ハ田野森林礦山鐵道等ノ所有權ニ種種ノ
制限ヲ加フルニ至レリ
タルハ此等ノ者ヲ總テ國有ト爲スコト是ナリ此論ニハ他ニ種種ノ理由アリト
雖モ主トシテ一箇人ト社會全體トノ利害ノ衝突ニ據リ後者ノ被ル弊害ヲ防カ
ントスルニ基クモノナリ (五)

(四) 以上述ヘタル所ノ理由ニ據リ公私利害ノ衝突益劇甚ト爲ルニ至リ其
結果トシテ鐵道其他同様ノ性質ヲ帶ヒタル交通機關ヲ國有ト爲スヘシトハ
議論盛ニ起レリ此議論ニハ固ヨリ他ニモ種種ノ理由アリト雖モ公私ノ利害
相衝突スルカ爲メ公益ヲ維持セント欲スル希望其主タル理由ナリ故ニ將來
或事物ニ對シテハ箇人ノ所有權全ク認メラレスシテ財產共有制度ノ舊時ニ
復スルコトアルヤ亦測リ知ルヘカラサルナリ

第二編 經濟學ノ定義

凡ソ定義ハ簡單ニシテ明瞭ナルヲ要スルモノナレハ之ヲ與フルコト甚タ難シ
今夫レ家財器具ノ如キ極メテ單純ナル物品ニテモ之ニ適當ナル定義ヲ與ヘン
トスルヤ多少ノ困難ヲ見サルナシ況ヤ學問ノ定義ヲ與フルニ於テヤ尙ホ且
ツ況ヤ人類ニ關スル學問ノ定義ヲ與フルニ於テヤ而シテ經濟學ハ複雜至極
ノ人類社會ニ關スル現象ヲ研究スル學問ナリ今之ニ定義ヲ與ヘントスルニ當
リ予ハ自ラ誰ヨリモ能ク其非常ニ難クシテ到底完全ナルモノヲ得ヘカラサル

ヲ知レリト信ス故ニ此所ニハ唯假ニ定義ヲ掲ケ置カント欲スルニ過キス(1)
然レトモ是ヨリ進ミテ斯學ヲ講究スルニ當リ豫メ予ノ經濟學ノ全體ニ關スル

(1) 經濟學ノ人類社會ニ關スル學問ナルコトハ未タ明カニ言ハサリシト雖
モ其然ルコトハ是マヲ述ヘ來リタル所ニテ略ホ知ルコトヲ得シ而シテ人類
社會ニ於ケル原因結果ノ關係ハ甚タ複雑ニシテ或ハ一ノ結果ハ數箇ノ原因
綜合シテ始メテ生スルヲ常トス經濟學ハ此ノ如キ複雑ナル人類社會ニ關ス
ル學問ナルカ故ニ之カ完全ナル定義ヲ得ンコトハ殆ト望ムヘカラス故ニ此
所ニハ唯假ニ定義ヲ掲クルニ止メントス歐洲人ノ諺ニ最初ノ原則ハ最終ノ
原則ナリト云フコトアリ是レ人人ノ誠ニ明白ナリトシテ毫モ疑ハス之ニ據
リ進ミテ他ノ議論ヲ立ツル基礎ト爲ス原則モ之ヲ仔細ニ研究スルトキハ疑
惑隨テ生シ却テ最後ニ至リテ始メテ之ヲ了解スルコトヲ得ルモノナルコト
ヲ意味シタル諺ナリ此ノ如キ事ハ哲學ノ研究杯ニ於テハ屢々アルコトナリ
而シテ多クノ學問ハ最初ニ定義ヲ掲クルヲ順序トスレトモ是レ説明上ノ便
宜ニ過キスシテ定義ハ初ヨリ知ルコトヲ得ヘキモノニアラス其學問ヲ研

究シ終リテ茲ニ始メテ定義ヲ下タスヘキモノトス然スルモ尙ホ完全ヲ期ス
ヘカラサルハ誠ニ已ムヲ得サル次第ナリ

觀念ハ如何ナルモノナルヤヲ簡單ニ述ヘ置カサレハ後ニ至リ意外ノ不都合ヲ
生センモ知ルヘカラサレハ不完全トハ知リナカラモ先ツ假ニ之カ定義ヲ與ヘ
ント欲ス若シ夫レ完全ナル定義ニ至リテハ以下述フル處ニ據リ經濟學ノ全體
ヲ知リテ而シテ後之ヲ知ルコトヲ得ヘシ但シ之ヲ知り得タレハトテ完全無
缺ノ定義ヲ與フルハ到底爲シ得ヘカラサルコトナリ總テ定義ハ單ニ便宜ノ爲
メ與ヘラルルモノニシテ不十分タルヲ免レサルモノナリト覺悟セサルヘカラ
ス(12)

(12) 右述フルカ如キ理由ナルカ故ニ經濟學ノ定義ヲ與フルコトハ甚タ困難
ナリ然レトモ元來學問ノ定義ナルモノハ研究ノ便宜上之ヲ與フルニ過キサ
ルモノナレハ以上經濟學ノ根本概念ヲ講シ了リタルヲ以テ講學ノ便宜ヲ圖
ルカ爲メ不完全ナカラモ茲ニ定義ヲ下サント欲ス

經濟學ノ何タルヤヲ知ラント欲セハ先ツ經濟トハ如何ナルコトヲ言フヤヲ知

ラサルヘカラス經濟トハ泰西ノ學問ノ未タ本邦ニ開ケサル以前ニ於テ已ニ存在セル言語ナレトモ之ニ學ノ字ヲ附シテ英語ノ「ボリチカル、エコノミー」ニ適用シタルハ大凡ソ三十年前ノ事ナリ而シテ經濟ノ二字ハ世間普通ニ用フル所ノ意義ニ依レハ儉約節儉等ノ意義ヲ有ス然ルニ儉約節儉ヲ爲スニハ一身ノ善ヲ修リ一家ノ整頓シ秩序アルヲ要スルコトナレハ此語辭ハ自然事物ノ秩序ト云フ意味ヲモ包含ス例ヘハ彼ハ經濟家ナリ是ハ經濟主義ナリ宇宙萬物自ラ一定ノ經濟法アリナト云フ場合ニ於テハ經濟ノ二字中ニ此等ノ意義包含セラレルコト明白ナリ(三) 西洋語「エコノミー」モ亦秩序整頓ノ意味ヲ含ミ和合(四) 經濟學ノ如何ナルモノナルヤヲ述フル前ニ經濟トハ如何ナルコトナルカヲ説明セサルヘカラス經濟ヲ言葉ハ本邦ニ未タ泰西ノ學問輸入セラレサル以前ヨリ存シタルモノナレトモ經濟學ヲ三字ヲ以テ「ボリチカル、エコノミー」ニ適用スルニ至レルハ今ヲ距ル三十年前ノ事ナリ此「ボリチカル、エコノミー」テフ語ハ英、米ニ用ヒラレ佛獨等ニ在リテハ之ト同一ノ意味ヲ有スル他ノ語ヲ用フ面シテ經濟學ヲフ語ノ用ヒラルルニ至リシヨリ以前ニ既ニ

存在セル經濟ヲフ熟語ハ儉約節儉等ノ意義ニ用ヒラレ隨テ事物ノ秩序ト云フ意義ヲモ包含ス

致等ノ義ヲモ有ス而シテ又此語ノ起源ヲ尋スレハ希臘語ノ「オイコス」(「ノモ」)ノ二語ヨリ出ツ「オイコス」(oikos)ハ家ニシテ「ノモス」(nomos)ハ法則ナリ即チ「エコノミー」ハ家ノ法則ニシテ家法又ハ一家ノ秩序整頓ト云フ意義ノ語ナリ之ヲ主觀的ニ言ヘハ一家ノ法則ニ關スル學問若クハ一家整頓ノ術ヲ指スモノナリ後之ニ「ボリチカル」ヲフ語ヲ冠セシメ一家ノ上位スル一村一町一市一縣一府一國等ノ公共團體ニ適用スルニ至レリ即チ小ヨリ起リテ漸ク大ナルモノニ推移サレタルモノナリ(四)

(四) 經濟ヲフ語ハ節儉秩序等ノ意味ヲ有スルコト已ニ述ヘタル所ナルカ英語ノ「エコノミー」モ亦之ト同一ノ意味ヲ有セリ而シテ此「エコノミー」ハ希臘ノ「オイコス」(「ノモス」)ノ二字ヨリ變遷シ來リタルモノニシテ「エコノミー」ニ冠スルニ「ボリチカル」ヲフ語ヲ以テスルニ至リ茲ニ始メテ公共團體ノ經濟ヲ意味スルコトト爲レリ

之ニ反シテ本邦並ニ支那ニ於テハ經濟ノ語廣義ヨリ狹義ニ大ヨリ小ニ推移リタルモノト謂フヘシ何トナレハ支那ニ於ケル經ノ字ノ使用法ヲ見ルニ易ノ屯卦ニ君子以經綸トアリ周禮ノ天官ニハ大宰以經邦國トアリ其註ニ經法也王謂之禮經所常乘以治天下者也ト曰ヘリ又左傳ノ昭公二十五年ニ爲夫婦外內以經二物トアルヲ註ニ夫治外婦治內各治其物ト解セリ而シテ詩ノ大雅ニハ經之營之トアリ其他常ニ經緯經度經紀帛帛云フヨリシテ推スニ經ノ字ハ動詞トスレハ治ムルノ義ニシテ名詞トスレハ治道ノ常則ヲ指シ其中ニ自ラ一致和合整理秩序等ノ意味ヲ有スルコト明カナリ(五)次ニ濟ノ字ハ齊ノ字ニ通シ定調等ト(五)經濟ヲフ語ハ初メ支那ヨリ起リ後本邦ニ傳ハリタルモノニシテ廣義ヨリ狹義ニ大ヨリ小ニ移リタルモノナリ本文ニ掲ケタル諸書ノ例ヲ見ルモ經ノ字ノ法ノ字ノ意味ヲ包含スルコト誠ニ明白ナリ但シ法トハ今ノ所謂法律トハ少シク異ナリ治ムル大道ト云フカ如キ意義ヲ有スルモノナリ而シテ又此經ノ字ヲ動詞トシテ使用セタル例ニ據リテ之ヲ觀レハ此字ハ治ムルト云フ意義ヲ有スルモノト謂フヘシ故ニ此字ハ動詞トシテモ名詞トシテモ左マテ

大ナル差異ナク一致和合整理秩序等ノ意義ヲ包含スルモノニシテ歐語ノ「エコノミー」ト同様ノ意義ヲ有スルモノトス

同様ノ意義ヲ有シ經ノ字ト大ニ異ナルコトハナシ而シテ二字ヲ連用シテ經濟ト言ヘハ西洋語ノ「エコノミー」ニ善ク當レリ支那ニ於テハ秦ノ時代ヨリ經濟ノ熟語ヲ以テ直チニ天下ヲ治ムルノ義若クハ天下理財ノ道ニ適用セリ(六)

(六)濟ノ字ハ齊ノ字ト意義相通シ定調等ト同一ノ義ヲ有ス即チ治ムル整フル帛帛ト謂フカ如シ現今ノ如ク文字ノ發達シタル時代ニ於テハ故ラニ此ノ如キ同一ノ意味ヲ有スル二箇若クハ二箇以上ノ文字ヲ同一義ニ用フルコト餘リナキモ往昔ニ在リテハ此ノ如キ實例乏シカラス而シテ經ト濟トノ二字ハ歐語ノ「エコノミー」ト相一致ス固ヨリ一字ツツ別別ニテモ適用サレサルニアラサルモ秦ノ時代ヨリ經濟國民ナル熟語アリテ之ヲ天下ヲ治ムルノ意義ニ用ヒタリ即チ今日ノ所謂財政ノ事ハ勿論單ニ是ノミナラス尙ホ之ヨリモ一層廣キ意味ニ用ヒタルモ國家經營ノ策ハ財政ヲ以テ最モ重シトスルカ故ニ財政ノ事ニ經濟ノ語ヲ用フルニ至リシナリ然レトモ此說ハ當時未タ今日ノ如

ク民間ノ經濟事業ニハ用ヒラレサリシナリ
本邦ニ於テモ亦然リ往時大宰純一書ヲ著シ之ヲ經濟錄ト名ク之ヲ讀ムニ其論
スル所ハ皆治國平天下ノ術ナリ後世ノ人皆此二字ヲ同様ノ意義ニ用ヒ富國強
兵ノ策ヲ論スルヲ以テ直チニ經濟ヲ語ルモノト爲セリ是ヨリ經濟ノ意義稍ヤ
狹隘ト爲ルニ至レリ泰西ノ文物我國ニ入リテヨリ以來此熟語ヲ以テ財ヲ理メ
國家ノ生存繁榮ヲ計ルニ必要ナル原理原則ヲ研究スル學術ニ用ヒ又一轉シテ
一家ノ家計ニマテ及ホスニ至レリ故ニ本邦並ニ支那ニ於テハ經濟ノ意義大ヨ
リ小ニ推移シ廣キヨリ狹キニ適用サレタルモノト謂フヘシ(七)

(七) 我國ニ於テモ往時大宰純一ノ經濟錄中ニ論スル治國平天下ノ術ノ如キハ
今日ノ經濟學中ニ論ヒラルル財貨ノ原理原則トハ固ヨリ異ナリ廣ク政治一
般ヲ謂フカ如シ而シテ天下ヲ治ムルニハ富國強兵ヲ主要トセルカ故ニ遂ニ
後者ノ策ヲ論スルヲ經濟論ト曰フニ至レリ其後尙ホ下リテ一家一身ノ事ニ
モ經濟テフ語ヲ用フルコトト爲レリ加フルニ三十年前ニ泰西ノ學問入り來
タルニ及ヒ其中ノ財ニ關スル學問ニ我國ニ從來存セル經濟テフ熟字ヲ用ヒ

テ經濟學ト稱スルニ至レリ而シテ此學問ヲ始メテ我國ニ紹介シタルハ英米
ノ圖書ニシテ當時ハ富ノ生産、交易分配ヲ論スルヲ以テ經濟學ト爲シ之ニ對
スル政策ヲ論スルヲ應用經濟論ト稱シ一種ノ技術ト看做セリ而シテ後一時
ハ之ニ理財學ヲ名ヲ與フルコトト爲レリ然ルニ現今歐洲ニ於ケル經濟學
ナルモノノ本領ヲ觀ルニ斯學ハ財貨ニ關スル單純ノ理論ノミヲ講スルニ止
マラス其理論ノ應用之ニ對スル政策等ヲモ論シ或點マテハ却テ昔時ノ治國
平天下ニ關スル術策ノ意義ニ近ツキ來レリ故ニ近年ニ至リ理財學ト名クル
ノ稍ヤ狹キヲ知リ再ヒ舊ニ復シテ經濟學ト稱スルニ至レリ是ニ由リテ之ヲ
觀レハ歐米ニ於テハ經濟テフ熟語ノ意義ハ小ヨリ大ニ移リ日本並ニ支那ニ
於テハ其意義大ヨリ小ニ移レルモノナルコト明白ナリト謂フヘシ

古來諸學者ノ經濟學ニ與ヘタル定義ノ多キコト殆ト學者ノ數ノ多キニ均シ是
レ此學ノ尙ホ頗ル幼稚ナルヲ證スルニ足レリ然レトモ此等ノ定義ハ或ハ廣キ
ニ流レ或ハ狹キニ失シ中庸ヲ得タルモノハ寧ロ少數ノ方ナリ(八)
(八) 經濟學ノ定義ノ非常ニ多キト其互ニ相異ナルノ甚シキトヲ證明センカ

爲メニ左ニ數箇ノ例ヲ掲ケテ之ヲ意譯シ且ツ多少ノ批評ヲ加ヘン斯學ノ祖
先アダム・スミス氏ノ定義ニ曰ク

Political economy, considered as a branch of the Science of a Statesman or legislator,
proposes two distinct objects: first, to supply a plentiful revenue or subsistence for the
people, or, more properly, to enable them to provide such a revenue or subsistence for
themselves; and secondly, to supply the state or commonwealth with a revenue sufficient
for the public services (Adam Smith, An Inquiry into the Nature and Causes of the
Wealth of Nations, Book IV.)

其意ニ謂ラク經濟學ハ之ヲ政治家又ハ立法者ニ必要ナル學問ノ一種ト看做
セハ二箇ノ明白ナル目的ヲ有スルモノナリ即チ第一、國民ノ爲メ十分ナル收
入ヲ供給スルコト之ヲ尙ホ適切ニ言ヘハ國民ヲシテ自家ノ爲メ十分ナル收
入ヲ獲得スルヲ得セシムルコト第二、國家ニ供給スルニ公務舉行ニ對シ十分
ナル收入ヲ以テスルコト是ナリト然レトモ經濟學ハ經濟現象ニ關スル一般
普通ノ法則ヲ研究スルモノナリ「スミス氏ノ定義ニ謂フ所ノ如キハ學問ノ職

分ニ非シテ寧ロ實際家ノ職分ナリ故ニ氏ノ定義ハ經濟學ノ應用ノミヲ觀
テ一般ノ法則ヲ研究スル學理ノ觀念ヲ度外視スルモノナリト謂フヲ可ナリ
佛人「ルソー」ノ百科全書(Encyclopédie)中ニ掲タル經濟學ノ定義モ亦「スミス氏
ノ定義ト略ホ相同シ

「ジョン・スチュアート・ミル氏ノ定義ハ經濟學ヲ以テ

The Science which treats of the production and distribution of wealth, as far as they
depend upon the laws of human nature (John Stuart Mill, Principles of Political Economy)

ト爲セリ即チ人性心理ノ法則ニ據レル富ノ生産ト分配トヲ講究スル學問ヲ
經濟學ト稱スルノ義ナリ是レ多少「スミス氏ノ觀念ニ優ル所アレトモ「ミル」ハ
其書中ニ實際論シナカラ定義中ニ富ノ交易ヲ舉ケサルハ聊カ遺憾ナキ能ハ
サル事ナリ又單ニ心理上ノ法則ノミニ據レハ生産分配ヲ講究スルニ過キサ
ルモノナリト爲スハ少シク穩當ナラサルカ如シ

「ヘンリー・フオーセツト氏ノ定義ハ「ミル氏ノ定義ニ富ノ交易ヲ加ヘタルニ過キ
スシテ完全ナルモノト謂フヲ得ス」シジウキツク氏ノ定義モ亦同シ獨リ「マー

シャル氏ハ同シク英國人ナカラモ頗ル異ナリタル定義ヲ與ヘ經濟學ノ名稱
スラモ多數ノ英國學者ト異ナレルヲ以テ適當ナリト爲セリ其定義ニ曰ク
Political Economy, or Economics, is a study of mens actions in the ordinary business
of life; it inquiry how he gets his in come and how he uses it (Alfred Marshall, Pri-
nciples of Economics, Book I. chapter I.)

ト即チ經濟學ハ居家處世ノ日常生活ニ對スル人人ノ活動ヲ論シ人人カ如何
ニシテ其收入ヲ獲得シ如何ニシテ之ヲ使用スルヤヲ講究スルモノナリトノ
意義ヲ明カニスルモノナリ然レトモ此定義ハ一箇人ノミヲ眼中ニ置キ國家
社會ヲ度外視スルモノナリト謂フヘシ經濟學ハ國家社會全體ニ關スル經濟
現象ヲ講究スルモノナレハ「マーシャル氏」ノ定義ハ箇人主義ニ偏シタル缺點
アルモノト謂ハサルヘカラス

英人「リカード」(「マルサス」)ノ二氏ハ經濟學上頗ル重大ノ關係ヲ有スル人ナ
レトモ別ニ斯學ノ定義トシテ與ヘタルモノナシ

之ヲ要スルニ英國派ノ經濟學者カ斯學ニ與ヘタル定義ハ何レモ皆多少ノ缺

點アルヲ免レス

獨逸ハイデルベルグ大學ノ教授タリシ「カール・ハインリッヒ・ラウ氏」ノ定義ニ

曰ク

Die Wissenschaft von den wirtschaftlichen Angelegenheiten des Staates, oder von der
Befriedigung sämtlicher Bedürfnisse in denselben vermittelt sechlicher Güter, ist die
politische Ökonomie, öffentliche Wirtschaftslehre, Staatswirtschaftslehre im weiter n
Vorverständnis (K. H. Rau, Grundsätze der Volkswirtschaftslehre, S. 3.)

ト即チ經濟學トハ國家ノ經濟業務ニ關スル學問ニシテ國家内ニ存在スル總
テノ欲望ヲ有形ノ財貨貨物ニ據リテ満足セシムルノ手段方法ヲ講究スルモ
ノナリトノ意ナリ此定義ハ單ニ有形ノ財貨ニノミ注目スルノ缺點アルノミ
ナラス國家ノ經濟政策ノミニ重キヲ置クノ據アルモノナレハ「バダム・スミス」
氏ノ定義ト同一ノ非難アルヲ免レス

歴史學派ノ「泰斗」ロッシェル氏ノ定義ニ據レハ經濟學ハ

Lehre von den Entwicklungsgesetzen der Volkswirtschaft, das wirtschaftlichen Vol-

Kalebens (Wilhelm Roscher, Grundlagen der Nationalökonomie, S. 16)

ナリト即チ國民經濟ノ發達ニ關スル法則國民ノ經濟生活カ如何ナル進化ノ原則ニ據ルモノナルヤヲ講究スルモノナリトノ意ナリ然レトモ經濟學ハ國民經濟發達ノ法則ノミヲ講究スル學問ニ非ス經濟歷史的ノ研究ハ勿論斯學ノ範圍内ニ屬スヘキモノタルニ相違ナシト雖モ是レ元來其一小部分タルニ過キサレハ「ロツシエル氏ノ定義ハ歷史的研究ヲ重ンスルノ餘リ遂ニ他ノ必要ナル觀察點ヲ顧ミサルニ至レルモノナリト謂フヘシ
「フォン・シーエル氏ノ定義ニ曰ク

Die politische Oekonomie hat den Zusammenhang der Privatwirtschaften unter einander und ihren Zusammenschluss zu grösseren Wirtschaftsgemeinschaften Staat, Gemeinden, u. s. w.) nach Entstehung und Beschaffenheit darzustellen und legen für die zweckmässige, den Ansprüchen der erwachten und zu erreichenden Kulturstufe entsprechende, Ordnung dieser Verhältnisse aufzustellen (H. v. Schiel, Geschichte der politischen Ökonomie, § 1. in Handbuch der Politischen Ökonomie von G. Schönberg)

ト是レ定義トシテハ餘リ冗長ニ過キ錯雜ヲ極メタルノ缺點アルヲ免レス「フォン・シーエル氏ニ曰ク

Die Wirtschaftsflehre ist diejenige Wissenschaft, welche zum Gegenstand hat die Beziehungen, die zwischen den Menschen aus ihrer wirtschaftlichen Thätigkeit hervorgehen (A. v. Held, Grundriss für Vorlesungen über Nationalökonomie, § 4)

ト是レ經濟學ヲ以テ經濟行為ヨリ生スル人々相互間ノ關係ヲ講究スルモノナリトノ意義ニシテ解釋ニ依リテハ頗ル正鵠ヲ得タルニ近キ定義ナレトモ經濟學ノ定義ヲ與フルニ當リ其中ニ意義ノ頗ル解シ難キ經濟行為ヲ文字ヲ使フハ論理學ノ原則ニ照シ少シタ穩當ナラサルカ如シ

伯林大學ノ教授グスタフ・シモレル氏ハ經濟學ヲ以テ

Die Wissenschaft der wirtsch. affichen Seite eines sozialen Körpers (Gustav Schmoller,

Vorlesung über allgemeine Theorie der Nationalökonomie in Sommer-Semester, 1889)

即チ社會ノ經濟的方面ニ關スル學問ナリト爲セリ此定義ハ所謂語簡ニシテ意餘アルモノニモテ「シモレル氏ノ講義ヲ聽キ其著書ヲ讀ミタル者ニハ頗ル

味フヘキ深長ノ意義アルモノナレトモ定義トシテハ餘リ簡單ニ過キテ解シ難キノ嫌アリ

「ハレー」大學ノ教授「コンラッド」氏ハ經濟學ヲ分チテ三大部門ト爲シ各部門ノ定義ハ之ヲ與ヘ居ハトモ (F. Conrad, Grundriss zu der Vorlesungen über Nationalökonomie, § 1. 參看 全部ニ對スル定義ハ別ニ之ヲ與ヘ居ラス故ニ今之ニ論及スルヲ得ス)

「グッチンゲン」大學ノ「コーン」教授ハ曰ク

Der Gegenstand der Nationalökonomie ist derselbe, welcher aus der Haushaltung der einzelnen Familien hinübergetragen wird in die Gesamtumstände einer Nation (Gustav Cohn, Grundlegung der Nationalökonomie, §. 4)

ト此定義「アズベルフ」氏ノ定義 (Die Wissenschaft von der Volkswirtschaft als dem Organismus der Einzelwirtschaften statisch organisierter Völker, ist die Volkswirtschaftslehre, Nationalökonomie, oder Politische Ökonomie) トハ共ニ他ノ定義トハ大ニ異ナリ經濟學ヲ有機的ニ活物トシテ觀ルコト多キノ點ニ於テ頗ル進歩セル

思想ニ據レバ誠ニ明白ナリト雖モ章句極メテ難澁ニシテ解シ易カラサルノミナラス定義中ニ挿入スヘカラサル語辭ヲ挿入スルノ缺點アリ故ニ定義トシテハ未タ以テ完全ナルモノト爲スヲ得ス

米人「ケリー」氏一派ノ學者ハ經濟學ヲ以テ社會現象ノ總テヲ包含スルモノト爲シ甚シキニ至リタハ氏自身ノ如ク之ニ社會學ノ名稱ヲ下セリ經濟學史近時ノ傾向ハ將ニ漸ク同一ノ進路ヲ取ラントスルニモ拘ラス予ハ斷シテ此風潮ニ逆フテ經濟學ト社會學トヲ混同スルノ非ヲ鳴ラサント欲スル者ナリ「ケリー」氏一派ノ見解ハ畢竟廣キニ失スルモノナリ之ニ反シテ英人「マククラウド」氏ノ流ヲ汲ム者ハ此學ヲ以テ財貨ノ交易ニ關スルモノト爲セリ是レ狭キニ過クルノ定義ニシテ取ルニ足ラサルナリ交易現象ハ之ヲ生産現象分配現象等ト全ク分離シテ講究スヘキ事ニ非サルナリ(九)

(九)「ケリー」氏一派ノ人々ハ經濟學ヲ非常ニ廣キ意味ニ解シタルニ反シ他ノ一派タル有名ナル「銀行論」著者英人「マククラウド」氏ノ流ヲ汲ム者ハ此學ヲ以テ財貨ノ交易ニ關スル學問ナリト爲セリ是レ狭キニ失スルモノナリ何トナ

レハ交易ノ事ハ之ヲ生産分配等ノ事ト全ク分離シテ論スルヲ得ルモノニ非
ス例ヘハ交易論ノ一章ニ於テ物價ノ高低ヲ論スルヤ勢ヒ生産費ニ説キ及ハ
サルヘカラス而シテ生産費ヲ論スルニハ必ス生産ノコトヲ知ラサルヘガラ
ス其他苟モ經濟現象ヲ説明セント欲セハ勢ヒ必ス生産分配ノコトニ論及セサ
ルヘカラス故ニマクラウド氏自身ハ經濟學ヲ以テ交易ノ學問ト爲シナカラ
其書中實際ハ矢張生産分配ノコトヲモ論シ居レリ是レ自家撞著ニ非スヤ此
ノ如ク交易ノ事ハ之ヲ生産分配ノ事ト全ク分離シテ考究スヘカラサルハ恰
モ人ノ身體ノ各部ヲ分離シテ研究スルモ其生理ヲ知ルヘカラス之ヲ知ルニ
ハ身體ノ全部ヲ研究スルヲ要ス即チ手又ハ足ノ效用ヲ知ルモ是レノミニテ
ハ腦髓ハ如何ナル働ヲ有スルヤ血液ハ如何ナル作用ヲ爲スヤハ之ヲ知ル能
ハス結局此等ノモノヲ共ニ研究スルニ非サレハ人身ノ生理ヲ知ルヲ得サル
ト一般ナリ此理ヲ推シテ論スレハ經濟學ノ定義ハ寧ロ「クレー氏一派ノ如ク
廣義ニ失シタル方經濟現象ヲ説明スル點ニ於テハ幾何カ眞ニ近キモノト謂
フヘシ然レトモ」マクラウド氏シテ此觀念ヲ抱カシムルニ至レルニハ幾分か

恕スヘキ事情アリ即チ社會經濟ノ現象ハ交易ノ行ハルルアリテ茲ニ始メテ
起ルモノニシテ交易ノ行ハルル以前ハ單純ナル生産即チ人人カ山ニ獵シ河
海ニ漁ル等ノ私人經濟アリタルニ過キス故ニ經濟學ハ交易ノ學ナリトノ考
ハ誠ニ生シ易キ考ナリ

以上經濟學ニ關シ廣狹ノ兩極端ニ位スル説ヲ述ヘタルヲ以テ茲ニ予ノ宜シ
カラント信スル定義ヲ舉ケントス此定義ハ極メテ簡單ニシテ宜シト信スレ
トモ定義トシテハ稍ヤ漠然タルモノナリ然レトモ經濟學ノ總テノ部分ヲ包
含シ其意味餘リ窮屈ニ過キサルモノヲ却テ適當ナリト信ス

惟フニ經濟學ハ人類社會ニ關スル學問ニシテ專ラ其財貨ニ關スル現象ヲ攻究
スルモノナラン

此定義ハ第一段ニ於テ經濟學ノ人類社會ニ關スル學問ナルヲ明言セリ是レ「リ
カード」其他英佛等ノ所謂舊派ノ經濟學者カ單ニ財貨又ハ富ノミニ注意ヲ厚ク
シ重キヲ人類並ニ社會ニ置カス甚シキニ至リテハ人類ヲ以テ財貨ノ生産ニ從
事スル器械的ノ動物ト爲セルヲ非トセンカ爲メナリ(一〇) 第二段ニ所謂財貨

(二) 蓋シ財貨又ハ富ハ人類ヲ離レテ存在スルモノニ非ス又人類ノ目的ハ財貨又ハ富ヲ作ルニ非ナルナリ尤モ世間ニハ財貨又ハ富ヲ作ランカ爲メ社會上非常ニ不幸ノ地位ニ立ツ者アリ即チ人類ノ總テカ僅少ナル富者ト多數ノ貧民トニ岐レ貧富ノ懸隔漸増加シ遂ニ貧民ノ間ニ經濟上ノ狀況ニ不滿ヲ懷キ富者トノ衝突ヲ來シ爲メニ社會ノ健全ナル發達ヲ妨クルノ弊ヲ生スルカ如キコトアリ事ノ茲ニ至レルハ人類ヲ以テ恰モ財貨又ハ富ヲ作ランカ爲メノミニ存在スルモノト爲セルカ爲メナリ若シ此ノ如ク人類ニシテ財貨又ハ富ノ奴隸ナリトセハ實ニ憫ムヘキノ甚シキモノナレトモ舊派經濟學者ノ論スル所ハ畢竟茲ニ歸著シ彼等ハ人類ヲ器械視スル者ナリ彼等ハ實ニ財貨又ハ富ノ生産上ニ利益アラハ其生産ニ從事スル一部ノ人民即チ多數ノ勞働者ノ如キハ如何ナル狀態ニ在ルモ差支ナク苟モ勞働ニ堪フル者ハ老若男女ヲ問ハス可能丈多ク勞働セシメ而モ可成丈僅ナル給金ヲ與ヘ此等ノ勞働者カ人類トシテノ品格ヲ保ツヲ得サルモ願ル所ニ非ス而シテ器械ノ發明セラルルニ從ヒ腕力智力ヲ要スルコト少キ勞働増加スルカ故ニ此種ノ勞

働ニ使役スルニハ幼者モ婦女モ皆可ナリ否ナ寧ロ此等ノ者ヲ便利ナリトス故ニ此等ヲ驅テ器械的ノ勞働ニ就カシメ特ニ大工場ニ在リテハ七八歳ノ幼者ニモ相當ノ勞働ヲ爲サシメ其學習時期ヲ失ハシムルコトヲ爲シテ毫モ顧著セズ又婦女ニ對シテ勞働上ノ制限ヲ設クルノ必要ヲ認メサルカ故ニ婦女本來ノ職分タル一家ノ家政ニ任スヘキ者ヲ工場ノ勞役ニ就カシメ其結果風俗ヲ紊リ一家ノ秩序ヲ壞リ社會ノ健全ナル發達ノ基礎タル家族生活ノ神聖ヲ破壞スルニ至レリ經濟社會ノ發達ハ十八世紀ノ中頃ヨリ今日ニ至ルマテ器械ノ發明夥シク右ノ如キ結果ヲ來シタルニモ拘ラス舊派ノ學者ハ之カ爲メ財貨又ハ富ノ生産増加シ從來使役スルヲ得サリシ幼者婦女ヲモ使用スルコトヲ得而モ其供給多クシテ賃金ノ廉ナルニ拘ラス生産物ハ増加スルカ故ニ生産者ハ利益ヲ占ムルコト勢ヒ大ナラサルヲ得ス經合物價ノ下落スルコトアルモ生産費用ノ減少ヲ以テ優ニ之ヲ償フヲ得ヘク生産者タル屋主ハ益財貨又ハ富ヲ得ヘシ之ニ反シテ勞働者ノ方ニテハ相互ノ間ニ存在スル甚シキ競争ノ爲メ賃金下落シ幼者等ヲ無制限ニ使役スルノ結果身體ノ健康ヲ害

シ將來ノ發育ヲ妨ケラル現ニ統計ハ勞働ノ久シキニ亘リタル後疾病ニ罹ル
或ハ死亡セル者ノ増加ヲ示スニ至レリ故ニ一時ハ苦役ニ堪フルモ成長後ハ
之ニ堪ヘサルカ又ハ縱令堪フルモ久シクハ堪ヘ得サルノ結果ヲ來シ爲メニ
貧民増加シ愈々生産者タル雇主ト勞働者トノ間ニ貧富ノ懸隔甚シキニ至ル是
レ實ニ社會一般ノ爲メ頗ル憂慮スヘキコトナリ然ルニ舊派ノ經濟學者ハ之
ヲ以テ憂フヘキ事ト爲サス財貨又ハ富ノ増加スルカ故ニ反テ喜フヘキ現象
ナリトセリ然ルニ其弊漸漸現ハレ來レルヲ以テ四五十年前ヨリ勞働ヲ制限
ナク爲サシムルヲ不可トシ幼者婦女ノ勞働ニ制限ヲ設ケ或ハ時間ヲ短縮セ
シメ或ハ年齡ヲ限リ或ハ仕事ノ種類ニ依リ之ヲ使役スルヲ得スト爲シ衛
生教育風紀上此等ノ制限ヲ設クルヲ必要ト爲スニ至レリ英國ニ於テハ始メ
テ工場法ヲ設ケ勞働ニ制限ヲ立テシヨリ以來年ヲ追フテ勞働者ノ保護厚ク
ナリ來レリ加之近來ニ至リ幼者並ニ婦女ノミナラス成年男子ノ勞働モ多少
制限ノ必要アリトノ議論起 八時間ヲ超ユル勞働ヲ許サストノ法律ヲ定ム
ヘントノ運動盛ナルニ至リ米國ノ數州英國ノ殖民地ビクトリア等ニ於テハ

法律ヲ設ケテ此主義ヲ實行スルニ至レリ而シテ經濟學者中ニモ此說ニ賛同
スル者アルノミナラス此ノ如キ法律ヲ設クルノ必要ヲ唱道スルニ至ラシ
メタル輿論ノ創造者ト爲リ或ハ木鐸ト爲ルニ至レル者アリ畢竟勞働ニ關
スル思想ノ此ノ如ク變遷シ來レルハ人類ヲ重ンスルノ觀念増加シタルニ
由ル然ルニ今ニ至ルマテ舊派經濟學ノ人類ヲ餘リ重ンセスシテ單ニ富ニノ
ミ重キヲ置クノ說ハ尙ホ往往主張セラレ既ニ立法上並ニ進歩セル學說上ニ
於テハ實際排斥セラレルニモ拘ラス一部ノ社會ニハ勢力アリ特ニ多數ノ資
本家並ニ企業家ノ間ニハ此說ノ勢力頗ル強シ我國ノ如キニ於テモ舊派ノ經
濟說尙ホ一般ニ行ハレ外國貿易ニ對シテハ絕對的ニ自由貿易主義ヲ主張ス
ル者ナケレトモ勞働者ノ利害休戚ニ關シテハ自由貿易說ノ根據トスル放
任主義ヲ採ル論者多シ換言スレバ所謂マンチエスター學派ノ說ハ外國貿易
ニ關シテハ勢力甚タ少キモ勞働者ニ關スル問題ニ在リテハ勢力頗ル強シ故
ニ工場法ノ如キモノヲ設ケントスル議論ハ今尙ホ強大ナル反對ニ遭フ故ニ
經濟學ハ第一ニ人類並ニ人類社會ノ目的ハ財貨又ハ富ニ非ス財貨又ハ富ハ

人類並ニ人類社會ノ種種ナル關係ニ於テ必要ナルノミ即チ經濟學ハ專ラ人ニ重キヲ置クモノナルヲ明カニスルノ必要アリ若シ他日舊派ノ經濟說一般ニ全然排斥セラレ敢テ顧ミル者ナキニ至ラハ第一段ノ語ヲ故ラニ定義中ニ加フル必要ナカルヘシ然レトモ其時期ノ果シテ幾年ノ後ナルヤハ固ヨリ未定ナリトス

ニ關スル現象トハ即チ財貨又ハ富ノ生滅増減等凡ソ人類ノ經濟上ニ於ケル損益禍福ニ關スルモノナリ然リト雖モ富ノ生滅ト謂ヒ増減ト謂ヒ皆頗ル議論ノ紛紛タル語ナレハ茲ニハ之ヲ詳論セス是レ本來純正經濟學ニ於テ論究スヘキコトナリ

唯リ人類ト謂フ語ニ關シテハ既ニ定義中ニ人類社會ト言ヘルヨリシテ明白ナルヘシト雖モ尙ホ少シク説明ヲ爲ササルヘカラス此所ニ所謂人類トハ野蠻時代ノ原人カ箇箇別別ニ孤立シテ獨リ自ラ狩獵漁業等ヲ事トシ且ニ生産シタニ消費シテ僅ニ生計ヲ立ツルニ過キサレカ如キ者ヲ謂フニ非ス縱令不完全ニモセヨ一箇ノ有機的社會ヲ造リ居ル者ヲ指スナリ即チ「アリストートル」ノ所謂人

類ノ人類タル社交的ノ性質ヲ具ヘ共同的生活ヲ爲スモノヲ謂フナリ(一)

(二) 野蠻時代ノ原人ハ獨立ト曰ハンヨリハ寧ロ孤立ト曰フヘキモノニシテ他ト社會上ノ關係ヲ有スルコトナク獨リ自ラ狩シ自ラ漁シテ生活ヲ立テ衣服ノ如キハ全ク之ヲ有セザリシ者モアレハ僅ニ狩獵ニ因リテ得タル禽獸ノ羽毛ヲ身ニ纏フニ過キサリシ者モアリ此種ノ人類ハ形容的ニ言ヘハ且ニ生産シタニ消費シテ漸ク生命ヲ繋クモノナレトモ實際ハ猶ホ甚シ彼等ハ實ニ生産スルヤ否ヤ直チニ消費シ以テ漸ク生活セルノミ是ヨリ一歩進ミテ事物ヲ經營スルコト毫モ之ナレ況ヤ學問ヲ研究シ文明的ニ生計ノ改良ヲ爲スカ如キハ彼等ノ夢想タモ及ハサル所ナリ此ノ如キ者ハ經濟學ニ所謂人類ニ非ス一種ノ動物ト謂フヘキモノニシテ之ヲ研究スルハ一種ノ私經濟學又ハ箇人經濟學ト稱スルヲ得ヘキモノナルヤモ知ルヘカラサレトモ今日ノ經濟學ハ人種ノ相集リテ團體ヲ爲シ種種ノ關係ニ立チ社會ヲ組成シテ生存ヲ共同ニスル人類ニ關スル學問ナリ然レトモ此所ニ所謂社會トハ今日ノ社會ノ如ク完全ナルモノニ限ラス縱令野蠻人ノ酋長ノ命令ノ下ニ行動スル者ト雖

モ彼等ノ間ニハ既ニ幾分カ分業モ行ハレ隨テ其因リテ生産シタル貨物ノ交換カ行ハルル社會ナラハ則チ可ナリ敢テ完美ナルヲ要セサルナリ

斯ル人類ノ間ニハ宗教道德政治法律等ノ現象アリテ之ヲ攻究スルニハ夫レ夫レ専門ノ學科アリ而シテ其財貨ニ關スル現象ヲ攻究スル學科ヲ稱シテ廣ク之ヲ經濟學ト曰フ故ニ經濟學ハ社會ニ關スル學問ノ一ニシテ其論究スル所ハ社會ノ一分子トシテノ人類ニ關スルモノト知ルヘシ(二)原人ノ間ニ行ハルル財貨ニ

(二)前ニ述ヘタルカ如ク社交的ノ性質ヲ具ヘ共同的生活ヲ爲ス人類カ相集リテ不完全ナカラモノノ社會ヲ組織セハ茲ニ一種ノ國家的團體生ス而シテ此團體ニ屬スル人類ノ間ニハ種種様様ノ現象生スヘシ即チ人類ハ自己ノ過去未來ニ對スル想像又ハ希望畏懼等ノ觀念ヨリシテ自然宗教的ノ考ヲ起スニ至リ茲ニ宗教現象生ス又人類相集リテ社交的ノ生活ヲ爲ス以上ハ其相互ニ守ルヘキ道アリ且ツ讓合ハサルヘカラサルコトモアルヨリシテ日常生活ノ標準ト爲リ居家處世ノ方針ヲ與フル道德ノ現象生ス其他公共ノ關係ヨリシテ政治法律文學美術等ノ現象モ自ラ生セサルヲ得ス今一詳ニハ之

ヲ述ヘス其中ニ就キ一種ノ現象ハ確ニ經濟ノ現象ナリ而シテ此等ヲ社會現象ノ起ル順序ヨリ論スレハ經濟現象ハ普通ノ意味ニ於ケル道德宗教現象ノ前ニ生スルコトアルヘシ然レトモ發生ノ前後ハ容易ニ之ヲ決スヘカラス而シテ此經濟現象ヲ攻究スルハ廣義ノ經濟學ニシテ之ヲ如何ナル觀察點ヨリシテ攻究スルヤハ經濟學ノ各部門ニ依リテ異ナル所ナリ例ヘハ單ニ事實ニ關スル法則ノミヲ攻究スルハ純正經濟學ニシテ之ニ對スル政策ノ方針ト手段方法トヲ論究スルハ經濟政策學ナルカ如シ其詳細ハ後ニ述フヘシ而シテ此ノ如クシテ經濟現象ニ關スル攻究ヲ爲スモノハ即チ廣義ノ經濟學ナリトスル以上ハ經濟學ノ人類ニ關スル學問ナルヤ勿論ノ事ナリト謂ハサルヘカラス而シテ經濟學ニ所謂人類トハ社會ノ一分子トシテ存在スル人類ナリ是レ前既ニ人類社會ニ關スル云云ト言ヒヨリシテ明白ナル所ナレトモ唯注意ノ爲メ茲ニ之ヲ述ヘ置カン

關スル現象ハ之ヲ簡人經濟現象又ハ私經濟現象ト稱シ簡人經濟學又ハ私經濟學ナルモノノ攻究スヘキ所ニシテ予ノ所謂經濟學ノ本來攻究スヘキモノニ非

ス經濟學ハ實ニ日本、支那、英、佛、獨等ノ如ク社會國家ヲ成セル國民ノ財貨ニ關スル現象並ニ國民ト國民トノ間ニ存在スル財貨上ノ關係等ヲ攻究スルモノナリ。經濟學ハ畢竟社會國家ノ觀念ヲ離レテ存在スルモノニ非ス。(二)

(三) 原人ノ社會ヲ組織セス箇箇別ニ孤立セル者モ前既ニ一言シタル如ク自ラ生産シ自ラ消費シ多少物質的ノ意味ニ於ケル經濟行爲ヲ爲スモノナリ。然レトモ是ハ是レ單ニ箇人經濟ノ現象又ハ私經濟ノ現象ト名クヘキモノニシテ箇人經濟學又ハ私經濟學ノ講究スヘキモノナリ。但シ箇人經濟學又ハ私經濟學ナルモノハ予ノ所謂經濟學ト全ク分離獨立シテ存スルモノナラヤ否ヤハ自ラ別問題ナリ。若シ獨立ニ存在スルヲ得ルモノナラハ箇人經濟ノ現象、私經濟ノ事ハ其宜シク研究スヘキ所ナリ。而シテ原人ハ生理上人類ト稱シ得ルモノ之ニ關スル研究ハ予ノ所謂經濟學ノ爲スヘキ所ニ非ス。經濟學ハ社會國家ヲ組成セル國民中ノ經濟現象又ハ社會國家ヲ組織セル國民ト他ノ同様ノ國民トノ間ニ起ル經濟現象即チ國際間ノ貿易、貸借上ノ關係、交通上ノ關係等ヲモ攻究スルモノナリ。故ニ經濟學ノ攻究スヘキ現象ノ中ニハ單ニ一國

内ニ行ハルモノノミナラス、國境ヲ見サル國際的世界的ノ經濟現象モ亦之アリトス。然レトモ此等ノ國際的世界的經濟現象ハ社會國家ヲ組織スル國ノ間ニ行ハルモノナルカ故ニ經濟現象ハ國境ヲ知ラストノ謬ハ其社會國家ヲ離レテ論クモノナリトノ謂ニ非ス之ヲ換言スレハ國際的世界的經濟現象ハ社會國家ノ存在スルコトナキモ行ハルモノニ非ス之アルモ其活動一國ノ版圖内ニ限ラサルモノナリ之ヲ要スルニ經濟學ノ攻究スル所ハ國家社會ノ觀念即チ有機的ノ組織ヲ爲ス所ノ人類ヲ離レテ存在スルモノニ非ス。而シテ社會國家ハ國家的ノ制度、文物多少具備スルニ非サレハ存在スルコト能ハス。經濟學ノ材料タル財貨上ノ現象ハ政治、法律等ノ現象ト全ク分離シテ論クコト能ハス。勿論或場合ニ或一國ニ於テ或法律カ全ク經濟上ニ影響ヲ及ボササルコトアルハ往々之アル事ナレトモ全體ニ於テ國家ノ政治、法律具備スルニ非サレハ經濟現象ナルモノ絶エタルコトナシ。(四) 是ヲ以テ單ニ經濟學ト曰ヘハ社會國家ハ所謂國家的ノ制度、組織具ハルニ非サレハ成立スルモノニ非ス。人類ノ性質ニシテ現在ノ如クナル以上ハ彼ハ到底國家ヲ組織シ社會ヲ

成ササルヘカラス故ニ經濟現象ハ政治法律等ノ現象ト密著絶ツヘカラサル
ノ關係ヲ有スルモノナリ然レトモ必スシモ總テノ經濟現象カ或特別ノ法律
ト關係ヲ有シ或ハ特別ノ政治ノ方針ト相伴フモノナリト謂フヲ得ス或場合
ニハ法律ノアルト否トニ拘ラス經濟現象カ獨立シテ働クコト屢之アリ例ヘ
ハ必スシモ會社法ノ規定ヲ埃チテ而シテ後始メテ會社組織ノ經濟現象カ生
スルモノニ非ス或場合ニハ會社法ニ種種様様ナル會社ノ種類ヲ舉ゲ實際其
國ニナキモ外國法ヲ參照シテ規定シタルモノアルニ數年ノ後始メテ其特別
ノ會社カ發生スルコトアリ是レ法律カ會社ヲ作ルニ非ス法律カ豫メ經濟上
ノ趨勢ヲ想像シ立法政略トシテ規定シタルニ豫期シタルカ如ク或種類ノ會
社カ生センナリ然レトモ其生スルコトナクシテ條章ノ空文徒法ニ流ルルコ
トアリ以上ノ場合ハ經濟現象ニ關係ナキ法律ノ存スル場合ナレトモ之ニ反
シテ法律ニ會社ノ規定ナキモ經濟社會ニ於テハ實際會社ト稱スヘキ團體生
シ種種ノ作用ヲ爲スコトアリ此場合ハ法律ノ制定以前ニ經濟現象ノ生シタ
ル場合ナリ英國ニテハ法律ノ制定以前ニ種種ノ經濟現象生シ之カ取締等ノ

必要上後ニ至リテ種種ノ法律設ケラルルコト往往之アリ此ノ如キ例ヲ見レ
ハ經濟現象ト法律現象トハ關係ヲ有スト謂フヲ得サル如キモ是レ特別ノ法
律特別ノ場合ナリ此所ニ所謂離ルヘカラスナルノ關係トハ全體ニ於テ法律系
統ト經濟現象トカ密著ノ關係アリト云フコトニシテ一部分カ關係ナキコトア
ルモ此特例ヲ以テ法律現象ト經濟現象トハ全ク關係ナキモノナリト斷言ス
ルヲ得ス況ヤ此ノ如キ場合ハ一時限リモノニシテ法律制定當時ニハ何等ノ
關係ナキモ時ヲ經ルニ從ヒ其關係自然生スルコトアリ又經濟現象アリテ法
律ナキモ必要上法律ヲ制定スルニ至ルコトアリ政治ノ大方針ニ從テ執ル所
ノ手段方法モ亦同シク一時ノ政略特別ノ手段トハ異ナリ一國ノ經濟現象ト
密著ノ關係ヲ有セサルナシ

社會國家ノ經濟ヲ論究スル學問ナリ是レ古來ノ經濟學者カ常ニ説ク所ニ據ル
モ亦明カナリ彼等ハ往往簡人的ノ觀念ヲ基礎トシテ立論スルコトアリト雖モ
其所謂經濟中ニハ決シテ簡人經濟ノ現象ヲ説カサルナリ(一五)然ルニ近年世ノ
(二五) 以上述ヘタル所ニ由リテ之ヲ觀レハ單ニ經濟學ト曰ヘハ社會國家ノ

經濟ニ關スル學問ナルコト明カナリ此點ハ古來種種ノ學者カ經濟學ヲ説クニ此語ヲ如何ナル意味ニ用ヒタルヤヲ見テ知ルヲ得ヘシ英國舊派ノ經濟學者ハ皆箇人主義ニ基キ立論スルモノナレトモ「アダム・スミス」「リカード」等ノ論スル所ハ皆一般社會國家ノ經濟ナリ此等ハ唯立論ノ發スル根據ヲ異ニシタルモノノミ其進ミテ説ク所ハ社會國家ノ公共經濟ナリ決シテ箇人ノ私經濟ニ非サルナリ

風潮ニ從テ新奇ノ名辭ヲ好ミ經濟學ニ冠ラシムルニ國家ノ二字ヲ以テシ之ヲ名ケテ國家經濟學ト曰フ者アリ是レ多クハ國家主義ノ誤解ヨリ生セル偏見ニ基ヒスルニ非サレハ獨逸語ノ「ナチヨナル、オエコノミー」ヲ直譯シタルニ過キス必スシモ以テ大過失トハ爲スニ足ラサレトモ無用ノ勞タルノミ既ニ古來ノ用語法ニ從フモ經濟學ノ國家經濟ニ關スルヤ勿論ナレハ今更新ニ國家經濟學ヲ名辭ヲ既ニ錯雜ヲ極メタル我學問界ニ加フルニ及ハサルナリ

況ヤ國家經濟學ト云ヘハ其範圍單ニ經濟學ト云フヨリモ斯學ノ正當ニ論スヘキ範圍ヨリモ稍ヤ狹隘ナルカ如キ感覺ヲ人ニ與フルノ恐アルニ於テヤ國家

經濟學ト云フトキハ一國內ニ行ハルル經濟法則ノミヲ論スル學問ノ如クニモ聞エ一國ノ財政ノミヲ論スル學問ノ如クニモ聞エ然レトモ經濟學ハ單ニ一國內ニ行ハルル經濟法則ノミヲ研究スルモノタルニ止マラス國際間ニ行ハルル經濟法則モ亦其論スル所ナリ又財政ヲ論スルハ單ニ經濟學ノ一小部分ニ過キサレナリ(二六)一小部分ト誤解セラルルノ恐アル名辭ヲ以テ之ヲ全體ニ適用セン(二七)財政學ハ經濟等ノ應用ノ部分ニ屬ス近來之ヲ獨立ノ學ナリト論スル學者アレトモ是レ妥當ナラス尙ホ後ニ經濟學ノ部門ヲ論スルニ當リ詳述スヘシ

トス是レ學問上力メテ避ケサルヘカラサルコトナリ故ニ國家經濟學ヲ新規ノ語ハ全ク之ヲ用ヒスシテ古來ノ習慣ニ從ヒ別ニ差支ナキ經濟學ヲ名辭ヲ用フルコリ最モ得策ナレ

此點ヨリシテ予ハ理財學ヲ名辭ヲモ採ラサルナリ其故ハ第一此名辭ハ本邦ニ於テ舊來慣用スル所ニ非スシテ近年ニ至リ始メテ往往用ヒラルルニ至リタルモノナレハ未タ其意義ヲタモ知ラサル者多キニ在リ第二理財ナル熟語ハ其

意義稍ヤ狹隘ニシテ財政ト云フニ同シキカ如シ是レ吾人カ往往松方大藏大臣ノ理財其宜キヲ得タリトカ又ハ大隈伯ノ理財術杯ト言フヲ聞ク所以ナリ(一)也夫レ財者人所寶也下ハ説文ニ在ル所ナリ徐氏筆精ニハ可レ入用者也又穀也(二)也 理財テフ語ハ凡ソ二十年前ニ始メテ用ヒラレ此語ヲ以テ從來ノ經濟學ヲフ語ニ代用スルノ議題ル勢力ヲ得文部省竝ニ其直轄學校特ニ當時ノ大學等ニ於テモ用ヒタルナリ其當時ハ經濟學ノ觀念ヲ今ヨリモ狹ク解シ英派ノ説ク所ニ從ヒ富ノ生産分配交易ニ關スル原則ヲ論スルモノト爲シ嚴格ナル理財ヲフ語ハ稍ヤ漠然タル經濟ヲフ語ヨリモ可ナリトノ理由ヨリシテ理財學ノ名稱一般ニ行ハレシナリ然レトモ經濟學ト云ヘハ斯學ノ大體ノ觀念ヲ得ルニ近キニ反シ理財學ト云ヘハ耳新ラシク之ヲ特ニ學フ者ノ外人一般ノ觀念ニ入リ難キ語ナリ而シテ學問上ノ語ハ必スシモ一般ノ用語ヲ避ケ故ラニ新規ノ熟語ヲ用ヒテ得意トスヘキモノニ非ス平易ノ語ニシテ意味ヲ明カニスルヲ得ハ寧ロ之ヲ用フルヲ可ナリトス唯其意味ヲ表ハスコト能ハサルカ如キ萬已ムコトヲ得サル場合ニ於テノミ新規ノ語ヲ用フヘキノミ安

ニ難解ノ新語ヲ用ヒテ學理ノ奧義ヲ得タリト爲スハ抑モ誤レリ之ヲ要スルニ經濟學ヲフ語ハ世俗ニ通シ易ク理財學ヲフ語ハ解シ難キノ缺點アリ此缺點ハ敢テ大ナラストスルモ次ニ此語ハ狹隘ニ過タルノ缺點アリ抑モ經濟學ハ單ニ富ノ生産分配交易ニ關スル原則ノミヲ攻究スルカ如キ狹隘ナルモノニ非ス尙ホ進ミテ其原則ヨリ推シテ社會國家ノ經濟ニ對シ執ルヘキ政策上ノ手段方法ヲモ攻究スルモノナリ故ニ狹キ意義ノミヲ表ハスニ適スル語ヲ用フルハ不可ナリ特ニ理財ト云ヘハ財政ト同様ニ聞ヘ國家經濟ト云フト同一ノ缺點アリ財政ノ語ニ代フルニ理財ノ語ヲ以テスルハ從來屢之アリタル事ニシテ今日ニテモ此意味ニ用フルコトアリ現ニ或人ノ如キハ常ニ此意義ニ用ヒ居レリ財政ノ語ニ代ヘテ理財ノ語ヲ用フルハ經濟ノ語ニ代フルニ理財ノ語ヲ以テスルニ勝レリ然レトモ何故ニ財政ノ語カ不適當ニシテ理財ノ語ヲ用ヒサルヘカラサルヤハ其理由ヲ知ルニ苦シム所ナリ

ト曰ヒ玉篇ニハ納財謂ニ食穀也貨也賂也ト説キ易ノ繫辭ニハ何以聚人曰財トアルヲ註ニ(財)所以資(物)生也ト曰ヘリ禮坊記ノ註ニハ(財)幣帛也トアリ又禮記ニハ

「財物也各是土地之物」註セリ(一)左レハ財トハ人ノ欲望ヲ滿タスニ適當ナル

(二) 禮記ニ財ハ物ナリト謂フハ尙ホ可ナレトモ土地ノ物ト謂ヘルハ當時農業時代ニシテ商工業ノ發達ナカリシ故單ニ土地ヨリ生スル米麥等ノ穀物ノミノ觀念ヲ以テ此ノ如ク註セシナラン

材料ナルヤ明カナリ又理字ノ意義ハ玉篇ニ「正也道也文也」トアリ中庸ノ朱註ニ「理條理也」トアリ是ニ由リテ之ヲ觀レハ理トハ法則ノ事ニ相違ナク財理ト謂フトキハ財ニ關スル法則ナルヘケレハ「ボリチカル、エコノミー」ヲ譯シテ理財學ト曰ハンヨリモ寧ロ財理學ト云フ方適ニ勝レリ(三)九加之理ノ字ハ法則ノ事ヲ

(四) 物理學生理學等ニハ理ノ字ヲ下ニ用ヒナカラ理財學ヲフ場合ニハ故ラニ理ノ字ヲ上ニ使フハ權衡ヲ得タルモノニ非ス

指セトモ又理財ト云フカ如キ場合ニ於テハ動詞ト爲リテ理ムルト云フカ本義ナリ木目ヲ木理ト云フヨリシテ考フルニ理ハ元來玉ノ筋ノコトナラン故ニ物ノ筋立ヲ爲シテ治ムルコトヲ理トハ謂フナリ(五)唐人ノ文ニ治ノ字ヲ用フヘ(六) 總理大臣陸軍ノ理事、海軍ノ主理、會社ノ理事等皆此用例ニ從ヘリ

キ所ニ管理ノ字ヲ換用セリ是レ高宗ノ諱ヲ避ケタレハナリ此等ノ事例ニ據ルモ治理相換用スヘキ義アルコト知ルヘシ勿論理財ノ熟語ハ唐以前ニ往住用ヒラレタルモノナレトモ理財ハ治財ノ意義ナルコト更ニ疑フヘクモアラヌ又以テ理財學トハ寧ロ財政學ニ當ルヲ知ルヘキナリ理財學ト云フ熟語ハ頗ル可ナルヘシト雖モ古來慣用シ來リテ別ニ不都合ヲ感セサレハ予ハ故ラニ新規ヲ選ハスレテ寧ロ經濟學ト云フヲ適當ト信ス若シ強ヒテ新規ノ名辭ヲ用ヒント欲セハ寧ロ國民經濟學若クハ社會經濟學ト名クル方適ニ適當ナラン予ノ如キハ後者ヲ最モ適當ナリト考フル者ナレトモ故ラニ新規ヲ欲セサレハ單ニ之ヲ經濟學ト稱スルヲ得策ト考フル者ナリ(七)

(八) 國民經濟學ヲフ語ハ前既ニ述ヘタル國家經濟學ヲフ語ニ比シ稍ヤ優レトモ亦之ト同様ノ批難ヲ免レス即チ國民ト國民トノ間ニ於ケル國際間ノ經濟現象ニ適用スルニ當リ稍ヤ狹キヲ感ス社會經濟學ト云ヘハ此ノ如キ缺點ナシ社會ハ國家ナケレハ成立セス社會ト國家トハ離ルヘカラサルモノナレトモ社會經濟學ヲフ語ハ國際間ノ經濟現象ニモ適用スルヲ得ヘシ然レト

モ此ノ如ク名クルトキハ或ハ斯學ヲ以テ一般經濟ノ現象ヲ攻究スルモノニ
非スシテ社會問題ノミヲ攻究シ勞働者等ニ關スル事項ノミヲ攻究スルモノ
ニ非スヤトノ誤解ヲ來スモ知ルヘカラス現ニ此語ヲ此意味ニ用フル者モア
リ故ニ以上ノ二語ハ共ニ得失アリ未タ遽ニ贊スヘカラサルノミナシス縱令
適當ナリトスルモ故ラニ改ムルノ必要ヲ認メサルナリ故ニ予ハ何所マテモ
經濟學テフ簡單ナル名辭ヲ維持スル者ナリ

外國ニ於テモ經濟學ノ名稱ニ付テハ頗ル異說アルモノノ如シ「ミル」「フオーセツ
ト」等ハ他ノ英國經濟學者ノ多數ト同シタ斯學ヲ「ボリチカル」「エコノミー」ト名ケ
「マーシャル」ハ之ヲ「エコノミククス」ト稱シ佛人ハ之ヲ一般ニ「エコノミー」「ボリチ
ク」ト曰ヒ伊太利人ハ一般ニ「エコノミヤ」「ボリチカ」ト曰フ然レトモ要スルニ此
等ハ皆「ミル」其他英人ノ一般ニ使用スル名辭ト實ハ一ナリ獨逸語ノ「ボリチツシ
エー」「エコノミー」モ亦然リ(二)純粹ノ獨逸語ニテモ或ハ「ウキルトシヤフツ、レ
(三) 獨逸語ノ「ボリチツシエー」「エコノミー」ハ希臘語ヨリ出テタルモノニ
シテ純粹ノ獨逸ニ非ス外國出ノ語ヲ用フルハ一時獨逸ニ於テ國粹保存論者

ノ反對アリシ所ナレトモ學問社會ニハ依然トシテ用ヒラル

「レ」ノ名辭ヲ用フル者アレハ「フオルクス」「ウキルトシヤフツレ」ト稱スル人
モアリ方今最モ多ク使用セラルル名辭ハ此二者ニ非スシテ蓋シ「ナチヨナル」「オ
エコノミー」「ナラン」然レトモ亦往往ナチヨナル」「オエコノミー」トハ本來單ニ經濟
ノ實際ヲ意味スル語ナレハ之ニ關スル原理原則ヲ攻究スル學問ハ宜シク之ヲ
「ナチヨナル」「オエコノミク」ト稱スヘシ是レ語尾ノ由來ヨリシテ考フルモ當ニ
然ルヘキコトナリトノ說ヲ爲ス者アリ「ワグネル」氏ノ如キハ「ボリチツシエー」「オ
エコノミク」ヲ「名辭」ヲモ之ト同意義ニ用ヒタリ

惟フニ獨逸ノ諸學者カ純粹ノ獨逸語ヲ使用スルニ際シ「フオルクス」「ウキルト」
ヤ「ト」即チ直譯スレハ國民經濟ト「フオルクス」「ウキルト」シヤフツレ「レ」即チ直
譯スレハ國民經濟學トヲ區別シ外國出ノ語ヲ使用スルニ當リテハ「ナチヨナル」
「オエコノミー」(即チ直譯スレハ國家經濟及ヒ「ボリチツシエー」「オエコノミー」ト「ナ
チヨナル」「オエコノミク」(即チ直譯スレハ國家經濟學)及ヒ「ボリチツシエー」「オエ
コノミク」トヲ區別スルハ頗ル進歩セル思想ニシテ學理上最モ至當ノコトナ

ルヘシ獨リ怪ム先輩諸學者カ何カ故ニ更ニ一步ヲ進メテ斯學ヲ稱シテ「ツオ
チアール、オエコノミツク」ト曰ハサルヲ「C」ヲオルタスウキルトシヤフツレ
「CIND」ツオチアール、オエコノミツク「直譯スレハ社會經濟學ヲ語ハ外國語
トシテハ最も適當ナルヘシトハ六七年前ヨリ予ノ唱フル所ナリ當時何人モ
此語ヲ用フル者ナカリシカニ三年前獨逸ノ若手ノ經濟學者デーフエル氏カ
「ラグネル先生ノ依頼ニ應ジ經濟學全書ノ一部分ヲ引受ケ純正經濟學ノ原理
原則ヲ攻究スル部分ヲ著ハセルニ際シ之ヲ名ケテ「ツオチアール、オエコノミ
ツク」ト稱スルヲ適當トスト曰ヘリ東西相隔離シ氏ト予トハ互ニ意見ヲ吐露
セシコトナシト雖モ而モ所思ノ符合セル亦奇ト謂ツヘキナリ但シ「デーフエ
ル」ハ之ヲ單ニ經濟學ノ一部分タル純正經濟學ノ名稱ニ用ヒタルモノニシテ
其經濟學全體ニ取リテ適當ナルヤ否ヤハ別ニ明言セサリシモ予ハ之ヲ全體
ニ適用スヘキモノナリト信ス何カ故ニ此語ヲ最も適當ナリト考フルヤハ以
下ニ述フル所ナリ

「レ」ト謂ヒ「ナチヨナル、オエコノミツク」ト謂ヒ「ボリチツシエー、オエコノミツク」ト

謂ヒ共ニ皆意義少シク狹隘ニ失スルノ恐アリ「ツオチアール、オエコノミツク」ニ
至リテハ更ニ斯ル短所ナシ是レ予カ獨逸語トシテハ此名稱ヲ採リ英語トシテ
「ハ」此獨逸語ニ相當スル「ソーシヤル、エコノミツク」ス「フ」名稱ヲ採ル所以ニシテ
本邦ニ於テモ若シ故ラニ新規ノ名稱ヲ用ヒントセハ此語ノ適譯タル社會經濟
學ヲフ名稱ヲ採ラント欲スル所以ナリ若シ夫レ外國語トシテハ新規ノ名稱ヲ
可トシ邦語トシテハ之ヲ必要ナラストスル所以ハ彼ニ在リテハ從來使用シ來
「レ」ル名稱頗ル曖昧模糊トシテ種種ノ誤議ヲ來シ易ク我ニ在リテハ從來ノ如ク
斯學ヲ稱シテ單ニ之ヲ經濟學ト曰フモ格別ノ不都合ヲ感セサレハナリ
前ニ經濟學ノ定義ヲ以テ人類社會ニ關スル學問ニシテ專ラ其財貨上ノ現象ヲ
攻究スルモノナリト爲セリ然レトモ是レ頗ル漠然トシテ其意義ヲ十分明カニ
スルニ多少ノ困難ヲ感スルモノナリ近來經濟學ハ實ニ長足ノ進歩ヲ爲シ其範
圍内ニ於テ種種ノ部門ヲ生シ來リタレハ此等ノ部門ヲ總テ包含スルニ適當ナ
ル定義ヲ下サント欲スレハ勢ヒ漠然タルヲ免レス故ニ此定義ノ意義ヲ十分明
カニセント欲セハ猶ホ進ミテ現今經濟學中ニ包含サルル各部門ノ何タルヲ知

ヲサルヘカラス(二四)

(二四) 英國ノ經濟學者ハ經濟學ノ一部分タル純正經濟學ヲ利害得失ノ關係ヲ離レテ論スルヲ以テ一ノ獨立シタル學問ト爲セトモ而モ他ニ經濟ニ關スル學問アルヲ認メス利害得失ヲ斟酌シテ攻究スル者ハ之ヲ單ニ實際論タルニ過キスト爲セリ然ルニ經濟學ハ近世ニ至リ非常ニ發達シ純粹ノ原理原則ヲ攻究スル所謂純正經濟學カ一箇ノ學問トシテ成立スルノミナラス之ヲ主タル基礎トシテ經濟政策ヲ攻究スルモノモ經濟學中一ノ嚴然タル部門ト爲ルニ至レリ隨テ經濟學ノ全體ニ對シテハ漠然タル定義ニ非サレハ總テノ部門ヲ包含セシムルヲ得スト特ニ財政學ノ如キハ一般經濟學ト離レテ獨立スルモノナリト論スル者スラアルカ如ク各部門殆ト獨立ノ觀アリ故ニ予ハ經濟學全體ニ對シテハ前述ノ如キ定義ヲ下シ此等ヲモ概括セシメント欲スルモノナリ然レトモ單ニ此漠然タル定義ノミニテハ恰モ骨ト皮トノミヲ有スルモノノ如ク未タ血肉ト具ヘサルナリ故ニ是ヨリ進ミテ各部門ニ論及シ之ニ對スル定義ヲ下シ以テ血肉ト肉トヲ加ヘント欲ス

第三編 經濟學ノ分科

經濟學上ノ原理原則ヲ分チテ二種ト爲ス其一ハ純粹ノ學理ノ攻究説明ニ關シ事實ヲ有リノ儘ニ記述シ之ヲ原因結果ノ理ニ照シテ過ツコトナキヲ以テ目的トス他ノ一ハ前者ノ結果ヲ應用シ他ノ學問ノ原理原則ヲ斟酌シ以テ社會國家ノ經濟上ニ於ケル目的ヲ達シ其繁榮ヲ圖ルノ手段方法ヲ研究シ説明スルヲ目的トス故ニ二者ノ區別ハ尙ホ文法ノ直說法ト命令法トノ區別ノ如シ(一)

(一) 前者ハ單ニ或經濟上ノ現象ヲ觀察シ其性質ヲ究メ其如何ナル原因ヨリ生シ如何ナル結果ヲ來スヤヲ攻究シ且ツ説明スルモノニシテ其利害得失ニ論及セス隨テ之ニ關スル政策上ノ手段方法ヲ研究スルヲ目的トセス之ニ反シテ例ヘハ物價ハ需要供給ノ關係ニ因リテ高低ストノ原則前種ノ攻究ニ據リテ定リタルトキハ或場合ニ於テ現ニ物價ハ騰貴シ居ルカ故ニ之ヲ下落セシメサルヘカラス之ヲ下落セシムルニハ如何ニセハ可ナルヤノ問題ヲ解クノ必要アランカ前者ニ據リテ定リタル需要供給ノ原則ヲ應用シ需要ヲ減ス

ルカ又ハ供給ヲ増スカ或ハ雙方ノ手段共ニ之ヲ行フヘキヤヲ攻究説明スルカ如キハ後種ノ職分トスル所ナリ故ニ前者ハ頗ル冷淡タルモノニシテ後者ハ社會人類ノ利害得失ニ對シ熱情ニ富ムモノト謂フヘシ

前種ノ原理原則ヲ攻究スルモノヲ稱シテ之ヲ純正經濟學ト曰フ或ハ之ヲ稱シテ純理經濟學ト曰ヒ以テ純正ノ意味ヲ真正又ハ正統ノ意味ニ解釋セラルルノ恐アルヲ避クント欲スル者アリ是レ實ニ一理アルコトナレトモ純正ノ熟語ハ既ニ理化ノ學ヲ始メ他ノ諸學科ニ於テ多年使用シ來リ別ニ不都合ナク一定ノ意味ヲ有スルニ至リ居レハ經濟學ニ於テモ亦此熟語ヲ用フルヲ以テ至當ト信ス或ハ又純正經濟學ヲ稱シテ經濟學ノ原理ト曰フ者アレトモ是レ當ラス何トナレハ後種ノ原理原則ヲ攻究スルモノモ亦等シク經濟學ノ原理ト名クヘケレハナリ(二)後種ノ原理原則ヲ攻究スルモノハ實ニ之ヲ應用經濟學ト名ク從來(三)歐洲ノ經濟學者中ニモ前種ノモノニ對シテ經濟學ノ原理ト直譯スヘキ名辭ヲ用フル者アリ然レトモ經濟上ノ利害得失ヲ考ヘ之ニ對スル手段方法ヲ明カニスル後種ノ原理原則モ亦經濟學ノ範圍内ニ於ケル原理原則ナリ經

濟學ノ原理ヲフ語ハ兩者ニ共通ニシテ其中ニ自ラ二種ノ細別アルニ過キスト謂ハサルヘカラス然ルニ之ヲ一方ニノミ用ヒントスルハ恰モ男女兩性ヲ包含スル名辭タル人ヲフ名辭ヲ以テ男子ノミニ用ヒントスルカ如シ是レ勿論正當ニ非サルナリ

英、佛、米等ノ諸學者カ經濟學ニ與ヘタル定義ノ多クハ其一分科タル純正經濟學ノ定義トシテハ多少不完全ナル所アレトモ大ナル過失ハ之ナシ唯奈何セン之ヲ近年非常ニ進歩發達セル經濟學ノ全體ニシテ應用的ノ原理原則ヲモ包含スルモノニ適用セント欲スレハ到底其狹隘ニ失スルヲ免レサルヲ蓋シ彼等多數學者ノ眼中ニハ未タ曾テ經濟學全體ノ一分科トシテノ應用經濟學之アラザリシナリ或ハ之アルヲ得ザリシナラン

然ラハ則テ經濟學ノ現狀ニ於テ純正經濟學ノ職分トシ又ハ職分トスヘキ所ハ果シテ何レニ在リヤ是レ先ツ第一ニ決定スヘキ必要アルコトナラン故ニ予ハ先ツ第一ニ之ヲ決定シ然ル後進ミテ應用經濟學ノ何物タルヤニ論及セント欲ス

惟フニ純正經濟學ノ當然職分トシ又ハ職分トスヘキ所ハ人類社會ニ於ケル財貨ノ現象ニ付キ其一般普通ニ有スル性質ト其相互ニ依レル關係トヲ觀察シ之ヲ原因結果ノ道理ニ照シテ推論シ以テ財貨ニ關スル一般普通ノ原理原則ヲ發見シ又ハ概説スルニ在ラン(三)他語以テ之ヲ言ヘハ純正經濟學トハ社會國家ヲ(三)此所ニ純正經濟學ノ當然職分トシ又ハ職分トスヘキ所ト曰フハ是レ學者ノ各其見解ヲ異ニスルヨリシテ或學者ノ以テ當然ノ職分ト爲スモノモ或學者ハ之ニ反對シ純正經濟學ノ見解人ニ依リ頗ル異ナレハナリ蓋シ純正經濟學ノ當然職分トシ又ハ職分トシテ講究スヘキ所ハ人類社會ニ於ケル財貨ノ現象中社會ノ或一部又ハ一地方ニ限レル特別ノ性質ニ非スシテ財貨カ何レノ國ニ於テモ亦一國內ノ何レノ部分ニ於テモ敢テ異ナル所ナク普通一般ニ有スル性質ナリ特別ノ事情ノ下ニ在リテ特別ノ性質ヲ有スルモノハ唯參考トシテ研究ノ材料ト爲ルコトアルモ純正經濟學ニ於ケル本來ノ研究ノ目的ニ非ス而シテ財貨ノ現象ハ總テ相互ニ種種ノ關係ヲ有ス即チ或ハ原因結果ノ關係ヲ有スルコトアリ或ハ斯ル關係ナキモ或一ノ現象アレハ同時ニ

必ス之ニ伴フ現象ヲ見ルコトアリ此ノ如キ關係ヲ善ク觀察シ經濟現象ノ原因ト結果トカ如何ナル振合ニ於テ成立スルヤヲ原因結果ノ道理ニ照シテ攻究シ財貨ニ關スル現象カ世上ニ表ハルルニ當リテ其普通一般ニ據レル原理原則ハ如何ナルモノナリヤヲ發見シ或ハ既ニ發見セラレテ疑フヘカラサルモノナル以上ハ發見ノ結果ヲ一般のニ説明スルハ純正經濟學ノ當然職分トシ又ハ職分トスヘキ所ナリ

組成スル民衆カ一定ノ秩序ニ從ヒ規則正シキ方法ニ依リテ其望ヲ滿タサントシテ經營スル活動ノ總稱タル社會經濟又ハ國民經濟ニ關スル一般ノ原理原則ヲ攻究スルモノナリ(第一編第一章第一項ヲ參照スヘシ)故ニ純正經濟學ハ物理學純正化學動物學植物學等ト敢テ異ナルコトナク或種類ノ現象ニ關スル一般(普通ノ原理原則即チ所謂天則人爲ヲ全ク度外視スルモノニ非ス)ヲ攻究スルモノナリ隨テ其目的トスル所ハ純粹ノ真理ニ在リテ利害得失ニ在ラサルナリ(四)(四)純正經濟學ハ物理學純正化學等ト純粹ノ學問タルノ點ニ於テハ敢テ異ナルコトナク又其攻究ノ方法モ演繹歸納ノ二論法ニ據ルノ點ニ於テ同シ又

一般普通ノ原理原則ヲ講究シ特別ノ事情ノ下ニ立タル經濟現象ノ特別ノ性質ヲ攻究スルモノニ非サル點モ亦此等ト異ナルコトナシ唯其攻究スル目的物カ社會經濟ノ現象ニ在ルノ點ニ於テ差違アルノミ純正經濟學ハ實ニ土木工學又ハ探鑛冶金學ノ如キ應用的ノ技術ヲ攻究スル學問ト異ナリ一般普通ノ原理原則即チ天則ヲ利害得失ノ關係ニ頓著ナク攻究スルモノナリ天則ト云ヘハ全ク人ヲ離レテ自然ニ行ハルル法則ノ如ク解セラルルモ經濟上ノ天則ハ人ノ行爲ヲ全ク離レタルモノニ非ス偶人ノ關係ヲ離レテ存スルカ如ク見ユルモノナキニ非サレトモ斯ル現象ハ其實人ノ行爲ニ支配セラルルモノナリ特ニ人ノ作レル法律宗教等ニ影響ヲ及ホサルルコト多シ故ニ經濟上ノ天則ハ固ヨリ人ノ行爲ヲ度外視スルモノニ非ス隨テ純正經濟學ノ目的トスル所ハ純粹ノ真理ニ在リ真理ヲ發見シ説明スレハ其職分足レルモノニシテ利害得失ハ其直接ニ關係セサル所ナリ故ニ經濟學ノ或原理原則ヲ一般普通ノ真理トシテ發見スルニ當リテハ其原理原則ハ人間社會ノ不幸ナル出來事來シ或ハ不幸ナル運命ヲ人類ノ有スル者ナルコトヲ暴露スル者アルヤモ

知ルヘカラス然レトモ是レ純正經濟學ノ關セサル所ニシテ此ノ如キカ果シテ真理ナル以上ハ職分トシテ默スルヲ得サルナリ例ヘハ純正經濟學ニ於テ土地ハ元來限アリ而シテ一定ノ土地ノ生産力モ亦無限ニ非ス故ニ如何ニ多クノ勞力若クハ資本ヲ投スルモ之ニ應スル丈ノ生産ノ結果ヲ見ルヲ得サル時期ノ來ルコトアルヘシ之ヲ稱シテ土地ノ收益遞減法ト曰フ此ノ如キハ疑フヘカラサル真理ナレハ之ヲ曲クシテ得ス若シ之ヲ説カサランカ純正經濟學ハ其職分ヲ盡シタルモノニ非ス其之ヲ如何ニスヘキヤノ救済方法ヲ運ラスハ純正經濟學ノ關スル所ニ非スシテ應用經濟學ノ爲スヘキ所ナリ此ノ如ク純正經濟學ノ職分トスル範圍ハ之ヲ真理ノ攻究ニ限ラサレハ斯學ノ進歩發達覺束ナシ凡ソ學問ノ進歩セサル原因中範圍ノ定マラサルヨリ其影響ノ大ナルハナシ特ニ人類ノ利害得失ニ直接ノ影響ヲ及ホスモノニ關スル原理原則ハ往往利害得失ノ影響ヲ混シテ之ヲ攻究スルノ弊偶、真理ノミヲ目的トシテ攻究スル者アレハ幼稚ナル時代ニ於テハ世人動モスレハ之ヲ咎メ甚シキニ至リテハ真理ニ忠ナル者却テ刑罰ニ處セラルルコトアリ例ヘハ「マルサ

スハ人口論ヲ著ハシ人口ハ際限ナク増加シ食物之ニ伴ハサルコトアリ然レトモ又天災地變戰爭疾病等ノ爲メ人口ノ増加ヲ妨クルコトアリト論セシコトアリ此理論ハ經濟學上絕對的ニ正當ト認ムヘキモノナルヤ否ヤハ別問題ナレトモ「マルサス」ノ目的ハ人口論ヲ單ニ純粹ノ真理トシテ攻究スルニ在リシナリ然ルニ當時ノ人ハ其言ヲ妄ナリトシ「マルサス」ハ人口ノ増加ヲ妨クル方法ヲ講スルモノナリ即チ天災地變等ヲ希望スルモノナリト附會シテ之ヲ攻撃シタリ蓋シ經濟學ハ人類ニ直接ノ利害得失ノ關係アルカ故ニ此ノ如ク附會セシモノナレトモ餘リ人ニ直接ノ關係ナキ天文学ノ如キニ於テモ「コペルニカス」カ地動說ヲ唱ヘテ礫利ニ處セラレタルカ爲メ其進歩ノ一時中止サレタルカ如キコトアリ故ニ經濟學ニ於テハ特ニ此點ヲ明カニシ真理ノ攻究ト利害得失問題ノ攻究トヲ區別セサレハ其進歩ヲ見ルヲ得サルナリ然ルニ現今ニテモ往往二者ヲ混同シ不便ヲ感スルコトアリ宜シク注意セサルヘカラス

之ニ反シテ應用經濟學ハ真理ノミヲ目的トセス真理ヲ基トシテ利害得失ノ關

係ヲ攻究シ社會經濟ニ對スル手段方法ヲ發見シ説明スルモノナリ應用經濟學ハ純正經濟學ヲ重ナル基礎トシテ人類ノ經濟上ニ於ケル目的ヲ時ノ事情ニ照合シテ最モ善ク達スヘキ手段方法ヲ吾人ニ指示スルモノナリ(五)

(五) 應用經濟學ハ真理ヲ度外視シ又ハ之ヲ排斥スルモノニ非サレトモ真理ノミヲ目的トスルモノニ非ス其真理ヲ基トシ一步ヲ進メテ利害得失ノ關係ヲ究メ之ニ鑑ミテ一般ニ社會經濟ニ對シ如何ナル手段方法ヲ執ルヘキヤヲ攻究スルモノナリ而シテ其基礎ノ重ナルモノハ多クハ純正經濟學ノ原理原則ナリトス然レトモ絕對的ニ何レノ時何レノ場所ニモ適スル應用經濟學上ノ原理原則ヲ發見スルハ到底爲シ能ハサル事ナレハ此學ノ原理原則モ單ニ一般的ノ原理原則トシテ掲ケラルルノミ之ヲ實地ニ施スニ當リテハ時ト所トノ事情ニ應シ多少ノ斟酌ヲ加ヘテ用ヒサレハ功ヲ奏セサルナリ故ニ應用經濟學ハ恰モ應用醫學ノ如ク又應用經濟學ヲ實地ニ用フルニ當リ時ト所トノ事情ニ應シテ斟酌スルヲ要スルハ恰モ醫師カ處方書ヲ與フルニ當リ患者ノ年齢身體ノ強弱等ニ因リ服用ノ分量度數時期等ヲ定ムルカ如キモノナリト謂フヘシ

應用經濟學ハ實ニ一種ノ技術的學問ナリ人或ハ應用經濟ヲ論スルハ單ニ實際家ノ爲スヘキコトナリ應用經濟學ハ學問ニ非スト謂フ者アレトモ是レ未タ經濟學現時ノ進歩ヲ知ラサル者ノ言ノミ經濟學ハ理化ノ學ト異ナリ尙ホ頗ル幼稚ナルハ實ニ疑フヘカラスト雖モ其今日ノ有様豈ニ其一分科タル應用經濟學ヲ以テ一種ノ學問ト看做スニ足ラザランヤ學問トハ單ニ物理學化學等ノ如キ比較的ニ完全ノモノノミニ限ラサルナリ(六)然リト雖モ應用經濟學ハ既ニ其名(七)應用經濟學ハ四五十年前マテハ皆無ナリシカ今猶ホ之ヲ皆無ナリトスル國モアリ然レトモ經濟學ノ最モ進歩シタル國ニ於テハ既ニ學問ト稱スルニ足レル形體ヲ十分ニ具ヘ居リ研究ノ體裁系統等善ク立チ敢テ時事問題ニ對スル議論ニ過キサルモノニ非サルナリ固ヨリ不完全ノ點ハ之アレトモ不完全ナルカ爲メ學問ニ非スト謂フヲ得ス若シ比較的完全ナルモノノミカ學問ナリトセハ抑モ完全ノ程度ノ如何ナルモノナルヤハ到底之ヲ知ルヲ得ス此程度ニシテ定ラザランカ物理學化學數學ノ如キモ亦皆不完全ナル點アリト謂ハサルヘカザサルヘシ隨テ學問ナラサルヘシ畢竟不完全完全ノ別ハ到

底程度ニ據レル別タルノミ是レ實ニ比較的ノ事ナリ故ニ單ニ不完全ナリトノ理由ヲ以テ應用經濟學ハ學問ニ非スト謂フヲ得サルナリ釋ノ表明スルカ如ク決シテ純粹ノ真理ノミヲ目的トスル學問ニ非ス寧ロ主トシテ利害得失ヲ攻究シ之ニ對スル手段方法ヲ究ムル技術的ノ學問ナリ論者其技術的ノ學問タルヲ聞キ之ヲ以テ寧ロ實際論ニアラスヤトノ念ヲ再ヒ起スコトアルヘシト雖モ是レ未タ技術ト實際トノ區別ヲ知ラサルニ座スルモノナリ抑モ技術ナルモノハ純粹ノ學問ト同様ニ形而上ニ屬スルコトニシテ思想界ノ範圍内ニ在ルモノナリ之ニ反シテ實際トハ形而下ニ屬スルコトニシテ物質界ノ範圍内ニ在リ技術ヲ攻究ストハ實際ニ施シ得ヘキ手段方法等ヲ工夫スルノ謂ナリ實際ニ從事ストハ現ニ事ヲ執ルノ謂ナリ故ニ技術ハ畢竟自ラ實際ト異ナリ實際ト純粹ノ學理トノ中間ニ介立スルモノナリ(七)而シテ技術ヲ攻究スル(七)技術ト實際トノ區別ハ計畫ト實施トノ區別ノ如シ此二者ノ區別アルハ誠ニ明カナレトモ而モ二者ハ互ニ密著ノ關係アリ計畫ハ實地ニ行ハンカ爲メノモノニシテ實施ヲ巧ニセント欲セハ計畫ノ宜シキヲ要スルカ如キ即チ

二者ノ密著ノ關係アルヲ知ルニ足ル

モノハ是レ即チ技術的ノ學問ナリ應用經濟學ハ社會國家ノ經濟ニ關スル一種ノ技術ヲ攻究スルモノナリ故ニ畢竟一種ノ學問タルニ外ナラス(八)縱令應用經濟ヲ論スルハ未タ學問ト稱スヘキモノニ違シ居ラストモ之ヲ論スルハ實

(八) 此所ニ所謂技術トハ此語ヲ汎ク解セルモノニシテ敢テ手細工ノ如キモノノミニ限ラサルナリ應用經濟學ハ一般的ノ計畫ヲ指示スル學問ナリ故ニ其原則ヲ實際ニ行フニハ其時ニ際シ特別ノ事情ヲ斟酌セサルヘカラサルハ前ニ述ヘタルカ如シ例ヘハ(ロ)ツシエルノ農業經濟論ヲ見テ之ヲ其儘我北海道ニ行ハハ必ス失敗ヲ免レサルヘシ之ヲ用ヒテ奏功スルト否トハ用フル人ノ巧拙如何ニ在リ

國家ノ事ナリ學者ノ事ニ非ストノ道理ハ萬萬之ナカルヘシ未タ學問ト稱スヘカラサルモノヲ取リテ之ヲ研究スルノ結果遂ニ之ヲシテ一箇ノ學問タラシムルハ是レ豈ニ學者ノ當然力ムヘキ所ナラスヤ否之ヲ爲スハ寧ロ學者ノ最モ名譽トスヘキ所ニ非スヤ經濟學ノ祖先アダム・スミス其人ノ如キ畢竟之ヲ爲セタ

ル者ナリ應用經濟ヲ論スル如何ソ學者ノ職分外ナランヤ

應用經濟學ヲ分チテ二門ト爲ス曰ク

第一 經濟政策學(一名經濟的行政學)

第二 單獨經濟政策學

是ナリ

經濟政策學トハ國家並ニ其機關カ如何ニシテ最モ善ク時ノ事情ニ應ジ農工商等ノ經濟業務ヲシテ繁榮ナラシメ以テ社會經濟ノ全體ヲシテ進歩發達セシムルヲ得ルヤノ手段方法ヲ攻究スル者ナリ故ニ其目的トスル所ハ社會經濟ニ關スル政治ノ方針其方針ニ從フヘキ立法行政ノ組織並ニ活動ナリトス(九)

(九) 經濟政策學ハ國家又ハ其機關カ農工商等一切ノ經濟業務ヲシテ一般ニ繁榮ナラシメ社會經濟ノ全體ヲシテ進歩發達セシムルノ手段方法ヲ攻究スルモノニシテ或時代或場合ニ應用スヘキ特別ノ手段方法ヲ攻究スルモノニ非ス各時代各場合ニ通シテ應用スヘキ學理ヲ闡明シ之ニ據リテ或時代或場合ニ處スル特別ノ手段方法ヲ執ルヲ得セシメント欲スルモノナルコト猶ホ

醫學カ或患者ニ施スヘキ特別ノ處方ヲ講スルモノニ非スシテ一般のニ治療ニ關スル原理ヲ講シ之ニ據リテ醫ヲシテ特別ニ或患者ニ對シ施スヘキ處方ヲ得セシムルカ如シ故ニ先ツ經濟政策學ハ社會經濟ノ全體ニ對シテ國家又ハ其機關カ執ルヘキ方針ヲ講シ方針既ニ定マラハ之ニ從フヘキ立法行政ノ組織ヲ講シ併セテ其活動ヲモ講スルモノナリ

今茲ニ簡短ニ其細目ヲ舉クレハ左ノ如シ

甲 經濟政策汎論(一〇)

(一〇) 是レ社會經濟ノ全體ニ直接ノ關係アル經濟業務ニ對スル政策ヲ講スルモノニシテ即チ農工商等諸種ノ經濟業務中或一事項又ハ數事項ノミニ關スルモノニ非スシテ其全體ニ通スル政策ヲ講スルモノナリ

度量衡政策

貨幣政策殊ニ本位政策

信用並ニ銀行政策

(ハ) 普通銀行政策

(ノ) 農業銀行政策

(ハ) 工業銀行政策

(ニ) 信用組合政策

(二) 保險政策

(イ) 保險政策汎論

(ノ) 生命保險政策

(ハ) 火災保險政策

(ニ) 海上保險政策

(*) 交通通信政策

(イ) 道路政策

(ノ) 鐵道政策

(ハ) 堀割運河政策

(ニ) 河川政策

(ハ) 航海政策遠洋航海政策並ニ沿岸航海政策

(へ) 郵便政策

(と) 電信政策

(ち) 電話政策

(へ) 營利的組合政策

(い) 合資會社政策

(ろ) 合名會社政策

(は) 株式會社政策

(に) 組合政策

乙 經濟政策各論(1)

(1) 是レ農或ハ工或ハ商等各種ノ經濟業務ニ對スル特別ノ政策的手段方

法ヲ講スルモノナリ

(1) 原始産業政策(11)

(11) 原始産業トハ自然力ニ依ルコト割合ニ多クシテ人力ヲ要スルコト割合ニ少キ産業ニシテ社會ノ未タ十分ニ發達セサル以前ニ在リテモ亦頗ル

善ク發達セルコトアリシモノナリ

(い) 農業政策

(ろ) 牧畜政策

(は) 漁業政策

(に) 狩獵政策

(は) 森林政策

(へ) 鑛業政策

(ロ) 工業政策

(1) 大工業政策機械工業政策

(2) 小工業政策手工工業政策家内工業政策

(ハ) 商業政策

(イ) 內國貿易政策

(ロ) 外國貿易政策

丙 社會政策論(1)

(三) 近世ノ一大問題タル資本家ト勞働者トノ衝突ヨリシテ起ル所ノ社會問題ヲ如何ニ處分スヘキヤノ政策ヲ主トシテ講スルモノニシテ更ニ之カ細目ヲ分テハ勞働者ノ保護、工場ノ監督同盟罷工ノ處分等二三ニシテ足ラサルモ茲ニ之ヲ省ク

單獨經濟政策學トハ一箇ノ經濟團體トシテノ國家其モノ及ヒ國家内ニ存在スル種種ノ經濟團體カ如何ニシテ最モ善ク時ノ事情ニ應ジテ自家經濟上ノ目的ヲ達スルヲ得ルヤヲ攻究スルモノナリ故ニ其目的トスル所ハ各經濟團體カ自家ノ繁榮ヲ謀ルカ爲メ執ルヘキノ手段方法ヲ説クニ在リ(四)此學ヲ分チテ二(四) 單獨經濟政策學ハ前述ノ經濟政策學ト異ナリ國家カ一箇ノ經濟團體トシテ存在セル上ニ於テ如何ニセハ其經濟ノ繁榮ヲ爲シ得ルヤヲ攻究シ又國家内ニ存在スル市町村或ハ一箇若クハ一會社組合等種種ノ經濟團體カ各自其繁榮ヲ謀ル所以ヲ攻究スルモノトス彼ノ經濟政策學ノ攻究モ亦其結果間接ニ國家其他ノ經濟團體ノ繁榮ヲ來スニ至リ得ルモ彼ハ直接ニ國家其他ノ經濟團體其モノノ繁榮ヲ攻究スルモノニ非ス彼ノ目的ハ農工商等ノ一般

經濟業務ノ進歩發達ヲ謀ルニ在リ而シテ此單獨經濟政策學ハ直接ニ國家其他ノ經濟團體其モノノ繁榮ヲ攻究スルモノナリ例ヘハ其中ノ一タル財政學ハ國家自身ノ財政ヲ如何ニスヘキヤ等ノ問題ヲ講スルモノニシテ經濟政策學ト單獨經濟政策學トノ兩者ハ相待チテ各其用ヲ爲スモノナリト爲ス曰ク

甲 財政學

乙 私經濟學

是ナリ財政學トハ經濟團體中ノ比較的ニ廣大ナル國家其モノ又ハ各地方ノ政治團體又ハ國家以上ノ聯合團體カ如何ニセハ最モ善ク其收入ヲ得支出ヲ爲シ以テ自家ノ生存發達ヲ謀ルヲ得ルヤヲ攻究スルモノナリ故ニ其目的トスル所ハ最少ノ勞費ヲ以テ最大ノ收入ヲ得以テ政費ノ支辨ニ最モ其宜キヲ得ルノ方法ヲ説クニ在リ(五)

(五) 財政學ハ政治團體カ收入ヲ得支出ヲ爲スノ方法即チ財政ヲ攻究スルモノニシテ國家ノ財政、國家内ニ存在スル地方團體ノ財政又ハ聯合國即チ數多ノ

國家ヲ聯合シテ一ノ國家的團體ト爲シタルモノノ財政ヲ攻究スルモノナリ」私經濟學トハ現今ノ社會制度ノ下ニ栖息スル各個人又ハ箇人ノ團體力如何ニシテ最モ善ク時ノ事情ニ應シテ其經濟ヲ運轉スルヲ得ルヤヲ攻究スルモノナリ人或ハ此學ヲ以テ經濟政策學竝ニ財政學トハ全ク異ナリ主トシテ所謂箇人經濟學ニ依ルモノナリト爲セトモ是レ當ラサルナリ原人社會ノ箇人經濟ヲ論スルニ方リテハ其基礎トスル所今日ノ經濟政策竝ニ財政ヲ論スルトハ全ク異ナレリト雖モ今日ノ社會ニ於ケル箇人ノ私經濟ヲ應用的ニ論スルハ然ラス今日ノ應用的私經濟論ハ有機的社會ヲ組織スル各箇人ノ經濟ニ關スルモノニシテ其主トシテ據ル所ハ結局純正經濟學ノ一般理論ナリ決シテ特別ノ箇人經濟學ト稱スヘキモノノ理論ニ非サルナリ況ヤ純粹ノ學問トシテ特別ノ箇人經濟學ナルモノ果シテ存在スルヤ否ヤハ一ノ疑問ナルニ於テヤ今日ノ社會ニ於ケル米商株式仲買人又ハ銀行家等カ其營業取引ヲ爲スニ方リ據ル所ハ價格金利地代等ノ說即チ純正經濟學ノ原理ニシテ毫モ經濟政策ノ當局者又ハ財政機關カ其公務ヲ處辨スルニ際シテ根據トスル所ト異ナルコトナシ純正經濟學ハ

實ニ經濟政策學、財政學兩者ノ重大ナル基礎タルト同時ニ應用的ノ私經濟學ニ取リテモ亦重ナル基礎タリ(二六)

(二七) 私經濟學トハ一箇人ノ經濟上ニ於ケル手段方法ヲ攻究スルモノニシテ純正經濟學トハ全ク異ナルモノノ如シト雖モ今日ノ社會ニ於テ一箇人ノ經濟上ニ執ルヘキ手段方法ハ到底主トシテ純正經濟學ノ原理ニ依ラサルヘカラス蓋シ今日ノ箇人ハ社會ノ一員トシテ生存スルモノナレハ其經濟ニ關スル手段方法ハ社會經濟ノ現象ニ因リテ斟酌セサルヘカラス隨テ箇人ノ私經濟ニ關スル理論ハ純正經濟學ノ原理ニ依ルヘキコト猶ホ財政學カ純正經濟學ノ原理ニ據ルカ如シ

經濟學總論終

火

珠齊學編

講習科規則摘要

- 一 乙種講習科ハ講義録ニ依リテ獨習ヲ爲スモノトス
- 一 講習期ハ二月ニ始リ十一月ニ終ル
- 一 講義録ハ各講師擔任ノ部分ヲ一括シテ配布ス
- 一 講習料ハ金拾貳圓トス但三十四年度ニ限り左ノ一部又ハ二部ヲ講習スルコトヲ得
- 一 第一部(民法、民事訴訟法) 金六圓
- 一 第二部(商法、經濟學) 金四圓
- 一 第三部(刑法、刑事訴訟法、憲法、行政法、國際公法、國際私法) 金五圓
- 一 右講習料ハ何レモ一ヶ月分以上ヲ分納スルコトヲ得(但入學ノ際ニハ成ルヘシ)
- 一 講習生ハ講義録ニ掲載セル事項ニ付キ質問ヲ爲スコトヲ得但一問毎ニ別紙ニ認メ且一問毎ニ一音信料ヲ添フルコトヲ要ス
- 一 講習料ハ和佛法律學校會計課宛ニテ送付スヘシ但郵券代用ハ一割増ノ事

明治二十二年十二月九日內務省許可

明治三十四年三月二十日印刷
明治三十四年三月廿三日發行

東京市四谷區四谷仲町三丁目卅八番地

編輯兼發行者 小田 幹治郎

東京市芝區西ノ久保明舟町十一番地

印刷者 金子 鐵五郎

東京市芝區西ノ久保明舟町十一番地

印刷所 金子 活版所

東京市麴町區富士見町六丁目十六番地

發行所 司法省 和佛法律學校

(電話番町百七十四番)